南島原市文化財調査報告書　第１集

権現脇遺跡

― 赤松谷川１号床固工工事に伴う発掘調査 ―

２００７

長崎県南島原市教育委員会

空中写真①（東から）

空中写真②（南から）

土層断面

Ⅲａ層はきめの細かいしまりのない黒色土。Ⅲｂ上層は暗褐色土を呈し，小礫が混じる。Ⅲａ層よりしまりが強い。Ⅲｂ下層はⅢｂ上層に土質は似るが，褐色土でやや色調は明るく，しまりが強い。

トレンチ２遺物出土状況（東から）

Ⅲａ層・Ⅲｂ上層・Ⅲｂ下層を順に掘り下げた結果，遺物の多くがⅢｂ上層から出土することが確認された。

根穴検出状況

Ⅲｂ下層上面では多数の根穴が確認された。一部に木根痕と見られるものもあるが，大部分がスギナの根の影響と考えられる。

埋甕２出土土器

発刊にあたって

南島原市は深江町・布津町・有家町・西有家町・北有馬町・南有馬町・口之津町・加津佐町の８町が合併して平成18年３月31日に誕生いたしました。旧８町は，雲仙岳と有明海という山海の恵みと温暖で穏やかな気候を生活の基盤とし，これまで共に手をとりあいながら豊かな歴史を育んできました。今，南島原市として新たな歴史の一歩を刻み始めたところです。

近年の大きな出来事の一つに，雲仙普賢岳の噴火災害が上げられますが，平成の噴火は，山頂に溶岩ドームを形成し，度重なる火砕流と土石流を引き起こし，南島原市も旧深江町をはじめ多大な被害を受けました。しかしながら，噴火の終息した現在，溶岩ドームも「平成新山」と名を変え，島原半島の新たなシンボルとなっています。ふもとでは着々と防災事業が進められ，市民の安全が確保されるとともに，火山としての雲仙岳や噴火災害から得た教訓・経験など，有形無形の財産を教育や観光に有効に活用する試みもはじまっています。

このたび，権現脇遺跡発掘調査の第２冊目の調査報告書を発刊することになりました。この報告書は，市として発刊する文化財報告書の第１冊目であります。今回の調査は，国土交通省雲仙復興事務所の計画により雲仙普賢岳山麓で進められている防災事業の一つ，赤松谷川１号床固工工事に伴って実施したものです。権現脇遺跡の調査では，縄文時代から弥生時代へと移り変わっていく時代転換期の遺物が多数確認されました。

南島原市の代表的な古代遺跡に山ノ寺梶木遺跡と原山支石墓群がありますが，両遺跡は「山ノ寺式土器」，「原山式土器」の標識遺跡でもあり，古くから初期弥生文化の成立に関わる重要遺跡として注目されてきました。時期を同じくする権現脇遺跡において，多数の資料が確認されたことは，今後の研究に大いに寄与するものと期待します。また，調査によって明らかとなった権現脇遺跡の資料が，学術のみならず教育や観光などさまざまな分野で広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが，発掘調査を実施するにあたりご協力とご理解をいただきました雲仙復興事務所の方々，工事関係の方々，調査と整理に従事くださいました作業員の皆様，そのほか関係各位に心から感謝申し上げ，発刊の言葉と致します。

平成19年３月30日

南島原市教育委員会　教育長　菅　　弘　賢

例　　言

1　本書は権現脇遺跡（長崎県南島原市深江町上大野木場所在）の発掘調査報告書である。

2　調査は南島原市教育委員会が主体となり，平成18年４月25日～平成18年６月31日の期間で実施した。

3　事業主体　国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所砂防課

4　調査主体及び調査担当は以下のとおりである。

調査主体

南島原市教育委員会　　教 育 長　　菅　　弘賢

教育次長　　井口　敬次

文化課長　　但馬　健剛

調査担当

南島原市教育委員会　文化課文化財班　主事　　本多　和典

㈱埋蔵文化財サポートシステム　　大坪　芳典

5　調査における土坑，埋甕の個別実測図，土層実測図の作成は岩永よし子・北岡としかの協力を得て廣瀬祐美・大坪・本多が行い，写真撮影は本多が行った。遺構配置図の作成及び航空写真の撮影は㈱埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

6　遺物の洗浄・注記・実測は荒木秀之・岩永英子・上田五月・廣瀬が，トレースは岩永・上田・本多が，接合・復元は岩永が，拓本は荒木が行った。また，遺物の写真撮影は岩永・本多が行った。

7　本書における遺物・図面・写真等は南島原市池平避難所で保管し，遺物の一部は深江埋蔵文化財・噴火災害資料館に展示予定である。

8　調査及び本書の刊行にあたって以下の方々からご助言，ご指導をいただいた。記して謝意を表します。

上田万秋・小畑弘己・仙波靖子・丹羽崇史・本田雄峰・松島健（50音順，所属・敬称略）

9　本書の執筆・編集は本多による。

本 文 目 次

第Ⅰ章　調査に至る経緯と過去の調査……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　過去の調査……1

第Ⅱ章　位置と環境……3
　第1節　地理的環境……3
　第2節　歴史的環境……6

第Ⅲ章　調査の方法と経過……11
　第1節　調査の方法……11
　第2節　調査の経過……12

第Ⅳ章　基本土層と遺構……14
　第1節　基 本 土 層……14
　第2節　遺　　構……17

第Ⅴ章　包含層出土の遺物……24
　第1節　遺物の出土状況……24
　第2節　Ⅲb下層出土の遺物……26
　第3節　Ⅲb上層出土の遺物……35
　第4節　Ⅲa層出土の遺物……62
　第5節　その他の遺物……62

第Ⅵ章　まとめ……65

附編
小畑弘己・仙波靖子　レプリカ法による長崎県権現脇遺跡出土土器圧痕の種子類の同定Ⅱ ……131

挿 図 目 次

第１図　遺跡の位置①……1
第２図　調査区位置図……2
第３図　遺跡の位置②……4
第４図　島原半島東部の地形①……5
第５図　島原半島東部の地形②……5
第６図　南島原市内遺跡地図（縄文時代及び突帯文期）……8
第７図　深江町内遺跡地図……10
第８図　グリッド配置図……11
第９図　層位対応概略図……14
第10図　土層実測図……15
第11図　ピット内ほか出土の遺物……17
第12図　遺構配置図……18
第13図　土坑１実測図……19
第14図　土坑１内出土の遺物……19
第15図　土坑２実測図……20
第16図　土坑２内出土の遺物……20
第17図　埋甕１実測図……20
第18図　埋甕１出土の遺物……21
第19図　埋甕２実測図……21
第20図　埋甕２出土の遺物……22
第21図　Ⅲｂ下層出土の遺物①……27
第22図　Ⅲｂ下層出土の遺物②……28
第23図　Ⅲｂ下層出土の遺物③……31
第24図　Ⅲｂ下層出土の遺物④……32
第25図　Ⅲｂ下層出土の遺物⑤……33
第26図　Ⅲｂ上層出土の遺物①……35
第27図　Ⅲｂ上層出土の遺物②……37
第28図　Ⅲｂ上層出土の遺物③……38
第29図　Ⅲｂ上層出土の遺物④……39
第30図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑤……41
第31図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑥……42
第32図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑦……43
第33図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑧……45
第34図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑨……46
第35図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑩……53
第36図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑪……54
第37図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑫……55
第38図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑬……56
第39図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑭……57
第40図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑮……58
第41図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑯……59

第42図　Ⅲａ層出土の遺物……62
第43図　その他の出土遺物……63

表　目　次

第１表　権現脇遺跡の調査履歴……2
第２表　山ノ寺梶木遺跡の調査履歴……8
第３表　南島原市内遺跡一覧……9
第４表　深江町内遺跡一覧……10
第５表　ピット内他出土遺物観察表……23
第６表　土坑内出土遺物観察表……23
第７表　埋甕出土遺物観察表……23
第８表　土器・土製品・陶磁器集計……25
第９表　石器・石製品集計……25
第10表　金属器集計……25
第11表　Ⅲｂ下層出土遺物観察表①……28
第12表　Ⅲｂ下層出土遺物観察表②……29
第13表　Ⅲｂ下層出土遺物観察表③……34
第14表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表①……47
第15表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表②……48
第16表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表③……49
第17表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表④……50
第18表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表⑤……51
第19表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表⑥……52
第20表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表⑦……60
第21表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表⑧……61
第22表　Ⅲａ層出土遺物観察表……64
第23表　その他の出土遺物観察表……64
第24表　１群・３群土器類の列別出土数……67
第25表　３群土器類刻目原体別出土数……67
第26表　３群土器類口縁部突帯位置……67
第27表　１群深鉢形土器類観察表①……68
第28表　１群深鉢形土器類観察表②……68
第29表　３群深鉢形土器類観察表①……69
第30表　３群深鉢形土器類観察表②……69
第31表　３群深鉢形土器類観察表③……70
第32表　３群深鉢形土器類観察表④……70

グラフ目次

第１グラフ　１群・３群土器類出土層位の比率……67
第２グラフ　３群土器類の外面調整……67
第３グラフ　３群土器類の内面調整……67

図 版 目 次

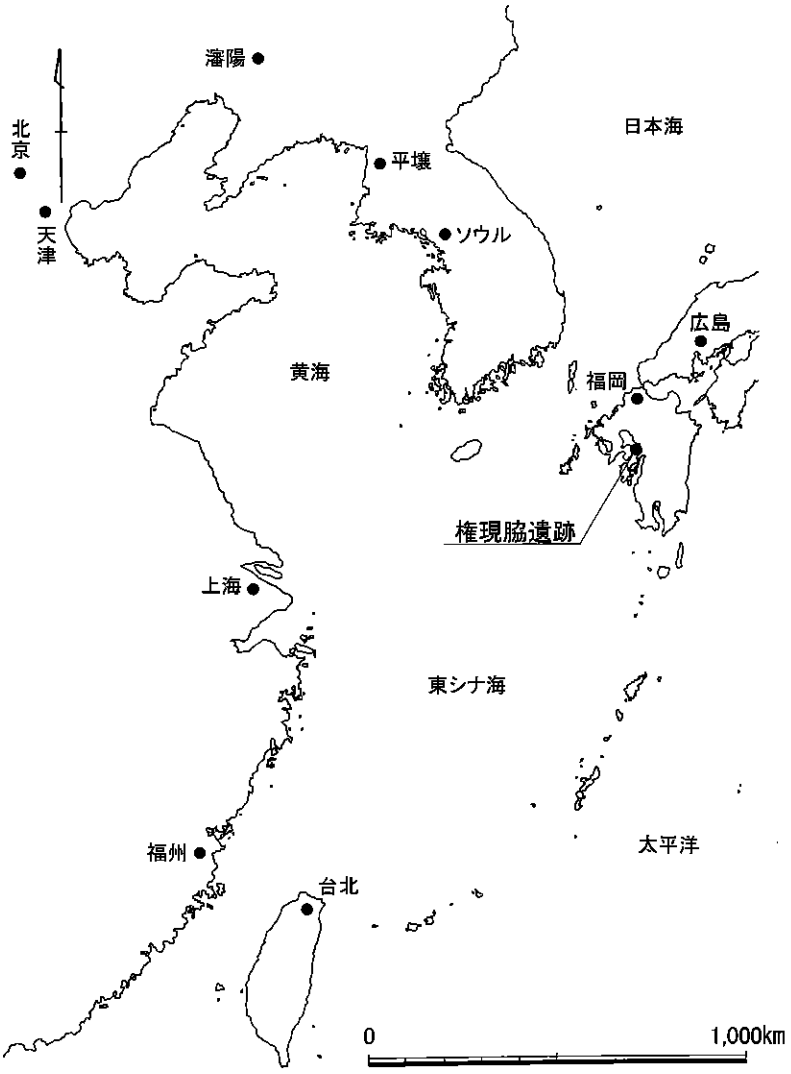
図版１　調査区空中写真……73
図版２　調査風景・整理風景……74
図版３　土坑１検出状況①
　　土坑１検出状況②……75
図版４　土坑２内遺物検出状況①
　　土坑３内遺物検出状況①……76
図版５　埋甕１検出状況①
　　埋甕１検出状況②……77
図版６　埋甕２検出状況①
　　埋甕２検出状況②……78
図版７　遺物出土状況……79
図版８　ピット内他出土遺物……80
図版９　土坑１内出土遺物
　　土坑２内出土遺物……81
図版10　埋甕１出土遺物
　　埋甕２出土遺物……82
図版11　Ⅲｂ下層出土土器……83
図版12　Ⅲｂ下層出土土器……84
図版13　Ⅲｂ下層出土土器……85
図版14　Ⅲｂ下層出土土器……86
図版15　Ⅲｂ下層出土石器……87
図版16　Ⅲｂ下層出土石器……88
図版17　Ⅲｂ下層出土石器……89
図版18　Ⅲｂ下層出土石器……90
図版19　Ⅲｂ上層出土土器……91
図版20　Ⅲｂ上層出土土器……92
図版21　Ⅲｂ上層出土土器……93
図版22　Ⅲｂ上層出土土器……94
図版23　Ⅲｂ上層出土土器……95
図版24　Ⅲｂ上層出土土器……96
図版25　Ⅲｂ上層出土土器……97
図版26　Ⅲｂ上層出土土器……98
図版27　Ⅲｂ上層出土土器……99
図版28　Ⅲｂ上層出土土器……100
図版29　Ⅲｂ上層出土土器……101
図版30　Ⅲｂ上層出土土器……102
図版31　Ⅲｂ上層出土土器……103
図版32　Ⅲｂ上層出土土器……104
図版33　Ⅲｂ上層出土土器……105
図版34　Ⅲｂ上層出土土器……106
図版35　Ⅲｂ上層出土土器……107
図版36　Ⅲｂ上層出土土器……108
図版37　Ⅲｂ上層出土土器……109
図版38　Ⅲｂ上層出土土器……110
図版39　Ⅲｂ上層出土土器……111
図版40　Ⅲｂ上層出土土器……112
図版41　Ⅲｂ上層出土土器……113
図版42　Ⅲｂ上層出土土器・土製品……114
図版43　Ⅲｂ上層出土石器……115
図版44　Ⅲｂ上層出土石器……116
図版45　Ⅲｂ上層出土石器……117
図版46　Ⅲｂ上層出土石器……118
図版47　Ⅲｂ上層出土石器……119
図版48　Ⅲｂ上層出土石器……120
図版49　Ⅲｂ上層出土石器……121
図版50　Ⅲａ層出土遺物……122
図版51　Ⅱ層他出土遺物……123
図版52　組織痕土器拡大①……124
図版53　組織痕土器拡大②……125
図版54　組織痕土器拡大③……126
図版55　組織痕土器拡大④……127

第Ⅰ章　調査に至る経緯と過去の調査

第１節　調査に至る経緯

1990（平成２）年に雲仙普賢岳が198年ぶりに噴火し，火砕流や土石流が麓の民家を襲い，多くの被害をもたらしたが，沈静化した1996年以降現在に至るまで赤松谷川・水無川流域一帯ではさまざまな防災・復興事業が進められている。今回の調査区（Ｅ区）はそうした防災事業の一つとして，国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所により赤松谷川１号床固工工事が計画されたことを受けて発掘調査を実施することとなった。

平成17年度に赤松谷川１号床固工の事業計画が持ち上がった段階で，まず長崎県教育庁学芸文化課により現地踏査が実施された。国土交通省雲仙復興事務所砂防課の立会いのもと現地踏査が実施された結果，島原市と深江町にまたがる工事予定地のうち，深江町側の750㎡について本調査が必要と判断され，深江町教育委員会において発掘調査事業の計画を進めることになった。その後深江町は，平成18年３月31日に周辺の７町と合併し南島原市となったことから，発掘調査事業についても南島原市が引き継ぎ，今回の発掘調査を南島原市教育委員会が主体となって実施することになった。



第１図　遺跡の位置①（Ｓ＝１/20,000,000）

第２節　過去の調査

権現脇遺跡は，雲仙普賢岳噴火災害の沈静後に発見された遺跡である。これまでに国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所が事業主体となって進めている赤松谷川流域の砂防事業に伴って発掘調査を実施している。また，地元郷土史家による地道な遺物の採集活動が行われ，採集された大量の遺物については旧深江町教育委員会に寄贈いただいた。

旧深江町教育委員会（現南島原市教育委員会）が主体となり平成14年度赤松谷川２号導流堤建設予定地を対象として範囲内容確認調査を実施し，その結果本調査が必要と判断されたＡ・Ｂ・Ｃ区につ

いて平成14年度から平成15年度にかけて7,287㎡の発掘調査を実施した。また，平成16年度には赤松谷川２号堰堤建設予定地について，Ｄ区870㎡の発掘調査を実施した。

このＡ～Ｄ区の調査により，権現脇遺跡は縄文時代後期末から弥生時代前期にかけての時期にその主体をおくことが判明した。また，縄文時代早期や中・近世の資料，赤松谷川を挟んで遺跡の北側に位置する眉山の形成時に発生したとされる火砕流による倒木痕なども検出された。赤松谷川右岸の比較的広い段丘面が時に火山災害を受けながらも断続的に人々の生活の場として利用されていたといえる。

第２図　調査区位置図（Ｓ＝１/20,000）

第１表　権現脇遺跡の調査履歴

調査年度	調査地	調査種別	調査面積
Ｈ.14	赤松谷川２号導流堤建設予定地	範囲内容確認調査	80㎡（２ｍ×２ｍの試掘坑20ヶ所）
Ｈ.14～Ｈ.15	赤松谷川２号導流堤建設予定地（Ａ・Ｂ・Ｃ区）	本調査	7,287㎡
Ｈ.16	赤松谷川２号堰堤建設予定地（Ｄ区）	本調査	870㎡
Ｈ.18（本報告）	赤松谷川１号床固工工事予定地（Ｅ区）	本調査	750㎡

〔参考文献〕

本多和典編　2006『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第２集　深江町教育委員会

第Ⅱ章　位置と環境

第１節　地理的環境

権現脇遺跡は，長崎県南島原市深江町に所在する。長崎県南高来郡深江町は，同郡布津町，有家町，西有家町，北有馬町，南有馬町，口之津町，加津佐町の7町と平成18年３月31日に合併し，新たに「南島原市」となった。１市17町あった島原半島は「平成の大合併」により南島原市，島原市，雲仙市の３市に集約された。長崎県全体では，８市70町１村の市町村が13市10町にまとまった（平成19年３月30日現在）。

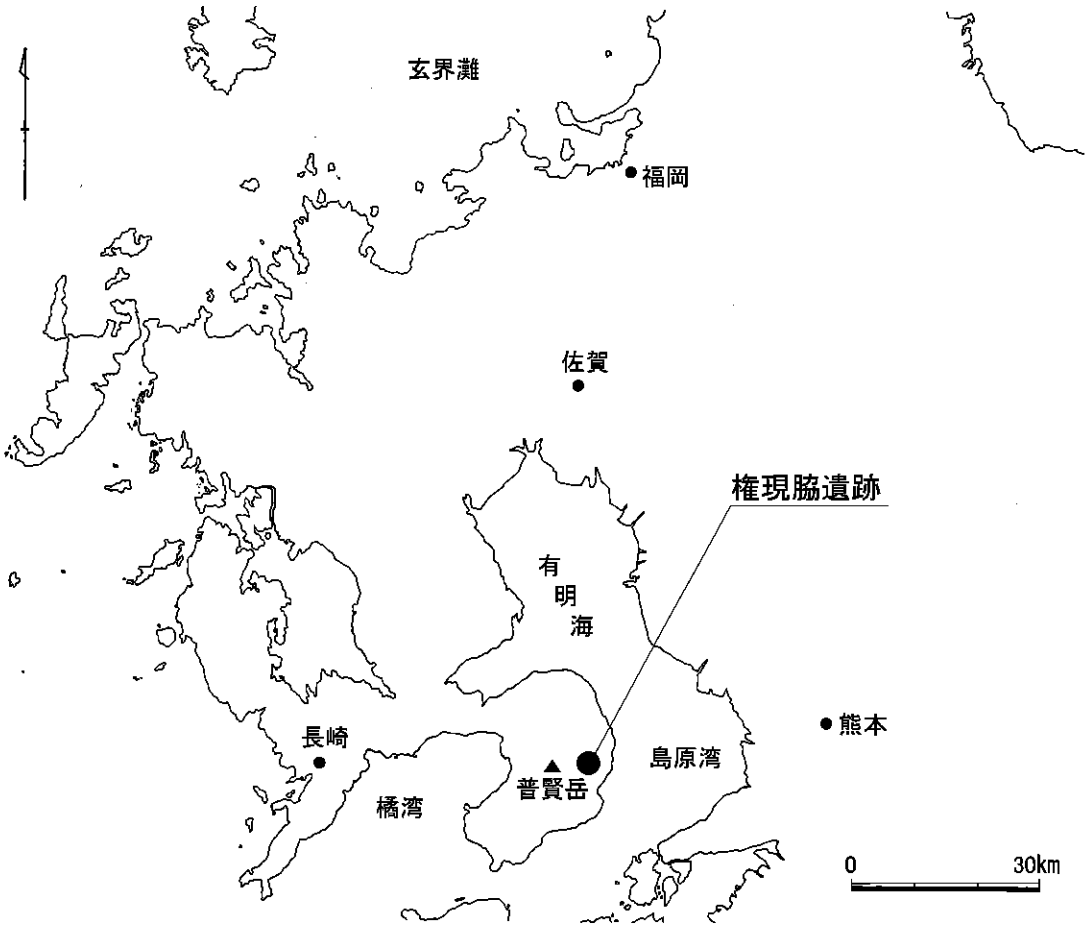
九州島の北西部に位置する長崎県は，北西に朝鮮半島，西に中国，南に薩南・琉球諸島を臨み，古くから東シナ海をはじめとした海洋を媒介として大陸や南島の文化を受け入れ，交流を行ってきた。

長崎県の総面積は47都道府県の中で37番目でありながら，海岸線の総延長は面積第１位の北海道に次いで第２位である。壱岐，対馬，五島列島，平戸などをはじめとして大小600近くにおよぶ島々と島原半島，長崎半島，西彼杵半島，北松浦半島の半島からなる長崎県は，沖積平野の発達に乏しく，長崎県の総面積に占める平野部の割合は，人工的な埋立て部分を除けば10％足らずであり，幡鉾平野（壱岐）や諫早平野，大村平野など小規模平野が見られるに過ぎない。

長崎県の南東部に位置する「胃袋形」，「ソラマメ形」とも称される特徴的な形をした島原半島は，東西24km，南北約32kmで，面積は463.13km²を測り，東彼地区，西彼地区，長崎地区，島原地区といった長崎県本土地域の交通基点となる諫早地区と愛野地峡によって繋がっている。半島の東側は有明海（島原湾），西側は橘湾に囲まれる。山がちな長崎県において，島原半島は平野部こそ少ないが，半島の北部から南東部にかけて新旧の扇状地によって形成された雲仙山麓が，有明海へと駆け下る小河川によって浸食され，良好な丘陵や台地を作り出している。これらの丘陵や台地は，現在県内最大の農業地帯としてさまざまな農作物を県内外に供給しているが，島原半島に存在する遺跡の多くもこれらの丘陵・台地に展開している。

島原半島の中央には絹笠火山群・九千部火山群・雲仙火山群の３つの火山群からなる県内唯一の活火山である雲仙山系がそびえる。有史以来，雲仙普賢岳は1663（寛文３）年，1792（寛政４）年，1990（平成２）年の３回の噴火記録が残る。1663年の噴火では，普賢岳九十九島火口から噴煙を上げ，山腹北東部から約１kmの溶岩を流し（古焼溶岩），水無川では土石流が発生した。1792年の噴火では，普賢岳地獄跡火口から噴煙を上げ，山腹北東部から約２kmの溶岩を流した（新焼溶岩）。この噴火時には島原市の南に位置する眉山が山体崩壊を起こし，膨大な量の土砂が有明海に流れ込んでいる。この山体崩壊は，大津波となって肥後地方を襲い，再び返し波となって島原地方を襲っている。これが世に言う「島原大変肥後迷惑」であり，死者・行方不明者は15,000人を超える日本火山史上最大の惨事である。1990（平成２）年には再び普賢岳が噴火し，山頂に形成された溶岩ドームは成長と崩落を繰り返し，火砕流となって東斜面を駆け下りた。また，火山灰や火砕流堆積物は降雨のたびに土石流となって水無川や中尾川を氾濫させた。この平成噴火による死者・行方不明者は44名を数え，経済的にも大きな被害を受けた。噴火活動の終息後，普賢岳山頂に形成された溶岩ドームは「平成新山」と命名され，国の天然記念物の指定を受けている。

遺跡が所在する南島原市深江町は新旧の複合的に形成された深江原とも呼ばれる火山扇状地をおお



第３図　遺跡の位置②（Ｓ＝１/1,200,000）

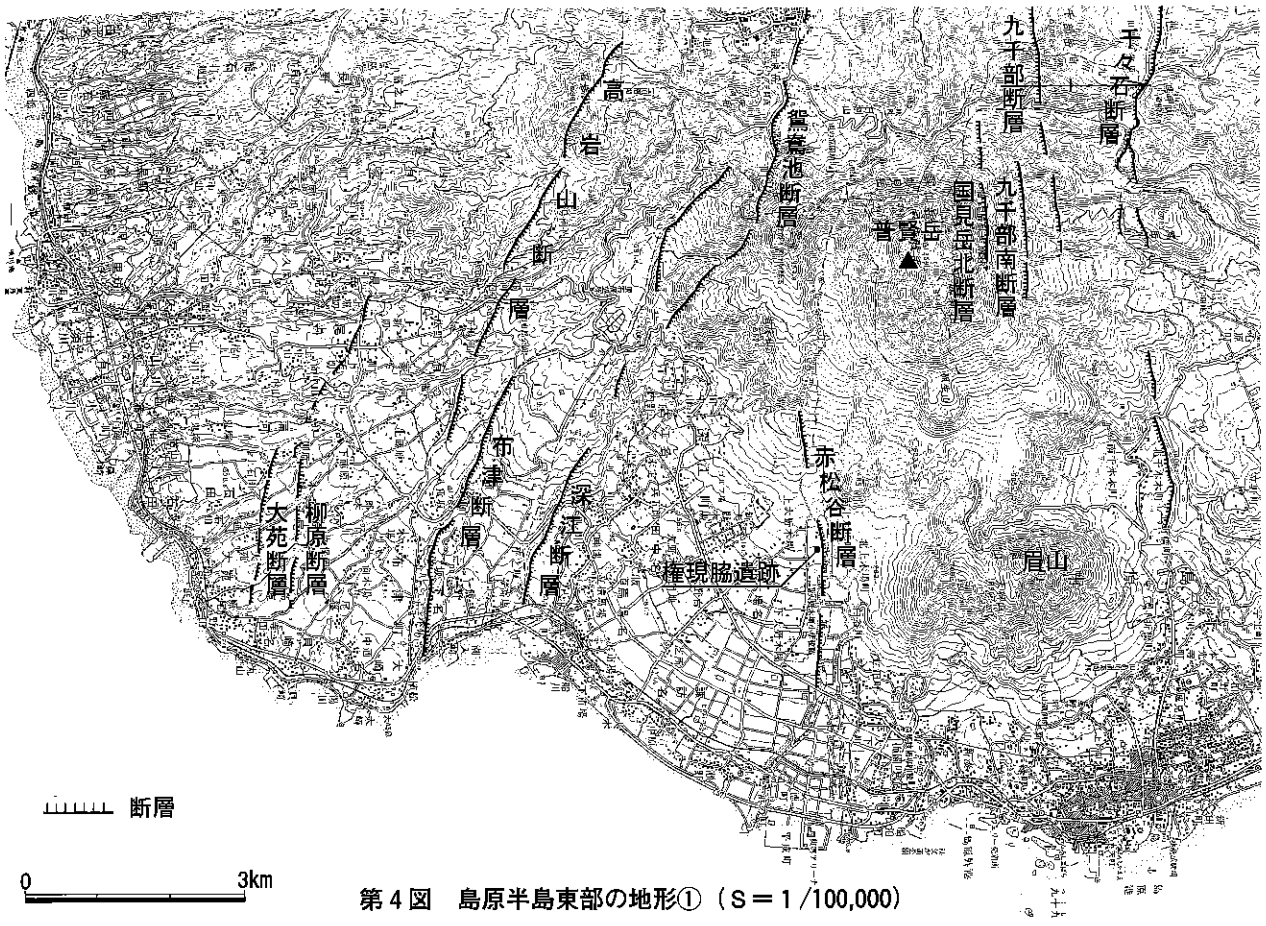
よその範囲とする。同市布津町とは深江断層・深江川を隔てて境とし，島原市とは赤松谷川・水無川を隔てておおよそ分かれる。深江断層は現在も布津側が隆起し，深江側が沈降を続けている。権現脇遺跡は深江町を形成するこの扇状地の扇頂付近，赤松谷川右岸に位置する。遺跡からは深江原全体を見渡すことができ，その先には有明海を挟んで熊本平野や宇土半島を望むことができる。有明海は奥部での最大潮差が５～６ｍ前後もあり，深江川下流の「深江」という地名の由来ともなった大きく湾入する入り江においても，発達した干潟地帯を見ることができる。

〔参考文献〕

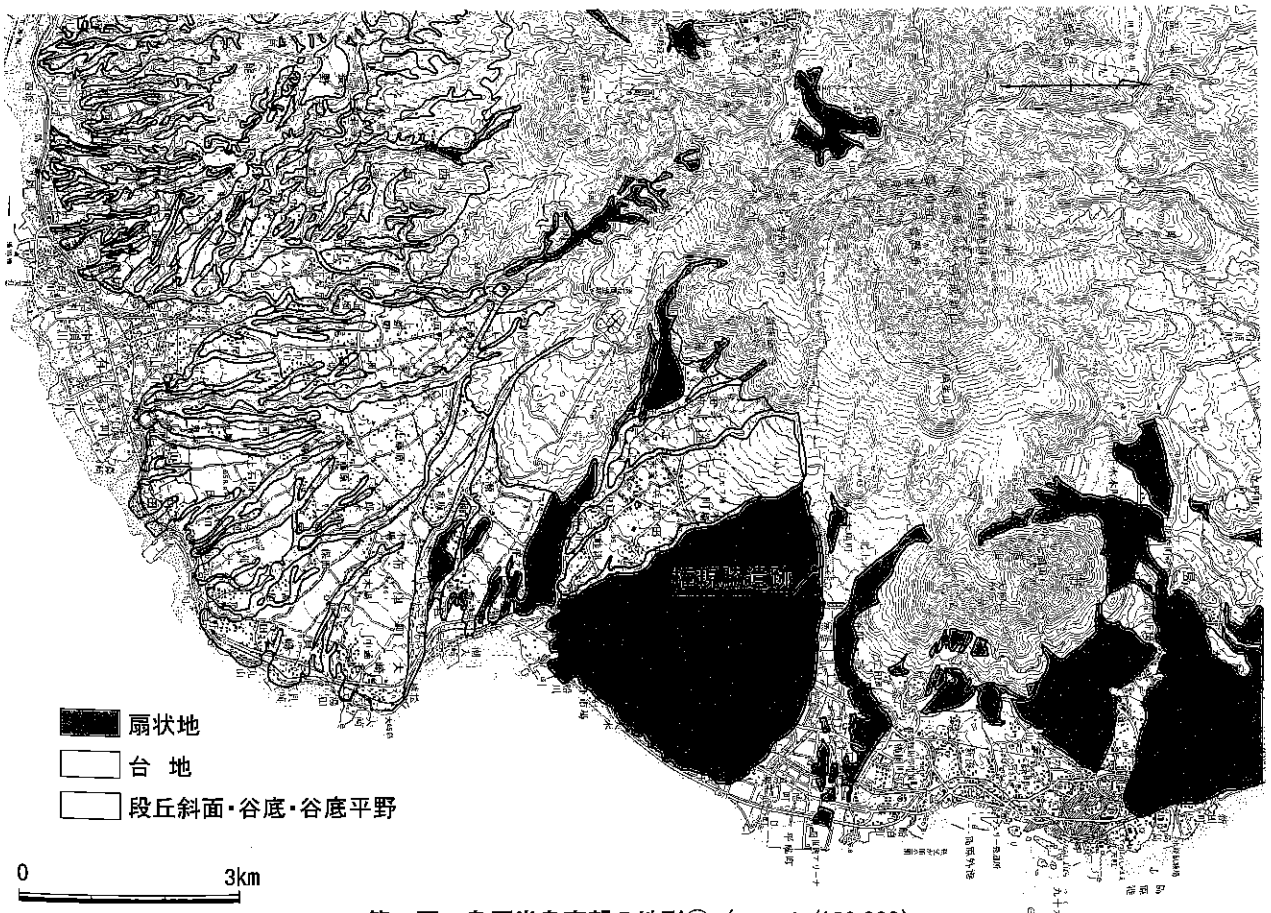
国土地理院　1997 『1：25,000火山土地条件図　雲仙岳』

平凡社地方資料センター編　2001 『長崎県の地名』日本歴史地名大系第43巻　平凡社

日下　哉　2002 『図解日本地形用語辞典』　東洋書店



第４図　島原半島東部の地形①（Ｓ＝１/100,000）



第５図　島原半島東部の地形②（Ｓ＝１/100,000）

第２節　歴史的環境

南島原市は島原半島の東南部に位置し，地形的には小規模な扇状地の広がる市北部の深江原，丘陵・台地の発達する布津・有家町一帯の市中央部，有馬川以南の山がちな市南部の大きく３つの地域に分けられる。こうした地形的特質は遺跡の分布にも大いに影響している。最も遺跡の集中するのは丘陵・台地の発達した市中央部である。傾斜のゆるい良好な丘陵・台地はそれが一つの単位として遺跡群を形成している。また，市北部の扇状地においてはその縁辺部に遺跡が分布し中央部には遺跡の空白域の存在が指摘できる。市南部においては弥生時代中期後半以降の貝塚が多く確認されており，海浜集落が形成されている。

８町からなる南島原市はすべての町が海岸を持ち，有明海（島原湾）から天草灘・早崎瀬戸を抜ければ外洋にも通じ，古くから広く大陸との文化的交渉も行われてきた。その中でも注目されるのは中世末から近世初頭におけるキリシタン文化の盛隆とその弾圧の歴史である。須川キリシタン墓碑をはじめとする市全域に分布する多くのキリシタン墓碑群，キリシタン大名有馬氏の居城である北有馬町所在の日野江城跡，島原の乱終焉の地として知られる南有馬町所在の原城跡など重要遺跡が点在する。

また，並んで縄文時代から弥生時代への転換期の遺跡の豊富さも指摘できる。代表とされる遺跡に深江町所在の山ノ寺梶木遺跡，北有馬町所在の原山支石墓群がある。山ノ寺梶木遺跡は弥生時代最古の土器「山ノ寺式土器」の標識遺跡である。戦後まもなく始まった山ノ寺地区の開墾に伴い発見され，古田正隆氏の精力的な活動によりその重要性が認識されるようになった。原山支石墓群も同じく戦後の開拓によって発見されている。これまでに確認された支石墓は破壊されたものも含めると100基を超え，３群に分かれる墓域のうち第２支石墓群・第３支石墓群が国史跡に指定されている。

また，南有馬町に所在する北岡金比羅祀遺跡では，弥生時代中期の合口の甕棺墓から銅剣１本が出土したと伝わる。北有馬町所在の今福遺跡では弥生時代から古墳時代の竪穴式住居や甕棺墓，環濠と推測されている「Ｖ」字溝などが検出されている。布津町所在の天ヶ瀬古墳は古墳時代後期に属すると考えられる円墳であり，市域では唯一内部主体の横穴式石室が確認されている。

次に深江町における遺跡の分布を見てみる。島原半島の形成過程の中では比較的新しいとされる小規模で複合的な火山性扇状地が町内のほぼ全域を覆う。扇状地の両脇は，北東は水無川が走って島原市との境界をなす。南西は南島原市布津町との間に深江断層が断層崖を作り，その直下を深江川が走る。遺跡の分布は主に湧水点の見られる扇頂部の付近と海岸に近い低地の部分，それに深江川水系の流域に多く分布する。

遺跡例としてあげると，扇頂付近の地形変換点の遺跡として権現脇遺跡，山ノ寺梶木遺跡，山ノ寺田中山遺跡などがあげられる。深江川水系の遺跡としては，水無川支流である中ノ間川と畦津川に挟まれた丘陵に立地する下末宝遺跡，畦津川右岸の台地に立地する上畦津遺跡などがある。また，海岸近くの比較的低地の遺跡としては中原遺跡，船川遺跡，二本櫨遺跡などがある。

時代別に見ると，旧石器時代の遺跡は発見されておらず，縄文時代においては，早期から遺跡が見られるようになり，下末宝遺跡や瀬野海中干潟遺跡では押型文期のまとまった資料が見られる。前期・中期の遺跡はほとんど知られておらず，山ノ寺梶木遺跡において曽畑式土器の出土がわずかに知られるくらいである。後期末から晩期前半になると権現脇をはじめ，山ノ寺梶木遺跡や権現脇遺跡，上畦津遺跡などで資料の出土が見られるようになる。晩期になると遺跡の数も増大し，出土資料も充実す

る。権現脇遺跡，山ノ寺梶木遺跡，上畦津遺跡，舟川遺跡，二本櫨遺跡，堂家遺跡などが上げられる。

弥生時代になると，海岸近くの比較的標高の低い地域に遺跡が見られる。配石墓や甕棺墓の確認された中原遺跡，上畦津遺跡などがある。

古墳時代以降になると確認されている遺跡が少ないが，近年山ノ寺梶木遺跡では青銅製重圏文鏡が採集されている。中世期の遺跡としては，安富氏の居城である深江城跡がある。

その中で権現脇遺跡が立地するのは水無川上流の赤松谷川右岸に形成された台地状の緩斜面である。平成噴火と噴火沈静後の防災工事により大きく周辺の地形は変化しているが，遺跡の最も標高の高い地点のあたりに権現神社があり，遺跡の名称の由来となっている。さらに上流には湧水点があり，炭酸水が湧いていたという。現在は湧水点も権現神社も火砕流堆積物の下に埋もれて確認することはできない。

岩床山の南麓には権現脇遺跡とほぼ時期を同じくする山ノ寺梶木遺跡がある。「西北九州総合調査特別委員会」による調査では，「Ｂ地点」からまとまった量の土器の出土があり，これが現在の「山ノ寺式土器」の標識資料となっているが，詳細は未報告のため不明なところも多い。

縄文時代晩期から突帯文期を主体とする権現脇遺跡と山ノ寺梶木遺跡の両遺跡は，直線距離で３㎞と近距離にあり，標高域もほぼ同じである。一方で，権現脇遺跡は赤松谷川右岸の広大な段丘面を生活の基盤としているのに対し，山ノ寺梶木遺跡の立地する丘陵は，北側を梶木川が大きく浸食して走り，南側も深い谷が走る。また，傾斜も権現脇遺跡に比べるとややきつく，生活領域としては狭い印象を受ける。こういった地形的環境面での比較と出土資料の検討により，当該期の島原半島の様相，あるいは遺跡間の相互の関係というものが明らかにできるものと考えられる。

〔参考文献〕

田中良行　1985 「長崎県山の寺遺跡《晩期山の寺式土器》」『探訪縄文の遺跡　西日本編』 有斐閣

深江町郷土誌編さん委員会編　1971 『深江町郷土誌』 深江町

福田一志　1999 「第Ｉ部　山の寺梶木遺跡」『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ』長崎県文化財調査報告書第151集　長崎県教育委員会

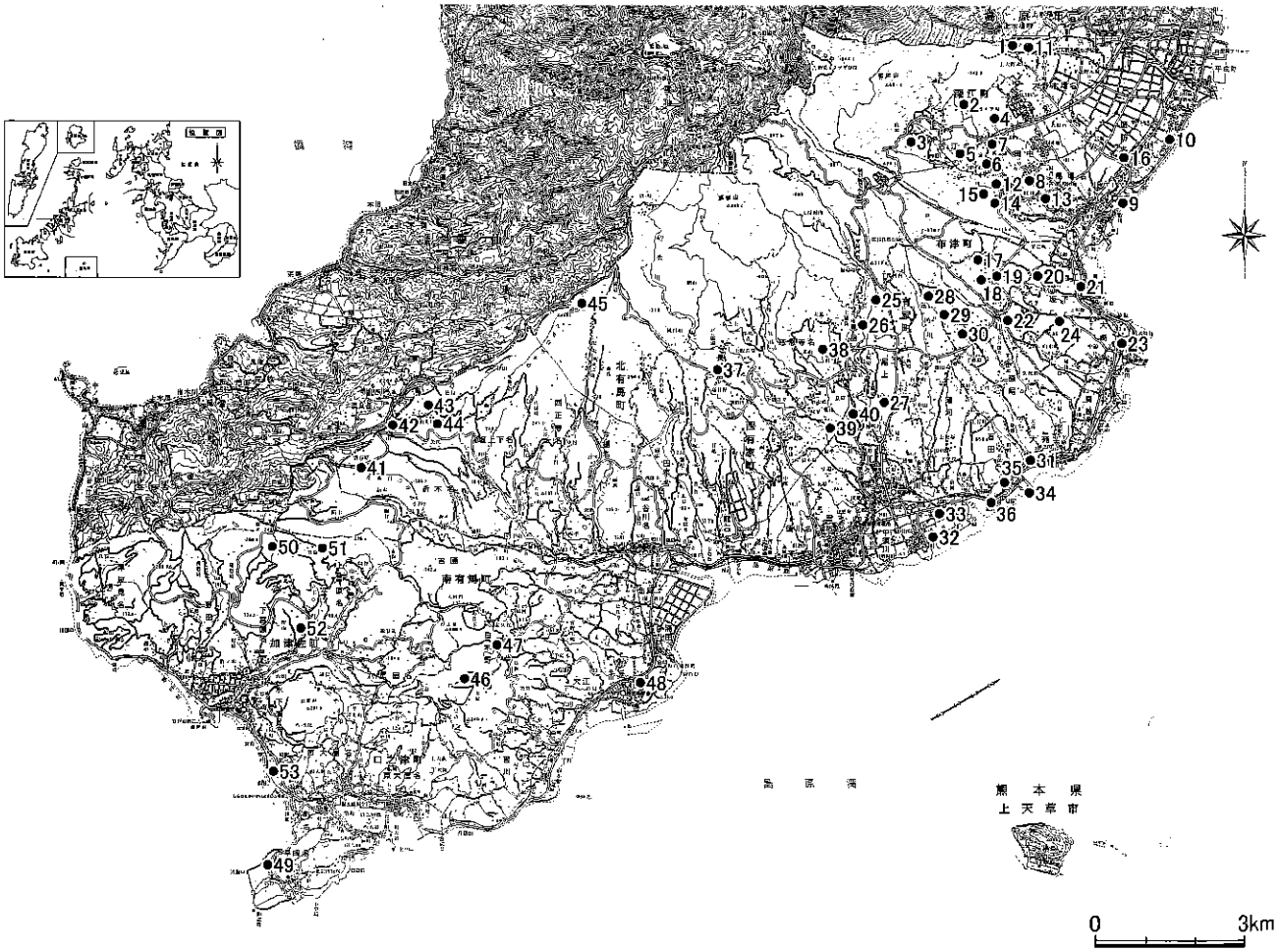
古田正隆　1970 『山の寺梶木遺跡』 百人委員会

本多和典編　2005 『下末宝遺跡・上畦津遺跡』深江町文化財調査報告書第１集　深江町教育委員会

長崎県教育委員会　1997 『原始・古代の長崎県　資料編Ⅱ』

第２表　山ノ寺梶木遺跡の調査履歴

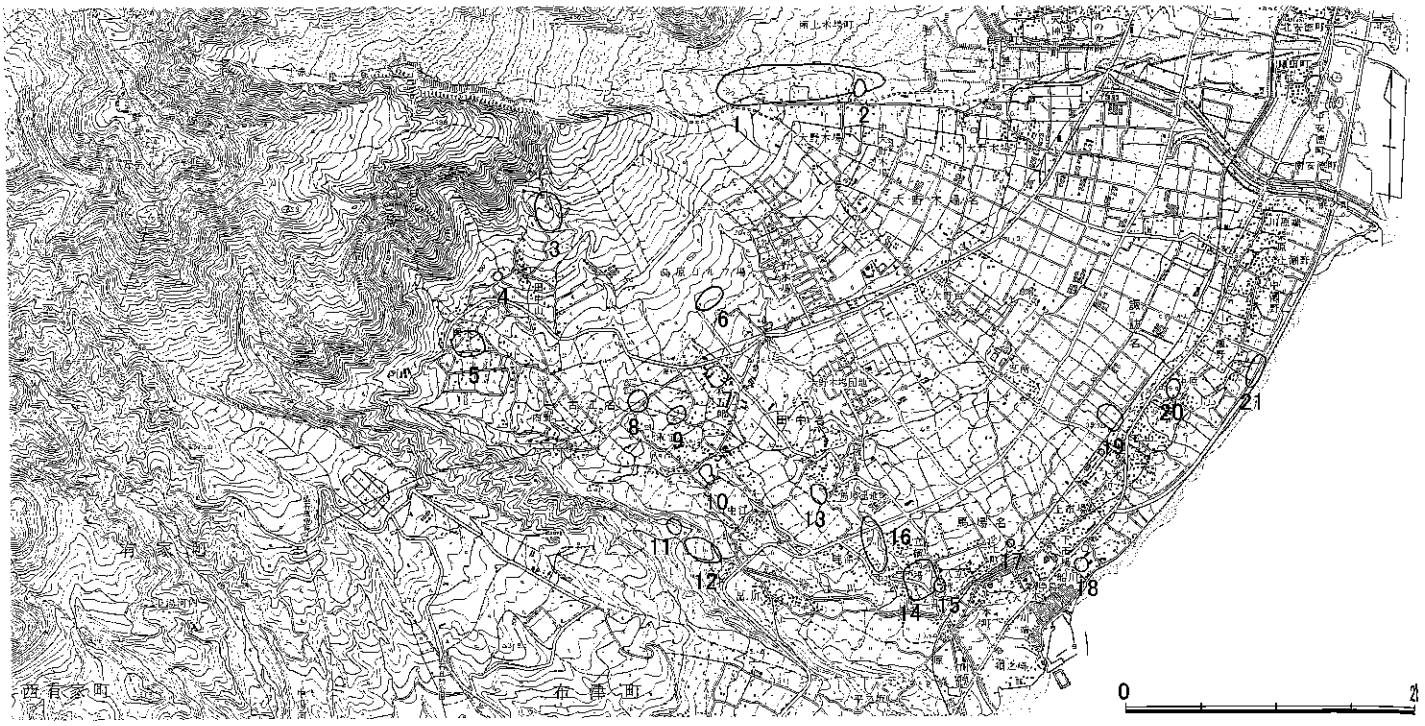
調査期間	調査主体	調査者	調査概要	備考
昭和32年６月16日～６月22日	深江町教育委員会	古田正隆，石丸太郎，上田俊之	（調査地点）開拓地中央縦貫道路右手の畑地 （出土遺構・遺物） 敷石住居，壷・高坏	森貞次郎氏は参加できず
昭和32年８月25日～８月30日	深江町教育委員会	森貞次郎，古田正隆，石丸太郎，上田俊之	（調査地点）宮崎進氏畑	森貞次郎氏「山ノ寺式土器」命名
昭和35年８月23日～８月30日	日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会	乙益重隆，国分直一，賀川光夫，潮見浩，古田正隆，上田俊之	（Ｂ地点）紡錘車２個	
平成９年８月９日～10月２日	長崎県教育委員会	福田一志，永嶋豊	（調査面積）117㎡	



第６図　南島原市内遺跡地図（縄文時代及び突帯文期）（Ｓ＝１/150,000）

第3表　南島原市内遺跡一覧（縄文時代～突帯文期）

番号	所在地	遺跡名	時期							
			草創期	早期	前期	中期	後期	晩期	突帯文期	不明
1	南島原市深江町	権現脇遺跡		○			○	○	○	
2	南島原市深江町	山ノ寺田中山遺跡		○						
3	南島原市深江町	山ノ寺梶木遺跡			○			○	○	
4	南島原市深江町	池平遺跡								○
5	南島原市深江町	内野遺跡								○
6	南島原市深江町	末宝遺跡								○
7	南島原市深江町	弓太郎遺跡								○
8	南島原市深江町	西板首遺跡						○		
9	南島原市深江町	舟川遺跡							○	
10	南島原市深江町	瀬野海中干潟遺跡		○				○		
11	南島原市深江町	深江木場遺跡						○	○	
12	南島原市深江町	下末宝遺跡		○						
13	南島原市深江町	上畦津遺跡						○	○	
14	南島原市深江町	高平原遺跡						○		
15	南島原市深江町	堂家遺跡						○	○	
16	南島原市深江町	二本櫨遺跡							○	
17	南島原市布津町	天ヶ瀬遺跡		○					○	
18	南島原市布津町	彦原遺跡							○	
19	南島原市布津町	亀首遺跡		○				○		
20	南島原市布津町	飯野遺跡							○	
21	南島原市布津町	潮入崎遺跡					○			
22	南島原市布津町	三本松遺跡							○	
23	南島原市布津町	大崎鼻遺跡		○						
24	南島原市布津町	古枯野遺跡							○	
25	南島原市有家町	東大窪遺跡								○
26	南島原市有家町	上堀切遺跡								○
27	南島原市有家町	中三条遺跡								○
28	南島原市有家町	三又遺跡								○
29	南島原市有家町	百貫石遺跡								○
30	南島原市有家町	藤原・中水谷遺跡								○
31	南島原市有家町	貝森遺跡			○	○	○			
32	南島原市有家町	蒲河遺跡								○
33	南島原市有家町	白崎遺跡								○
34	南島原市有家町	堂崎遺跡						○	○	
35	南島原市有家町	東塩屋（旧堂崎中）遺跡						○		
36	南島原市有家町	石田遺跡								○
37	南島原市西有家町	高貝野遺跡								○
38	南島原市西有家町	赤平遺跡								○
39	南島原市西有家町	椎山遺跡								○
40	南島原市西有家町	当田遺跡								○
41	南島原市北有馬町	割石原遺跡								○
42	南島原市北有馬町	原山支石墓群（第1遺跡）							○	
43	南島原市北有馬町	原山支石墓群（第2遺跡）							○	
44	南島原市北有馬町	原山支石墓群（第3遺跡）							○	
45	南島原市北有馬町	論所原遺跡								○
46	南島原市南有馬町	上原遺跡								○
47	南島原市南有馬町	中谷遺跡								○
48	南島原市南有馬町	築山遺跡								○
49	南島原市口之津町	野向遺跡								○
50	南島原市加津佐町	空池周辺遺跡								○
51	南島原市加津佐町	栄原遺跡								○
52	南島原市加津佐町	内野貝塚								○
53	南島原市加津佐町	永瀬貝塚				○	○			



第７図　深江町内遺跡地図（Ｓ＝１/50,000）

第４表　深江町内遺跡一覧

番号	名　　称	所　在　地	種　別	時　　代
1	権現脇遺跡	深江町大野木場名	遺物包含地	縄文・弥生・中世・近世
2	深江木場遺跡	深江町大野木場名椎ノ木坂	遺物包含地	縄文・弥生
3	山ノ寺田中山遺跡	深江町田中山牡丹開墾地	遺物包含地	縄文
4	山ノ寺宝篋印塔	深江町田中名山ノ寺	石造物	中世
5	山ノ寺梶木遺跡	深江町田中名山ノ寺	遺物包含地	縄文・弥生
6	池平遺跡	深江町大野木場名池平	遺物包含地	縄文
7	弓太郎遺跡	深江町古江名弓太郎	遺物包含地	縄文
8	内野遺跡	深江町古江名内野	遺物包含地	縄文
9	末宝遺跡	深江町古江名末宝	遺物包含地	縄文
10	下末宝遺跡	深江町古江名下末宝	遺物包含地	縄文
11	堂家遺跡	深江町古江名堂家	遺物包含地	縄文・弥生
12	高平原遺跡	深江町古江名高平原	遺物包含地	縄文・弥生
13	西板首遺跡	深江町田中名西板首	遺物包含地	近世
14	深江城跡	深江町馬場名立馬場	城跡	中世
15	深江貝塚	深江町馬場名立馬場	貝塚	不明
16	上畦津遺跡	深江町田中名上畦津	遺物包含地	縄文・弥生・中世
17	井手口キリシタン墓碑	深江町馬場名井手口	キリシタン墓碑	中世
18	舟川遺跡	深江町諏訪名舟川	墳墓	縄文
19	二本櫨遺跡	深江町諏訪名二本櫨	遺物包含地	縄文・弥生
20	中原遺跡	深江町諏訪名中原	遺物包含地	弥生
21	瀬野海中干潟遺跡	深江町諏訪名下瀬野	遺物包含地	縄文

第Ⅲ章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

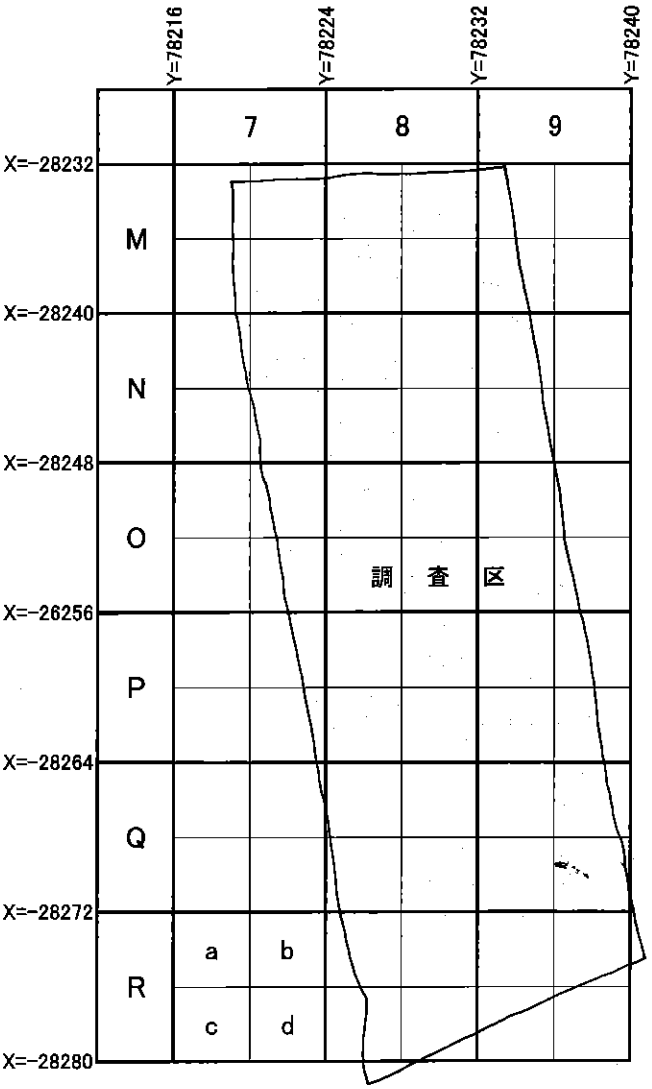
調査区は，南島原市と島原市にまたがる赤松谷川１号床固工工事予定地のうち，南島原側の750㎡について調査対象とした。今回の調査区より北側の建設予定地については後世の削平が及び遺物包含層が残存していないこと，またさらに北側の川床部分及び中州状の丘陵部分については火砕流の到達の恐れのある無人区域として，現在も人の立ち入りが禁止されているという状況から調査の対象から除外された。

遺跡周辺は，雲仙普賢岳の平成噴火災害当時から緊急の防災工事が行われてきたところであり，調査区付近についても工事用道路が１本縦断している状態であった。よって，調査に入るにあたってまず，工事用道路部分に造成されていた砂利を除去することから取り掛かった。砂利の除去については，国土交通省雲仙復興事務所および㈱熊谷組の協力を得た。次に重機を用いて調査区の表土剥ぎと石垣部分の除去を行った。表土剥ぎについては雲仙普賢岳平成噴火以前までの畑地の耕作土と近世以降の開墾・耕作地造成によるものと考えられる撹乱土（Ⅱ層）を除去した。

その後，人力による掘削を行った。表土の残土を取り除き，Ⅲａ層上面まで掘削した段階で調査グリッドを設定した。グリッドの配置については，平成14年度から平成16年度に行った調査時と同様の割付を採用した。すなわちX＝－28,136 とY＝78,168の交点をＡ１として原点に据え，方位軸に合わせて調査区周辺を８ｍ四方の方眼に区画し，北から南へアルファベット大文字を，西から東へアラビア数字をそれぞれ若い順に並べ，そのアルファベット大文字とアラビア数字の組み合わせによって８ｍ区画の交点の地点名称とした。また，グリッドについては，各グリッドの西北隅の地点名称をグリッド名として用いた。

今回の調査区であるＥ区（750㎡）は，長さ約48ｍ，幅約16ｍを測り，北側を西から東へと走る赤松谷川とは直行する位置関係にあり，南北方向Ｍ～Ｒ列，東西方向７～９列のグリッド内に概ね収まる。

遺物包含層の掘削は，８ｍグリッドの境界を中心として幅50㎝の土層観察用ベルト



第８図　グリッド配置図（Ｓ＝１/400）

を残し堆積状況を確認しながら上位の層から下位の層へと順次行い，各層の上面において遺構の有無について精査・確認した。

遺構の掘削は，まず半裁して形状や深度などを把握し，その後全体を掘削した。また，遺構内出土の遺物については，出土遺構ごとに遺構番号を付し，取り上げを行った。掘削途中で根穴等の自然的なものと判断されたものについても同様に扱った。必要に応じて個別に遺構実測図を作成した。

包含層の掘削に際しては，遺物だけではなく，自然礫についても検出状況確認のために，一旦残し，人為的か自然営為的かを判断したうえで取り除くようにした。

掘削時に検出した遺物については，８ｍ四方の各グリッドを４ｍ四方の小グリッドに４分割し，小グリッドごと・層位ごとに行った。小グリッドは，アルファベット小文字ａ～ｄを北西・北東・南西・南東の順に配して，例えばＭ７－ｄというように小グリッド名として呼称した。

第２節　調査の経過

調査は，後半が梅雨時に差し掛かることもあり天候の面で心配されたが，雨天が少なかったことと水はけのよい土壌で，ある程度まとまった雨量があっても調査区に水が溜まることが無かったことが幸いし全体を通して順調に進めることができた。

表土剥ぎ後の残土や近世以降の撹乱土においても管玉や土製紡錘車をはじめとして，土器や石器が多数出土し，調査区のみならず周辺，特に上手においても良好な遺物包含層が広がることを推測させた。

Ⅲａ層上面においては，南北に細長い調査区を東西に横切る幅２ｍ，深さ20cmほどの浅い溝状の遺構を確認したが，検出状況から人為的なものではなく，自然営為の雨裂地形であると判断し，特に図面記録はせず，写真撮影のみを行った。

Ⅱ層上面までの掘削が終了した時点で，調査区の南半部に２本の直交するトレンチを１ｍ幅で設定し，Ⅳ層上面まで掘削して遺構と遺物の内容について確認を行った。その結果，過去の調査で権現脇遺跡の主体となる縄文時代後期から弥生時代前期にかけての遺物包含層として捉えていたⅢb層が，E区においてはⅢｂ上層とⅢｂ下層の上下２面に分層でき，多くの遺物がⅢｂ上層に集中して出土することが判明した。このことからⅢｂ上層の掘削とⅢｂ下層上面での遺構検出が今回の調査の最も主体となる部分であると判断し，そのことを踏まえて重点的に調査を行った。

Ⅲａ層は調査区の北側が削平を受けて残存しておらず，残りの部分についても10cmほどの薄い堆積であったため，さほど掘削に時間を要しなかった。出土遺物も少なく，明瞭な生活の痕跡も認められなかった。Ⅲｂ上層は今回の遺物の大部分が包含されており，主体となる層であった。しかしながら遺物の出土量に比して，Ⅲｂ下層上面で検出できた遺構の数は少なく，遺跡の中での調査区部分の占地の目的については今後周辺の状況も踏まえながら明らかにしていく必要があろう。Ⅲｂ下層においては遺物の出土量はⅢb上層に対して少なく，Ⅳ層上面での遺構の数も多くなかった。そうした中，Ⅳ層上面で２基の埋甕を検出した。

4月24日（表土剥ぎ前）

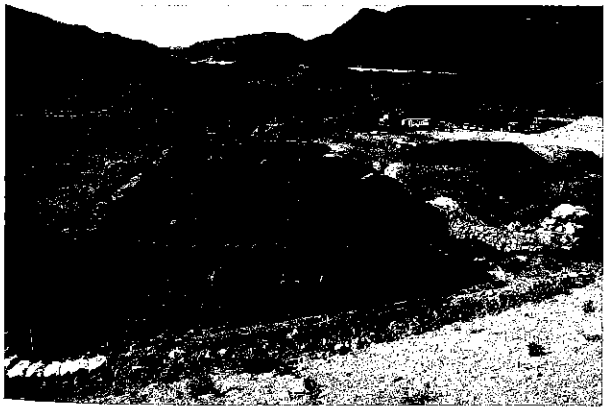
6月6日（Ⅲｂ上層掘削）

4月26日（表土剥ぎ後）

6月19日（Ⅲｂ下層上面遺構実測）

5月25日（Ⅲａ層上面）

6月21日（Ⅲｂ下層掘削）



6月2日（トレンチ1・2設定）

6月30日（完掘）

経　過　写　真

第Ⅳ章　基本土層と遺構

第１節　基本土層

今回の調査における基本土層は以下のようになる。

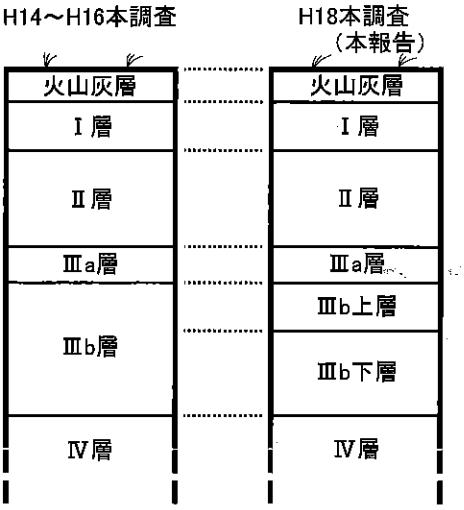
０　層	明褐灰色火山灰。雲仙普賢岳平成噴火時の噴煙及び火砕流による火山灰層。
Ⅰ　層	暗褐色土。雲仙普賢岳平成噴火以前までの耕作土。
Ⅱ　層	暗褐色土。５㎜以下の小礫を多量に含む。
Ⅲａ層	黒色土。礫をほとんど含まず，きめが細かく，しまりが弱い。
Ⅲｂ上層	暗褐色土。縄文時代後・晩期及び弥生時代早・前期を主体とする遺物包含層。
Ⅲｂ下層	褐色土。縄文時代後・晩期を主体とする遺物包含層。
Ⅳ　層	浅黄橙色土。

平成14年度から平成16年度にかけて実施したＡ～Ｄ区の基本土層と基本的に一致するが，今回のＥ区の調査ではこれまで縄文時代後期から弥生時代前期にかけての包含層として捉えていたⅢｂ層について，上下２面に色調の上で分離することが可能であり，Ⅲｂ上層が縄文時代後・晩期及び弥生時代早・前期の遺物を主体的に包含し，Ⅲｂ下層が縄文時代後・晩期の遺物を主体的に包含することが明らかとなった。Ⅲｂ上層とⅢｂ下層の両者を比較したとき，Ⅲｂ下層のほうがⅢｂ上層に比べ色調が明るく，しまりがやや強いことが指摘できる。過去の権現脇遺跡の調査において，特に刻目突帯文土器の大部分が出土したＢ区においては，いわゆるタガ状口縁を持つ深鉢をはじめとした黒川（礫石原）式期より古い時期に位置づけられる土器群が，突帯文期の土器群に比べ下位で検出される傾向にあることが判明していたが，今回の調査ではその点にも注意を払いながら調査区全体を掘削する前にⅢａ層上面まで掘削した後に南北方向，東西方向の２本のトレンチを設定して遺構・遺物の出土状況を確認した。

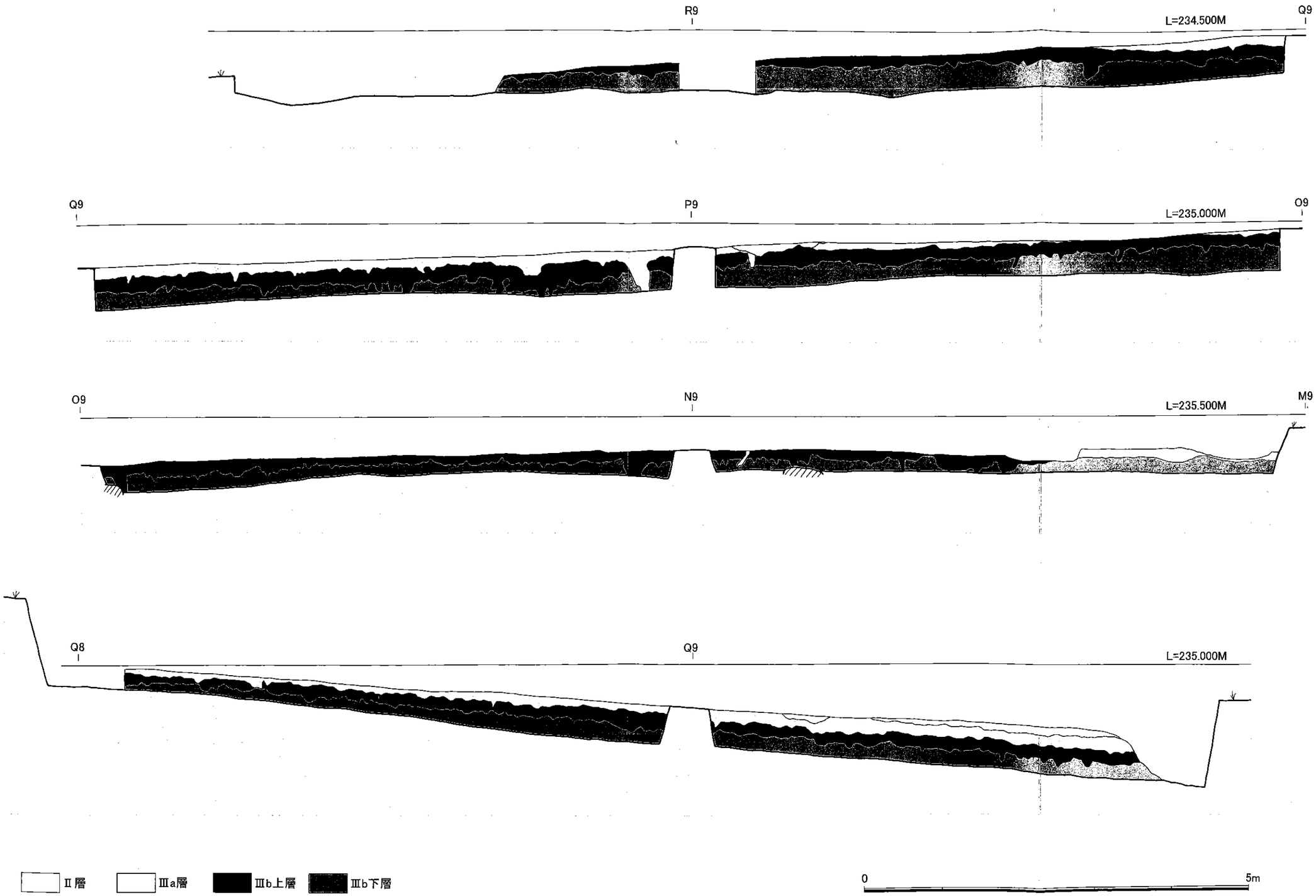
権現脇遺跡は雲仙普賢岳の東側に形成された扇状地頂部付近に位置し，本遺跡と眉山の間には水無川（赤松谷川）が走る。現況で調査区周辺は有明海へ向かって西から東へと緩やかに下る。

重機による表土剥ぎでⅡ層までを除去し，それより下位について人力による掘削を行ったが，Ｏ列以北についてはⅢａ層もしくはⅢｂ上層まで削平を受けている状況で，調査区北端のＭ列ではⅢｂ下層上面くらいまで削平が及んでいた。

概ねⅢａ層が厚さ10cmほど，Ⅲｂ上層が厚さ20cmほどで平均的な堆積状況を見せるが，Ⅲｂ下層については調査区の南側でやや堆積が厚くなり，20cm以下程度の礫を多量に含む状況が確認された。雨水の流路となるようなごく浅い谷地形であったところへⅢｂ下層が堆積したものと考えられる。



第９図　層位対応概略図



第10図　土層実測図（S＝1/50）

第2節　遺　　構

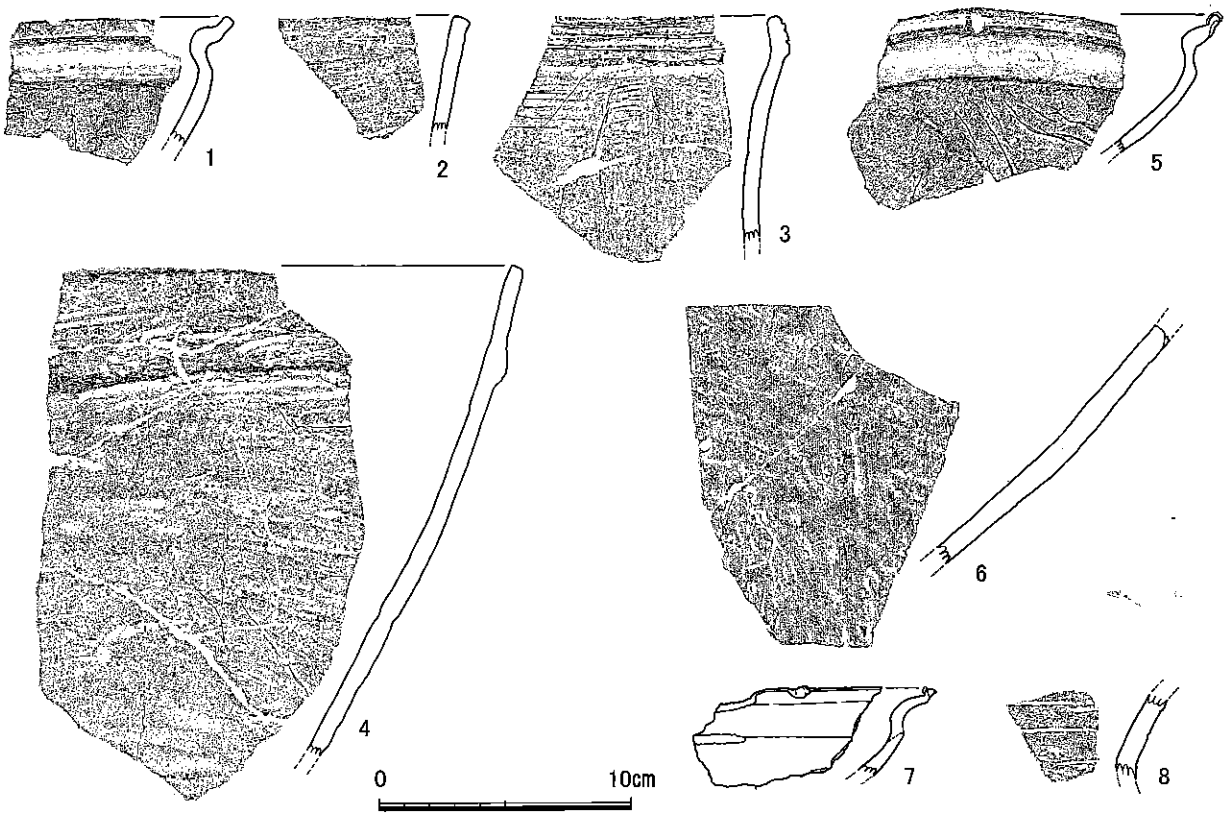
今回の調査において検出した遺構は，Ⅲｂ下層上面においてピット群と土坑２基，Ⅳ層上面において埋甕２基がある。

(1)　ピット群

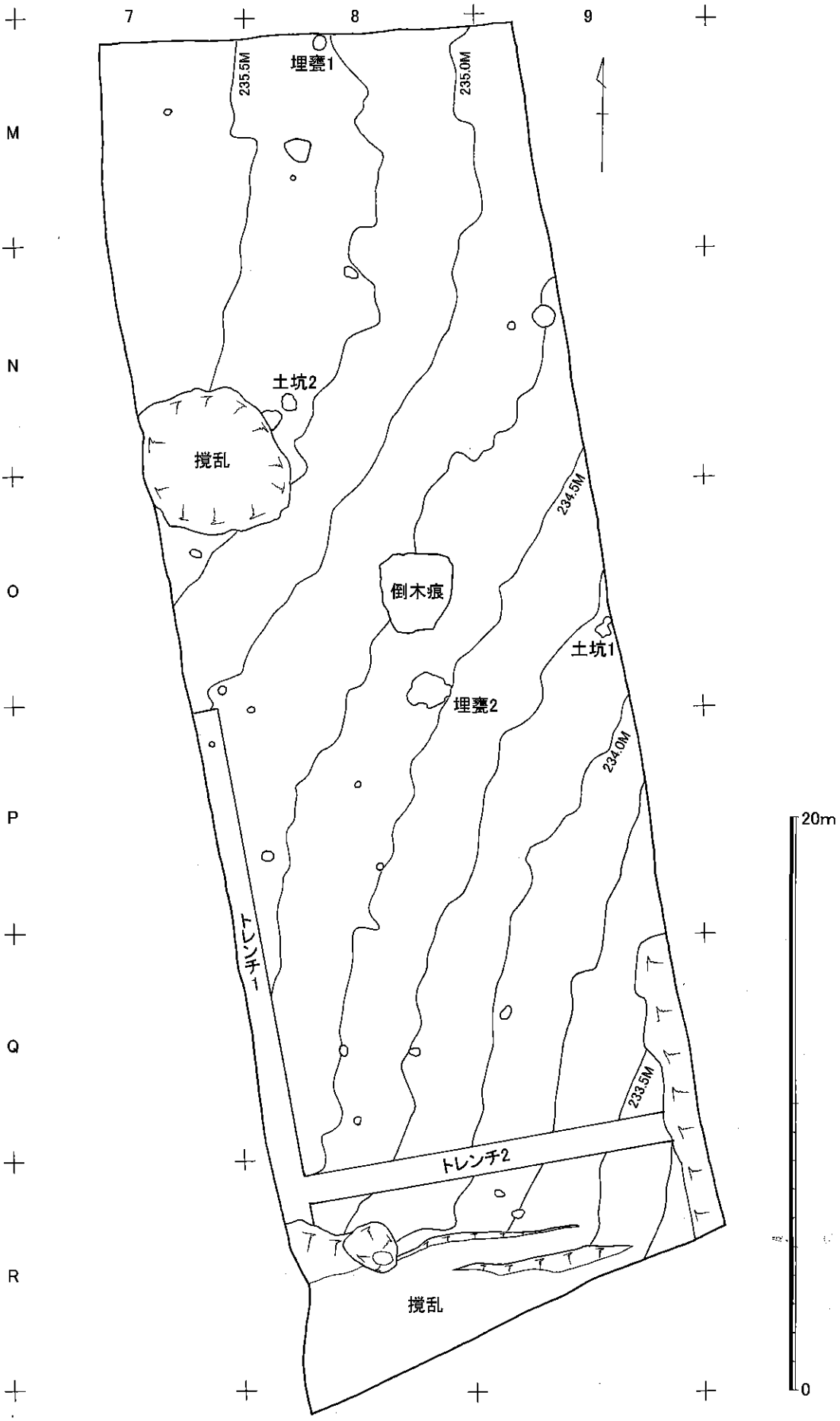
Ⅲｂ下層上面まで完掘した後に遺構検出作業を行い，遺構の可能性のあるものとして確認した数は200を超える。いずれもⅢｂ下層の褐色土に切り込むようにしてⅢｂ上層と同様の黒褐色土のプランが確認できた。これらについて半裁し，断面の状況と壁面及び底面の形状等に注意を払いながら掘削した。

人為的に造営したピットの可能性が高いと判断したものはわずか20余りである。それらが有機的に一定の配置を見せることは無く，大きさや深さなどサイズについても特に整っていない。遺物の出土状況に比べると遺構密度としては希薄であるといわざるを得ない。

ピット以外のものについては，その多くが植物の根による影響と考えられる。直径２～３ｍ程度の範囲にやや深めのピット状のものが集まり，黒色土が入り込んでいるものについては，掘り進めるにしたがって細くなり，枝分かれするものも認められることから，立木の根痕であると判断された。また，数的に最も多かったのが，平面不整形で浅いくぼみ状のものであるが，その多くが黒色土部分を掘り進めるとスギナの根が残っており，スギナが土壌への何らかの影響を与え色調を黒色化させたことがうかがわれた。過去の調査においても特にクズの根の地下への影響が土壌への色調変化をもたらし，一見してピット状の形状を示す可能性があることを指摘しており，類似した現象であることが考えられる。



第11図　ピット内ほか出土の遺物（Ｓ＝１/３）



第12図　遺構配置図（S＝1/200）

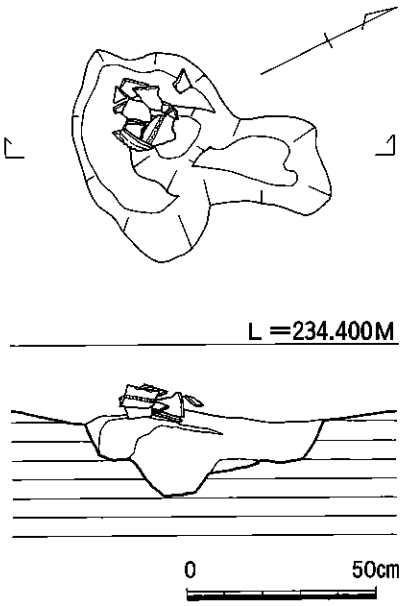
第11図はⅢｂ下層上面で検出したピット，根穴，倒木痕内から出土した遺物である。**1**はピット内出土の浅鉢である。外反する短い頸部に口縁部が付くが，口縁部文様帯外面には沈線を施さない。**2**～**6**は根穴から出土した資料である。**2**は深鉢口縁部で外傾する。**3**は口縁部文様帯を有する深鉢である。幅の比較的狭い内傾する口縁部文様帯に３条の沈線を施す。**4**は口唇部から4.0cm下がったところを肥厚させる深鉢である。**5**は形態的には**1**に類似する浅鉢であるが，口縁部文様帯には沈線を引き，凹点を施す。**6**は厚手の浅鉢胴部の資料である。**7**・**8**は倒木痕出土の資料である。**7**は外反して開く頸部に玉縁状の口縁部を持つ浅鉢である。**8**は大きく開く口縁部を持つ深鉢の資料で，間隔の広い３条の沈線を施す。

(2) 土　　坑

土坑１

遺構

土坑１はⅢｂ下層上面においてＯ９－ｄグリッドから検出した。平面形は不整形で，長軸部分で0.7ｍを測る。断面は二段掘り状の形状をなし，最深部で0.25ｍを測るが，検出確認がやや遅れたため実際はさらにもう少し深かったものと思われる。土坑内より刻目突帯文土器の出土があった。



第13図　土坑１実測図（Ｓ＝１/20）

出土遺物

第14図は土坑１内出土の刻目突帯文土器である。復元口径29.4cm，復元胴部最大径30.6cmを測る。突帯は胴部にのみ指によって大振りに施し，ほぼ直立する口縁部には突帯を施さない。外面には胴部突帯より下位に斜方向の貝殻条痕調整を施すが，上位についてはなで消す。内面はナデ調整であるが，屈曲部付近にのみ横方向の貝殻条痕調整が残る。

第14図　土坑１内出土の遺物（Ｓ＝１/３）

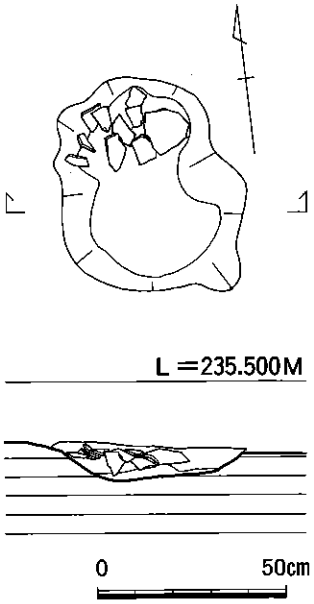
土坑２

遺構

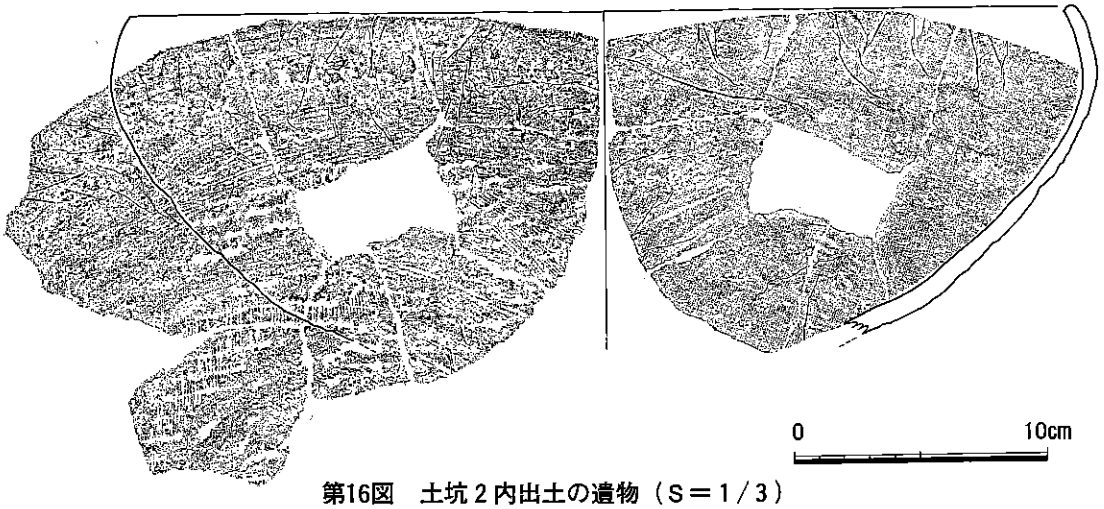
土坑２はⅢｂ下層上面においてＮ８－ｃグリッドから検出した。長軸0.55ｍ，短軸0.5ｍの不整形を呈し，深さは0.2ｍと浅い。全体の１/３ほどが残存する組織痕土器が土圧によりつぶれたような状態で出土した。

出土遺物

第16図は土坑２内出土の組織痕土器である。復元口径37.4㎝，器高12.8㎝を測る。器壁は0.8㎝とやや厚く，底部付近にはアンギンの圧痕が残る。口縁部付近の外面調整は貝殻条痕・ナデ，内面調整は研磨である。外面には厚く付着した炭化物が認められる。



第15図　土坑２実測図（Ｓ＝１/20）



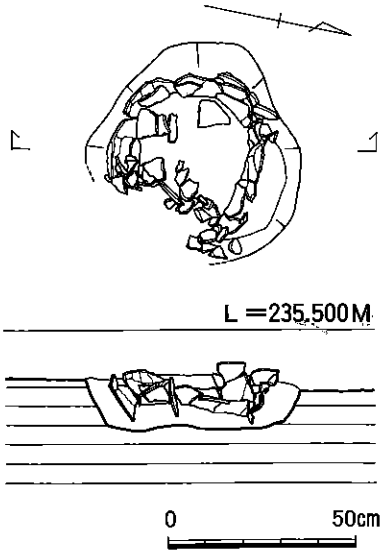
第16図　土坑２内出土の遺物（Ｓ＝１/３）

(3) 埋　甕

埋甕１

遺構

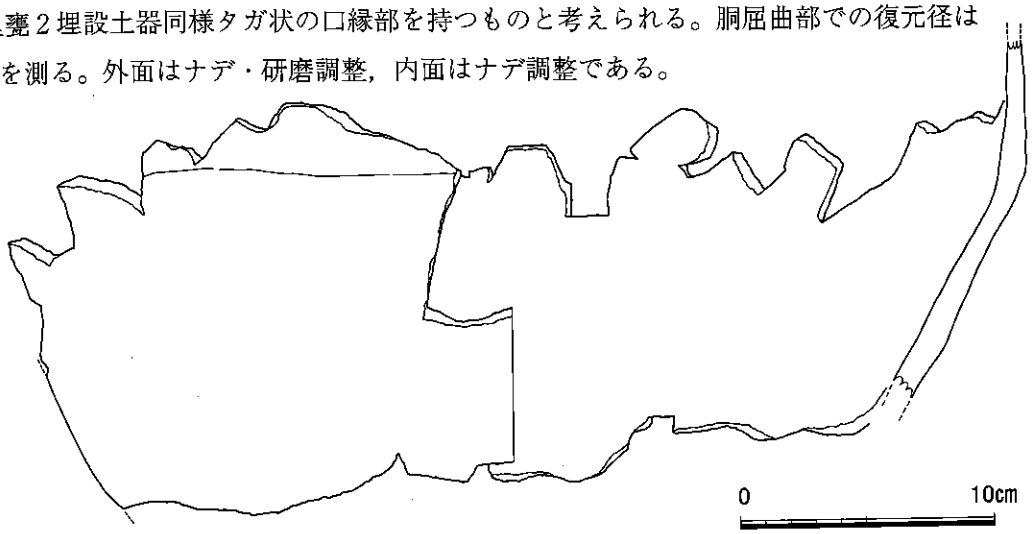
平面円形の墓坑は直径0.65ｍを測り，底部を打ち欠いた土器を直立させて納める。土器は埋設後に木根が東側から圧力をかけたことにより，大きく破損している。またその後，上部は削平を受けており，小礫の混じる黒色土が覆いかぶさる状況であった。打製石斧が１点埋甕上部から出土したが，この黒色土中であり，削平時に混入したもので，埋甕に伴うものではないと判断した。その他副葬品等は見られなかった。



第17図　埋甕１実測図（Ｓ＝１/20）

出土遺物

第18図は埋甕１で埋設された土器である。深鉢形土器の胴部であり，底部，口縁部を欠損する。本来は埋甕２埋設土器同様タガ状の口縁部を持つものと考えられる。胴屈曲部での復元径は42.3cmを測る。外面はナデ・研磨調整，内面はナデ調整である。

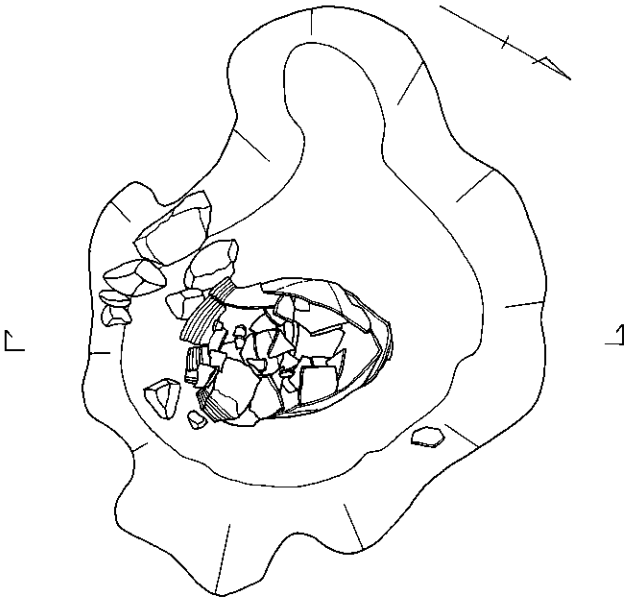


第18図　埋甕１出土の遺物（S＝１/３）

埋甕２

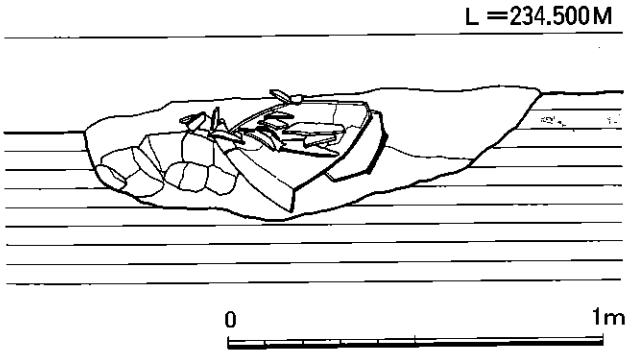
遺構

墓坑は不整形で，長軸は1.6m，短軸は1.3m，深さは0.35mを測る。深鉢形をなす土器は横位の状態で検出され口縁部は下方向を向くが，本来は直立か斜位で置かれていたものが土圧等により横転した可能性が高い。別個体の土器片は確認されず，単棺と考えられる。土器の南側にはコブシ大～20cm程度の礫が複数確認され，土器の固定のために配置されたものかもしれない。

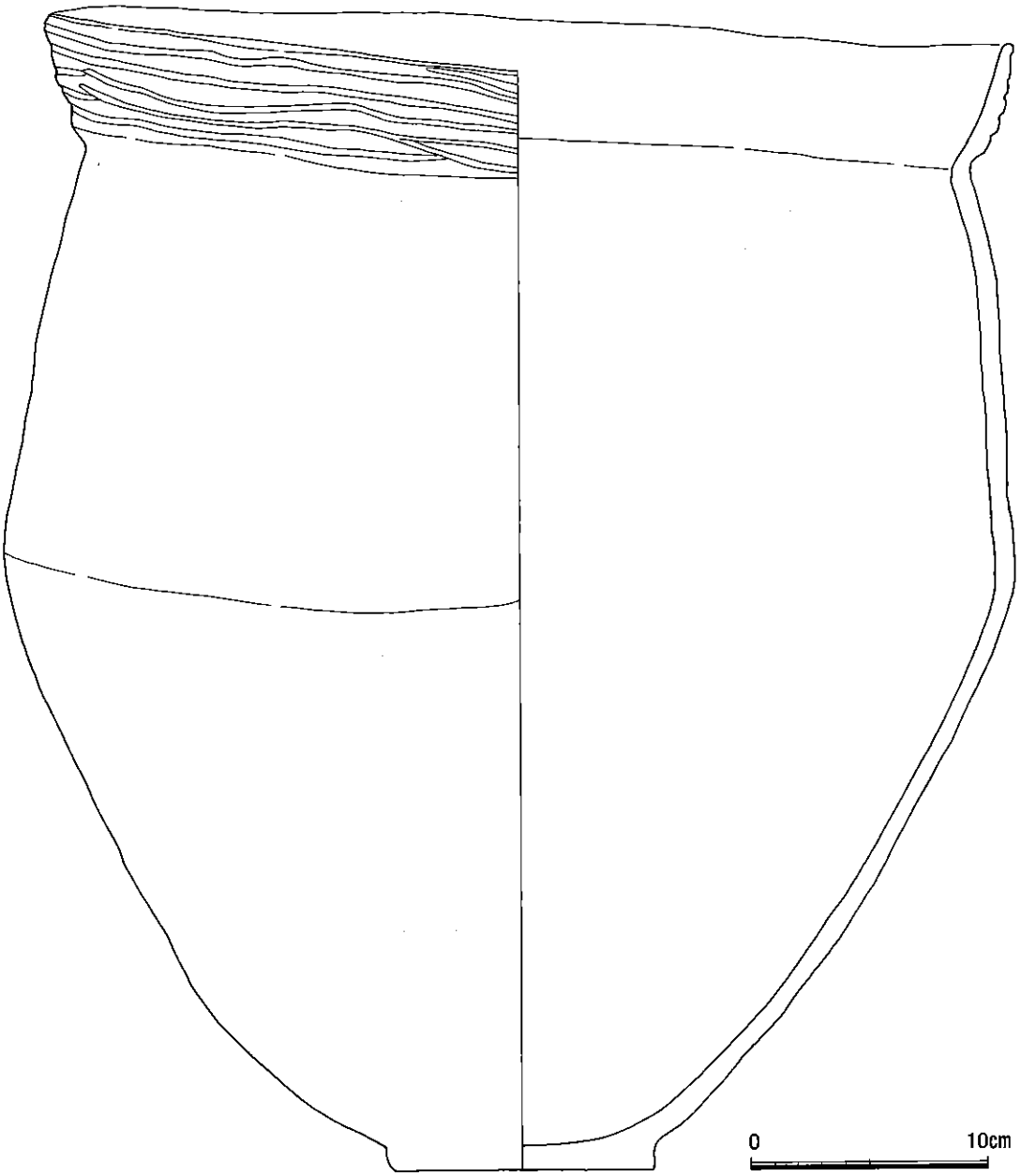


出土遺物

第20図は埋甕２で埋設された深鉢形土器である。口径40.6cm，胴部最大径42.5cm，底径11.0cm，器高47.2cmを測る。胴屈曲部は緩く不明瞭で，口縁部は外傾する。口縁部外面には５条の荒い平行沈線を施す。外面調整はナデ・研磨，内面調整はナデ，研磨である。



第19図　埋甕２実測図（S＝１/20）



第20図　埋甕２出土の遺物（S＝1／3）

〔参考文献〕

九州縄文研究会　2002『第12回九州縄文研究会長崎県島原大会　九州の縄文墓制　発表要旨・資料集』

第5表　ピット内他出土遺物観察表

図	番号	器種	検出面	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
11	1	浅鉢形土器	Ⅲb下層上面	N9−a	研磨	研磨	橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	2	深鉢形土器	Ⅲb下層上面	M8−b	擦過	擦過・ナデ	黒褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	3	深鉢形土器	Ⅲb下層上面	O8-a	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	4	深鉢形土器	Ⅲb下層上面	O7-b	擦過・ナデ	ナデ	暗褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	5	浅鉢形土器	Ⅲb下層上面	N9−c	研磨	研磨	黒褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	凹点
	6	浅鉢形土器	Ⅲb下層上面	P8-a	ナデ	擦過・ナデ，擦過	にぶい黄褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	7	浅鉢形土器	Ⅲb下層上面	O8-d	研磨	研磨	灰褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	凹点
	8	深鉢形土器	Ⅲb下層上面	O8-d	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	

第6表　土坑内出土遺物観察表

図	遺構	器種	検出面	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
14	土坑1	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb下層上面	O9-d	ナデ，貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	黒褐色	褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み・炭化物付着
16	土坑2	浅鉢形土器	Ⅲb下層上面	N8-c	ナデ，貝殻条痕・ナデ，組織痕(アンギン)	研磨	にぶい褐色	黒色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着

第7表　埋甕出土遺物観察表

図	遺構	器種	検出面	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
18	埋甕1	深鉢形土器	Ⅳ層上面	M8−a	ナデ・研磨	ナデ	赤褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
20	埋甕2	深鉢形土器	Ⅳ層上面	O8-d	ナデ・研磨	ナデ，研磨	にぶい赤褐色，明赤褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	

第Ⅴ章　包含層出土の遺物

第１節　遺物の出土状況

今回の調査における遺物の総出土数は，9,913点である。内訳は土器・陶磁器・土製品が7,824点，石器・石製品が2,051点，金属器・鉄滓が38点である。

まず土器・陶磁器・土製品についてみていく。時期別に分別すると縄文時代後期～弥生時代前期が7,137点（91.2％），弥生時代中期～古墳時代が368点（4.7％），中・近世が310点（4.0％）となる。表土剥ぎの段階でⅡ層途中まで重機により掘削しているためⅡ層における本来の包含数は若干の上乗せが必要であろうが，出土遺物の大部分は縄文時代後期～弥生時代前期の遺物が占める。中・近世の遺物については国産陶磁器のみならず，龍泉窯青磁や景徳鎮窯白磁といった輸入陶磁器も含んでおり，出土層位は大部分がⅡ層である。弥生時代中期～古墳時代の遺物はⅢａ層から最も多く出土する。遺物は小片のものがほとんどであるが，内外面に刷毛目調整を施す，内面が灰色を呈する，薄手の器壁で大粒の砂粒の混入が少ない，洗浄すれば溶け出すような軟質な器壁であるといった諸特徴を時期判別の基礎として当該期に充てている。縄文時代後期～弥生時代前期の遺物については，Ⅲｂ上層の出土が最も多く，ついでⅡ層，Ⅲｂ下層，Ⅲａ層の順になる。ただし，Ⅱ層・Ⅲａ層については，中・近世および弥生時代中期～古墳時代の遺物の出土状況からもわかるように後世の撹乱によるもので，本来の包含層はⅢｂ上・下層と見るべきであろう。特にⅡ層出土の縄文時代後期～弥生時代前期の土器は小片のものやローリングを受けたものが非常に多く，後世の開墾や耕作地造成で嵩上げする際に削平した調査区近辺のⅢｂ上・下層に含まれていたものと判断される。その他の土製品に土製の紡錘車と土錘があるが，形態や胎土から紡錘車は縄文時代後期～弥生時代前期に，土錘は中・近世の所産と考えられる。

次に石器・石製品であるが，土器の出土状況からその大部分が縄文時代後期～弥生時代前期に属するものと判断される。層位別の出土数は多い順にⅢｂ上層，Ⅱ層，Ⅲａ層，Ⅲｂ下層である。石材別に見ると黒曜石が1,604点（78.2％），サヌカイトが278点（13.6％），砂岩が90点（4.4％），安山岩が57点（2.9％）であり，この４種を合わせると3,911点で全体の98.9％を占める。石材の多くが他地域から搬入によるものと考えられるが，安山岩の一部は在地産であると考えられる。最も多く利用されているのは黒曜石であり，黒色・漆黒色のものがほとんどであるが，ごく少数暗灰色のものが見られる。黒曜石を素材とした石核・剥片・剥片石器はいずれも自然面を有したものが多く，ごく小さい原石を搬入し，石器製作も含めて遺跡内で消費していたものと考えられる。サヌカイトは剥片・スクレイパーの数が多く，また石鏃や石錐を除けば黒曜石に比して大型のものが多い。砂岩は磨石や台石といった礫石器として多用されている。安山岩は板状に剥離することから打製石斧の素材として多用されているが，一部砂岩素材の石器類も補完している様である。

金属器としては，鉛製の銃弾が１例あるが，残りは鉄製品で角釘が目に付く。また他に，鉄滓の出土がある。過去の調査においても数は少ないが鉄滓の出土があり，土層中に鉄分の沈着が見られる場合もあり，まだ明らかになっていない赤松谷川（水無川）流域での製鉄遺跡の存在がうかがわれる。

第8表　土器・土製品・陶磁器集計

時期	種類		層位					計
			Ⅱ層	Ⅲa層	Ⅲb上層	Ⅲb下層	その他	
縄文時代後期～弥生時代前期	土器	深鉢(註)	910	525	2501	827	458	5221
		浅鉢	314	222	715	157	103	1511
		壷	58	93	213	21	19	404
		高坏			1			1
弥生時代中期～古墳時代	土器	弥生土器・土師器	96	209	36	17	6	364
		須恵器	2	2				4
中・近世	土器	土師器	7				9	16
		瓦質土器	4					4
	陶磁器		276		1		13	290
その他	土製品	紡錘車	1		1			2
		土錘	6	1				7
計			1674	1052	3468	1022	608	7824

第9表　石器・石製品集計

石材	器種	Ⅱ層	Ⅲa層	Ⅲb上層	Ⅲb下層	その他	小計	計
黒曜石	石核	28	11	29	5	2	75	1,604
	剥片	457	121	454	123	68	1,223	
	細片	32	21	61	19	8	141	
	石鏃	14		6		1	21	
	石鏃未成品		3	4	2	1	10	
	二次加工剥片	※剥片に合算	8	41	24	※剥片に合算	73	
	使用痕剥片		20	31	10		61	
サヌカイト	石核	1				1	2	278
	剥片	70	26	97	17	10	220	
	スクレイパー	23	4	11	5	1	44	
	石鏃	1	3	5			9	
	石錐	1			1		2	
	箆状石器			1			1	
砂岩	磨石	8	5	9	3	1	26	90
	叩き石	1		19			20	
	台石	3	2	11			16	
	不明	4	6		1	1	12	
	砥石	5	3	1	1	1	11	
	磨製石斧			1		1	2	
	石皿			2		1	3	
安山岩	打製石斧	11	2	11	5	1	30	57
	打製石斧剥片	3		7	3		13	
	磨製石斧	1		1	2	1	5	
	磨石	1	1	1	1		4	
	台石			2			2	
	スクレイパー			1			1	
	砥石				1		1	
	敲石			1			1	
結晶片岩	磨製石斧未成品	1					1	7
	不明	2		4			6	
頁岩	磨製石斧	1			1	2	4	7
	磨石	2					2	
	敲石			1			1	
蛇紋岩	磨製石斧			2			2	4
	磨石		1			1	2	
チャート	剥片	1					1	1
鉄石英	原石	1					1	1
不明	管玉					1	1	2
	磨石	1					1	
計		673	237	814	224	103	2,051	2,051

第10表　金属器集計

種類		Ⅱ層	Ⅲa層	Ⅲb上層	Ⅲb下層	その他	計
金属器	鉄製品	31				4	35
	鉛製品	1					1
	鉄滓	2					2
計		34	0	0	0	4	38

（註）刻目突帯文土器は甕形土器として扱うのが通例であるが，突帯を持たない胴部片では突帯文期以前のものと区別できないものも多いため，ここでは深鉢形土器として扱う。

第２節　Ⅲｂ下層出土の遺物

(1)　土器

第21図は刻目突帯文土器を含む深鉢形土器の資料である。

１～16はいわゆるタガ状口縁と呼ばれる口縁部を持つ深鉢の資料である。１～14は口縁部の資料で，１～13のように沈線を施すものと，14・15のように沈線を施さないものとがある。１は強く外反する頸部に直立して口縁部文様帯がつき，１条の沈線を施す。６は断面先細りとなる口縁部を持つ。８は直線的に立ち上がる頸部にやや内傾して口縁部文様帯がつく。９は薄手の作りでやや内湾気味である。11は頸部先端を外側に張り出させ，口縁部をつける。内面には稜を作る。12は頸部を外側へ外反させ，口縁部をつける。16は胴・頸部の屈曲部の資料で内外面ともにナデ調整を施す。屈曲部直上には沈線や段を作らない。

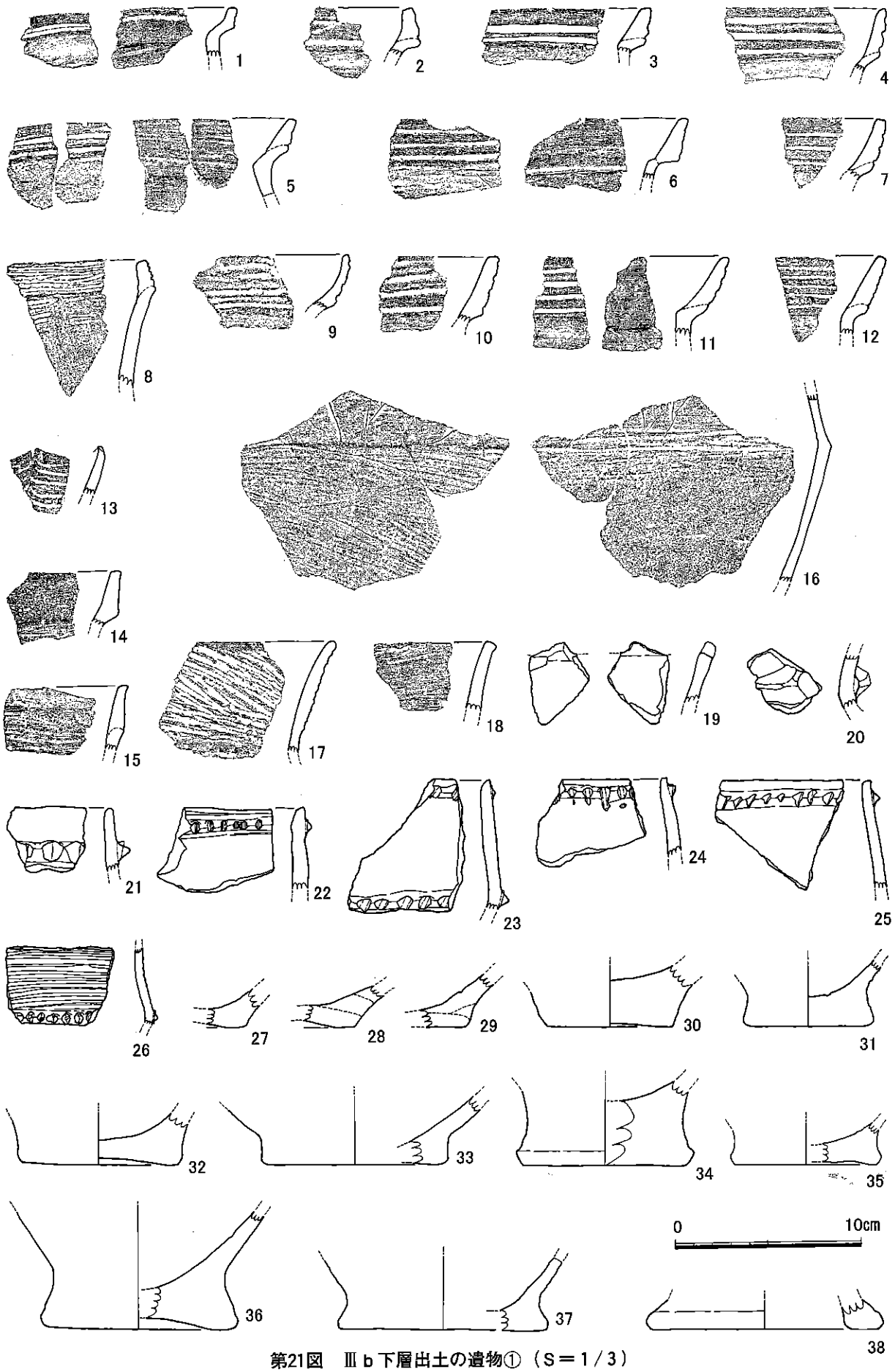
13～20は肩部やゆるく膨らむ胴部から大きく開いて立ち上がる口縁部を持つ深鉢の資料である。13は口唇部に凹点を施す。17はタガ状口縁の間延びした様相を見せ，外面には貝殻条痕を施し，その下端にはわずかに段を設ける。段より下位はナデ調整である。19は口縁部に突起を持つ。20は肩部直上の資料で，蝶ネクタイ状の貼り付けを行う。

21～26は刻目突帯文土器の資料である。21は口唇部から1.8cmと下がった位置に口縁部突帯を貼り付け，指による刻目を施す。23・24は棒状工具による刻目を施す。22はヘラ状工具による刻目を施す。口縁部突帯は口唇部から0.6cmの位置に貼り付ける。23は口縁部突帯を口唇部から0.3cmの位置に貼り付ける。口縁部は胴屈曲部からやや内傾し，口縁部突帯は胴部突帯よりやや細い。24の口縁部突帯は口唇部から0.3cm下がって貼り付ける。25はヘラ状工具による刻目を施す。口縁部突帯は口唇部から0.6cm下がる。26は胴屈曲部の資料で，貝殻腹縁による刻目を施す。突帯より上位は横方向の貝殻条痕調整をそのまま残す。

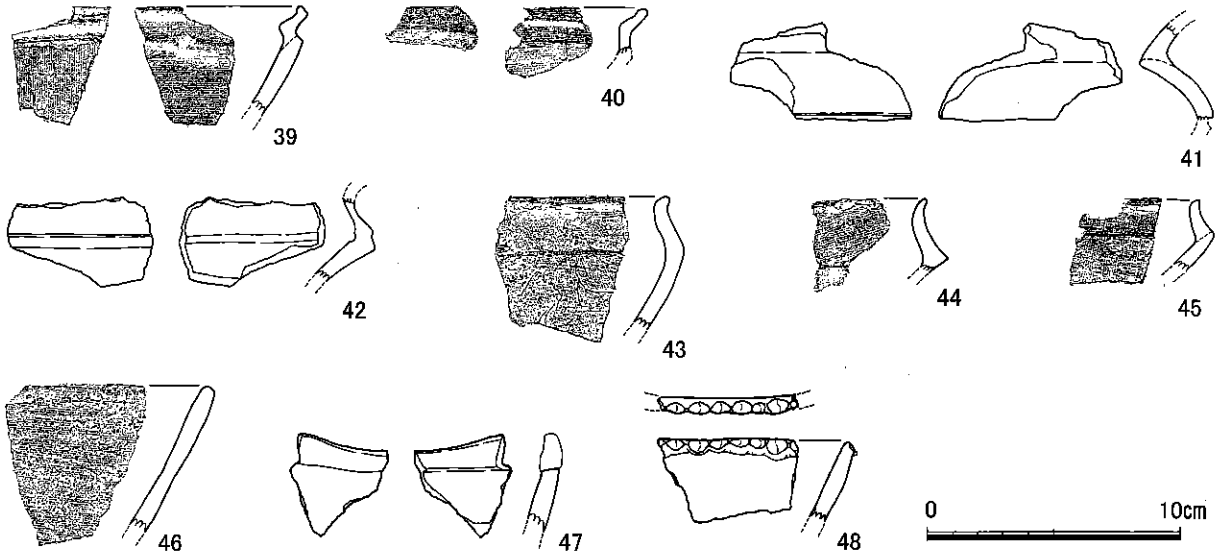
27～38は底部の資料である。27～30のように張り出しのないもの，33のように断面が一旦まっすぐに立ち上がってから胴部へと移行するもの，31・36・37のように張り出しを持つものがある。また，34はしっかりとした分厚い底部である。38は台付土器の脚部の資料である。27・28・32はわずかに上底となる。また36はしっかりとした上底となる。30・31の底径は順に6.8cm，7.0cmを測る。32・33・34・35・36・37・38の復元底径は順に8.6cm，9.5cm，8.8cm，7.6cm，10.4cm，11.0cm，12.1cmを測る。

39～48は浅鉢形土器の資料である。

39・40は口縁部内面に段を持つ。39は胴部外面に肩部を作り出して短い頸部を貼り付け，そのまま先端を口縁部とする。40は胴部からそのままゆるやかに頸部・口縁部へとつながる。41・42は大きく張り出す胴・肩部を持ち，いずれも外反する長めの頸部を持つものと思われる。胴部と肩部の境には段を設ける。43～45は断面「く」字形をなす浅鉢である。43は屈曲がゆるくやや器高がある。44の口縁部は先細りとなって強く外反する。46～48はボール状をなす浅鉢である。47は口縁部に突起を付す。48は口唇部上端に直接指による刻目を施す。



第21図　Ⅲｂ下層出土の遺物①（S＝1／3）



第22図　Ⅲｂ下層出土の遺物②（Ｓ＝１／３）

第11表　Ⅲｂ下層出土遺物観察表①

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
21	1	深鉢形土器	Ⅲb下	P8-b	研磨	研磨	赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	2	深鉢形土器	Ⅲb下	N8-d	ナデ・研磨	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	3	深鉢形土器	Ⅲb下	O9-a	研磨	研磨	にぶい赤褐色	暗赤褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	4	深鉢形土器	Ⅲb下	R9-a	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	5	深鉢形土器	Ⅲb下	O9-a	研磨	研磨，ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	6	深鉢形土器	Ⅲb下	N8-c	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	7	深鉢形土器	Ⅲb下	O8-b	研磨	ナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	8	深鉢形土器	Ⅲb下	N8-d	ナデ，貝殻条痕・研磨	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	9	深鉢形土器	Ⅲb下	P9-d	ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	10	深鉢形土器	Ⅲb下	O9-a	研磨	研磨	明赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	11	深鉢形土器	Ⅲb下	P8-b	研磨	研磨，ナデ	にぶい赤褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	12	深鉢形土器	Ⅲb下	N8-c	ナデ	ナデ	にぶい褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	13	深鉢形土器	Ⅲb下	N8-c	ナデ	ナデ	赤褐色	橙色	良	角閃石・長石・石英	凹点・炭化物付着
	14	深鉢形土器	Ⅲb下	O9-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	15	深鉢形土器	Ⅲb下	P8-c	貝殻条痕・ナデ・研磨	貝殻条痕・ナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	16	深鉢形土器	Ⅲb下	N8-d	ナデ	ナデ	黒褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	17	深鉢形土器	Ⅲb下	Q8-a	貝殻条痕，ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	18	深鉢形土器	Ⅲb下	Q9-d	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	19	深鉢形土器	Ⅲb下	Q9-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	突起
	20	深鉢形土器	Ⅲb下	Q9-a	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	貼り付け

第12表　Ⅲb下層出土遺物観察表②

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
21	21	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb下	P8-b	ナデ	ナデ	浅黄橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	22	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb下	P7-b	刷毛目	刷毛目	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	ヘラ刻み
	23	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb下	Q8-c	擦過	ナデ	橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	棒刻み・炭化物付着
	24	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb下	Q8-c	ナデ	ナデ，擦過	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	25	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb下	O9-c	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	ヘラ刻み
	26	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb下	O8-c	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	貝殻腹縁刻み・炭化物付着

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整			色調			焼成	胎土	備考
					外面	内面	底面	外面	内面	底面			
21	27	深鉢形土器	Ⅲb下	O8-d	ナデ	ナデ	ナデ	橙色	灰褐色	橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	28	深鉢形土器	Ⅲb下	O8-d	貝殻条痕・ナデ	ナデ	擦過	橙色	にぶい褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	29	深鉢形土器	Ⅲb下	N8-d	ナデ	ナデ	ナデ	赤褐色	黒褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	30	深鉢形土器	Ⅲb下	P9-a	ナデ	ナデ	ナデ	赤褐色	明赤褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	31	深鉢形土器	Ⅲb下	P9-d	貝殻条痕，擦過	ナデ	―	明赤褐色	黒褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	
	32	深鉢形土器	Ⅲb下	Q8-c	擦過，ナデ	ナデ	擦過	にぶい赤褐色	黒褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	33	深鉢形土器	Ⅲb下	Q8-b	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	黒褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	34	深鉢形土器	Ⅲb下	Q9-a	貝殻条痕，ナデ	ナデ	研磨	橙色	灰黄褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子	
	35	深鉢形土器	Ⅲb下	R9-b	ナデ	ナデ	擦過	橙色	にぶい橙色		良	角閃石・長石・石英	
	36	深鉢形土器	Ⅲb下	Q9-b	貝殻条痕・ナデ，ナデ	ナデ	貝殻条痕	橙色	にぶい黄橙色	明褐色	良	角閃石・長石・石英	
	37	深鉢形土器	Ⅲb下	N8-b	貝殻条痕，ナデ	―	貝殻条痕・ナデ	橙色	にぶい黄橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	38	深鉢形土器	Ⅲb下	P8-a	ナデ	ナデ	ナデ	明暗褐色	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
22	39	浅鉢形土器	Ⅲb下	P7-c	研磨	研磨	灰黄褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	
	40	浅鉢形土器	Ⅲb下	M8-b	研磨	研磨	暗褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	41	浅鉢形土器	Ⅲb下	R9-a	研磨	研磨	にぶい黄橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	
	42	浅鉢形土器	Ⅲb下	P9-a	研磨	研磨	褐灰色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	43	浅鉢形土器	Ⅲb下	Q8-c	研磨	研磨	灰黄褐色	灰褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	44	浅鉢形土器	Ⅲb下	O8-b	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	45	浅鉢形土器	Ⅲb下	Q9-d	研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	
	46	浅鉢形土器	Ⅲb下	R8-b	研磨	研磨	黒褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	47	浅鉢形土器	Ⅲb下	Q9-d	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	突起
	48	浅鉢形土器	Ⅲb下	O8-d	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	口唇部刻目・指刻み

(2) **石器**

49は黒曜石を素材とする石核である。剥離面を打面として小型の剥片を作出する。裏面には自然面を残す。

50～**55**は二次加工調整を施す黒曜石の剥片である。

50は腹面右側縁に連続的な剥離を施し，左側縁には使用によるものと考えられる微細な剥離が認められる。**51**は末端部に自然面をわずかに残し，両側辺に二次加工を施す。**52**は小型の剥片で腹面右側縁に調整が認められる。**53**は背面左側縁の一部に抉入する調整を施す。**54**は自然面を打面とする剥片で，腹面末端部に調整を施す。**55**は打点付近に急角度の調整を施す。

56～**60**は使用によるものと考えられる微細な剥離を持つ剥片である。いずれも石材は黒曜石である。

56は縦長の剥片を用い，打点付近は欠損する。両側辺に微細剥離が認められる。**57**は縦長の剥片を用い，右側縁に微細剥離が認められる。**59**は背面末端部に自然面を残す剥片で，左側縁に連続的な微細剥離が認められる。**60**は腹面左側縁上半部に微細剥離が認められる。

61はサヌカイトを素材とする二次加工剥片石器で，石錐と考えられる。両面からやや抉入する調整を施し，錐部状に作り出す。錐部にはわずかに自然面が残る。

62はサヌカイト製の小型のスクレイパーである。正面には自然面を残し，縁辺から中心に向かって求心的な剥離を施す。

63～**65**は磨製石斧である。

63は板状の安山岩を素材とし，左右両側縁に調整を加えて整形する。表裏面ともに自然面を残し，刃部のみ研磨する。**64**は厚手の磨製石斧で刃部のみ残る。刃部は両面から研磨するが片刃に近い。**65**は乳棒状の両刃の磨製石斧である。石材は砂岩を用いる。基部をわずかに欠損し，残存長は11.8cmを測る。

66～**68**は打製石斧である。

66・**67**は幅広で薄手の形状をなすいわゆる扁平打製石斧である。**66**は安山岩を素材とする。基部付近は欠くが，表面には粗整形時の大きな剥離面が残り，両側縁および刃部に連続的な剥離を施す。両側縁はほぼ平行する。**67**は安山岩を素材とする。**66**同様両側縁および刃部に整形剥離を施す。基部を欠くが，基部に向かってやや撥状に細くなるようである。**68**は安山岩を素材とする。長さ・幅に対して厚さが3.0cmと厚い。

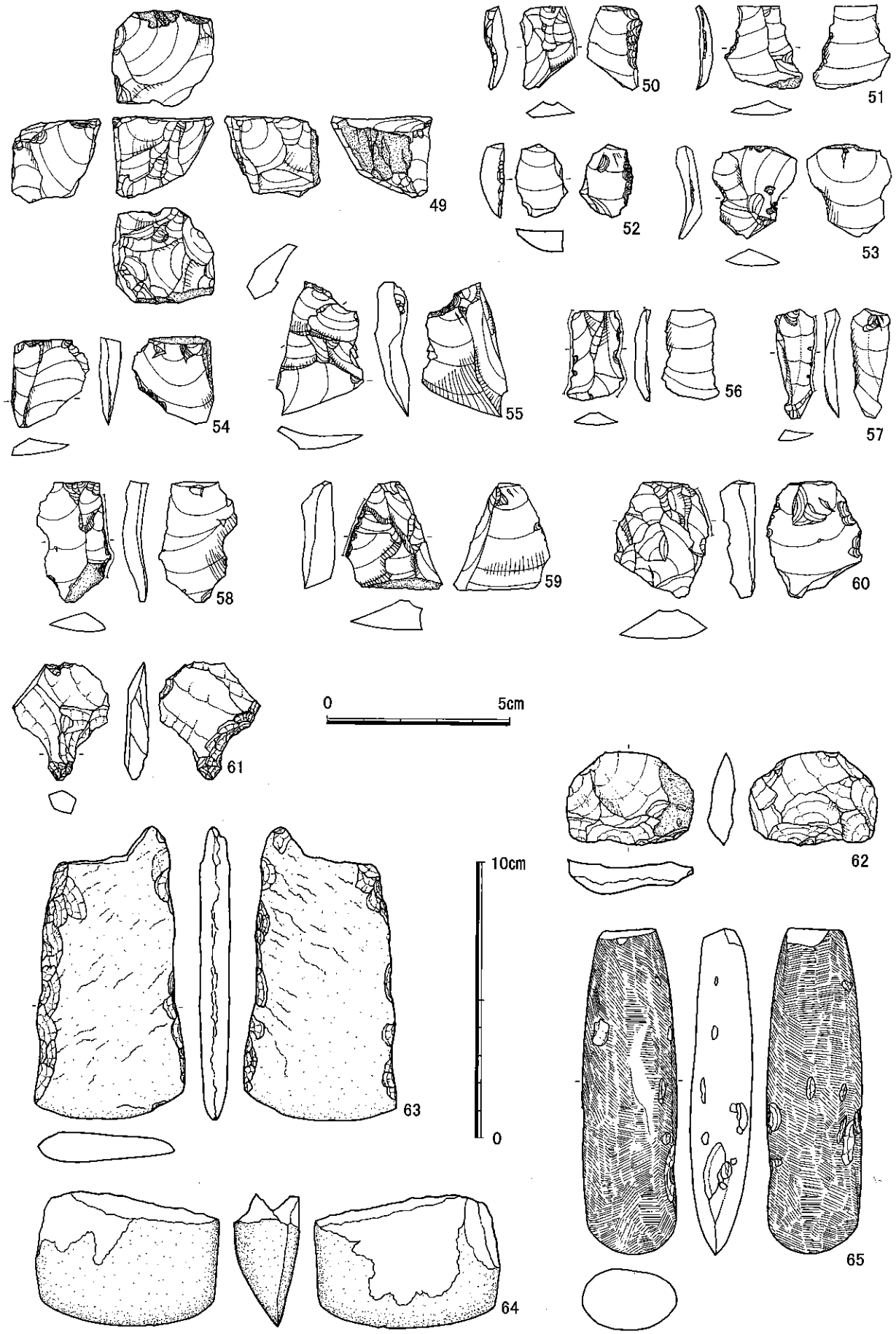
69は台石を再利用した砥石である。表面に４条の溝状をなす研磨面が認められる。

70・**71**は磨石である。

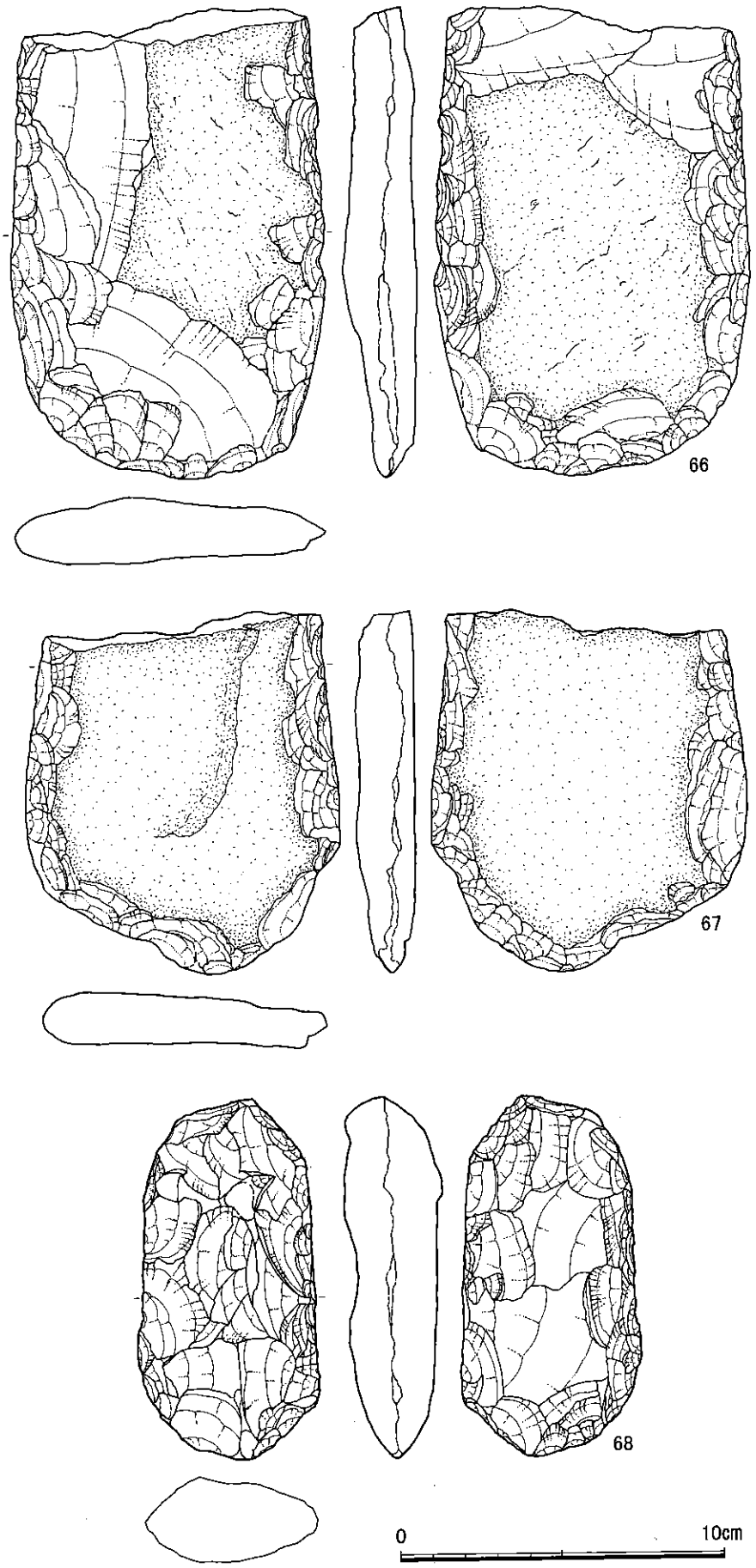
70は長軸での長さ12.6cm，厚さ6.4cmの大型品で，表裏両面に滑面を持つ。石材は安山岩である。**71**は小型の磨石で，直径約7.8cm，厚さ3.6cmを測る。石材は安山岩であり、在地産のものと思われる。

72～**76**は敲石である。

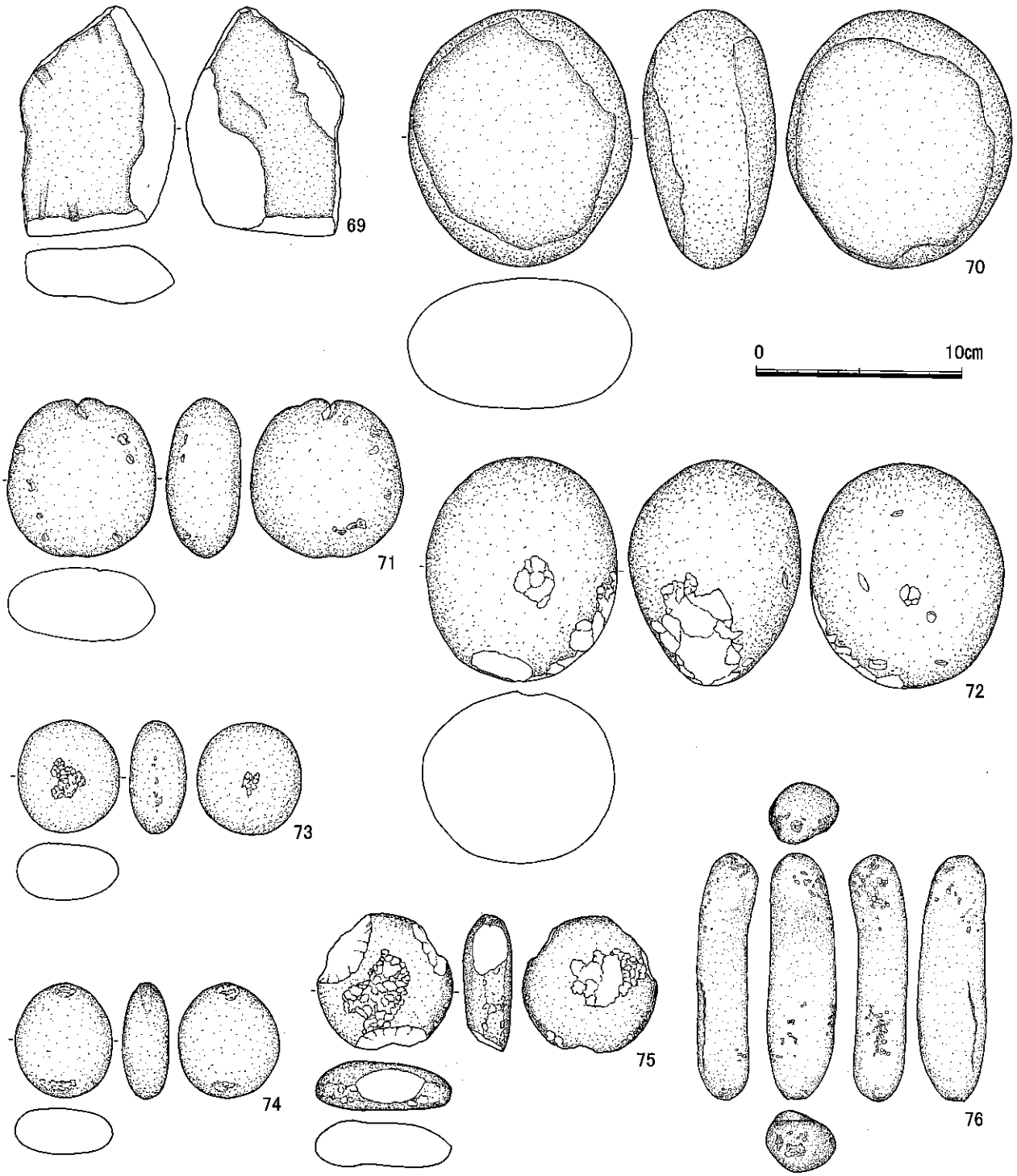
72は扁球形をなし，表裏面及び側面に潰痕が残る。**73**も表裏面に潰痕が残る。**74**は側面上下端に被敲打痕を残す。**75**は表裏両面に潰痕を残し，側辺からの大き目の剥離が３ヶ所入る。**76**は棒状の水磨礫を用いた敲石である。上下両方の末端部と側面に被敲打痕が認められる。



第23図　Ⅲｂ下層出土の遺物③（49～61：S＝2／3，62～65：S＝1／2）



第24図　Ⅲｂ下層出土の遺物④（Ｓ＝１／２）



第25図　Ⅲｂ下層出土の遺物⑤（Ｓ＝１／３）

第13表　Ⅲｂ下層出土遺物観察表③

図	番号	器種	石材	層位	グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
23	49	石核	黒曜石	Ⅲb下	Q8-b	2.2	2.6	2.6	15.6
	50	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb下	Q9-d	2.3	1.5	0.6	1.9
	51	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb下	Q9-d	2.3	2.1	0.3	1.5
	52	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb下	Q8-b	2.0	1.5	0.6	1.9
	53	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb下	O9-c	2.6	2.3	0.5	2.5
	54	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb下	O7-d	2.4	2.2	0.6	2.9
	55	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb下	Q9-d	3.7	2.4	0.8	5.6
	56	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb下	P9-c	2.5	1.6	0.4	1.1
	57	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb下	Q9-c	3.0	1.1	0.3	0.9
	58	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb下	O9-c	3.3	2.1	0.6	2.8
	59	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb下	R8-b	3.0	2.6	0.9	5.4
	60	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb下	P7-b	3.2	2.6	1.0	7.1
	61	石錐	サヌカイト	Ⅲb下	P8-b	3.2	2.8	0.6	5.0
	62	スクレイパー	サヌカイト	Ⅲb下	P9-c	3.4	4.6	1.1	19.3
	63	磨製石斧	安山岩	Ⅲb下	O8-d	10.6	5.5	1.1	98.3
	64	磨製石斧	安山岩	Ⅲb下	P9-d	4.9	6.8	2.4	90.7
	65	磨製石斧	砂岩	Ⅲb下	N8-a	11.8	3.4	2.2	141.8
24	66	打製石斧	安山岩	Ⅲb下	N9-c	14.5	9.7	2.3	476.6
	67	打製石斧	安山岩	Ⅲb下	N9-c	11.2	9.7	1.8	284.2
	68	打製石斧	安山岩	Ⅲb下	O7-d	11.1	5.6	3.0	245.5
25	69	砥石	砂岩	Ⅲb下	N8-c	11.2	7.7	2.8	304.6
	70	磨石	安山岩	Ⅲb下	O8-d	12.6	10.9	6.4	1301.2
	71	磨石	安山岩	Ⅲb下	O8-c	7.8	7.5	3.6	235.5
	72	敲石	砂岩	Ⅲb下	O9-c	11.0	9.4	8.4	1165.0
	73	敲石	砂岩	Ⅲb下	Q8-d	5.5	5.1	2.8	106.3
	74	敲石	砂岩	Ⅲb下	N8-a	5.7	4.9	2.3	93.7
	75	敲石	砂岩	Ⅲb下	N9-c	6.7	6.6	2.4	139.8
	76	敲石	砂岩	Ⅲb下	Q9-a	12.0	3.4	3.0	159.5

第３節　Ⅲb上層出土の遺物

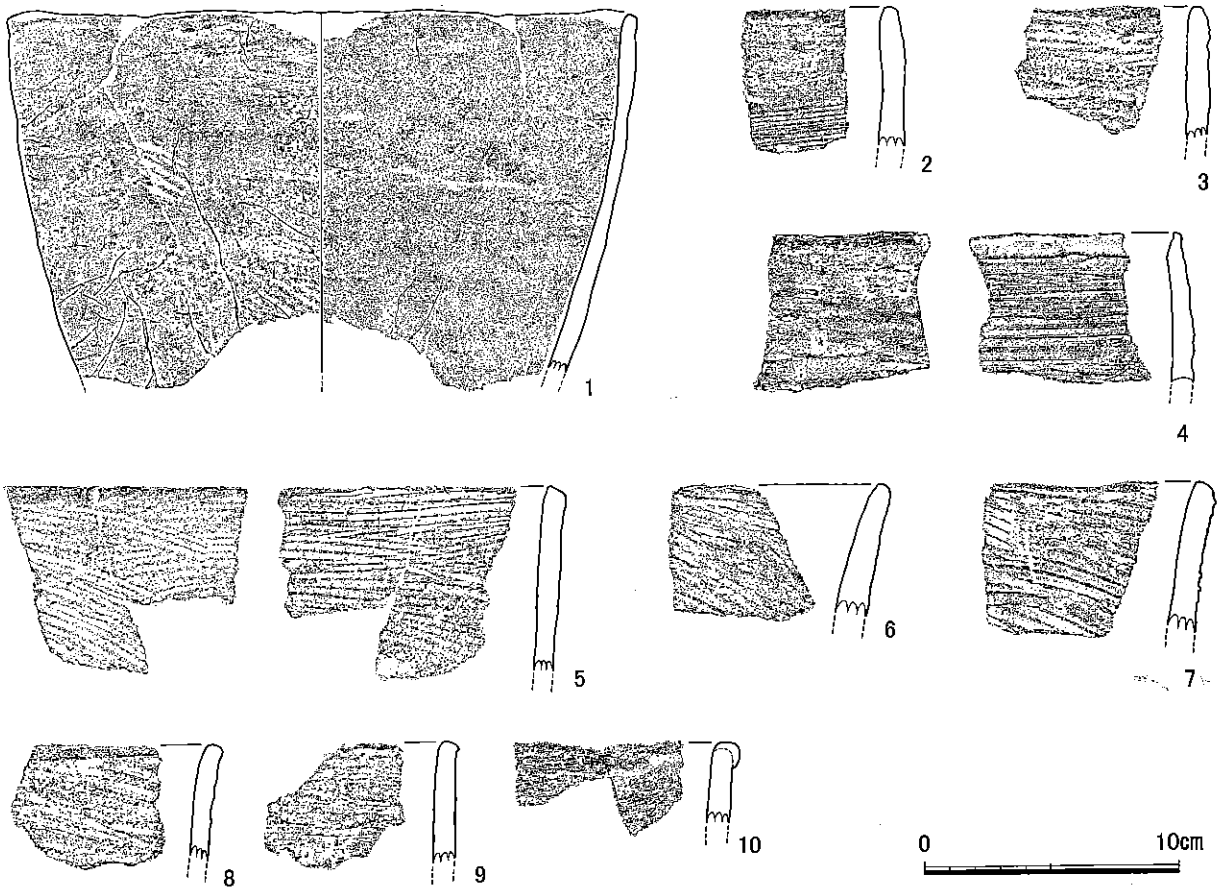
(1)　土器・土製品

１～４は砲弾形をなす深鉢の口縁部である。１は復元口径24.2cmを測り，器壁は比較的薄手である。外面には炭化物が付着する。３は外面に擦過調整・ナデ調整を施す。４は口唇部内面を横方向になでて整える。

５～10は胴部上位で一旦屈曲する深鉢の口縁部の資料である。いずれも器壁は比較的厚く，５・７は外面に貝殻条痕調整を施す。10は口唇部外面を肥厚させており，胴部突帯を持つ刻目突帯文土器の口縁部かもしれない。

11～37はタガ状口縁を持つ深鉢である。11～32のように口縁部文様帯に沈線を持つものと33～37のように沈線を施さないものとがある。11は幅の狭い内傾する口縁部文様帯に１条の沈線を施す。13の口縁部文様帯は分厚い口縁部文様帯を持つ。16は頸部を上位で強く外反させ，口縁部文様帯を直立させて付ける。29は幅の狭い口縁部文様帯で，ゆるく内湾する。30・31は幅の広い口縁部文様帯で，断面は先細りになる。32は頸部と口縁部の境で内面に稜を作る。

38～44は肩部あるいはゆるやかに張り出す胴部を持ち，口縁部は外へ開くと考えられる深鉢の資料である。38は口唇部外端に凹点を施し，外面は貝殻条痕調整を施す。39は外面が貝殻条痕調整を残すのに対し，内面は丁寧にナデ調整を施す。40は内外面ともに擦過調整を施し，その後ナデ調整を施す。



第26図　Ⅲｂ上層出土の遺物①（Ｓ＝１／３）

43は口縁部に突起を付す。44は肩部の資料である。

45～120は刻目突帯文土器の資料である。

45～79は指による刻目を施した資料である。

45～50は胴部と口縁部にそれぞれ突帯を持つものである。45は胴部突帯部分での復元径が36.8cm，復元口径が29.2cmを測る。胴屈曲部での屈曲はさほど強くなく，口縁部はわずかに内傾する。口縁部突帯は口唇部から0.6cmの位置に貼り付ける。刻目は大振りで横方向に撫で付けるように長めの刻目を施す。胴部突帯より下位は外面調整に擦過を残すが，胴部突帯より上位は丁寧になで消す。46の口縁部突帯は口唇部から0.4cm下がり，口唇部上端は平坦に整える。胴部の屈曲はほとんどない。47は口縁部がやや内傾し，口唇部断面はやや先細りとなる。口縁部突帯は口唇部からわずかに下がった0.2cmの位置に貼り付ける。48の口縁部突帯は口唇部から0.1cmの位置に貼り付ける。49の口縁部突帯は口唇部から0.2cm下がる。50は小振りの土器で器壁も薄手である。胴屈曲部から口縁部は内傾し，口縁部突帯は口唇部に接する。

51～53は胴部にのみ突帯を持つ資料である。52は胴部突帯部分での復元径が36.8cm，復元口径が34.6cmを測る。口縁部は内傾して外反しながら立ち上がる。胴部突帯には大振りの刻目を施し，口縁部外側は肥厚させて段を作る。胴部突帯から上位の外面は丁寧にナデ調整を施す。51は非常に薄手の器壁で，口縁部はやや内傾する。53の口縁部はほぼ直立し，器壁は薄手である。

54～64は口縁部，65～79は胴部突帯の資料である。54は口唇部から0.7cmの位置に口縁部突帯を貼り付ける。内面には貝殻条痕調整を残す。55はやや内傾する口縁部で，口縁部突帯は口唇部から0.6cm下がる。56は内傾する口縁部で，口縁部突帯は口唇部から0.8cm下がる。57は口唇部から0.7cm下がった位置に口縁部突帯を貼り付ける。58の口縁部突帯は口唇部から0.7cm下がる。59の口縁部突帯は口唇部から0.6cmの位置に貼り付ける。60は口唇部上端を平坦に整え，口縁部突帯は口唇部からわずかに下がった0.3cmの位置に貼り付ける。61も口縁部突帯は口唇部に近く，0.3cmの位置である。62は口縁部突帯を口唇部から0.5cmの位置に貼り付け，大振りの刻目を施す。63は強く内傾する口縁部の資料で，口縁部突帯は口唇部から0.1cmの位置で，非常に近い。刻目は間隔を置かず，連続的である。64の口縁部突帯も口唇部から0.2cmの位置で非常に近い。

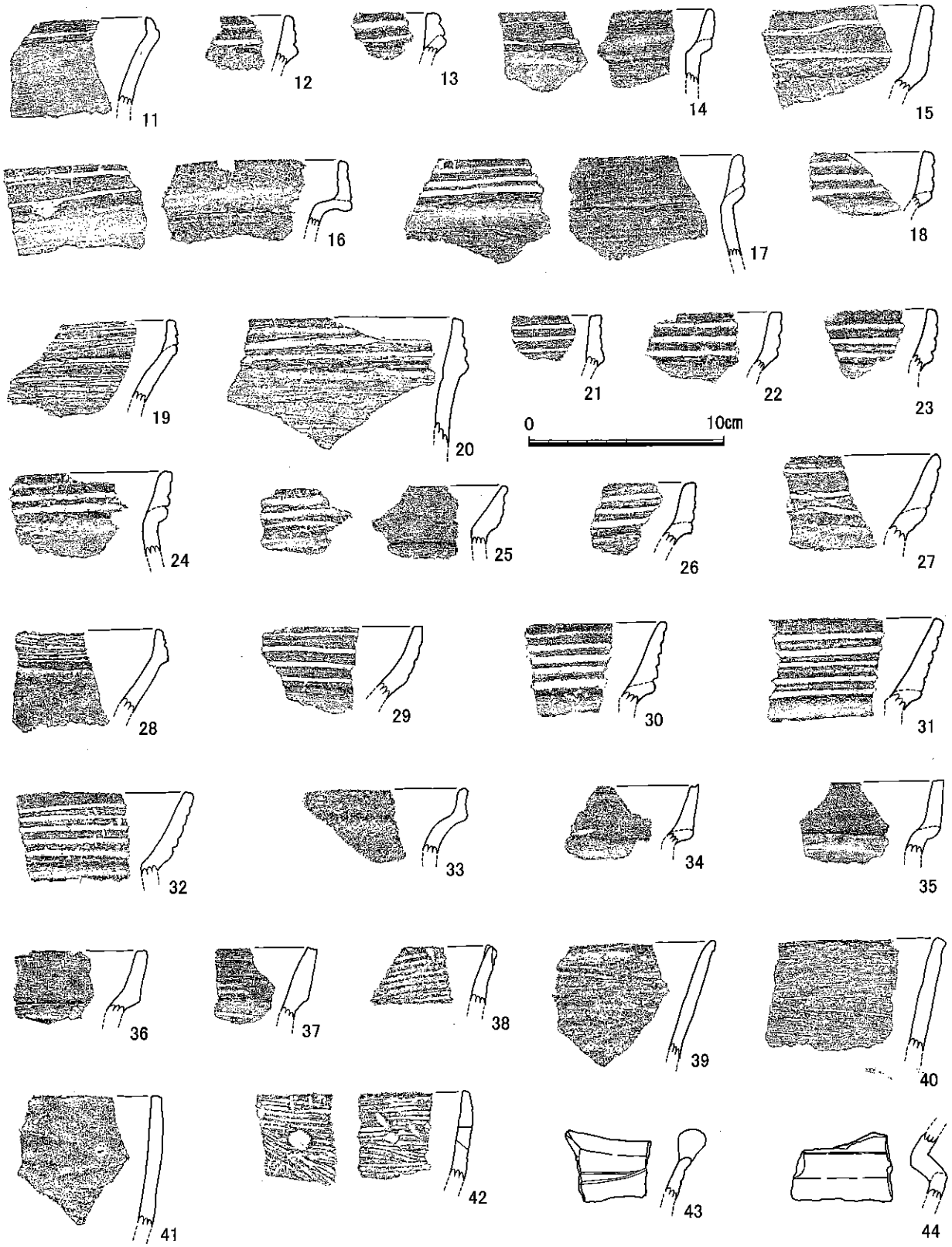
65は器面に貝殻条痕調整を残す。68・75はしっかりとした屈曲を見せる。

80～102は棒状工具の側面を押し当てて刻目を施した資料である。

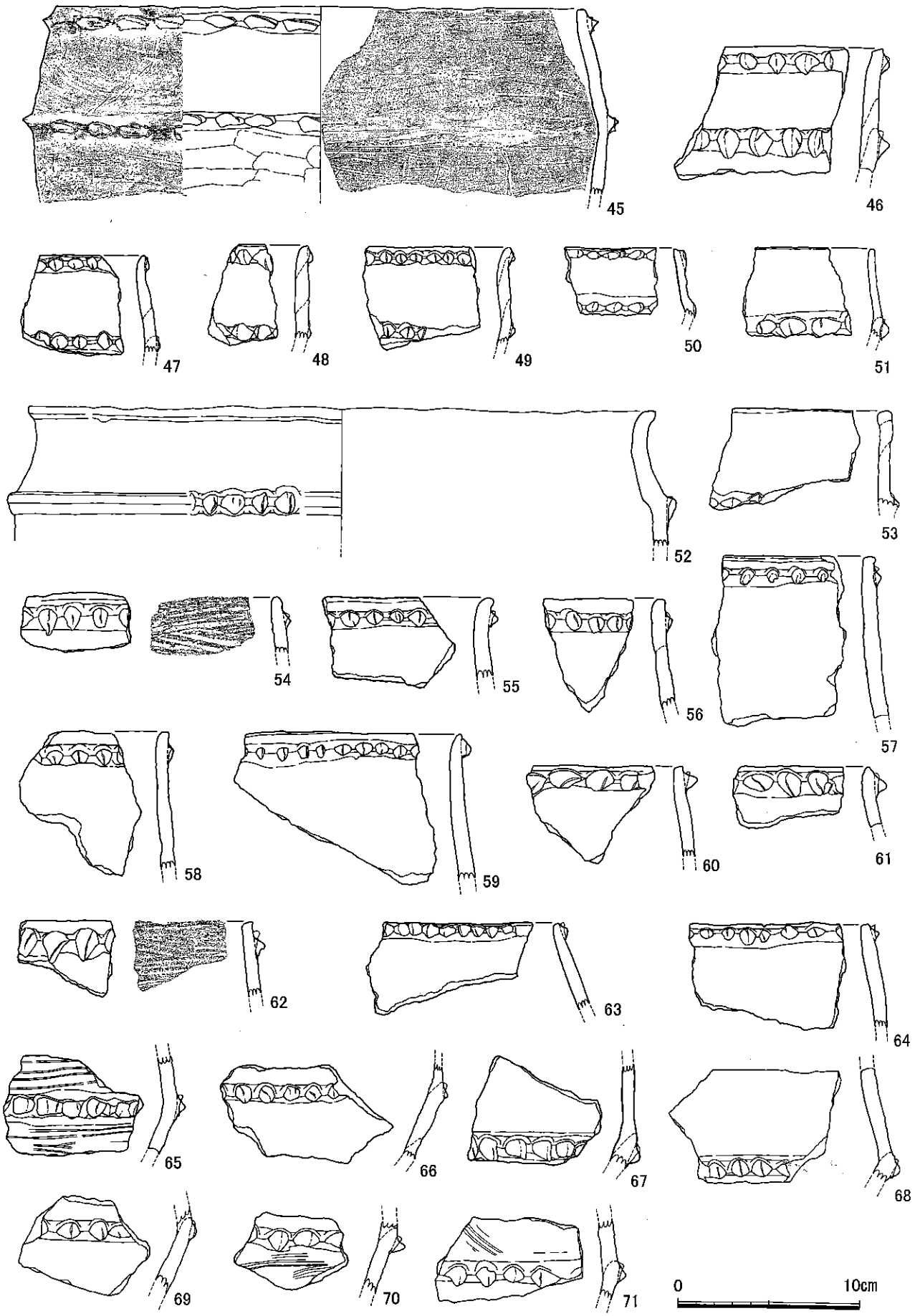
80・81は胴部と口縁部にそれぞれ突帯を持つ。80は口縁部突帯を口唇部からやや離れて1.0cmの位置に貼り付ける。胴部突帯での屈曲はほとんどない。81は胴部突帯部分で屈曲せず，突帯部分で最大径をとって口縁部は内傾する。口縁部突帯は口唇部から0.3cmの位置である。

82～94は口縁部，95～102は胴部突帯の資料である。82は口縁部突帯を口唇部から0.9cmの位置に貼り付ける。83の口縁部突帯は口唇部から0.5cm下がる。84の口縁部突帯は口唇部から1.1cm下がる。85・86の口縁部突帯は口唇部から0.3cm，0.2cmとどちらも口唇部に近い。87の口縁部突帯は口唇部から0.4cm下がる。88は0.6cm下がる。89の器壁は非常に薄手で，口縁部突帯は口唇部から0.9cmとやや離れた位置に貼り付ける。90は外反し，口縁部突帯は口唇部から0.7cmの離れた位置である。91は内傾する口縁部で，断面はやや先細りとなる。口縁部突帯は口唇部から0.8cm下がり，刻目は細かく施す。92は非常に薄手の器壁を持ち，口縁部突帯は口唇部から0.8cm下がる。93の口縁部突帯は口唇部から0.9

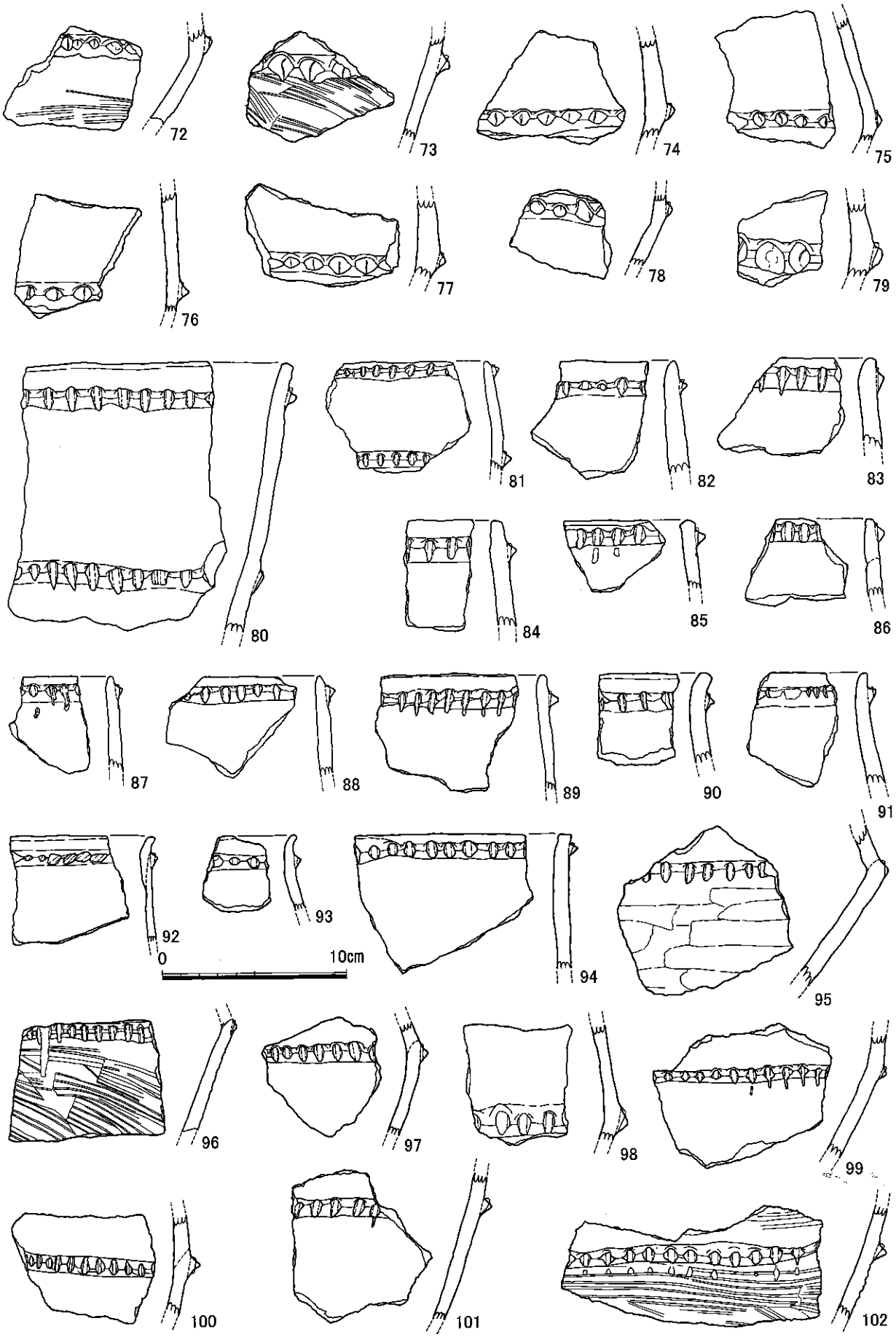
cm下がる。内傾する口縁部は口唇部付近で外反させる。**94**はほぼ直立する口縁部で，口唇部上端を平坦に整える。口唇部から0.5cmの位置に口縁部突帯を貼り付ける。**95**は非常に強い屈曲を見せる。**102**は胴部突帯部分での屈曲はなく直線的で，外面には貝殻条痕調整を残す。



第27図　Ⅲｂ上層出土の遺物②（S＝1／3）



第28図　Ⅲｂ上層出土の遺物③（Ｓ＝１／３）



第29図　Ⅲｂ上層出土の遺物④（Ｓ＝１／３）

103～118はヘラ状工具による刻目を施す資料である。

103～105は胴部と口縁部にそれぞれ突帯を持つ。**103**は胴部突帯部分で強い屈曲をなし，口縁部は内傾する。口縁部突帯は口唇部から0.2cmの位置で比較的近い。**104**は**103**ほどではないがしっかりとした屈曲を持ち，口縁部突帯は口唇部から0.5cmの位置に貼り付ける。口唇部上端を平坦に整える。**105**は小型の土器で，口縁部突帯は口唇部から0.5cm下がる。**106～108**は胴部にのみ突帯を持ち，口縁部には突帯を持たない。**106**は胴部突帯部分での復元径が14.8cm，復元口径が12.8cmを測る小型の土器である。胴部突帯の刻目は間隔を置かず連続的に配し，口縁部は直立する。口縁部外面は肥厚させて段を作る。**107**はしっかりとした屈曲を持ち，内傾して立ち上がる口縁部は先端で外反する。**108**は胴部に刻目突帯を持つが，口縁部には突帯を付さず直接刻目を施す。

109～115は口縁部，**116～118**は胴部突帯の資料である。**109**は口唇部上端を平坦に整え，口縁部突帯は口唇部から0.6cm下がる。**110**の口縁部突帯は口唇部から0.3cmの位置に付ける。**111**は断面先細りになる口縁部で，端部を外反させ口縁部突帯は口唇部にほぼ接する。**112**の口縁部突帯は口唇部から0.2cmの位置である。**113・114**の口縁部突帯は口唇部に接するように貼り付ける。**115**は内傾する口縁部で，口唇部を外反させ，突帯を付さずに直接刻目を施す。

119・120は竹管状工具による刺突で刻目を施した資料である。**119**は口唇部から0.5cmの位置に口縁部突帯を貼り付ける。

121～131は底部の資料である。**121**は復元底径9.2cmを測り，上底となる。**122**は底径8.4cmを測り，底面には組織痕（籠目）を残す。**123**は底径9.0cmである。**125**は底径10.0cmを測り，断面は強く張り出す。底面には赤色顔料の塗布が認められる。**124**は復元底径7.8cmを測る。**126・127・128**はそれぞれ断面張り出しを持つ底部で，底径は4.1cm，7.4cm，9.4cmを測る。**128**はわずかに上底となる。**129**は底径8.6cmで，高台状のしっかりとした上底となる。**130・131**は台付土器の脚部で，底径はそれぞれ9.6cm，11.4cmである。

132は刻目突帯文土器の底部から胴部へ移行する部分の資料で，くびれ部分に指による刻目を施した突帯を付す。

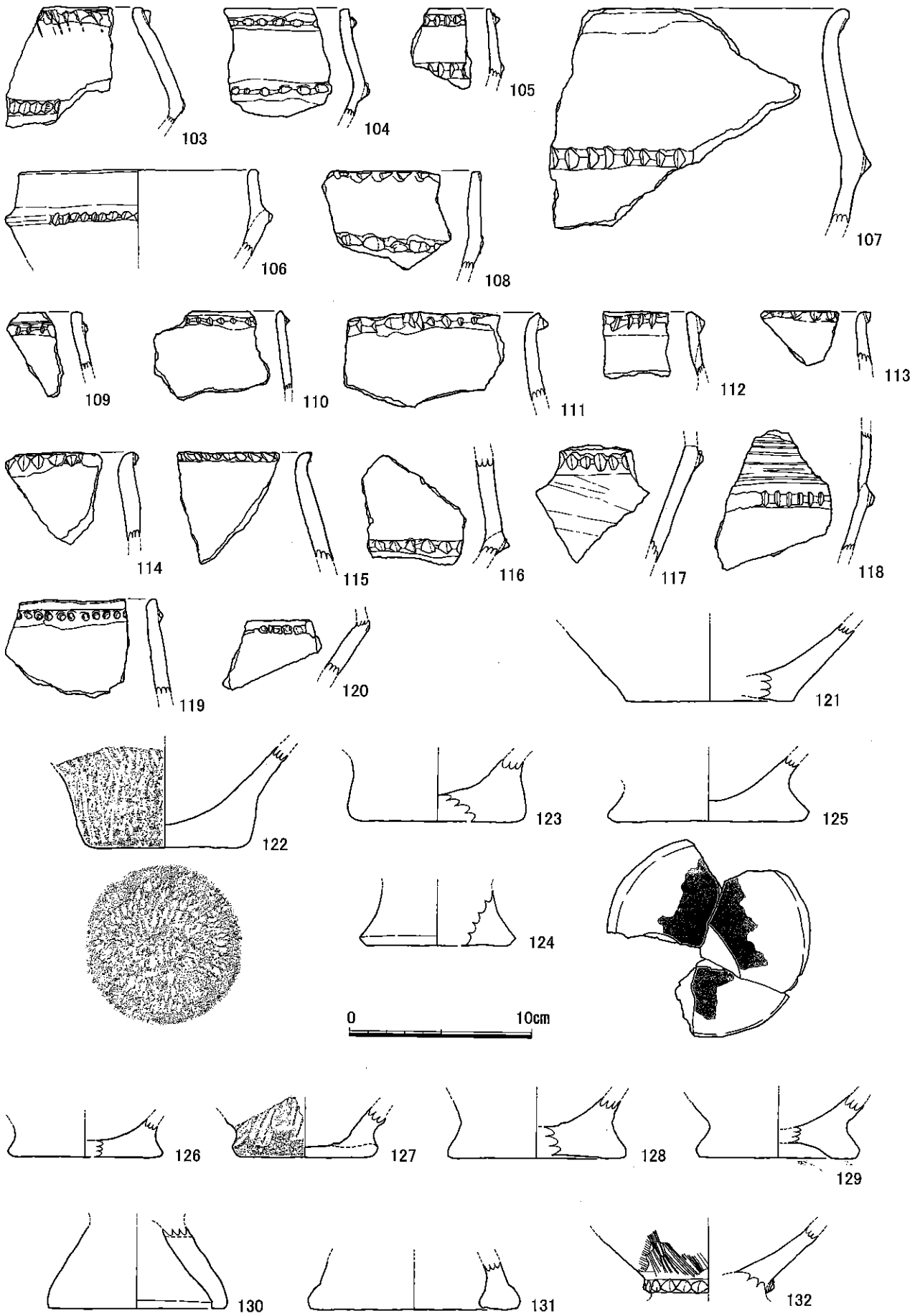
133～209は浅鉢の資料である。

133は復元口径15.6cmを測る小型の土器である。内外面ともに研磨調整を施す。**134**は器高がさほどない皿状の器形をなすものと思われる。**135・136**は胴部で一旦屈曲部を作り，口縁部が立ち上がる。**136**は復元口径22.2cmを測る。

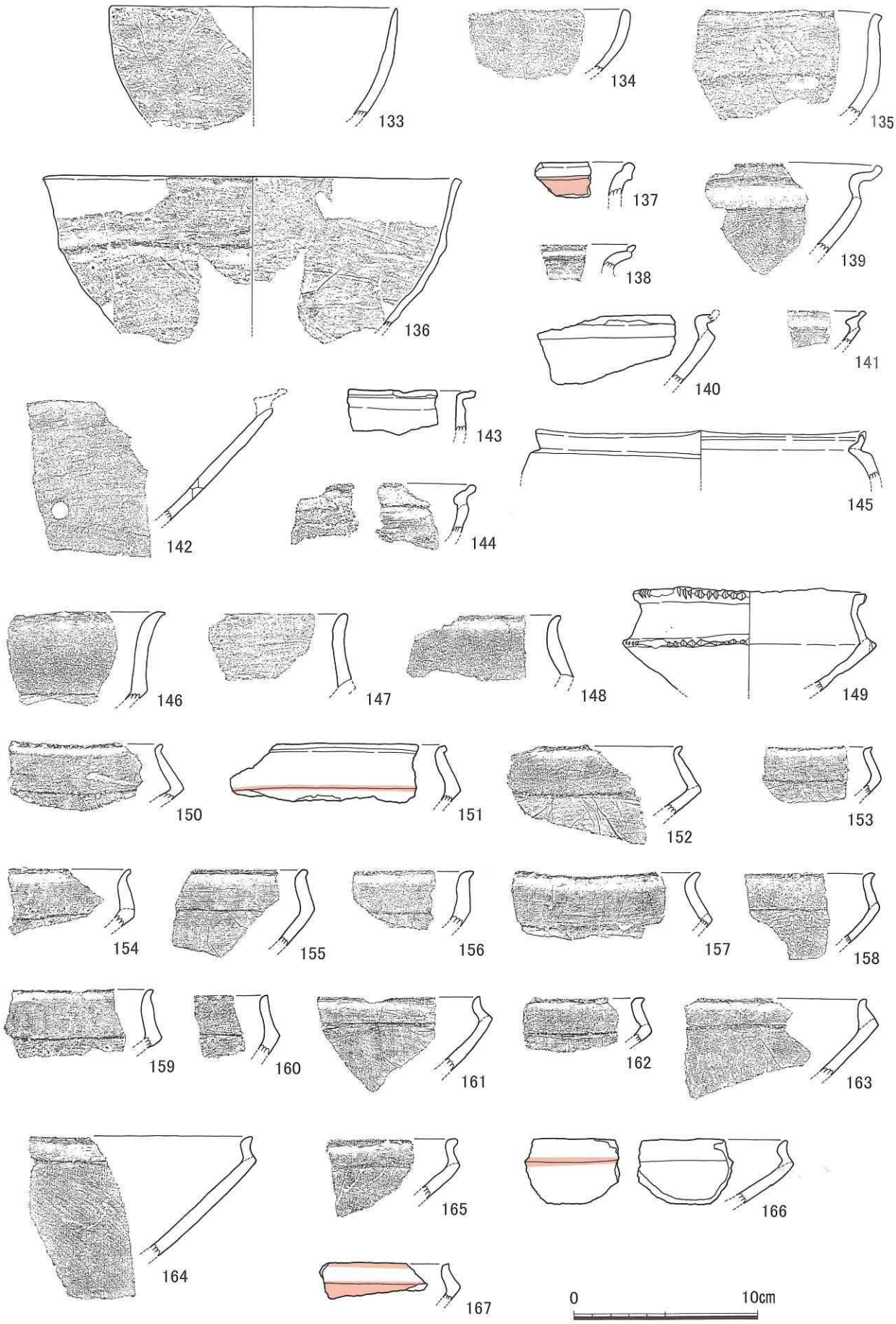
137・138は外反する頸部に口縁部文様帯を付ける。**139**も口縁部文様帯を持つが頸部との境は不明瞭で，頸部は大きく外へ開く。**140～144**は短い頸部を持つ資料で，**143**以外は口縁部内面に段を作る。

145はわずかに波状口縁をなし，波長部での復元口径は18.0cmを測る。極端に短い直立する頸部を持ち，口縁部内面には段を持つ。

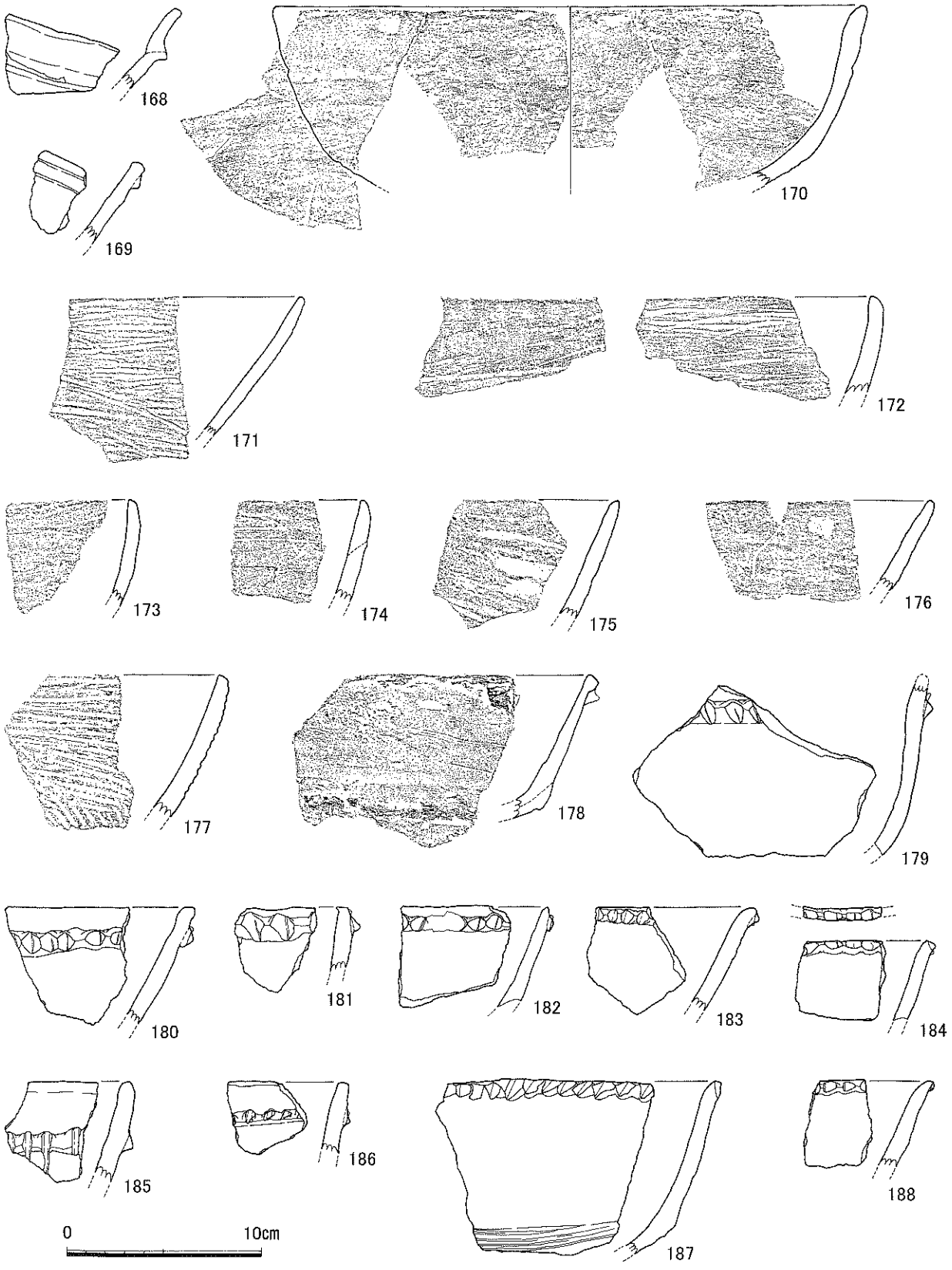
146～167は断面「く」字形をなす資料である。その中で唯一**149**は胴屈曲部と口縁部に突帯を持つ。口縁部突帯は口唇部に接し，刻目はヘラ状工具によるものである。胴屈曲部での復元径は13.8cm，復元口径は12.6cmを測る。その他については大きく３つに分類できる。すなわち，屈曲より上位の口縁部の幅が**146～148**のように広いもの，**161～167**のように狭いもの，そして中ほどの**150～160**である。**146**はわずか外傾するが，他は内傾する。口唇部外端で段を持つものが見られるが，これは口唇部付



第30図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑤（Ｓ＝１／３）



第31図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑥（Ｓ＝１／３）



第32図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑦（Ｓ＝１／３）

近での研磨調整が外面，内面，口唇部の順で施されたことによるものである。

166・167には赤色顔料の塗布が認められる。

168・169は波状の口縁部を持つ浅鉢である。**168**は口縁部を胴部の内面に貼り付けることで，境目に突帯状の張り出しを作る。**169**は口唇部下に突帯を施す。

170～188はボール状あるいは洗面器状の器形をなす資料である。**170**は復元口径30.0cmを測り，内外面の調整は擦過・ナデである。

178は口縁部外面を肥厚させる。**179～188**は刻目を施す資料である。**179～184**は指による刻目，**185・186**は棒状工具による刻目，**187・188**はヘラ状工具による刻目である。**180**は口唇部から0.9cmとやや離れた位置に突帯を貼り付ける。**181**の突帯は口唇部から0.5cm下がり，大振りの刻目を施す。口唇部上端は平坦に整える。**182**は口唇部から0.6cmの位置に突帯を貼り付ける。**183**の突帯は口唇部から0.1cmの位置である。**184**は口唇部上端に直接刻目を施す。**185**の突帯は口唇部から2.4cmの離れた位置に貼り付ける。**186**の突帯は口唇部から1.4cm下がり，口唇部上端は平坦に整える。**187**は口唇部外端に直接刻目を施す。底部から口縁部への立ち上がり部分には屈曲を持ち，屈曲部より下位には外面に貝殻条痕調整を施す。**188**も口唇部外端に直接刻目を施す。

189～201は組織痕土器の資料である。**189～198**はアンギン，**199～201**は網目の圧痕が残る。

189は口縁部で外面に段を持ち，器壁も厚くなる。**191**は底部から胴部への立ち上がり部分の資料である。胴部外面には擦過調整を施す。

198は厚手の器壁を持つ。一旦粘土を貼り付けた後に，再度内側から追加して粘土を張り合わせているため二重の器壁となっている。

202～209は浅鉢の底部の資料である。復元底径は順に9.0cm，8.0cm，6.9cm，4.9cm，9.1cm，4.2cm，3.4cm，6.6cmを測る。**206・207**は外面に段を設ける。**208**は平底に近い丸底をなす。**209**は丸底状に仕上げたところへ粘土紐をリング状に貼り付け高台を付ける。

210は高坏形土器の脚部の資料である。皿部との境には突帯を貼り付けヘラ状工具による刻目を施す。突帯部分での復元径は6.1cmである。

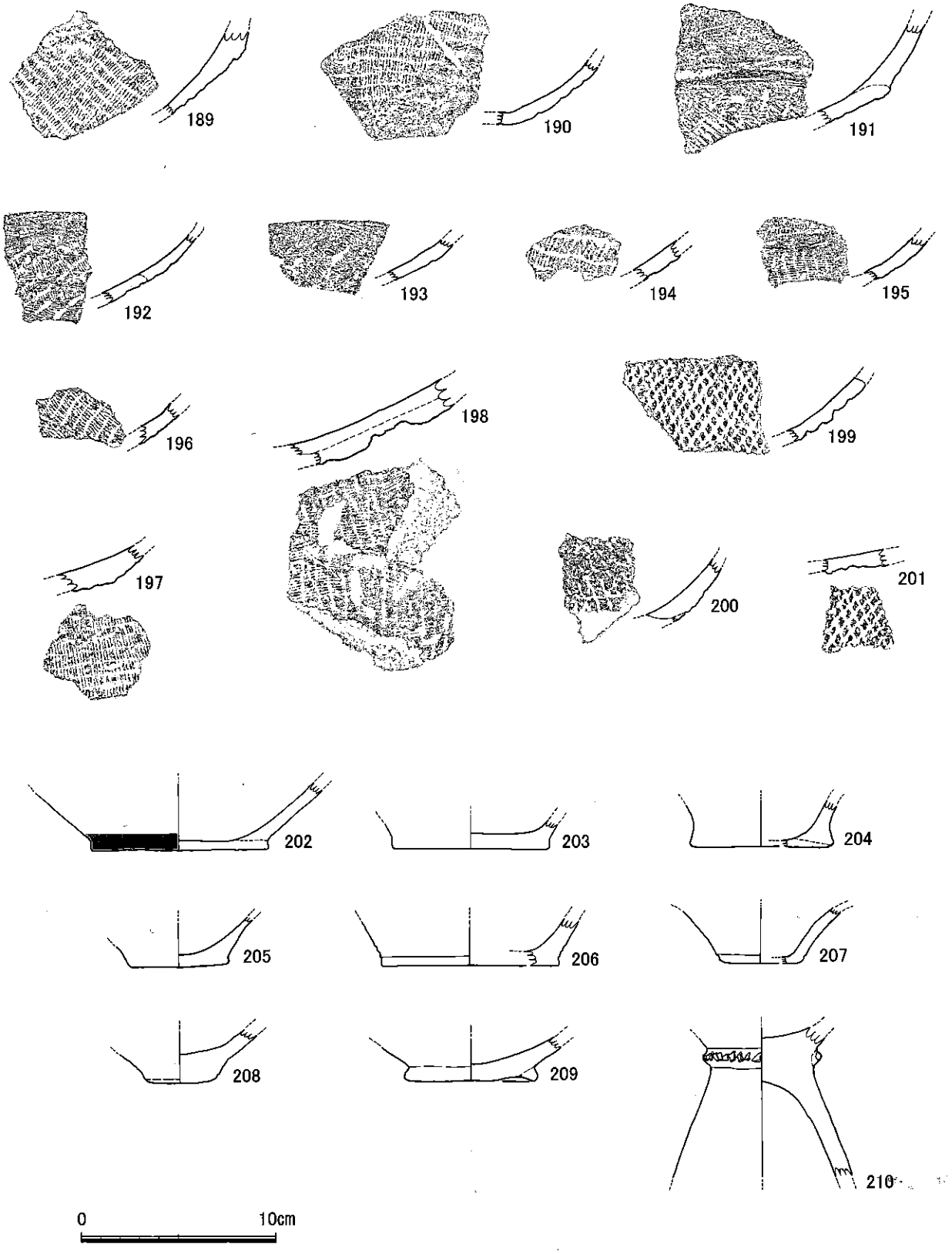
211～226は壷の資料である。

211・212，214～218は口縁部の資料である。**215**以外は内外面ともに丹塗りを施す。いずれも口唇部は外反させ，**214**は口唇部外端に段を設ける。**211**の復元口径は11.0cm，**212**の復元口径は10.0cmである。

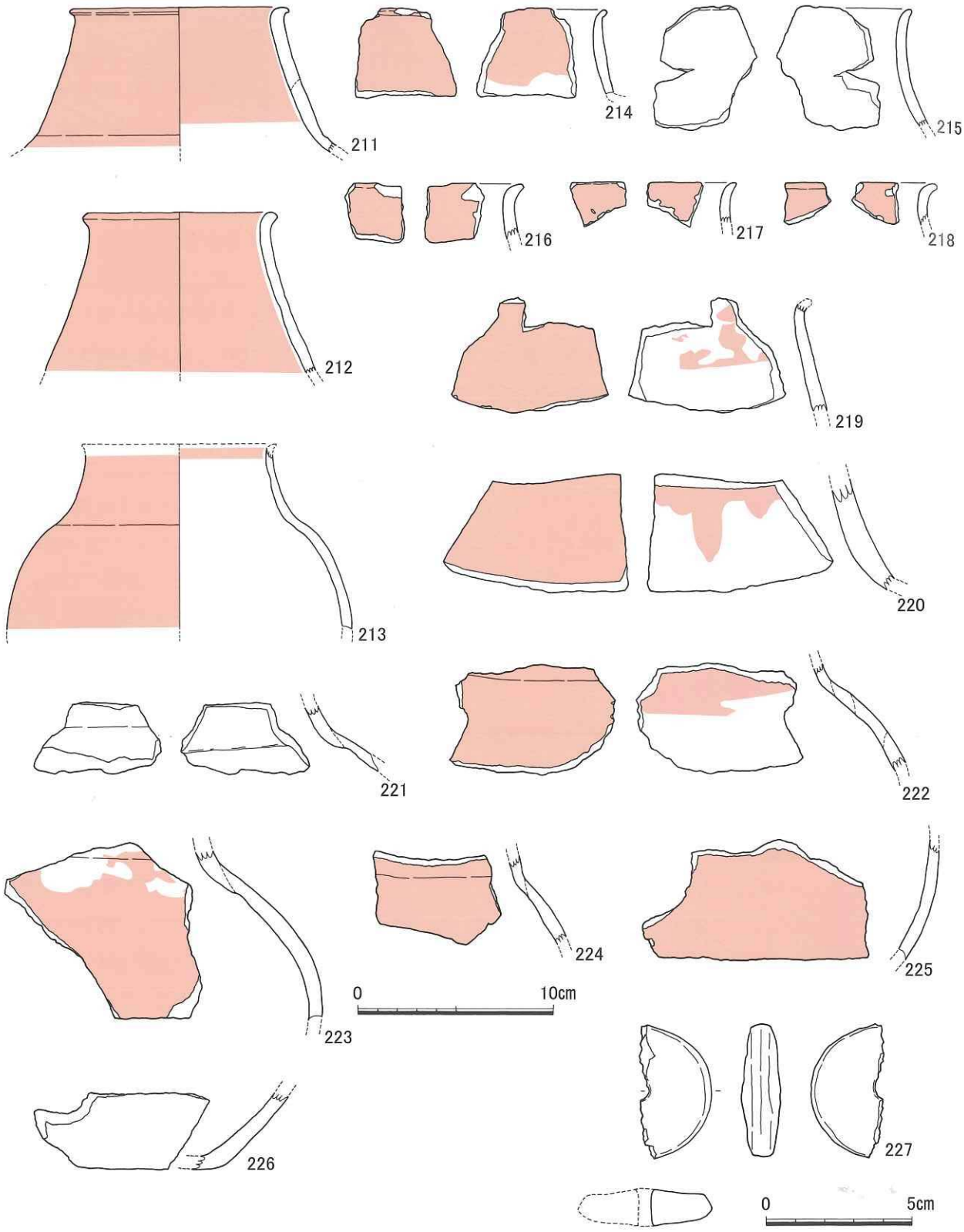
213は胴部上位から口縁部にかけての資料であるが，口唇部を欠く。比較的なで肩で，外面と口縁部内面に丹塗りを施す。復元口径は9.6cm，胴部最大径は17.6cmである。

219・220は頸部の資料，**221**は肩部と頸部の接合部分の資料，**222～224**は肩部の資料，**225**は胴部上位の資料である。また，**226**は底部の資料である。

227は土製の紡錘車である。直径4.6cm，厚さ1.3cmを測り，表裏面は無文で，側面の沈線は見られない。



第33図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑧（Ｓ＝１／３）



第34図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑨（211～226：Ｓ＝１／３，227：Ｓ＝１／２）

第14表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表①

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
26	1	深鉢形土器	Ⅲb上	Q9-d	ナデ	ナデ	黒褐色	明黄褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	2	深鉢形土器	Ⅲb上	P8-a	擦過・ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	3	深鉢形土器	Ⅲb上	O9-b	擦過・ナデ	擦過	橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	4	深鉢形土器	Ⅲb上	O9-a	ナデ	貝殻条痕・ナデ	黒褐色	灰黄褐色	良好	角閃石・長石・石英	
	5	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-a	貝殻条痕	貝殻条痕	明褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	6	深鉢形土器	Ⅲb上	P9-b	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	7	深鉢形土器	Ⅲb上	P8-d	貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	8	深鉢形土器	Ⅲb上	N8-d	擦過	擦過・ナデ	明褐色	明褐色	良	角閃石・長石・石英	
	9	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-b	擦過	ナデ	黄褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	10	深鉢形土器	Ⅲb上	P8-a	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
27	11	深鉢形土器	Ⅲb上	Q9-a	研磨	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	良好	角閃石・長石・石英・雲母	
	12	深鉢形土器	Ⅲb上	N8-c	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	13	深鉢形土器	Ⅲb上	Q8-c	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	14	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-a	研磨	研磨	暗赤褐色	赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	15	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-b	ナデ	擦過・ナデ	赤褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	16	深鉢形土器	Ⅲb上	R9-b	ナデ	ナデ	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子	
	17	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-a	研磨	ナデ，研磨	黒褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	18	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-d	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	19	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-b	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	20	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-a	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	
	21	深鉢形土器	Ⅲb上	N8-d	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	22	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-b	ナデ	擦過・ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	
	23	深鉢形土器	Ⅲb上	O7-d	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	24	深鉢形土器	Ⅲb上	O9-a	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	25	深鉢形土器	Ⅲb上	Q8-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	26	深鉢形土器	Ⅲb上	N9-a	ナデ	擦過・ナデ	黒褐色	赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	27	深鉢形土器	Ⅲb上	Q8-b	ナデ	ナデ	明赤褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	28	深鉢形土器	Ⅲb上	R9-a	研磨	ナデ	にぶい橙色	にぶい褐色	良好	角閃石・長石・石英	
	29	深鉢形土器	Ⅲb上	O9-c	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	30	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-d	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	31	深鉢形土器	Ⅲb上	R9-b	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	32	深鉢形土器	Ⅲb上	P7-d	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	33	深鉢形土器	Ⅲb上	P8-d	不明	不明	橙色	にぶい黄橙色	不良	角閃石・長石・石英	
	34	深鉢形土器	Ⅲb上	O9-a	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	35	深鉢形土器	Ⅲb上	N8-c	擦過・ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	36	深鉢形土器	Ⅲb上	N8-c	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	37	深鉢形土器	Ⅲb上	Q8-a	貝殻条痕・ナデ	擦過・ナデ	にぶい褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	38	深鉢形土器	Ⅲb上	O9-a	貝殻条痕	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	凹点
	39	深鉢形土器	Ⅲb上	N9-a	貝殻条痕・ナデ	ナデ	黒色	褐色	良	角閃石・長石・石英	
	40	深鉢形土器	Ⅲb上	Q9-d	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい赤褐色	橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	

第15表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表②

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
27	41	深鉢形土器	Ⅲb上	N9-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	42	深鉢形土器	Ⅲb上	P8-a	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	焼成後穿孔
	43	深鉢形土器	Ⅲb上	P8-c	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	突起
	44	深鉢形土器	Ⅲb上	P8-b	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい赤褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
28	45	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-d	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	46	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	47	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	48	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	49	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	50	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-a	ナデ	擦過	にぶい赤褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	51	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-b	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	黒色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み
	52	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-a・O8-c	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい橙色	浅黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	53	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-d	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み
	54	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-c	ナデ，擦過	貝殻条痕	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み
	55	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-c	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	56	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	57	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄橙色	暗灰黄色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み・炭化物付着
	58	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-c	擦過	擦過	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	59	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-d	貝殻条痕・ナデ	ナデ，擦過	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	60	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O9-c	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	61	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み・炭化物付着
	62	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O9-d	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み・炭化物付着
	63	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P9-c	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	64	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	65	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P7-d	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	66	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	ナデ	擦過	にぶい橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	指刻み・炭化物付着
	67	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-c	ナデ	擦過	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	68	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	R9-a	貝殻条痕・ナデ	擦過	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	69	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P7-c	ナデ，擦過	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	70	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-a	ナデ，貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	71	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	貝殻条痕	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
29	72	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	M9-c	貝殻条痕・ナデ	ナデ	黒褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	73	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-d	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	74	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-b	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	75	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-d	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	76	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O9-a	貝殻条痕・ナデ	擦過・ナデ	にぶい黄褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	77	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	N8-d	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み
	78	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-c	ナデ	擦過・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	79	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-a	擦過・ナデ	ナデ	黒褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み・炭化物付着
	80	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P9-d	擦過，貝殻条痕	擦過	黒褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	棒刻み・炭化物付着

第16表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表③

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
29	81	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-b	ナデ	擦過・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	82	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O8-b	ナデ	貝殻条痕・ナデ	黒色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	棒刻み
	83	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	貝殻条痕・ナデ	ナデ	にぶい橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	棒刻み・炭化物付着
	84	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-c	ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子	棒刻み
	85	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	浅黄橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	86	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	棒刻み・炭化物付着
	87	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-b	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	棒刻み
	88	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-d	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	89	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O9-a	ナデ	擦過・ナデ	黒色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	棒刻み
	90	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	擦過	擦過・ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み
	91	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O9-c	ナデ	ナデ	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み
	92	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P9-c	ナデ	擦過	にぶい橙色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	93	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刺突
	94	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-a	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒子	棒刻み・炭化物付着
	95	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	ナデ，擦過	擦過・ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	棒刻み
	96	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-a	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み
	97	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-c	擦過・ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	98	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	ナデ	ナデ	黒褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み
	99	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-a	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	黒褐色	暗灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	棒刻み・炭化物付着
	100	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	101	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-c	擦過・ナデ，貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	102	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	貝殻条痕・ナデ，貝殻条痕	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	棒刻み・炭化物付着
30	103	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O9-c	ナデ	擦過	黒褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母・赤色粒	ヘラ刻み
	104	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-d	ナデ	擦過・ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み
	105	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	ナデ	ナデ	灰褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み
	106	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-a	ナデ，擦過	ナデ	にぶい赤褐色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み
	107	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P7-d	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	ヘラ刻み・炭化物付着
	108	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P8-b	ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	ヘラ刻み・炭化物付着
	109	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	O9-b	擦過・ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み・炭化物付着
	110	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-b	ナデ	ナデ	明赤褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み
	111	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-d	ナデ	ナデ	にぶい橙色	黒色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み・炭化物付着
	112	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P9-d	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み
	113	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	N8-c	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み・炭化物付着
	114	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-b	擦過・ナデ	ナデ	黒色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み
	115	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-b	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	にぶい橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	ヘラ刻み
	116	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q9-c	ナデ	ナデ	黒褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み
	117	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	R8-b	ナデ，擦過	ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み・炭化物付着
	118	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	P9-a	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	ヘラ刻み
	119	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-c	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刺突・炭化物付着
	120	深鉢形土器(突帯文土器)	Ⅲb上	Q8-a	ナデ	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	竹管状工具刺突・炭化物付着

第17表　Ⅲb上層出土遺物観察表④

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整			色調			焼成	胎土	備考
					外面	内面	底面	外面	内面	底面			
30	121	深鉢形土器	Ⅲb上	O8-b	ナデ	ナデ	擦過・ナデ	橙色	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	122	深鉢形土器	Ⅲb上	O7-b	貝殻条痕	擦過・ナデ	貝殻条痕，組織痕(籠目)	灰黄褐色	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	123	深鉢形土器	Ⅲb上	P9-c	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰黄褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	124	深鉢形土器	Ⅲb上	N8-c	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	125	深鉢形土器	Ⅲb上・Ⅲb下	P8-a・P8-c	ナデ	ナデ	擦過・ナデ	にぶい橙色	にぶい黄橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	赤色顔料塗付
	126	深鉢形土器	Ⅲb上	Q9-c	ナデ	ナデ	擦過	橙色	にぶい褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	127	深鉢形土器	Ⅲb上	P9-a	ナデ	ナデ	ナデ	橙色	にぶい褐色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	128	深鉢形土器	Ⅲb上	Q9-a	擦過，ナデ	擦過・ナデ	擦過	にぶい橙色	灰黄褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	129	深鉢形土器	Ⅲb上	Q9-c	貝殻条痕，擦過・ナデ	擦過・ナデ	擦過	にぶい赤褐色	にぶい褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	130	深鉢形土器	Ⅲb上	Q8-d	ナデ	ナデ	―	にぶい黄橙色	橙色	―	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	131	深鉢形土器	Ⅲb上	Q9-d	貝殻条痕	ナデ	ナデ	にぶい橙色	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	132	深鉢形土器	Ⅲb上	O9-a	貝殻条痕	ナデ	―	橙色	灰黄褐色	―	良	角閃石・長石・石英・雲母	指刻み

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
31	133	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-a	研磨	研磨	にぶい黄褐色	にぶい橙色	良好	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	134	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-c	擦過・ナデ	擦過・ナデ	灰黄褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	135	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-b	ナデ，擦過	擦過・ナデ	褐灰色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	136	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-d	ナデ	ナデ	黒褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	137	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-c	研磨	研磨	暗褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	赤色顔料塗付
	138	浅鉢形土器	Ⅲb上	O8-b	研磨	研磨	赤褐色	にぶい赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	139	浅鉢形土器	Ⅲb上	O7-b	研磨	研磨	にぶい赤褐色	黒褐色	良好	角閃石・長石・石英・雲母	
	140	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-a	研磨	研磨	褐灰色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英	
	141	浅鉢形土器	Ⅲb上	O7-b	研磨	研磨	にぶい橙色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	
	142	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-a	研磨	研磨	黒褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	焼成後穿孔・炭化物付着
	143	浅鉢形土器	Ⅲb上	O8-a	ナデ	擦過	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	144	浅鉢形土器	Ⅲb上	R9-a	擦過・ナデ	擦過・ナデ	黒褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	
	145	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-c	研磨	研磨	黄褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	146	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-c	研磨	研磨	灰褐色	灰褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	147	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-d	ナデ	ナデ	にぶい褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	148	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-a	研磨	研磨	にぶい橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	149	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-c	ナデ	ナデ	灰黄褐色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英・雲母	ヘラ刻み・炭化物付着
	150	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-a	ナデ	ナデ	にぶい黄橙色	暗灰黄色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	151	浅鉢形土器	Ⅲb上	O9-b・O9-c	研磨	研磨	灰黄褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	赤色顔料塗付
	152	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-b	研磨	研磨	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	153	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-c	研磨	擦過・ナデ	にぶい褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	154	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-b	研磨	研磨	にぶい褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	155	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-a	研磨	研磨	黒褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	156	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-d	研磨	研磨	にぶい橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	157	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-b	研磨	研磨	暗褐色	黒褐色	良	長石・石英・赤色粒子	
	158	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-b	研磨	擦過・ナデ	黒褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	

第18表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表⑤

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
31	159	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-c	研磨	研磨	黒褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	160	浅鉢形土器	Ⅲb上	O8-a	研磨	研磨	にぶい褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	161	浅鉢形土器	Ⅲb上	R8-d	研磨	研磨	にぶい橙色	にぶい橙色	良好	角閃石・長石・石英	
	162	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-d	擦過・ナデ	擦過・ナデ	浅黄橙色	浅黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	163	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-d	研磨	研磨	灰褐色	褐灰色	不良	角閃石・長石・石英	
	164	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-d	研磨	研磨	浅黄橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	
	165	浅鉢形土器	Ⅲb上	R8-b	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい黒褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	
	166	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-b	研磨	研磨	灰黄褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	赤色顔料塗付
	167	浅鉢形土器	Ⅲb上	R8-b	研磨	研磨	にぶい褐色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英・雲母	赤色顔料塗付
32	168	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-d	ナデ	ナデ	黒褐色	にぶい黄褐色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	炭化物付着
	169	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-b	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	170	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-a	擦過・ナデ	擦過・ナデ	黒褐色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	171	浅鉢形土器	Ⅲb上	N9-c	貝殻条痕	研磨	にぶい橙色	黒色	良好	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	172	浅鉢形土器	Ⅲb上	R9-a	擦過・研磨	擦過・研磨	黒色	黒色	良	角閃石・長石・石英	
	173	浅鉢形土器	Ⅲb上	N8-c	貝殻条痕・ナデ	ナデ	明褐色	浅黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	174	浅鉢形土器	Ⅲb上	M8-b	ナデ	ナデ	にぶい橙色	黄灰色	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	175	浅鉢形土器	Ⅲb上	R9-b	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	176	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-a	擦過・研磨	擦過・研磨	黒色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	177	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-c	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	黒褐色	暗褐色	良	角閃石・長石・石英	
	178	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-d	擦過・ナデ	擦過・ナデ	黒褐色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英	
	179	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-b	擦過・ナデ	擦過・ナデ	黒褐色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	180	浅鉢形土器	Ⅲb上	O9-c	擦過・ナデ	ナデ	にぶい橙色	浅黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	181	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-a	擦過	擦過	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み
	182	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-d	ナデ	刷毛目	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	指刻み・炭化物付着
	183	浅鉢形土器	Ⅲb上	O7-d	擦過・ナデ	z	褐灰色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英・雲母	ヘラ刻み・炭化物付着
	184	浅鉢形土器	Ⅲb上	N8-c	擦過	ナデ	黒色	黒色	良	角閃石・長石・石英	口唇部刻目・指刻み
	185	浅鉢形土器	Ⅲb上	N8-d	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み・炭化物付着
	186	浅鉢形土器	Ⅲb上	O9-a	ナデ	擦過・ナデ	にぶい褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	棒刻み
	187	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-a	擦過・ナデ，貝殻条痕	ナデ	黒褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	口唇部刻目・ヘラ刻み・炭化物付着
	188	浅鉢形土器	Ⅲb上	P7-b	擦過	ナデ	黒褐色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	口唇部刻目・ヘラ刻み
33	189	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-a	組織痕（アンギン）	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	190	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-b	組織痕（アンギン）	擦過・ナデ	黒褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	191	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-c	擦過，貝殻条痕，組織痕（アンギン）	ナデ	にぶい褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	192	浅鉢形土器	Ⅲb上	O9-a	ナデ，組織痕（アンギン）	擦過・研磨	にぶい黄橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	193	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-b	擦過・ナデ，組織痕（アンギン）	研磨	にぶい黄褐色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	194	浅鉢形土器	Ⅲb上	O8-d	組織痕（アンギン）	ナデ	にぶい黄橙色	灰黄褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	195	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-a	擦過，組織痕（アンギン）	擦過・研磨	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	196	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-c	組織痕（アンギン）	ナデ	にぶい褐色	灰褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	197	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-b	組織痕（アンギン）	ナデ	にぶい橙色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	198	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-b・P9-a	組織痕（アンギン）	ナデ	橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	

第19表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表⑥

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整 外面	文様・調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
33	199	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-d	組織痕（網目）	擦過・ナデ	にぶい黄橙色	浅黄橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	200	浅鉢形土器	Ⅲb上	O9-a	組織痕（網目）	ナデ	橙色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	201	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-c	組織痕（網目）	擦過・ナデ	明赤褐色	にぶい褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整 外面	文様・調整 内面	文様・調整 底面	色調 外面	色調 内面	色調 底面	焼成	胎土	備考
33	202	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q9-c	研磨	研磨	研磨	灰黄褐色	黒褐色	灰黄褐色	良好	角閃石・長石・石英・雲母	赤色顔料塗付
	203	浅鉢形土器	Ⅲb上	P9-c	研磨	研磨	研磨	にぶい黄橙色	にぶい橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	204	浅鉢形土器	Ⅲb上	R8-b	擦過・ナデ	擦過・ナデ	擦過・ナデ	にぶい橙色	にぶい褐色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	205	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-a	ナデ	擦過・ナデ	研磨	にぶい橙色	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	206	浅鉢形土器	Ⅲb上	Q8-d	研磨	研磨	擦過	にぶい褐色	浅黄橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	207	浅鉢形土器	Ⅲb上	O9-c	研磨	研磨	研磨	にぶい橙色	橙色	—	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	208	浅鉢形土器	Ⅲb上	P8-b	研磨	ナデ	研磨	灰黄褐色	褐灰色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	209	浅鉢形土器	Ⅲb上	O8-d	研磨	研磨	研磨	黒褐色	にぶい橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	210	高坏形土器	Ⅲb上	Q9-a	擦過	擦過・ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	ヘラ刻み・炭化物付着

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整 外面	文様・調整 内面	色調 外面	色調 内面	焼成	胎土	備考
34	211	壷形土器	Ⅲb上	P9-b・P9-d	研磨	研磨	赤色	赤色	不良	角閃石・長石・石英	
	212	壷形土器	Ⅲb上	Q8-d・Q9-c	研磨	研磨	赤色	赤色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	213	壷形土器	Ⅲb上	O9-b	研磨	ナデ，擦過	橙色	褐灰色	良	角閃石・長石・石英	
	214	壷形土器	Ⅲb上	P9-b	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	不良	角閃石・長石・石英	
	215	壷形土器	Ⅲb上	O9-d	研磨	研磨	にぶい橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	216	壷形土器	Ⅲb上	P8-a	研磨	研磨	赤色	赤色	良	角閃石・長石・石英	
	217	壷形土器	Ⅲb上	R9-a	研磨	研磨	赤色	赤色	良	角閃石・長石・石英	
	218	壷形土器	Ⅲb上	Q8-d	研磨	研磨	赤色	赤色	良	角閃石・長石・石英	
	219	壷形土器	Ⅲb上	Q9-c	研磨	研磨，ナデ	赤色	赤色	不良	角閃石・長石・石英	
	220	壷形土器	Ⅲb上	P8-b	研磨	ナデ	赤色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	221	壷形土器	Ⅲb上	Q8-b	ナデ	ナデ	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英	
	222	壷形土器	Ⅲb上	Q9-d	研磨	ナデ	赤色	暗赤色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	223	壷形土器	Ⅲb上	O9-a	研磨	ナデ	赤色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英	
	224	壷形土器	Ⅲb上	P7-d	研磨	ナデ	赤色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	225	壷形土器	Ⅲb上	P9-d	研磨	擦過	赤色	にぶい黄橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	炭化物付着
	226	壷形土器	Ⅲb上	Q8-c	擦過・研磨	擦過・ナデ	にぶい橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英	炭化物付着
	227	紡錘車	Ⅲb上	Q9-a	研磨	—	明赤褐色	—	良	角閃石・長石・石英	

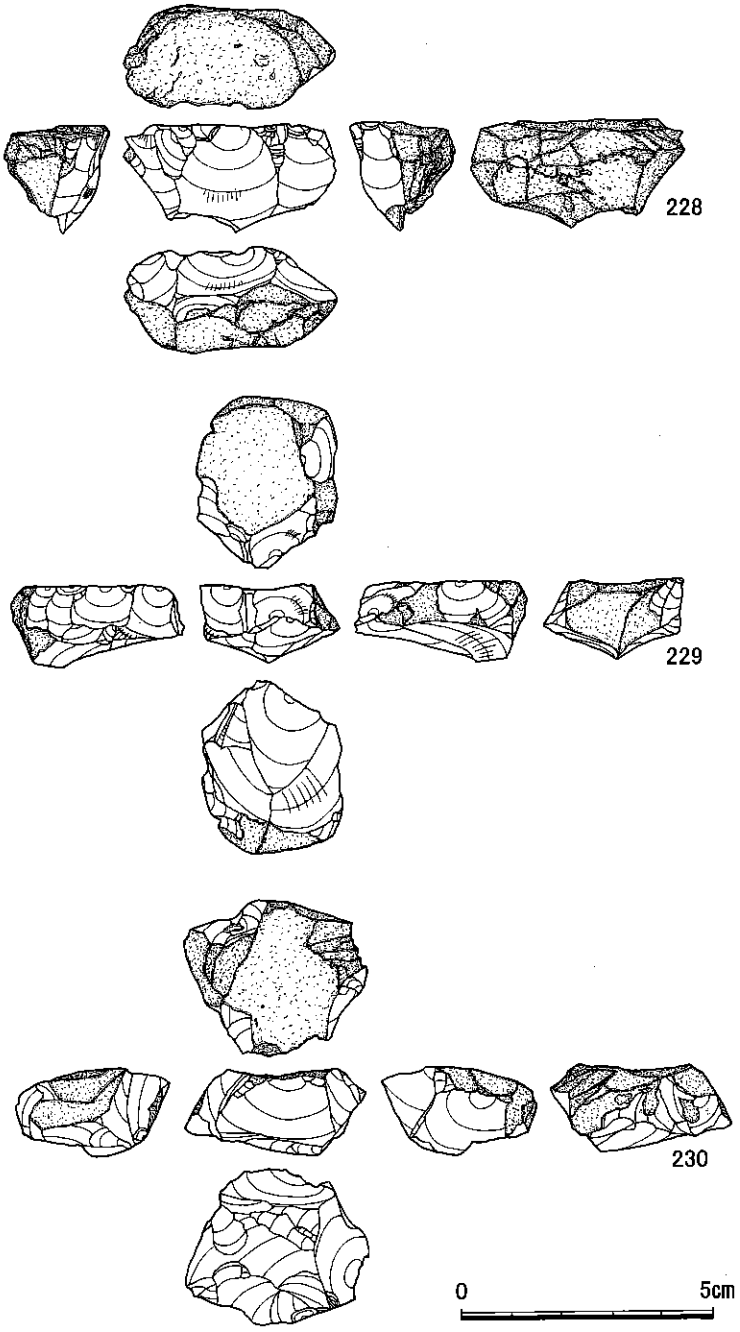
(2) **石器**

228～230は黒曜石を素材とする石核である。

228は上面の平坦な自然面を打面とし，小型の剥片を作出する。229も上面の平坦な自然面を打面として小型の剥片を作出するが，その後正面を打面としている。扁平な素材を用いる。230は扁平な素材の側縁を打面として下面に向かって求心的な剥離を行う。

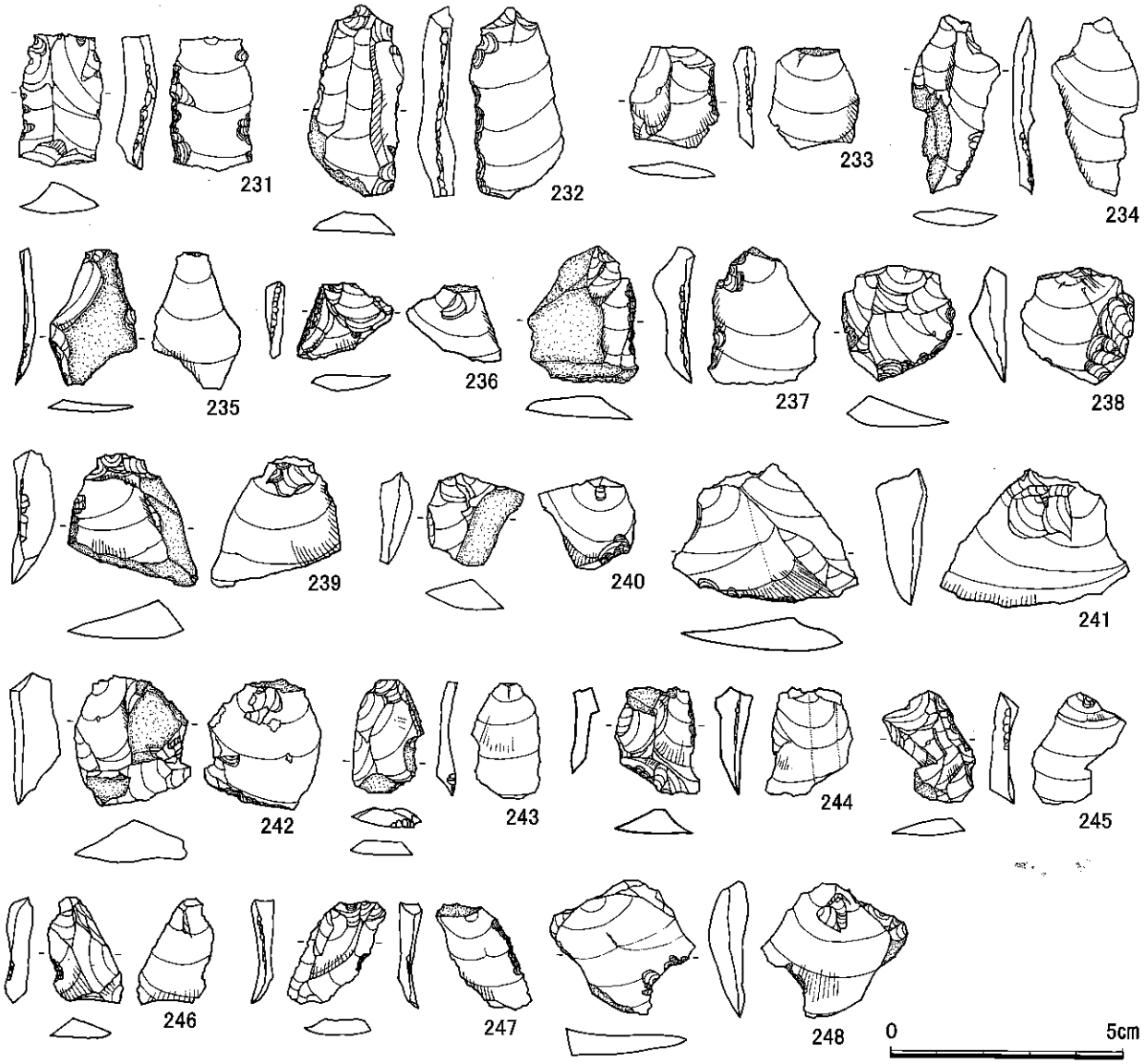
231～248は二次加工を施した剥片の資料である。いずれも石材は黒曜石である。

231は縦長の剥片を素材とし，平行する両側縁のうち腹面左側縁に連続する調整を行う。232は縦長の剥片を用い，腹面の左側縁に調整を行う。下端には自然面を残す。233は自然面を打面とし，背面右側縁に調整を施す。234は縦長の剥片の背面右側縁下半に調整を行う。背面には自然面が残る。235は背面に大きく自然面を残す不整形の素材を用いる。自然面を打面とする。背面左側縁に調整を施す。236は横長の小型剥片を用い，背面左側縁に調整を施す。自然面を打面とする。237は自然面を打面とし，背面には大きく自然面を残す。背面右側縁に調整を施す。238は腹面の右側縁から末端部にかけて調整を行う。石鏃未成品の可能性もある。239は自然面を残す背面の左側縁に調整を施す。240は腹面の末端部に調整を施す。241は黒曜石としては大き目の横長の剥片素材を用いる。背面末端部に調整を施す。242は自然面を打面とする。腹面末端部に調整を行う。243は小型の縦長な剥片を用い，背面末端部に急角度の調整を行う。244・245は背面右側縁に調整を行う。246は背面左側縁下端に抉入する調整を施す。247は自然面を打面とする。腹面左側縁に調整を施す。また背面右側縁中ほどにも抉入調整が見られる。248は末端部に背面，腹面両方から調整を行い，抉入させる。自然面がわずかに残る。



第35図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑩（Ｓ＝２／３）

249～264は使用によるものと考えられる微細剥離を持つ剥片である。いずれも石材は黒曜石である。249は両側縁のほぼ平行する縦長剥片で，背面縁に微細剥離が認められる。250は背面右側に自然面を残す。背面左側縁に微細剥離が見られる。251は背面に大きく自然面を残す。両側縁に微細剥離が認められる。252は背面右側に自然面を残す。背面左側縁に微細剥離を持つ。253は背面右側と末端に自然面を残し，左側縁に微細剥離を持つ。254は背面左側に自然面を残し，弧状に内湾する右側縁に微細剥離が見られる。255は背面右側縁に微細剥離を持つ。256は打点付近を欠き，わずかに自然面が残る。背面左側縁に微細剥離を持つ。257は小型の剥片で，背面右側縁に微細剥離を持つ。258は打点付近を欠き，自然面がわずかに残る。背面右側縁に微細剥離が残る。259は背面左側に自然面を残し，右側縁に微細剥離が認められる。260・261はともに背面に自然面を持ち，左側縁に微細剥離が認められる。262は黒曜石としては大きめの剥片を素材とする。背面には大きく自然面を残し左側縁に微細剥離を持つ。263は背面弧状をなす左側縁下部に微細剥離を残す。264は背面に大きく自然面を残す。打面付近の断面で比較的角度を持つ部分に微細剥離が認められる。

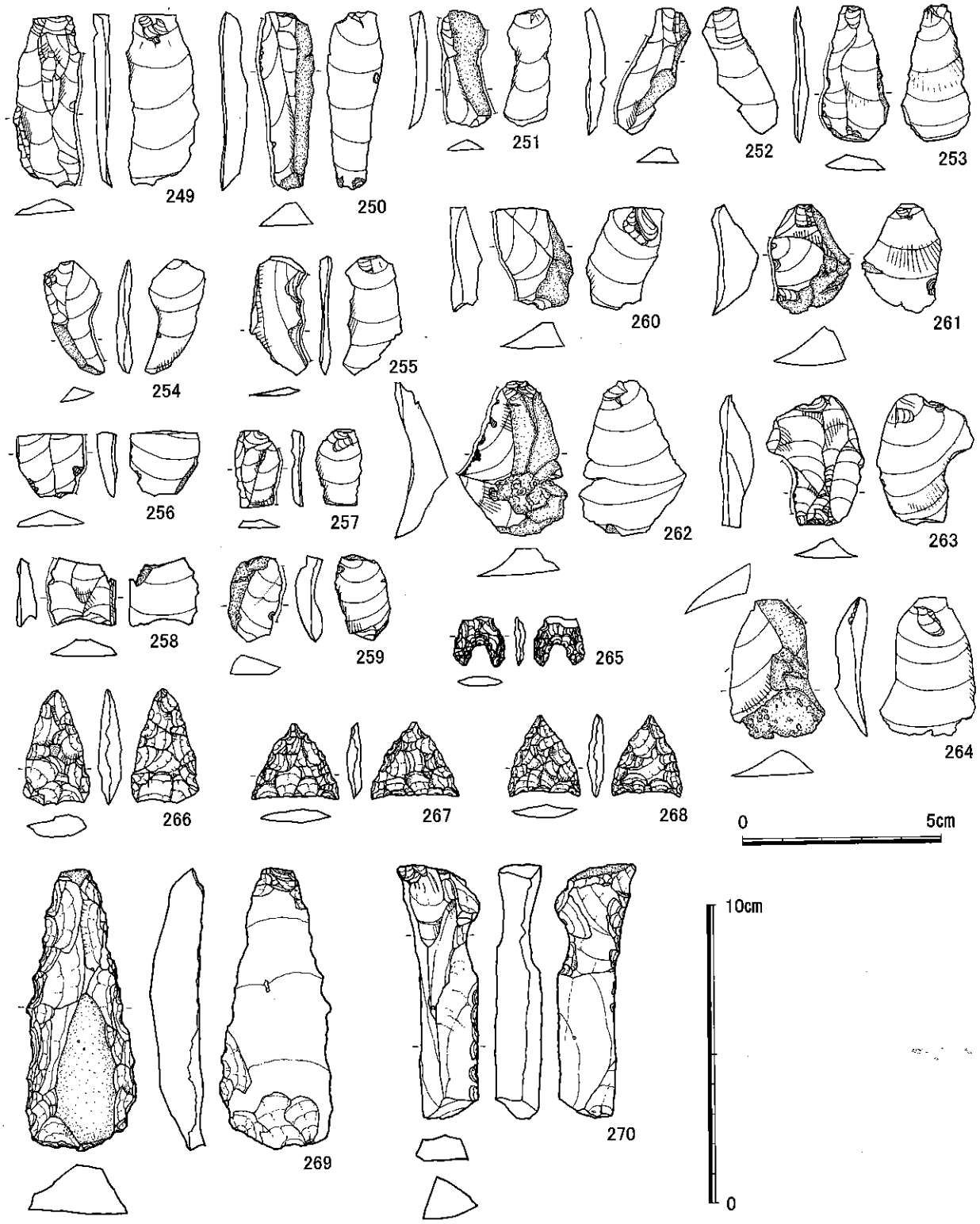


第36図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑪（S＝2/3）

265～268は石鏃である。265は黒曜石を，266～268はサヌカイトを素材とする。

265は基部を深く抉り，脚部を作る。266は二等辺三角形をなし，平基式である。267・268は正三角形をなし，基部はわずかに内湾する。

269は篦状石器，270～275はスクレイパーである。269～274はサヌカイト製，275は安山岩製である。



第37図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑫（249～268：S＝2／3，269・270：S＝1／2）

269は背面には自然面を残す。背面両側縁に剥離調整を施す。270は角柱状の素材を用い，自然面の残る上部に抉入するように調整を施し，正面右側縁にも連続して調整を施す。271は表面に大きく自然面を残す。表裏面に粗い剥離を施す。271は背面側縁に細かい剥離を施し，直線的な刃部を作る。273は腹面左側縁に調整を施す。274は両面の周縁に調整を施し，途中で屈折する刃部を作る。屈折部の角度は約140°である。275は打製石斧に多用される安山岩を素材として用いる。表面には自然面を残す。

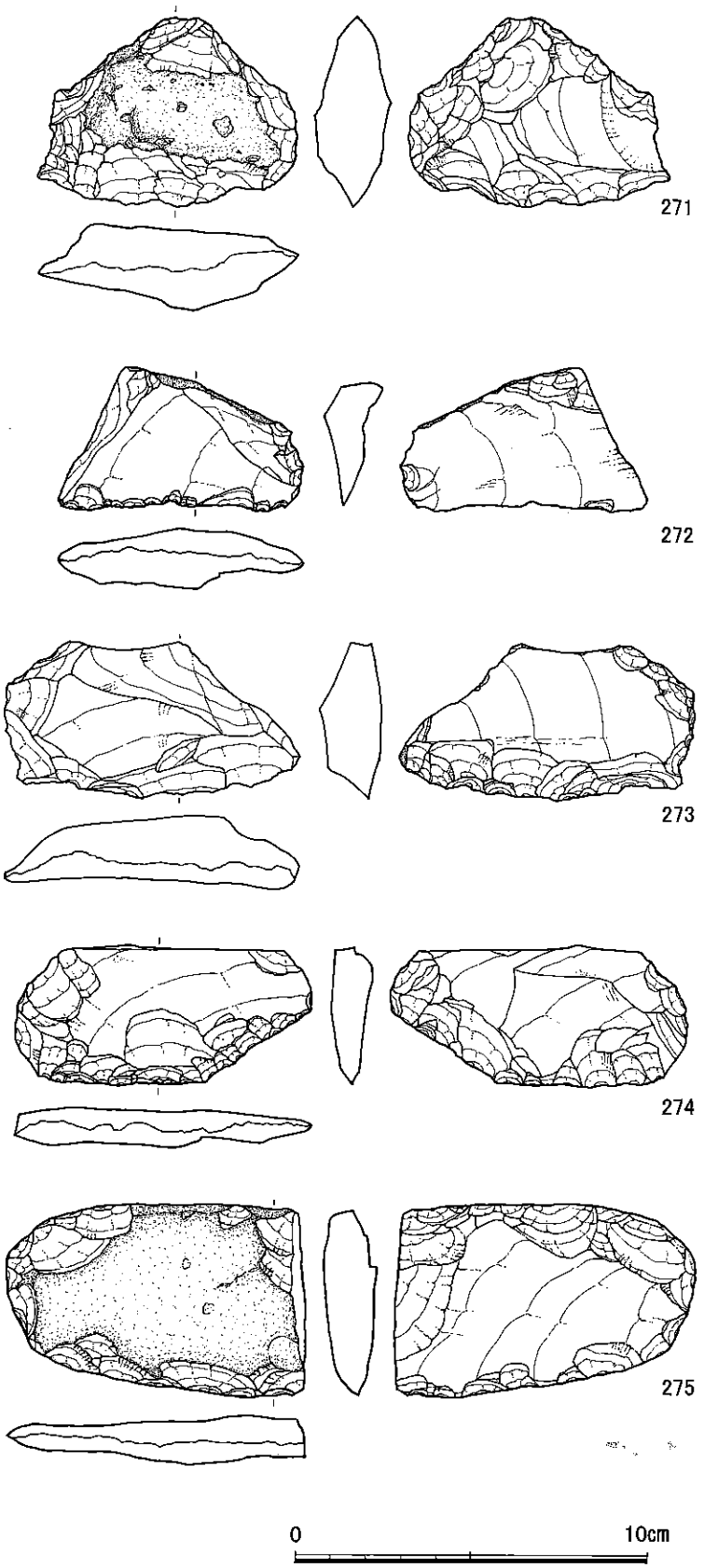
276～280は打製石斧である。石材は安山岩を用いる。

276～278は両側縁がほぼ平行する短冊形の打製石斧である。277は刃部を，278は基部を欠く。279は両側縁を抉るように加工した分銅形の打製石斧である。280は刃部・基部がやや先細りとなる。長さ・幅に対して厚さは厚手である。

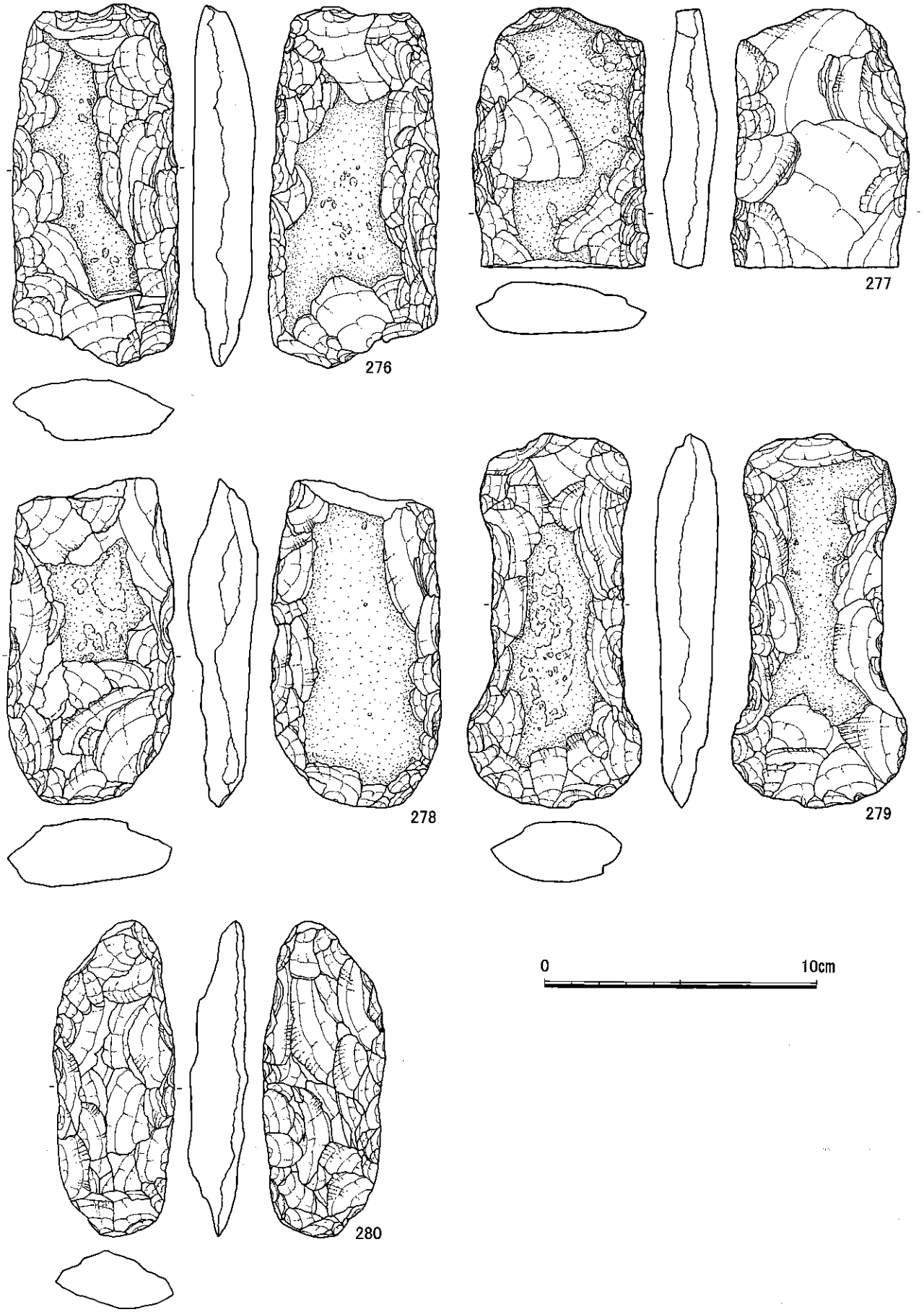
281・282は磨製石斧である。

281は基部を欠くが，扁刃の石斧である。打製石斧に多用される安山岩を素材とし，左右両側縁を加工した後，刃部のみを両面から研磨する。282は蛇紋岩製の刃部片である。

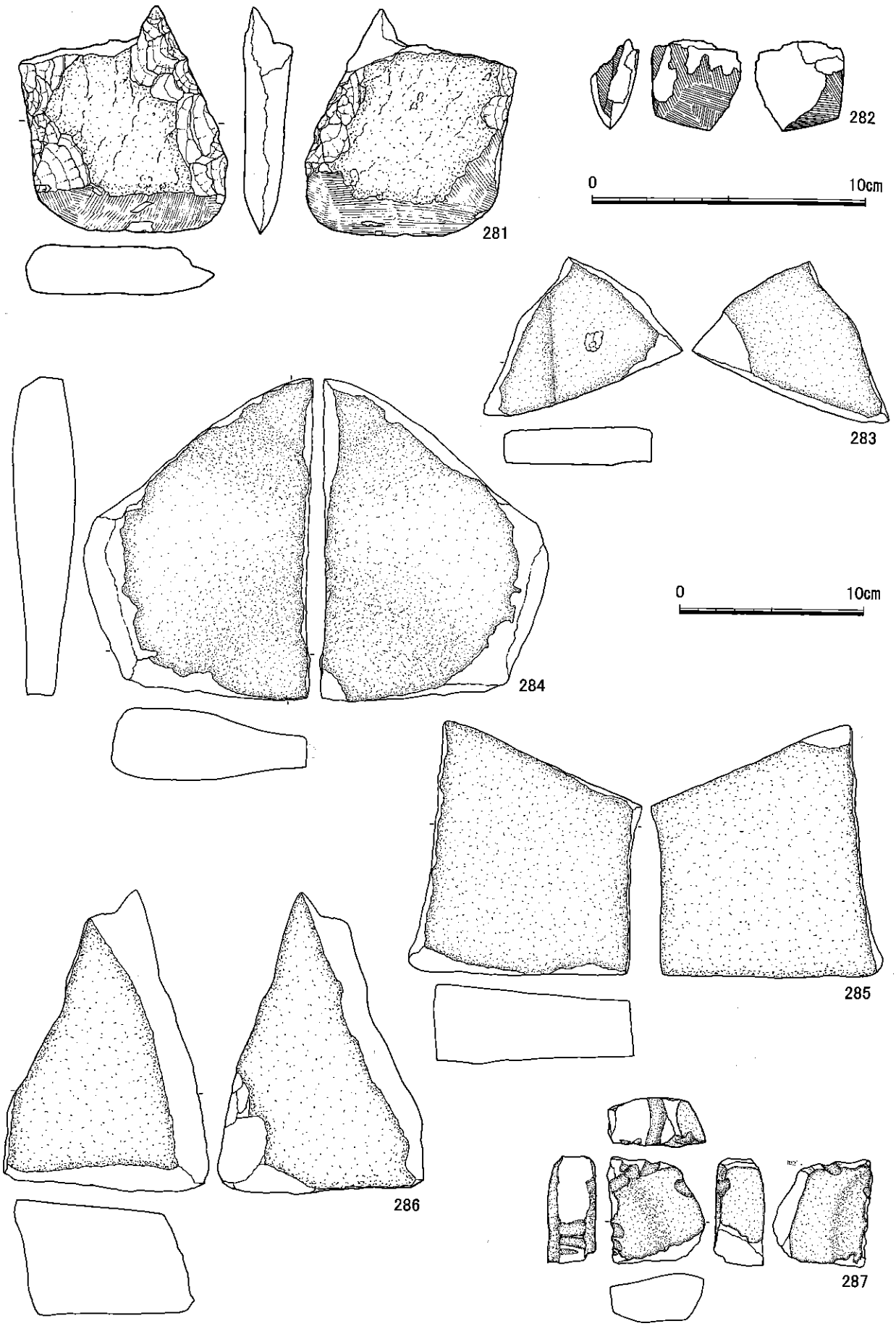
283は石皿片を台石として転用している。正面には凹部と台石として使った際の潰痕が残る。



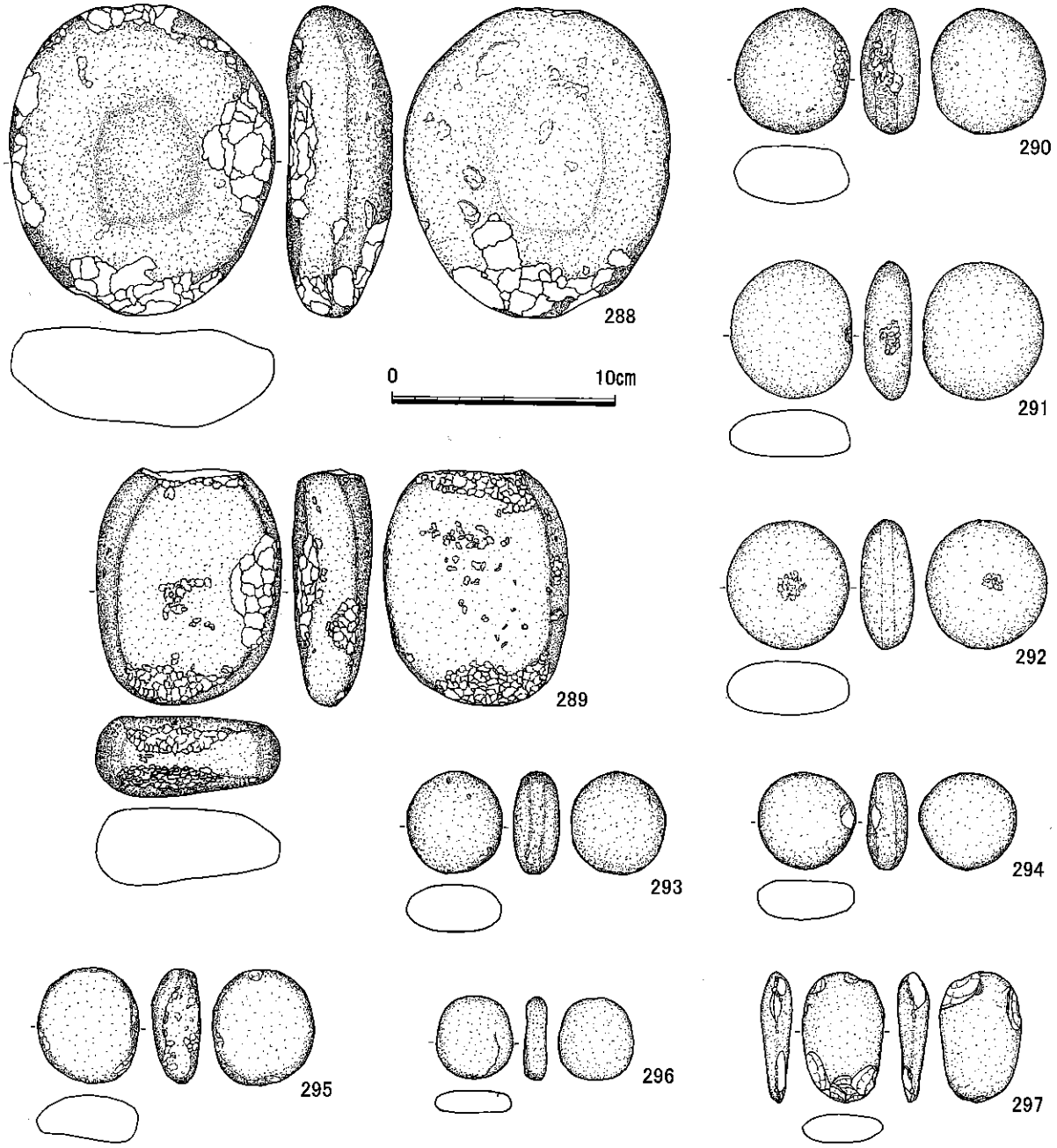
第38図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑬（Ｓ＝１／２）



第39図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑭（Ｓ＝１／２）



第40図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑮（281・282：Ｓ＝１／２,283～287：Ｓ＝１／３）



第41図　Ⅲｂ上層出土の遺物⑯（Ｓ＝１／３）

284は石皿である。正面・裏面にそれぞれ２ヶ所の凹部を持つ。

285・286は安山岩を素材とする台石である。

287は石皿片を再利用した砥石である。滑面および割れ口に溝状の研磨面を持つ。

288～292，297は敲石である。288・289のように大型のものと290～292の小型のものに二分される。288は正面中央に凹部を持ち，また正面上下左右の端，裏面下端に潰痕を持つ。289は磨石からの転用品で，上端を欠損する。正面上下端部，右端部，滑面と裏面上下端部，左下端部，滑面に潰痕を持つ。290・291は側縁に，292は表裏面に被敲打痕を残す。297は側面に被敲打痕を残し，表裏面縁辺には線条痕が入る。293～296は小型の磨石である。

第20表　Ⅲｂ上層出土遺物観察表⑦

図	番号	器種	石材	層位	グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
35	228	石核	黒曜石	Ⅲb上	P9-c	2.2	2.1	2.0	17.6
	229	石核	黒曜石	Ⅲb上	Q8-d	1.6	3.5	3.5	14.8
	230	石核	黒曜石	Ⅲb上	P9-b	1.8	3.1	3.1	16.9
36	231	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q9-c	2.9	1.8	0.7	4.2
	232	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q9-d	4.1	2.1	0.8	6.0
	233	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q8-a	2.2	1.9	0.5	1.4
	234	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	N9-a	3.9	1.9	0.5	2.4
	235	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	R8-a	3.0	1.9	0.2	1.3
	236	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q9-d	1.7	2.0	0.4	0.9
	237	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	P7-d	3.0	2.4	0.8	4.0
	238	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	P7-b	2.5	2.4	0.8	3.6
	239	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	P8-a	2.9	2.8	0.8	4.2
	240	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	O8-a	2.0	2.1	0.7	1.8
	241	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	P9-c	3.0	4.1	1.1	7.2
	242	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	N8-d	2.8	2.5	1.0	6.5
	243	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q8-b	2.5	1.5	0.4	1.1
	244	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q9-b	2.4	1.9	0.8	2.4
	245	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q9-d	2.4	2.0	0.5	1.6
	246	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	O8-b	2.3	1.7	0.6	1.4
	247	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	R9-a	2.3	2.1	0.5	1.3
	248	二次加工剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q8-c	2.9	3.2	0.8	4.8
37	249	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	N8-c	4.3	1.8	0.5	3.0
	250	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q9-d	4.5	1.4	0.7	3.4
	251	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	O8-b	3.0	1.2	0.3	1.0
	252	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q8-b	3.2	1.9	0.5	1.3
	253	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	P8-c	3.4	1.7	0.4	1.6
	254	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	P7-b	2.9	1.5	0.4	1.2
	255	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	O9-c	3.0	1.5	0.3	0.8
	256	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	R9-a	1.7	1.8	0.5	1.4
	257	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	P9-d	2.0	1.1	0.3	0.6
	258	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	O8-a	1.7	1.7	0.5	1.3
	259	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q9-c	2.2	1.4	0.5	1.4
	260	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	R9-a	2.6	2.0	0.8	2.8
	261	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	M8-a	2.8	2.0	1.0	3.6
	262	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	Q8-d	3.9	2.7	0.9	6.0
	263	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	P9-d	3.3	2.4	0.8	4.6
	264	使用痕剥片	黒曜石	Ⅲb上	P8-a	3.5	2.4	0.8	4.7
	265	石鏃	黒曜石	Ⅲb上	N9-a	1.3	1.3	0.3	0.3
	266	石鏃	サヌカイト	Ⅲb上	O8-d	2.9	1.7	0.6	2.5
	267	石鏃	サヌカイト	Ⅲb上	R9-a	1.9	2.2	0.4	1.1

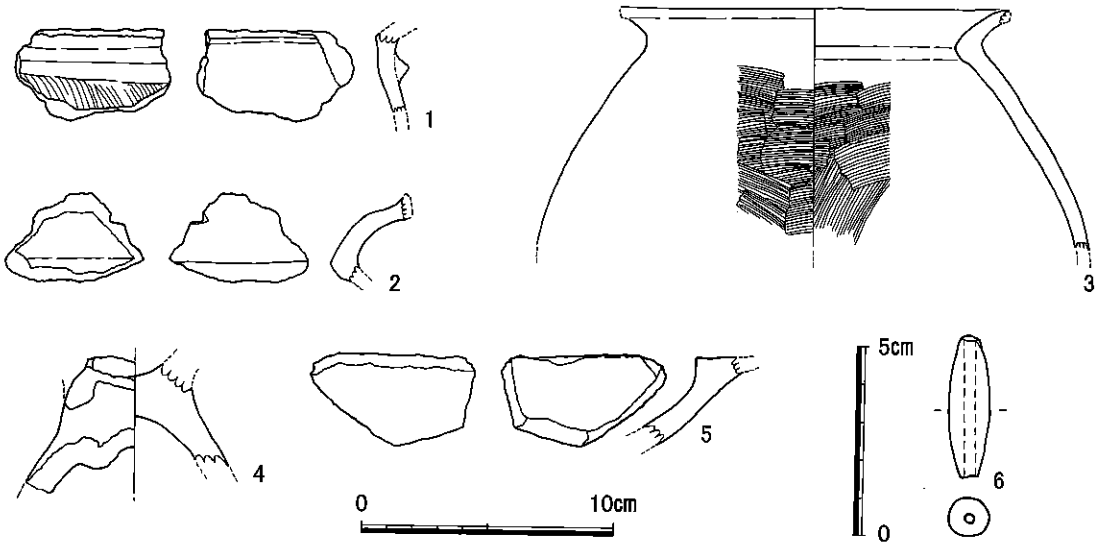
図	番号	器種	石材	層位	グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
37	268	石鏃	サヌカイト	Ⅲb上	R8-b	2.1	1.8	0.4	1.2
	269	篦状石器	サヌカイト	Ⅲb上	O8-b	9.5	3.8	1.6	60.4
38	270	スクレイパー	サヌカイト	Ⅲb上	R9-a	8.5	2.7	1.6	31.0
	271	スクレイパー	サヌカイト	Ⅲb上	O9-d	5.4	7.4	2.2	84.5
	272	スクレイパー	サヌカイト	Ⅲb上	Q9-c	4.1	7.0	1.3	37.5
	273	スクレイパー	サヌカイト	Ⅲb上	Q9-a	4.5	8.4	1.8	72.8
	274	スクレイパー	サヌカイト	Ⅲb上	O9-b	4.0	8.4	1.1	46.0
	275	スクレイパー	安山岩	Ⅲb上	O8-d	5.5	8.5	1.5	90.1
39	276	打製石斧	安山岩	Ⅲb上	N9-c	13.3	6.2	2.2	261.8
	277	打製石斧	安山岩	Ⅲb上	Q8-a	9.6	6.5	1.7	175.0
	278	打製石斧	安山岩	Ⅲb上	O8-a	12.0	6.2	2.5	255.6
	279	打製石斧	安山岩	Ⅲb上	N8-c	13.8	6.4	2.3	249.8
	280	打製石斧	安山岩	Ⅲb上	Q9-d	11.6	4.5	2.2	134.4
40	281	磨製石斧	安山岩	Ⅲb上	N8-a	8.3	7.7	1.8	132.2
	282	磨製石斧	蛇紋岩	Ⅲb上	N8-d	3.3	3.2	1.6	12.1
	283	石皿・台石	砂岩	Ⅲb上	Q9-a	8.7	10.8	2.1	219.7
	284	石皿	砂岩	Ⅲb上	Q9-d	17.6	12.4	3.4	1202.1
	285	台石	安山岩	Ⅲb上	P9-d	13.6	12.6	4.2	1259.9
	286	台石	安山岩	Ⅲb上	Q9-a	16.5	11.2	6.3	1376.0
	287	砥石	砂岩	Ⅲb上	Q9-d	5.9	5.4	2.7	113.4
41	288	敲石	砂岩	Ⅲb上	O9-a	13.9	12.0	4.7	1114.7
	289	敲石	砂岩	Ⅲb上	Q8-d	10.6	8.3	3.6	551.4
	290	敲石	安山岩	Ⅲb上	O8-b	5.6	5.1	2.6	112.8
	291	敲石	砂岩	Ⅲb上	O8-c	6.2	5.4	2.1	110.1
	292	敲石	砂岩	Ⅲb上	O8-b	5.8	5.4	2.4	112.1
	293	磨石	砂岩	Ⅲb上	P7-b	4.6	4.2	2.1	61.6
	294	磨石	砂岩	Ⅲb上	Q9-d	4.3	4.4	1.8	52.2
	295	磨石	安山岩	Ⅲb上	Q9-a	5.2	4.6	2.2	64.3
	296	磨石	砂岩	Ⅲb上	P8-c	3.7	3.4	1.1	20.2
	297	敲石	頁岩	Ⅲb上	O9-a	5.9	3.6	1.4	38.7

第４節　Ⅲa層出土の遺物

第42図はⅢａ層出土の遺物である。

１・２は弥生時代後期の甕形土器である。１は口縁部直下に三角突帯を貼り付け，外面には刷毛目調整を施す。２は口縁部が外反して立ち上がる。３は復元口径15.4cmを測る古墳時代前期の甕形土器である。内外面に刷毛目調整を施す。４は台付甕の脚部である。５は高坏のⅢ部の資料である。

６は土錘で，長さが3.7cm，最大径が1.1cmを測る。



第42図　Ⅲａ層出土の遺物（１～５：S＝1/3，６：S＝1/2）

第５節　その他の出土遺物

第43図はⅡ層，Ⅰ層，攪乱部からの出土の資料である。

１は須恵器の胴部片である。外面には格子目の叩き痕が残る。２は瓦質の火鉢である。口唇部外面を肥厚させ，また口唇部からやや下がった位置に突帯を持つ。口縁部下にスタンプ文を施す。３は瓦質の擂鉢である。内面に８本単位の櫛目を入れる。

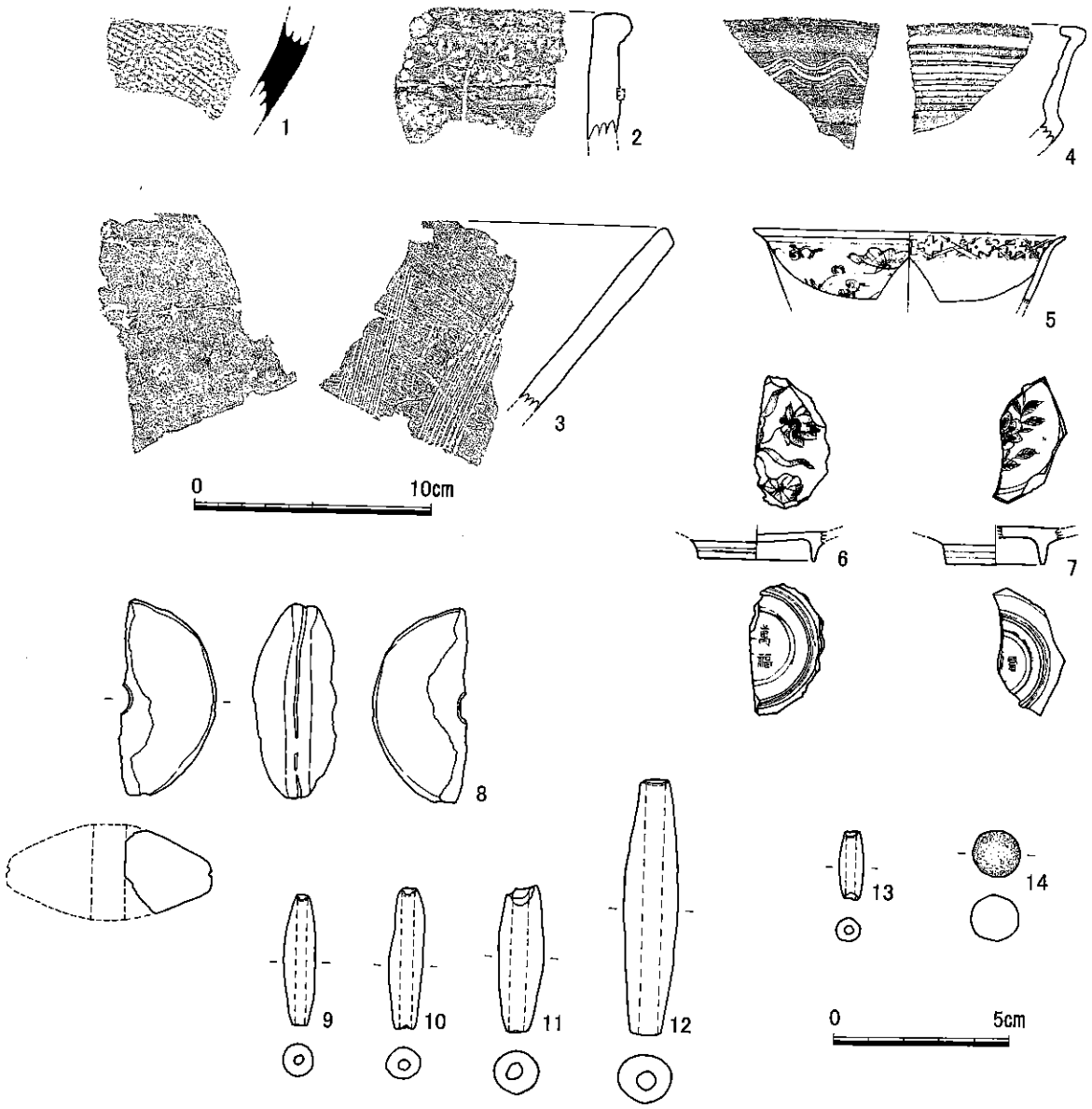
４は香炉である。口縁部はやや外傾し，内面に張り出しを持つ。外面には櫛目文を施す。

５～７は白磁碗である。５は口唇部が外反し，外面に草花文，内面に四方襷文を描く。６は内面に草花文，高台内に「萬」，「福」の字を入れる。７は内面に草花文，高台内に「冨」の字を入れる。８は土製の紡錘車である。直径5.5cm，厚さ2.7cmを測る。側面に沈線１条を入れ，表裏面は無文である。

９～12は土錘である。長さは順に3.7cm，4.0cm，4.1cm，7.3cm，最大径は順に0.9cm，1.0cm，1.3cm，1.6cmを測る。

13は石製の管玉である。緑色を呈するが，石材については不明である。

14は鉛製の銃弾である。表面はやや風化し白色を呈する。直径1.4cmを測る。



第43図　その他の出土遺物（1～7：S＝1/3，8～14：S＝1/2）

〔参考文献〕

諫見富士郎編　2001『大野原遺跡』有明町文化財調査報告書第12集　有明町教育委員会

橋口達也編　1984『石崎曲り田遺跡Ⅱ』福岡県教育委員会

本多和典編　2006『権現脇遺跡』深江町文化財報告書第２集　深江町教育委員会

第22表　Ⅲａ層出土遺物観察表

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
43	1	甕形土器	Ⅲa	Q8-a	刷毛目	ナデ	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	2	甕形土器	Ⅲa	P8-d	ナデ	ナデ	橙色	黒褐色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	3	甕形土器	Ⅲa	Q9-a	刷毛目	刷毛目	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	4	(台付)甕形土器	Ⅲa	P9-c	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	5	高坏形土器	Ⅲa	P8-d	ナデ	ナデ	橙色	橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	6	土錘	Ⅲa	P8-a	ナデ	ナデ	明赤褐色	―	良	角閃石・石英・雲母	

第23表　その他の出土遺物観察表

図	番号	器種	層位	グリッド	文様・調整		色調		焼成	胎土	備考
					外面	内面	外面	内面			
43	1	甕形土器	撹乱	調査区南半部	タタキ(格子目)	ナデ	灰色	灰色	良	角閃石・長石・石英	
	2	火鉢	Ⅱ	調査区南半部	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英・雲母	
	3	擂鉢	Ⅱ	調査区北半部	ナデ	ナデ	灰色	灰色	良	長石・石英	
	4	香炉	Ⅱ	調査区南半部	櫛目	櫛目	極暗赤褐色	明赤褐色	良	角閃石・長石・石英	
	5	碗	Ⅱ	調査区南半部	草花文	四方襷文	白色	白色	良		景徳鎮窯
	6	碗	Ⅱ	調査区南半部	―	草花文	白色	白色	良		景徳鎮窯
	7	碗	Ⅱ	調査区北半部	―	草花文	白色	白色	良		景徳鎮窯
	8	紡錘車	Ⅱ	調査区南半部	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	良	角閃石・長石・石英	
	9	土錘	Ⅱ	調査区北半部	ナデ	―	にぶい橙色	―	良	角閃石・石英・雲母	
	10	土錘	Ⅱ	調査区南半部	ナデ	―	にぶい黄橙色	―	良	角閃石・長石・石英・赤色粒子	
	11	土錘	Ⅱ	調査区南半部	ナデ	―	浅黄橙色	―	良	角閃石・石英	
	12	土錘	Ⅱ	調査区北半部	ナデ	―	にぶい橙色	―	良	角閃石・石英	
	13	管玉	Ⅰ	P8-a	―	―	―	―	―		
	14	鉄砲玉	Ⅱ	調査区南半部	―	―	―	―	―		

第Ⅵ章　まとめ

出土土器の細分

今回の調査において出土した土器資料のうち，主体を占めるのは縄文時代後期～弥生時代前期に位置付けられる土器群である。これらの土器群を時期別に見たとき，大きく３つの土器群に分けることができる。口縁部文様帯を持つ深鉢形土器に代表される１群土器（肥後地方の御領式・天城式・古閑式にあたる），ヒレ状突起やリボン状粘土塊の貼り付けを施す深鉢形土器に代表される２群土器（黒川式・礫石原式），刻目突帯文土器に代表される３群土器（山ノ寺式・原山式）である。しかしながら，２群土器については深鉢類・浅鉢類ともにまとまった出土とは言い難く，周辺からの混入とみるべきであろう。よって以下，１群土器と３群土器の特に深鉢形土器類について取り上げ，検討を行うことにする。

１群深鉢形土器類の検討

114点の口縁部の資料がある。Ⅲｂ上層が48点（42.1%），Ⅲｂ下層が38点（33.3%）で両者合わせて86点（75.4%）を占める。出土点数をグリッドの列ごとに見るとM列北半がおおよそⅢｂ下層上面まで削平を受けていることを考慮する必要があろうが，O列に最も集中する。

次に口縁部文様帯に施されている平行沈線の本数を見てみる。口縁部文様帯が頸部上端との境部分から口唇部まで残っている62点のうち，２本のもの22点（35.5%），３本のもの23点（37.1%）であり，両者あわせて45点で全体の72.6%を占める。

口縁部文様帯断面の傾きについては有効資料100点のうち内傾するもの11点，直立するもの39点，外傾するもの50点で，内傾するものと直立するものを合わせると全体の半数になる。

２群深鉢形土器（刻目突帯文土器）類の検討

深鉢形をなす刻目突帯文土器はＥ区全体で265点である。資料の一部に突帯を施さず，直接口唇部に刻目を施した例があるが,これも含めて検討することにする。層位別に見るとⅡ層が36点（13.6%），Ⅲａ層が41点（15.5%），Ⅲｂ上層が164点（61.9%），Ⅲｂ下層が23点（8.7%）で，Ⅲｂ上層から最も多く出土している。Ⅲａ層・Ⅲｂ上層・Ⅲｂ下層における出土比率を１群深鉢形土器類と比較すると，１群に比べてより上位で出土する傾向にあることが指摘できる。

刻目の種類としては指刻み110点（41.5%），棒刻み75点（28.3%），ヘラ刻み69点（26.0%）と３種が合わせて254点で全体の95.8%を占める。他に棒刺突８点，貝殻復縁によるもの３点がある。出土グリッドを列ごとに集計すると指刻みがO・P・Q列にまとまった出土を見せるのに対し，棒刻み・ヘラ刻みはQ列に最も多く出土し，調査区北側に行くにしたがって出土数が減る。

口縁部の資料について口縁部突帯の口唇部からの位置を計測すると，指刻みのものは0.2～0.5cmに集中するが，口唇部と同位のものから最大で1.8cm下がったものまで見られる。棒刻みのものは口唇部と同位のものから最大で1.1cm下がったものまで見られ，0.3～0.5cmに集中する。ほぼ指刻みと同様の内容と言えよう。それに対し，ヘラ刻みは最も下がったもので0.6cmであり，指刻み・棒刻みに対して突帯が口唇部に近い位置に貼り付けられる傾向がうかがえる。口唇部と同位に貼り付けるものも３点あり，口唇部に直接刻目を施すもの３点とあわせて計６点であり，まとまった点数である。

胴部資料の屈曲具合については棒刻みのものではＢ（弱く屈曲する）タイプが多いのに対し，指刻

みのものはB・C（緩やかに内湾する）タイプがほぼ同数でA（強く屈曲する）タイプがそれに次ぐ。ヘラ刻みのものについてはA・B・Cタイプがほぼ同数である。指刻みのものについては本来Bタイプであったものが指押さえによって大振りに刻目を入れることにより屈曲があいまいになりCタイプになったことも考えられよう。

器面調整の種類別に刻目原体の比率を見てみる。まず外面調整である。貝殻条痕調整を施すものは指刻み31.8%，棒刻み21.3%，ヘラ刻み13.0%である。擦過調整を施すものは指刻み27.3%，棒刻み20.0%，ヘラ刻み24.6%である。ナデ調整を施すものは指刻み63.6%，棒刻み74.7%，ヘラ刻み78.2%である。貝殻条痕調整は指刻み，棒刻み，ヘラ刻みの順に比率が低くなり，ナデ調整では逆転してヘラ刻み，棒刻み，指刻みの順に比率が低くなる。外面については指刻みのものが比較的粗雑な作り，ヘラ刻みのものが比較的丁寧な作りであり，中間的なところに棒刻みのものがあるといえる。次に内面調整である。貝殻条痕調整については外面同様指刻み，棒刻み，ヘラ刻みの順に比率を落とし，またいずれの刻目原体においても外面に比べ比率が下がる。擦過調整についてはやはり指刻みよりヘラ刻みでの比率が低いが，棒刻みについてはヘラ刻みよりさらに低い。ナデ調整について見ると，指刻み85.5%，棒刻み88.0%，ヘラ刻み84.1%で，いずれも80%を超える高い比率である。内面については刻目の種類によらず丁寧な仕上げを行うことがうかがえる。

突帯と口唇部との位置関係や器面調整の様相から，時間的経過に伴って指から棒，棒からヘラへと刻目原体の選択において相対的な移行があったと考える。このことがいまだ不明瞭な点の多い島原半島における「山ノ寺式土器」から「原山式土器」へという型式変遷を再整理するとき，大きな意味を持つであろう。

過去の調査成果との比較

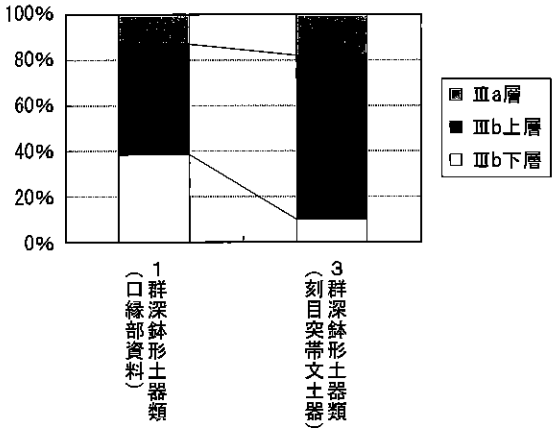
E区は，平成14年度から平成16年度に調査した赤松谷川2号導流堤建設予定地のうちC区東半部の北側にあたる。過去の調査においてはA～D区において今回の調査同様縄文時代後期～弥生時代前期の資料が主体的に出土した。そして，A・D区とB・C区との間で出土する資料の内容に差異が認められた。すなわちB・C区において本稿における1群土器・2群土器・3群土器がいずれもまとまって出土するのに対して，A・D区においては3群土器の資料がほとんど認められず，欠如していた。そして，今回のE区においてはA～D区において比較的まとまった出土を見せていた2群土器がごく少数しか認められず，1群土器と2群土器の大きく2つの土器群に分かれた。1群土器については口縁部文様帯を持つ深鉢類において，口縁部文様帯の沈線の本数と口縁部の傾きからB・C区において確認されていたものと比べると古手に位置付けられるものの割合が高いといえる。3群土器深鉢形土器（刻目突帯文土器）類については，B・C区では指刻みのものに比べ，棒刻みのもの・ヘラ刻みのものが多く出土した。このことはE区において指刻みが棒刻みやヘラ刻みを出土点数で上回ることや列ごとの出土点数の状況を踏まえ，指刻みから棒刻み，棒刻みからヘラ刻みへという相対的な移行があったとする仮定に基づくならば，分布がE区寄りからB・C区寄りへと移動したことが指摘できる。

今後の課題

赤松谷川（水無川）右岸一帯に広がる権現脇遺跡は非常に広大であり，縄文時代後期～弥生時代前期という時間幅の中で生活域を拡大したり縮小したり，あるいは移動したりしながら存続したものと考えられる。現在までの調査において埋甕や土坑などの遺構の存在が明らかになり，大量の出土遺物

の分布から一部ではあるが大まかな遺跡の動向がつかめるようになってきた。しかしながら遺跡全体の中ではごく限られた情報であり，住居址や墓域など主要遺構の発見には至っていない。今後範囲確認や内容確認の調査により情報の収集が必要とされよう。

また，島原半島においては縄文時代・弥生時代の時代転換期の遺跡が盛隆することが古くから指摘されており，近年良好な資料の追加が続いている。周辺遺跡との相互の関係というものも明らかにしていく必要がある。



第１グラフ　１群・３群土器類出土層位の比率

第24表　１群・３群土器類の列別出土数

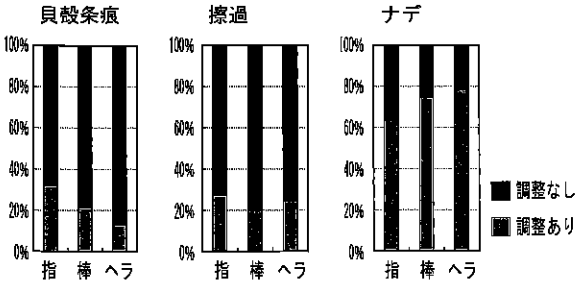
列	１群 深鉢形土器類（口縁部資料）	３群 深鉢形土器（刻目突帯文土器）類				
		指	棒	ヘラ	棒刺突	貝殻腹縁
M	4	2	1	1		
N	18	1	1	1		1
O	36	24	7	5	1	1
P	17	30	10	13	1	
Q	15	28	42	30	1	6
R	11	7	3	4		
計	101	92	64	54	3	8

第25表　３群土器類刻目原体別出土数

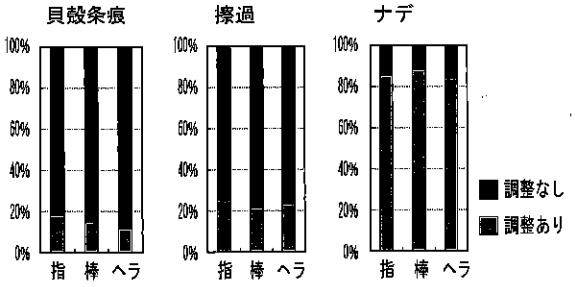
	指	棒	ヘラ	棒刺突	貝殻腹縁	計
Ⅱ層	15	8	13			36
Ⅲa層	17	8	14	2		41
Ⅲb上層	69	52	37	5	1	164
Ⅲb下層	8	7	5	1	2	23
その他	1					1
計	110	75	69	8	3	265

第26表　３群土器類口縁部突帯位置

口縁部突帯位置	指	棒	ヘラ	棒刺突	計
0cm	1	1	6		8
0.1cm	2				2
0.2cm	6	1	3		10
0.3cm	4	8	7		19
0.4cm	5	6	1		12
0.5cm	5	5	6	3	19
0.6cm	3	3	5		11
0.7cm	3	2			5
0.8cm	3	3			6
0.9cm	1	2		1	4
1.0cm	2	2			4
1.1cm	1	1			2
1.8cm	1				1
計	37	34	28	4	103



第２グラフ　３群土器類の外面調整



第３グラフ　３群土器類の内面調整

第27表　1群深鉢形土器類観察表①

番号	層位	グリッド	残存状況 口唇部・下部残存	残存状況 下部欠損	残存状況 口唇部欠損	残存状況 口唇部・下部欠損	傾き	沈線の本数	外面調整 ナデ	外面調整 研磨	外面調整 不明	内面調整 ナデ	内面調整 研磨	内面調整 不明	備考	掲載番号
1	Ⅱ	調査区北半部	○	-	-	-	外傾	3	○	-	-	○	-	-		
2	Ⅱ	調査区北半部	○	-	-	-	外傾	3	○	-	-	○	-	-		
3	Ⅱ	調査区北半部	-	○	-	-	外傾	(3)	-	○	-	-	○	-		
4	Ⅱ	調査区北半部	-	○	-	-	直立	3	-	○	-	-	○	-		
5	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	直立	(3)	○	-	-	○	-	-		
6	Ⅱ	調査区南半部	-	-	○	-	外傾	(1)	○	-	-	-	○	-		
7	Ⅱ	調査区北半部	-	-	○	-	不明	1	-	○	-	-	○	-		
8	Ⅱ	M 8 - b	○	-	-	-	直立	3	-	○	-	-	○	-		
9	Ⅲa	O 9 - a	○	-	-	-	直立	2	○	-	-	-	○	-		
10	Ⅲa	O 9 - a	○	-	-	-	内傾	3	○	-	-	-	○	-		
11	Ⅲa	O 9 - a	○	-	-	-	直立	2	-	○	-	-	○	-		
12	Ⅲa	P 8 - d	○	-	-	-	外傾	3	-	○	-	-	○	-		
13	Ⅲa	Q 8 - d	○	-	-	-	外傾	2	-	○	-	-	○	-		
14	Ⅲa	R 9 - a	○	-	-	-	直立	2	-	○	-	○	-	-		
15	Ⅲa	P 8 - a	-	○	-	-	直立	(2)	-	○	-	○	-	-		
16	Ⅲa	P 9 - c	-	○	-	-	外傾	(3)	-	○	-	-	○	-		
17	Ⅲa	P 9 - a	-	○	-	-	外傾	(3)	-	○	-	-	○	-		
18	Ⅲa	Q 9 - a	-	○	-	-	不明	(3)	-	○	-	-	○	-		
19	Ⅲa	O 9 - a	-	-	○	-	直立	(3)	○	-	-	○	-	-		
20	Ⅲa	P 8 - d	-	-	○	-	不明	(1)	-	○	-	○	-	-		
21	Ⅲa	Q 8 - b	-	-	-	○	不明	(2)	○	-	-	○	-	-		
22	Ⅲb上	Q 9 - a	○	-	-	-	内傾	1	-	○	-	-	○	-		第27図1
23	Ⅲb上	N 8 - c	○	-	-	-	直立	2	○	-	-	-	○	-		第27図2
24	Ⅲb上	Q 8 - c	○	-	-	-	内傾	2	○	-	-	○	-	-		第27図3
25	Ⅲb上	O 8 - a	○	-	-	-	直立	2	-	○	-	-	○	-		第27図4
26	Ⅲb上	O 8 - b	○	-	-	-	外傾	2	-	○	-	○	-	-		第27図5
27	Ⅲb上	R 9 - b	○	-	-	-	内傾	2	○	-	-	○	-	-		第27図6
28	Ⅲb上	O 8 - a	○	-	-	-	直立	3	○	-	-	-	○	-		第27図7
29	Ⅲb上	O 8 - d	○	-	-	-	直立	3	○	-	-	-	○	-		第27図8
30	Ⅲb上	O 8 - b	○	-	-	-	直立	3	○	-	-	○	-	-		第27図9
31	Ⅲb上	O 8 - a	○	-	-	-	直立	3	○	-	-	○	-	-		第27図10
32	Ⅲb上	N 8 - d	○	-	-	-	直立	3	-	○	-	-	○	-		第27図11
33	Ⅲb上	O 8 - b	○	-	-	-	直立	3	-	○	-	-	○	-		第27図12
34	Ⅲb上	O 7 - d	○	-	-	-	直立	3	-	○	-	-	○	-		第27図13
35	Ⅲb上	O 9 - a	○	-	-	-	外傾	3	-	○	-	-	○	-		第27図14
36	Ⅲb上	Q 8 - a	○	-	-	-	外傾	3	-	○	-	-	○	-		第27図15
37	Ⅲb上	N 9 - a	○	-	-	-	直立	3	-	○	-	-	○	-		第27図16
38	Ⅲb上	Q 8 - b	○	-	-	-	外傾	3	○	-	-	○	-	-		第27図17
39	Ⅲb上	R 9 - a	○	-	-	-	内傾	4	-	○	-	○	-	-		第27図18
40	Ⅲb上	O 9 - c	○	-	-	-	外傾	4	-	○	-	-	○	-		第27図19
41	Ⅲb上	O 8 - d	○	-	-	-	外傾	5	-	○	-	-	○	-		第27図20
42	Ⅲb上	R 9 - b	○	-	-	-	外傾	5	-	○	-	-	○	-		第27図21
43	Ⅲb上	P 7 - d	○	-	-	-	外傾	5	-	○	-	-	○	-		第27図22
44	Ⅲb上	P 8 - d	○	-	-	-	直立	-	-	-	○	○	-	-		第27図23
45	Ⅲb上	O 9 - a	○	-	-	-	直立	-	○	-	-	○	-	-		第27図24
46	Ⅲb上	N 8 - c	○	-	-	-	直立	-	-	○	-	○	-	-		第27図25
47	Ⅲb上	N 8 - c	○	-	-	-	外傾	-	○	-	-	○	-	-		第27図26
48	Ⅲb上	Q 8 - a	○	-	-	-	外傾	-	-	○	-	-	○	-		第27図27
49	Ⅲb上	N 8 - a	○	-	-	-	直立	2	○	-	-	○	-	-		
50	Ⅲb上	O 8 - d	○	-	-	-	外傾	2	-	○	-	-	○	-		
51	Ⅲb上	O 9 - c	○	-	-	-	直立	2	○	-	-	○	-	-		
52	Ⅲb上	Q 8 - c	○	-	-	-	直立	0	○	-	-	○	-	-		
53	Ⅲb上	M 8 - a	-	○	-	-	外傾	(3)	○	-	-	○	-	-		
54	Ⅲb上	M 9 - c	-	○	-	-	外傾	(3)	-	○	-	-	○	-		
55	Ⅲb上	N 9 - c	-	○	-	-	外傾	(2)	-	○	-	-	○	-		
56	Ⅲb上	N 8 - d	-	○	-	-	直立	(2)	-	○	-	-	○	-		
57	Ⅲb上	O 8 - a	-	○	-	-	不明	(2)	-	○	-	○	-	-		
58	Ⅲb上	O 8 - b	-	○	-	-	外傾	(2)	○	-	-	○	-	-		
59	Ⅲb上	O 8 - c	-	○	-	-	直立	(2)	-	○	-	-	○	-		
60	Ⅲb上	O 8 - c	-	○	-	-	不明	(2)	-	○	-	-	○	-		
61	Ⅲb上	P 7 - b	-	○	-	-	外傾	(2)	○	-	-	-	○	-		
62	Ⅲb上	P 8 - d	-	○	-	-	直立	(2)	-	-	○	-	-	○		
63	Ⅲb上	P 9 - d	-	○	-	-	直立	4	○	-	-	○	-	-		
64	Ⅲb上	Q 8 - d	-	○	-	-	不明	(1)	○	-	-	○	-	-		
65	Ⅲb上	R 9 - a	-	○	-	-	外傾	(4)	○	-	-	-	○	-		
66	Ⅲb上	N 8 - b	-	-	○	-	外傾	(1)	-	○	-	-	○	-		
67	Ⅲb上	P 8 - a	-	-	○	-	外傾	(1)	○	-	-	○	-	-		
68	Ⅲb上	Q 9 - a	-	-	○	-	外傾	(2)	○	-	-	-	○	-		
69	Ⅲb上	O 8 - b	-	-	-	○	不明	(1)	-	○	-	○	-	-		
70	Ⅲb下	P 8 - b	○	-	-	-	直立	2	-	○	-	-	○	-		第21図1
71	Ⅲb下	N 8 - d	○	-	-	-	内傾	2	-	○	-	○	-	-		第21図2
72	Ⅲb下	O 9 - a	○	-	-	-	外傾	2	-	○	-	-	○	-		第21図3
73	Ⅲb下	R 9 - a	○	-	-	-	外傾	3	○	-	-	○	-	-		第21図4
74	Ⅲb下	O 9 - a	○	-	-	-	外傾	2	-	○	-	-	○	-		第21図5
75	Ⅲb下	N 8 - c	○	-	-	-	直立	3	○	-	-	○	-	-		第21図6
76	Ⅲb下	O 8 - b	○	-	-	-	外傾	3	-	○	-	-	○	-		第21図7
77	Ⅲb下	N 8 - d	○	-	-	-	内傾	4	○	-	-	○	-	-		第21図8
78	Ⅲb下	P 9 - b	○	-	-	-	外傾	4	○	-	-	○	-	-		第21図9
79	Ⅲb下	O 9 - a	○	-	-	-	外傾	4	-	○	-	-	○	-		第21図10
80	Ⅲb下	P 8 - b	○	-	-	-	外傾	4	-	○	-	-	○	-		第21図11

第28表　1群深鉢形土器類観察表②

番号	層位	グリッド	残存状況 口唇部・下部残存	残存状況 下部欠損	残存状況 口唇部欠損	残存状況 口唇部・下部欠損	傾き	沈線の本数	外面調整 ナデ	外面調整 研磨	外面調整 不明	内面調整 ナデ	内面調整 研磨	内面調整 不明	備考	掲載番号
81	Ⅲb下	N 8 - c	○	-	-	-	外傾	5	-	○	-	-	○	-		第21図12
82	Ⅲb下	O 9 - a	○	-	-	-	外傾	0	-	○	-	-	○	-		第21図14
83	Ⅲb下	P 8 - c	○	-	-	-	外傾	0	○	-	-	○	-	-		第21図15
84	Ⅲb下	N 9 - c	○	-	-	-	直立	2	○	-	-	○	-	-		
85	Ⅲb下	O 9 - a	○	-	-	-	外傾	(3)	-	○	-	○	-	-		
86	Ⅲb下	O 9 - a	○	-	-	-	外傾	2	○	-	-	○	-	-		
87	Ⅲb下	O 9 - a	○	-	-	-	直立	2	-	○	-	○	-	-		
88	Ⅲb下	O 9 - c	○	-	-	-	直立	2	○	-	-	○	-	-		
89	Ⅲb下	Q 8 - a	○	-	-	-	内傾	2	○	-	-	○	-	-		
90	Ⅲb下	N 8 - c	-	○	-	-	外傾	(6)	-	○	-	-	○	-		第21図13
91	Ⅲb下	N 8 - b	-	○	-	-	直立	(3)	○	-	-	-	○	-		
92	Ⅲb下	N 8 - b	-	○	-	-	不明	(2)	○	-	-	○	-	-		
93	Ⅲb下	N 9 - c	-	○	-	-	直立	3	-	○	-	-	○	-		
94	Ⅲb下	O 8 - b	-	○	-	-	直立	(2)	○	-	-	○	-	-		
95	Ⅲb下	P 8 - a	-	○	-	-	外傾	(3)	-	○	-	-	○	-		
96	Ⅲb下	P 9 - c	-	○	-	-	外傾	(2)	○	-	-	○	-	-		
97	Ⅲb下	Q 9 - a	-	○	-	-	外傾	(4)	○	-	-	-	○	-		
98	Ⅲb下	R 9 - a	-	○	-	-	外傾	(3)	○	-	-	-	○	-		
99	Ⅲb下	R 9 - a	-	○	-	-	外傾	(2)	○	-	-	-	○	-		
100	Ⅲb下	R 9 - a	-	○	-	-	不明	(2)	-	○	-	-	○	-		
101	Ⅲb下	R 9 - a	-	-	○	-	外傾	(2)	○	-	-	○	-	-		
102	Ⅲb下	R 9 - a	-	-	○	-	外傾	(2)	-	○	-	-	○	-		
103	Ⅲb下	M 8 - c	-	-	○	-	不明	(1)	-	○	-	○	-	-		
104	Ⅲb下	O 8 - b	-	-	○	-	不明	(1)	○	-	-	○	-	-		
105	Ⅲb下	O 8 - d	-	-	○	-	直立	(2)	-	○	-	○	-	-		
106	Ⅲb下	Q 8 - d	-	-	-	○	不明	(2)	○	-	-	-	○	-		
107	Ⅲb下	Q 9 - d	-	-	-	○	不明	(1)	-	○	-	-	○	-		
108	-	- - - -	○	-	-	-	内傾	3	-	○	-	○	-	-	模穴P-61	第11図3
109	-	O 8 - d	○	-	-	-	外傾	5	-	○	-	-	○	-		第20図
110	-	- - - -	○	-	-	-	内傾	2	-	○	-	-	○	-	廃土	
111	-	- - - -	○	-	-	-	直立	3	-	○	-	-	○	-	ベルト掻除分	
112	-	- - - -	-	○	-	-	直立	(3)	○	-	-	-	○	-	廃土	
113	-	- - - -	-	○	-	-	内傾	(2)	-	○	-	-	○	-	廃土	
114	-	- - - -	-	-	○	-	外傾	(2)	○	-	-	○	-	-	廃土	

【1群深鉢形土器類観察表説明】

残存状況

口縁部文様帯の残存状況を示す。「口唇部・下部残存」は頸部との接合部分から口唇部まで確認できるもの，「下部欠損」は頸部との接合部分を欠損するもの，「口唇部欠損」は口唇部を欠損するもの，「口唇部・下部欠損」は口縁部文様帯の上下が欠損し，沈線の存在から口縁部資料であると判断されるものである。

傾き

口縁部文様帯断面の傾きである。「内傾」，「直立」，「外傾」に分ける。

沈線の本数

口縁部文様帯に施された沈線の本数である。「0」は沈線を施していないもの，（　）は口縁部文様帯の口唇部，下部あるいはその両者を欠損しているものについて確認できる沈線の本数を示す。

外面調整・内面調整

「ナデ」調整，「研磨」調整，「不明」がある。該当欄に「○」で示す。

第29表　3群深鉢形土器類観察表①

番号	刻目原体	層位	グリッド	口縁部突帯	胴部突帯	口縁部突帯位置	口縁部傾き	胴部屈曲	外面調整 貝殻条痕	擦過	ナデ	刷毛目	不明	内面調整 貝殻条痕	擦過	ナデ	刷毛目	不明	備考	掲載番号
1	指	Ⅱ	M 8 - a	○	-	0.5	直立	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-		-
2	指	Ⅱ	調査区南半部	○	-	1.0	直立	-	○	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
3	指	Ⅱ	調査区南半部	○	-	0.8	直立	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
4	指	Ⅱ	調査区南半部	○	-	0.3	内傾	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
5	指	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	C	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-		-
6	指	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	C	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
7	指	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
8	指	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	B	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
9	指	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	C	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
10	指	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
11	指	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
12	指	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
13	指	Ⅱ	調査区北半部	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
14	指	Ⅱ	調査区北半部	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-		-
15	指	Ⅱ	調査区北半部	-	○	-	-	不明	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
16	指	Ⅲa	O 9 - a	○	-	1.1	内傾	-	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-		-
17	指	Ⅲa	トレンチ1	○	-	0.4	不明	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
18	指	Ⅲa	P 8 - a	○	-	0.4	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
19	指	Ⅲa	P 8 - d	○	-	0.9	内傾	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
20	指	Ⅲa	P 9 - c	○	-	0.2	内傾	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○		-
21	指	Ⅲa	Q 8 - d	○	-	1.0	直立	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-		-
22	指	Ⅲa	O 9 - a	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		-
23	指	Ⅲa	トレンチ1	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
24	指	Ⅲa	トレンチ1	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
25	指	Ⅲa	トレンチ2	-	○	-	-	C	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-		-
26	指	Ⅲa	P 7 - c	-	○	-	-	不明	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		-
27	指	Ⅲa	P 8 - a	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
28	指	Ⅲa	P 8 - a	-	○	-	-	B	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		-
29	指	Ⅲa	P 8 - d	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
30	指	Ⅲa	P 9 - d	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
31	指	Ⅲa	P 9 - a	-	○	-	-	不明	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
32	指	Ⅲa	Q 8 - b	-	○	-	-	B	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		-
33	指	Ⅲb上	P 8 - d	○	○	0.6	内傾	C	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		第28図45
34	指	Ⅲb上	Q 8 - a	○	○	0.4	直立	C	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第28図46
35	指	Ⅲb上	Q 9 - a	○	○	0.2	直立	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第28図47
36	指	Ⅲb上	P 8 - a	○	○	0.1	直立	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第28図48
37	指	Ⅲb上	Q 8 - a	○	○	0.2	直立	B	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図49
38	指	Ⅲb上	P 8 - a	○	○	-	内傾	A	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		第28図50
39	指	Ⅲb上	Q 9 - b	×	○	-	内傾	B	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図51
40	指	Ⅲb上	O 8 - a·c	×	○	-	内傾	A	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		第28図52
41	指	Ⅲb上	O 8 - d	×	○	-	直立	D	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第28図53
42	指	Ⅲb上	Q 8 - c	○	-	0.7	内傾	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-		第28図54
43	指	Ⅲb上	O 8 - c	○	-	0.6	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	○	-		第28図55
44	指	Ⅲb上	Q 9 - d	○	-	0.8	内傾	-	-	○	○	-	-	-	-	○	○	-		第28図56
45	指	Ⅲb上	Q 9 - d	○	-	0.7	内傾	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図57
46	指	Ⅲb上	Q 9 - c	○	-	0.7	内傾	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-		第28図58
47	指	Ⅲb上	O 8 - d	○	-	0.6	内傾	-	○	-	○	-	-	-	○	○	-	-		第28図59
48	指	Ⅲb上	O 9 - c	○	-	0.3	内傾	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図60
49	指	Ⅲb上	Q 8 - a	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図61
50	指	Ⅲb上	O 9 - d	○	-	0.5	内傾	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図62
51	指	Ⅲb上	P 9 - c	○	-	0.1	内傾	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第28図63
52	指	Ⅲb上	Q 8 - a.b	○	-	0.2	内傾	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図64
53	指	Ⅲb上	R 8 - b	○	-	0.3	内傾	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-		-
54	指	Ⅲb上	Q 9 - a	○	-	0.5	不明	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
55	指	Ⅲb上	Q 9 - a	○	-	0.8	直立	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
56	指	Ⅲb上	Q 8 - d	○	-	0.5	内傾	-	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-		-
57	指	Ⅲb上	Q 9 - d	○	-	0.5	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
58	指	Ⅲb上	P 8 - d	○	-	0.2	内傾	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
59	指	Ⅲb上	P 8 - c	○	-	0	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
60	指	Ⅲb上	O 8 - d	○	-	0.4	不明	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○		-
61	指	Ⅲb上	O 8 - a	○	-	0.4	不明	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
62	指	Ⅲb上	P 7 - d	-	○	-	-	A	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-		第28図65
63	指	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		第28図66
64	指	Ⅲb上	P 8 - c	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		第28図67
65	指	Ⅲb上	R 9 - a	-	○	-	-	A	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-		第28図68
66	指	Ⅲb上	P 7 - c	-	○	-	-	B	-	○	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図69
67	指	Ⅲb上	O 8 - a	-	○	-	-	B	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第28図70
68	指	Ⅲb上	Q 9 - d	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		第28図71
69	指	Ⅲb上	M 9 - c	-	○	-	-	A	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図72
70	指	Ⅲb上	O 8 - d	-	○	-	-	D	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-		第29図73
71	指	Ⅲb上	O 8 - b	-	○	-	-	C	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図74
72	指	Ⅲb上	O 8 - d	-	○	-	-	A	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第29図75
73	指	Ⅲb上	O 9 - a	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図76
74	指	Ⅲb上	N 8 - d	-	○	-	-	C	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図77
75	指	Ⅲb上	P 8 - c	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図78
76	指	Ⅲb上	O 8 - a	-	○	-	-	C	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図79
77	指	Ⅲb上	R 8 - d	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
78	指	Ⅲb上	R 8 - b	-	○	-	-	C	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
79	指	Ⅲb上	R 9 - a	-	○	-	-	B	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
80	指	Ⅲb上	R 9 - a	-	○	-	-	C	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-

第30表　3群深鉢形土器類観察表②

番号	刻目原体	層位	グリッド	口縁部突帯	胴部突帯	口縁部突帯位置	口縁部傾き	胴部屈曲	外面調整 貝殻条痕	擦過	ナデ	刷毛目	不明	内面調整 貝殻条痕	擦過	ナデ	刷毛目	不明	備考	掲載番号
81	指	Ⅲb上	Q 8 - d	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
82	指	Ⅲb上	Q 8 - d	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
83	指	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		-
84	指	Ⅲb上	Q 8 - c	-	○	-	-	C	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-		-
85	指	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	B	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
86	指	Ⅲb上	Q 8 - d	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-		-
87	指	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	A	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		-
88	指	Ⅲb上	Q 9 - a	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
89	指	Ⅲb上	P 7 - b	-	○	-	-	不明	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		-
90	指	Ⅲb上	P 7 - b	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
91	指	Ⅲb上	P 8 - c	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
92	指	Ⅲb上	P 8 - b	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
93	指	Ⅲb上	P 8 - a	-	○	-	-	C	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
94	指	Ⅲb上	P 8 - b	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
95	指	Ⅲb上	P 9 - c	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
96	指	Ⅲb上	O 8 - b	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
97	指	Ⅲb上	O 7 - b	-	○	-	-	A	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-		-
98	指	Ⅲb上	O 8 - a	-	○	-	-	C	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
99	指	Ⅲb上	O 8 - a	-	○	-	-	不明	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
100	指	Ⅲb上	O 8 - a	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
101	指	Ⅲb上	O 9 - a	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
102	指	Ⅲb下	P 8 - b	○	-	1.8	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第21図21
103	指	Ⅲb下	P 7 - b	○	-	0.2	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
104	指	Ⅲb下	O 8 - d	-	○	-	-	B	-	○	-	-	-	○	-	○	-	-		-
105	指	Ⅲb下	P 7 - b	-	○	-	-	A	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		-
106	指	Ⅲb下	P 7 - b	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
107	指	Ⅲb下	Q 8 - c	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
108	指	Ⅲb下	Q 9 - a	-	○	-	-	C	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-		-
109	指	Ⅲb下	R 9 - b	-	○	-	-	A	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
110	指	-	O 9 - d	-	○	-	直立	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土坑1	第14図
111	棒	Ⅱ	調査区北半部	○	-	0.6	内傾	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		-
112	棒	Ⅱ	調査区北半部	○	-	0.5	内傾	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		-
113	棒	Ⅱ	M 8 - b	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
114	棒	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
115	棒	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
116	棒	Ⅱ	調査区北半部	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
117	棒	Ⅱ	調査区北半部	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
118	棒	Ⅱ	調査区北半部	-	○	-	-	C	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-		-
119	棒	Ⅲa	トレンチ2	○	-	0.4	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
120	棒	Ⅲa	N 9 - c	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
121	棒	Ⅲa	トレンチ2	-	○	-	-	D	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		-
122	棒	Ⅲa	トレンチ2	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
123	棒	Ⅲa	トレンチ2	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
124	棒	Ⅲa	Q 8 - c	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
125	棒	Ⅲa	Q 9 - b	-	○	-	-	B	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
126	棒	Ⅲa	Q 9 - d	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-		-
127	棒	Ⅲb上	P 8 - d	○	○	1.0	外傾	D	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-		第29図80
128	棒	Ⅲb上	Q 8 - b	○	○	0.3	内傾	C	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図81
129	棒	Ⅲb上	O 8 - b	○	-	0.9	内傾	-	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第29図82
130	棒	Ⅲb上	Q 8 - a	○	-	0.5	内傾	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図83
131	棒	Ⅲb上	Q 9 - c	○	-	1.1	内傾	-	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第29図84
132	棒	Ⅲb上	Q 9 - a	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図85
133	棒	Ⅲb上	Q 9 - a	○	-	0.2	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図86
134	棒	Ⅲb上	Q 8 - b	○	-	0.4	直立	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図87
135	棒	Ⅲb上	Q 8 - d	○	-	0.6	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図88
136	棒	Ⅲb上	O 9 - a	○	-	0.9	内傾	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図89
137	棒	Ⅲb上	Q 9 - d	○	-	0.7	内傾	-	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-		第29図90
138	棒	Ⅲb上	O 9 - c	○	-	0.8	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図91
139	棒	Ⅲb上	P 9 - c	○	-	0.8	内傾	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		第29図92
140	棒	Ⅲb上	Q 9 - a	○	-	0.5	直立	-	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図94
141	棒	Ⅲb上	R 9 - a	○	-	0.4	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
142	棒	Ⅲb上	R 8 - b	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
143	棒	Ⅲb上	Q 8 - b	○	-	0.3	内傾	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
144	棒	Ⅲb上	Q 8 - c	○	-	1.0	直立	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		-
145	棒	Ⅲb上	Q 9 - c	○	-	0.5	内傾	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
146	棒	Ⅲb上	Q 9 - a	○	-	0.4	不明	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
147	棒	Ⅲb上	Q 8 - d	○	-	0.8	不明	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
148	棒	Ⅲb上	Q 8 - b	○	-	0.5	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
149	棒	Ⅲb上	P 7 - b	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
150	棒	Ⅲb上	P 8 - a	○	-	0.4	不明	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
151	棒	Ⅲb上	P 8 - a	○	-	0.4	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
152	棒	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図100
153	棒	Ⅲb上	P 8 - c	-	○	-	-	D	○	○	○	-	-	○	-	○	-	-		第29図101
154	棒	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	D	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図102
155	棒	Ⅲb上	Q 9 - d	-	○	-	-	A	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		第29図95
156	棒	Ⅲb上	Q 9 - a	-	○	-	-	A	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-		第29図96
157	棒	Ⅲb上	Q 8 - c	-	○	-	-	C	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図97
158	棒	Ⅲb上	Q 9 - d	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第29図98
159	棒	Ⅲb上	P 8 - a	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第29図99
160	棒	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-

第31表　3群深鉢形土器類観察表③

番号	刻目原体	層位	グリッド	口縁部突帯	胴部突帯	口縁部突帯位置	口縁部傾き	胴部屈曲	外面調整 貝殻条痕	擦過	ナデ	刷毛目	不明	内面調整 貝殻条痕	擦過	ナデ	刷毛目	不明	備考	掲載番号
161	棒	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	D	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
162	棒	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
163	棒	Ⅲb上	Q 8 - b	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
164	棒	Ⅲb上	Q 8 - d	-	○	-	-	A	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
165	棒	Ⅲb上	Q 9 - a	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
166	棒	Ⅲb上	Q 9 - a	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-		-
167	棒	Ⅲb上	Q 9 - a	-	○	-	-	A	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
168	棒	Ⅲb上	Q 8 - b	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
169	棒	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	A	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
170	棒	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
171	棒	Ⅲb上	Q 9 - d	-	○	-	-	C	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
172	棒	Ⅲb上	P 9 - a	-	○	-	-	B	-	○	-	-	-	-	○	○	-	-		-
173	棒	Ⅲb上	P 7 - b	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
174	棒	Ⅲb上	P 8 - a	-	○	-	-	不明	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
175	棒	Ⅲb上	O 9 - a	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-		-
176	棒	Ⅲb上	O 9 - b	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
177	棒	Ⅲb上	O 9 - c	-	○	-	-	D	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		-
178	棒	Ⅲb上	O 9 - c	-	○	-	-	不明	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
179	棒	Ⅲb下	Q 8 - c	○	○	0.3	内傾	B	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		第21図23
180	棒	Ⅲb下	Q 8 - a	○	-	0.7	直立	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		-
181	棒	Ⅲb下	Q 8 - a	○	-	0.6	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
182	棒	Ⅲb下	Q 9 - b	△	-	0	不明	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	直接刻み	-
183	棒	Ⅲb下	R 9 - b	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
184	棒	Ⅲb下	Q 8 - c	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		第21図24
185	棒	Ⅲb下	Q 8 - c	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-		-
186	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	○	○	-	内傾	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	口縁部刻みなし	-
187	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	○	-	0	内傾	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
188	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	○	-	0.5	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
189	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	○	-	0.5	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
190	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	△	-	0	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	直接刻み	-
191	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	△	-	0	内傾	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	直接刻み	-
192	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	○	-	0.5	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
193	ヘラ	Ⅱ	M 8 - b	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
194	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
195	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
196	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	A	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
197	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	-	○	-	-	-		-
198	ヘラ	Ⅱ	調査区南半部	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	○	-	-	-	-		-
199	ヘラ	Ⅲa	トレンチ1	○	○	0.6	内傾	A	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
200	ヘラ	Ⅲa	O 9 - d	○	-	0.6	直立	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
201	ヘラ	Ⅲa	トレンチ1	△	-	0	直立	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	直接刻み	-
202	ヘラ	Ⅲa	P 7 - b	○	-	0.3	不明	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○		-
203	ヘラ	Ⅲa	P 8 - d	○	-	0.5	不明	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
204	ヘラ	Ⅲa	Q 8 - c	○	-	0.3	直立	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		-
205	ヘラ	Ⅲa	Q 8 - a	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
206	ヘラ	Ⅲa	Q 8 - c	○	-	0	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
207	ヘラ	Ⅲa	トレンチ2	-	○	-	-	C	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		-
208	ヘラ	Ⅲa	P 8 - c	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
209	ヘラ	Ⅲa	P 9 - c	-	○	-	-	不明	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
210	ヘラ	Ⅲa	Q 8 - c	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		-
211	ヘラ	Ⅲa	Q 8 - a	-	○	-	-	B	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		-
212	ヘラ	Ⅲa	Q 9 - a	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
213	ヘラ	Ⅲb上	O 9 - c	○	○	0.2	内傾	A	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-		第30図103
214	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - d	○	○	0.5	内傾	A	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		第30図104
215	ヘラ	Ⅲb上	Q 9 - d	○	○	0.5	内傾	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図105
216	ヘラ	Ⅲb上	P 8 - b	○	○	-	直立	B	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第30図108
217	ヘラ	Ⅲb上	P 8 - a	×	○	-	直立	B	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図106
218	ヘラ	Ⅲb上	P 7 - d	×	○	-	内傾	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図107
219	ヘラ	Ⅲb上	O 9 - b	○	-	0.6	内傾	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図109
220	ヘラ	Ⅲb上	Q 9 - b	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図110
221	ヘラ	Ⅲb上	Q 9 - d	○	-	-	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図111
222	ヘラ	Ⅲb上	P 9 - d	○	-	0.2	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図112
223	ヘラ	Ⅲb上	N 8 - c	○	-	-	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図113
224	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - b	○	-	-	内傾	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図114
225	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - b	○	-	-	内傾	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第30図115
226	ヘラ	Ⅲb上	R 9 - a	○	-	0.3	不明	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
227	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - c	○	-	0.4	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
228	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - c	○	-	0.2	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
229	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - b	○	-	0.3	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
230	ヘラ	Ⅲb上	Q 9 - c	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図116
231	ヘラ	Ⅲb上	R 8 - b	-	○	-	-	B	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図117
232	ヘラ	Ⅲb上	P 9 - a	-	○	-	-	D	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-		第30図118
233	ヘラ	Ⅲb上	R 8 - b	-	○	-	-	不明	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
234	ヘラ	Ⅲb上	R 9 - b	-	○	-	-	D	-	-	○	-	-	○	-	○	-	-		-
235	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	A	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		-
236	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - d	-	○	-	-	不明	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-		-
237	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
238	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - c	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
239	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	A	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		-
240	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - d	-	○	-	-	B	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-

第32表　3群深鉢形土器類観察表④

番号	刻目原体	層位	グリッド	口縁部突帯	胴部突帯	口縁部突帯位置	口縁部傾き	胴部屈曲	外面調整 貝殻条痕	擦過	ナデ	刷毛目	不明	内面調整 貝殻条痕	擦過	ナデ	刷毛目	不明	備考	掲載番号
241	ヘラ	Ⅲb上	Q 9 - c	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
242	ヘラ	Ⅲb上	Q 9 - d	-	○	-	-	B	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		-
243	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - d	-	○	-	-	C	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
244	ヘラ	Ⅲb上	Q 9 - b	-	○	-	-	C	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-		-
245	ヘラ	Ⅲb上	Q 8 - c	-	○	-	-	C	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
246	ヘラ	Ⅲb上	Q 9 - a	-	○	-	-	C	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
247	ヘラ	Ⅲb上	P 8 - a	-	○	-	-	不明	-	○	○	-	-	○	-	○	-	-		-
248	ヘラ	Ⅲb上	P 7 - b	-	○	-	-	不明	-	○	○	-	-	-	○	○	-	-		-
249	ヘラ	Ⅲb上	P 8 - a	-	○	-	-	B	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-		-
250	ヘラ	Ⅲb下	Q 8 - d	○	-	0	直立	-	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
251	ヘラ	Ⅲb下	Q 9 - d	○	-	0.3	不明	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○		-
252	ヘラ	Ⅲb下	P 7 - b	○	-	0.6	直立	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-		第21図22
253	ヘラ	Ⅲb下	O 9 - c	○	-	0.6	内傾	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第21図25
254	ヘラ	Ⅲb下	O 9 - c	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	○	○	-	-		-
255	棒刺突	Ⅲa	O 8 - d	○	-	0.5	内傾	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
256	棒刺突	Ⅲa	Q 9 - c	○	-	0.5	不明	-	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-		-
257	棒刺突	Ⅲb上	Q 9 - d	○	-	0.9	内傾	-	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-		第29図93
258	棒刺突	Ⅲb上	Q 8 - c	○	-	0.5	内傾	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図119
259	棒刺突	Ⅲb上	Q 8 - a	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		第30図120
260	棒刺突	Ⅲb上	Q 8 - c	-	○	-	-	A	-	○	○	-	-	-	-	○	-	-		-
261	棒刺突	Ⅲb上	Q 9 - d	-	○	-	-	A	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
262	貝殻腹縁	Ⅲb上	Q 9 - a	-	○	-	-	C	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		-
263	貝殻腹縁	Ⅲb下	O 8 - c	-	○	-	-	B	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-		第21図26
264	貝殻腹縁	Ⅲb下	P 8 - b	-	○	-	-	B	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-
265	棒刺突	Ⅲb下	N 8 - b	-	○	-	-	D	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-		-

【3群深鉢形土器類観察表説明】

刻目原体

突帯に施した刻目原体の種類である。他に比べて大振りなことが多く，刻目内に爪痕を残すこともある「指」刻み，棒状工具の側面を突帯に押し当て，あるいは押し当てた後に上方向に引き上げて施文する「棒」刻み，ヘラ状工具により施文する「ヘラ」刻み，棒状工具・竹管状工具の先端で突帯を突き刺すようして施文する「棒刺突」，２枚貝を用いる「貝殻腹縁」刻みがある。

口縁部突帯

口縁部に突帯を貼り付けるものを「○」，口縁部突帯は持たないが口唇部に直接刻目を施すものを「△」，貼り付けないものを「×」で示す。

胴部突帯

胴部に突帯を貼り付けるものを「○」で示す。

口縁部突帯位置

口唇部から口縁部突帯までの間隔を示す。単位はcmである。「0」は口縁部突帯がそのまま口唇部となっているもの，口縁部突帯を貼り付けず口唇部に直接刻目を施すものである。

口縁部傾き

口縁部断面の傾きである。「内傾」，「直立」，「外傾」に分ける。

胴部屈曲

胴部断面の屈曲具合を強く屈曲「A」タイプ，弱く屈曲する「B」タイプ，屈曲せず緩やかに湾曲する「C」タイプ，屈曲も湾曲もせず直線的な「D」タイプの４種類に分ける。

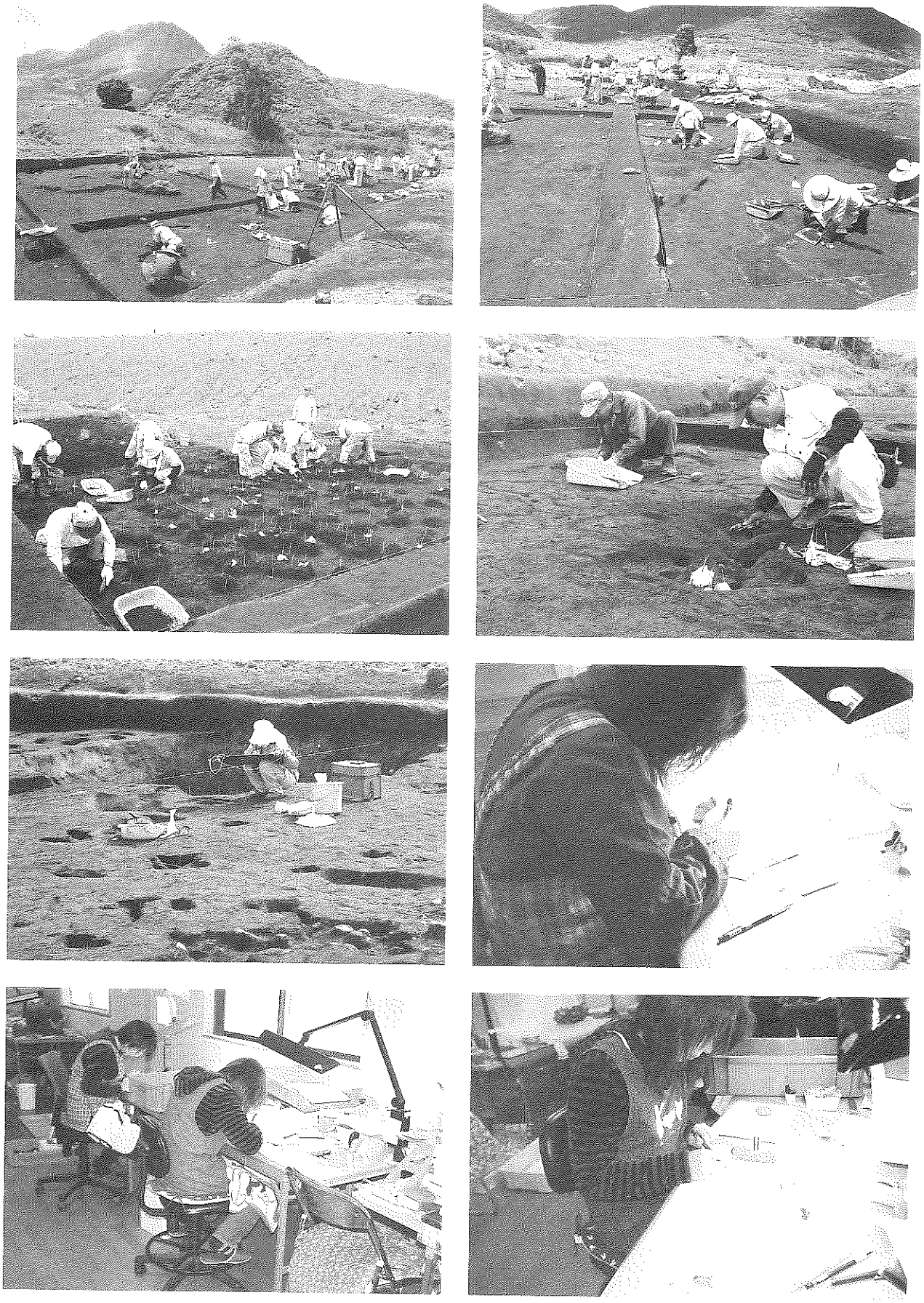
外面調整・内面調整

口縁部断面の傾きである。「貝殻条痕」調整，「擦過」調整，「ナデ」調整，「刷毛目」調整，「不明」がある。該当欄に「○」で示す。ただし，突帯貼り付け時のナデ調整は器面調整と区別するので，ここでは含まない。

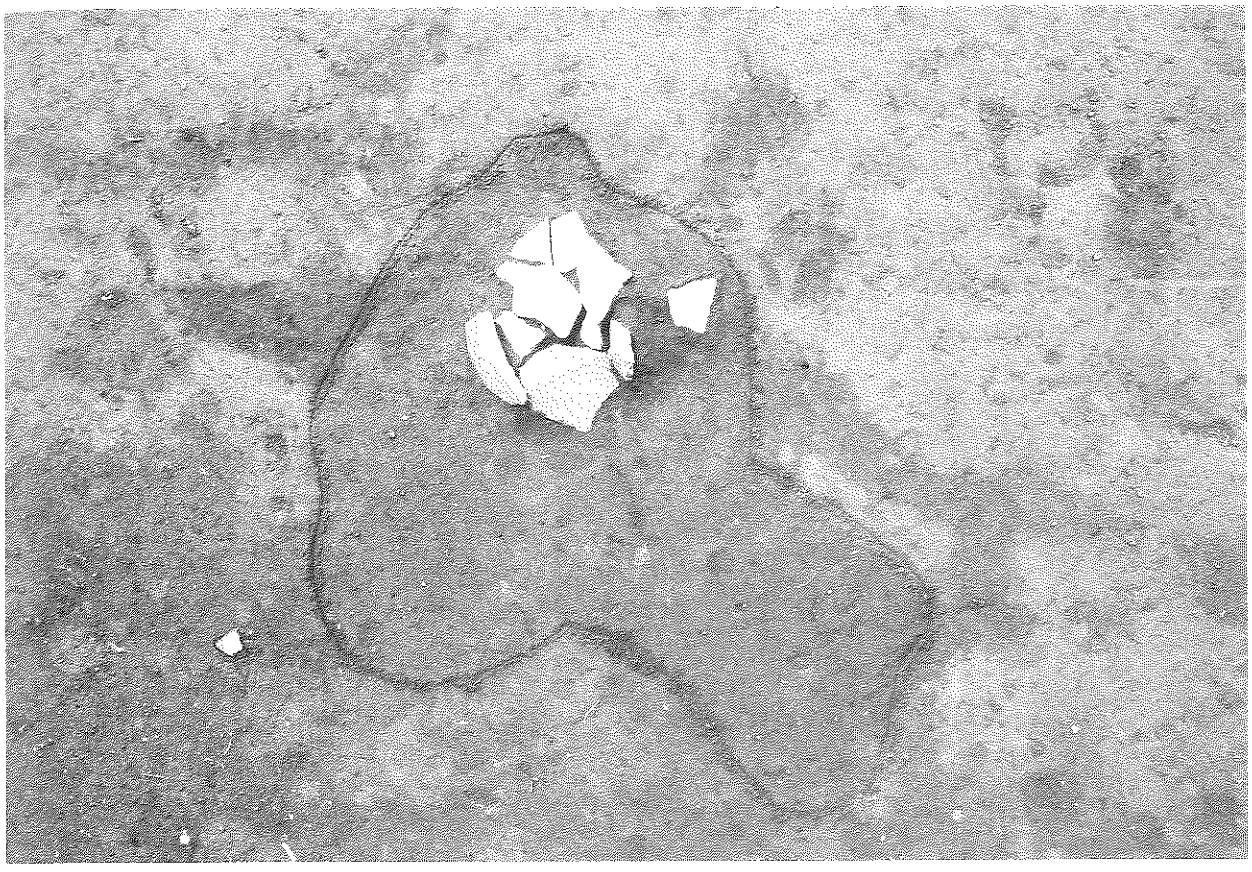
図　　版

調査区空中写真

図版 2



調査風景・整理風景



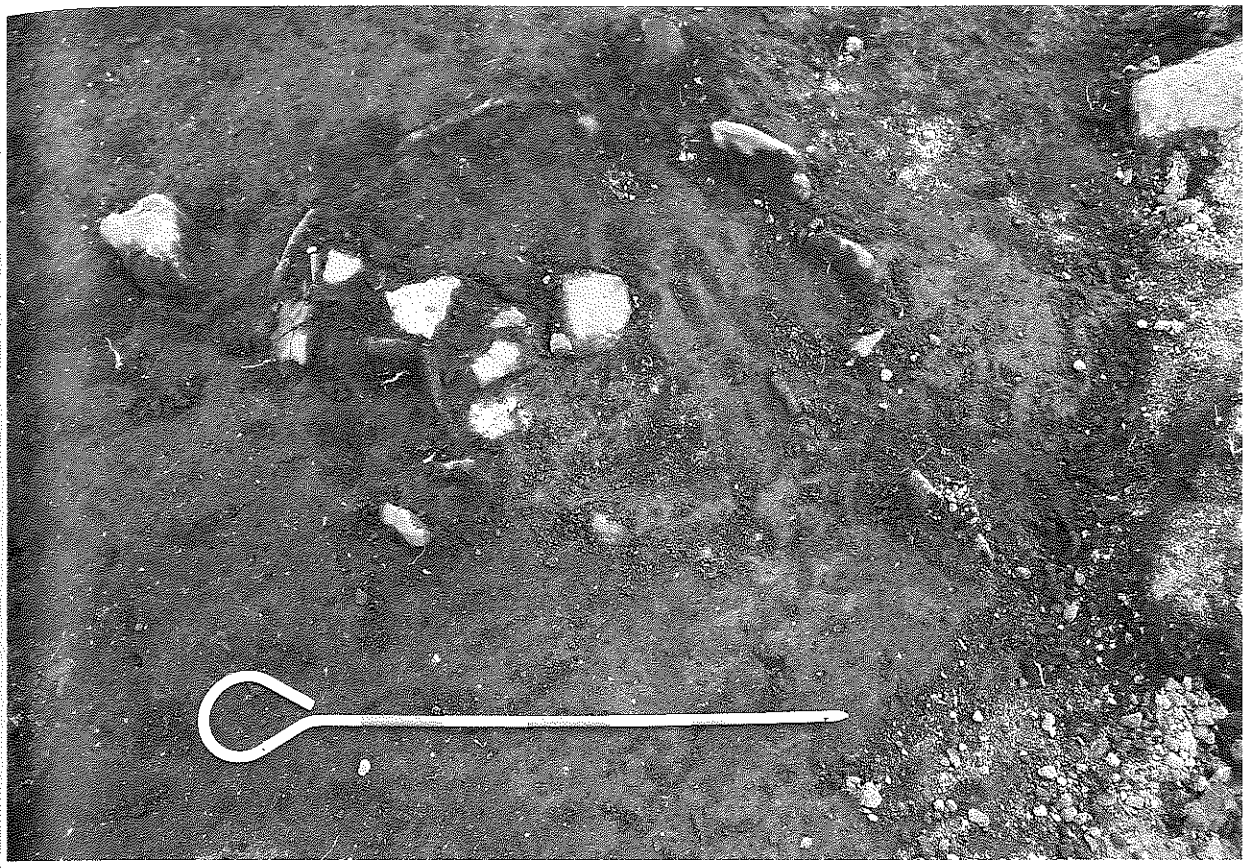
土坑 1 検出状況①

土坑 1 検出状況②

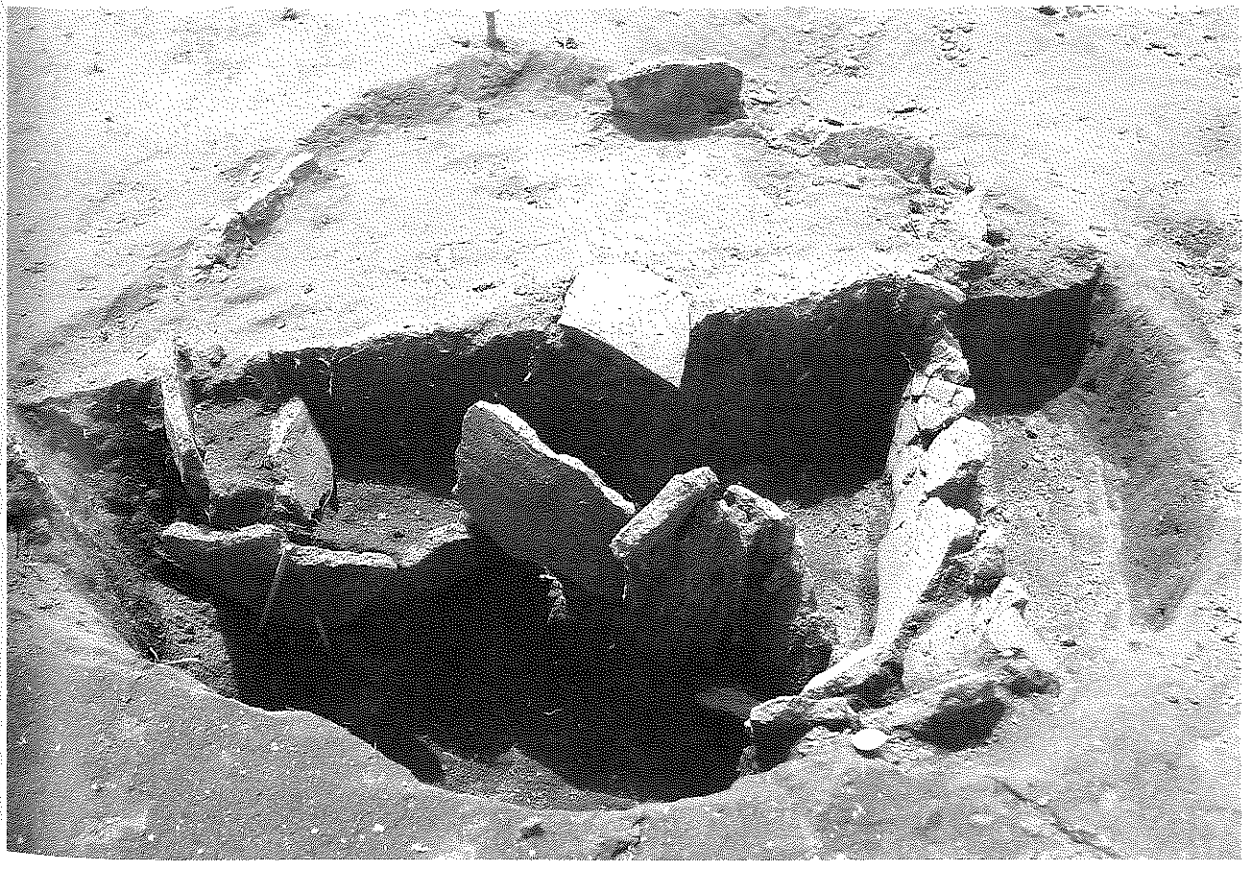
図版 4

土坑 2 内遺物検出状況①

土坑 3 内遺物検出状況①



埋甕 1 検出状況①

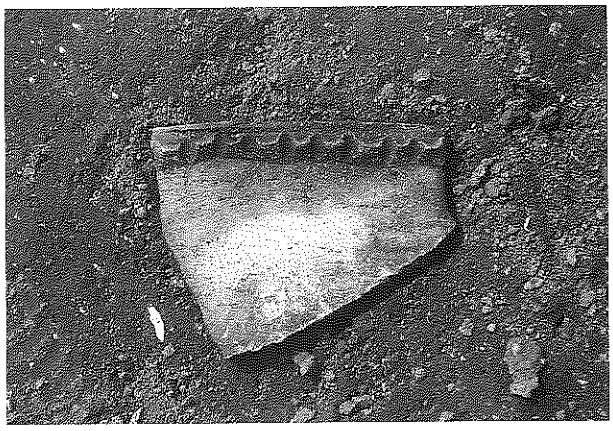
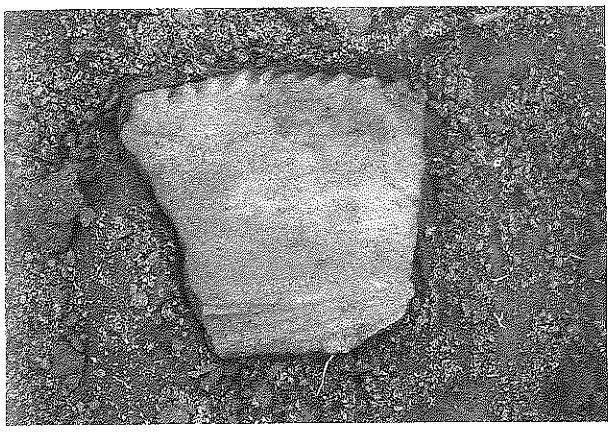
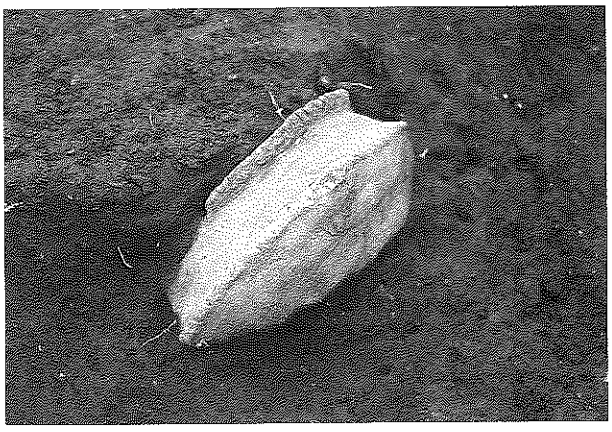


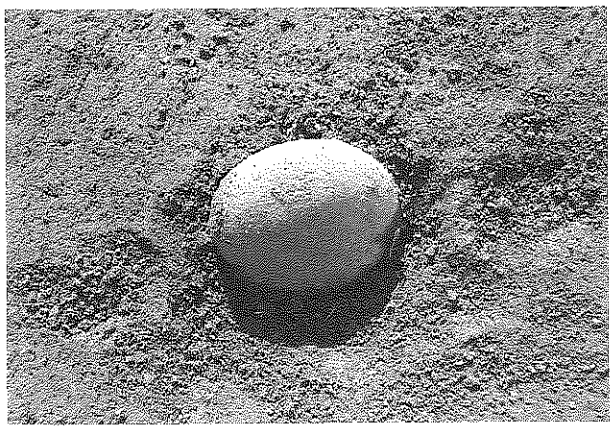
埋甕 1 検出状況②

図版 6

埋甕 2 検出状況①

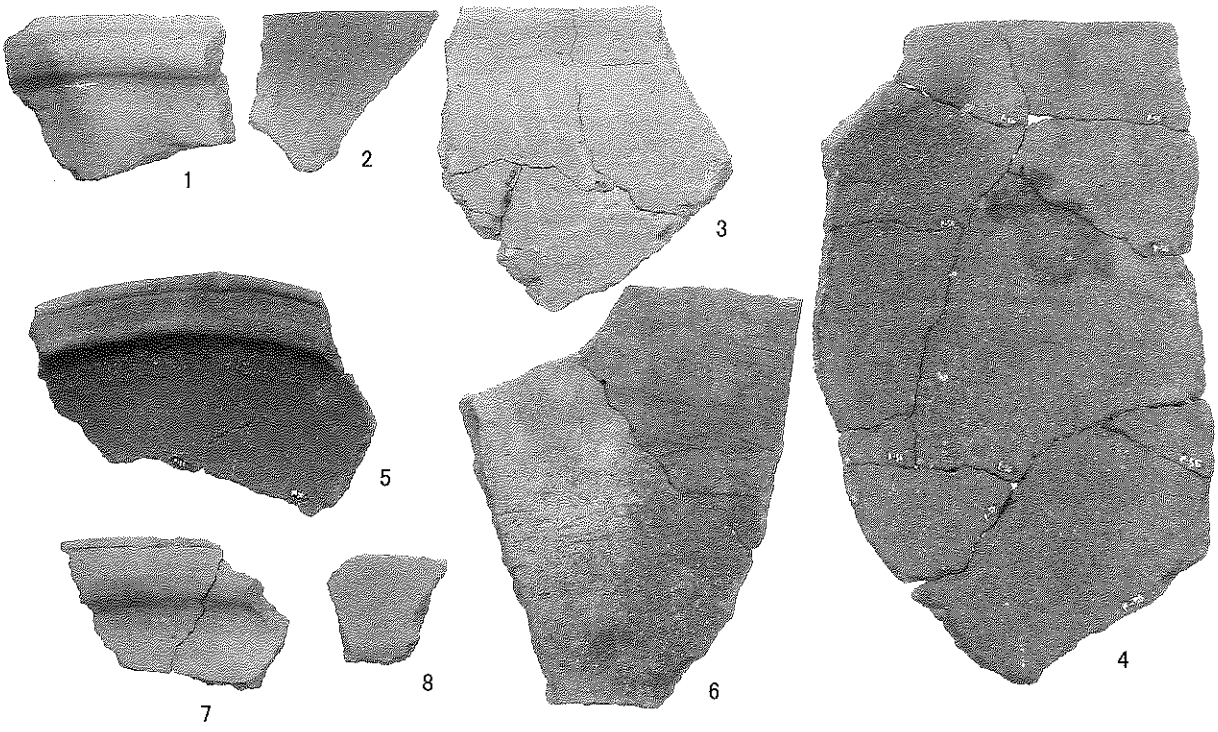
埋甕 2 検出状況②



遺物出土状況

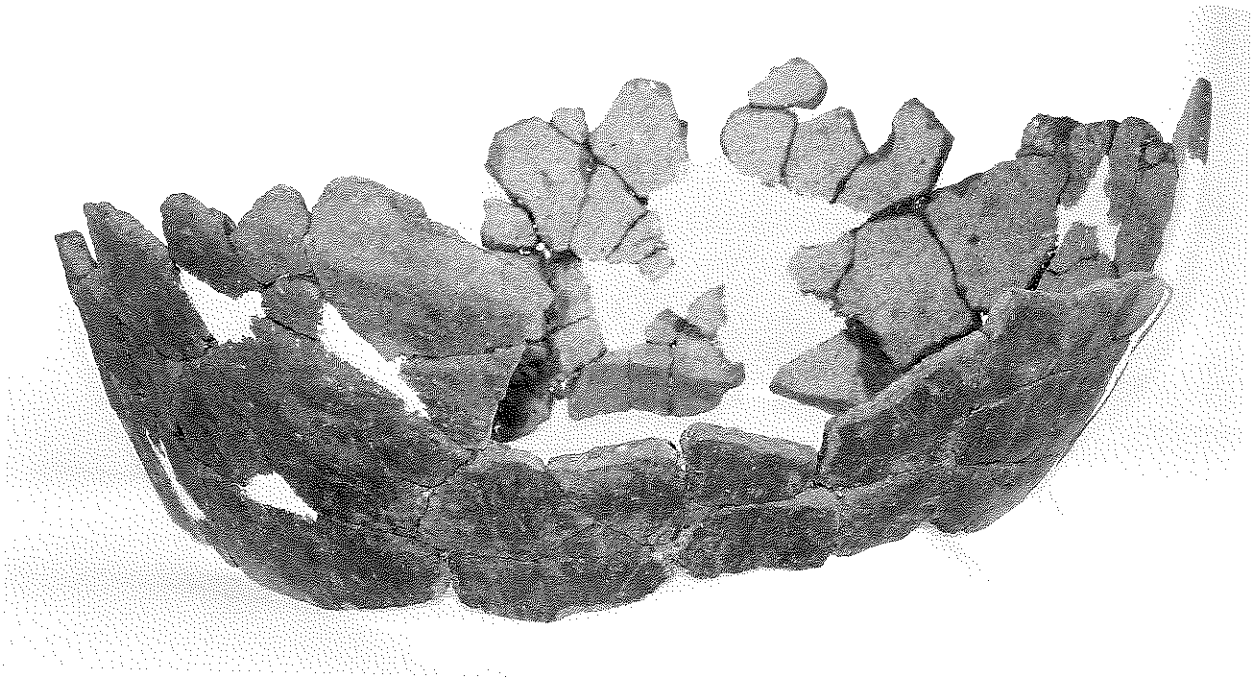
図版 8



ピット内他出土遺物

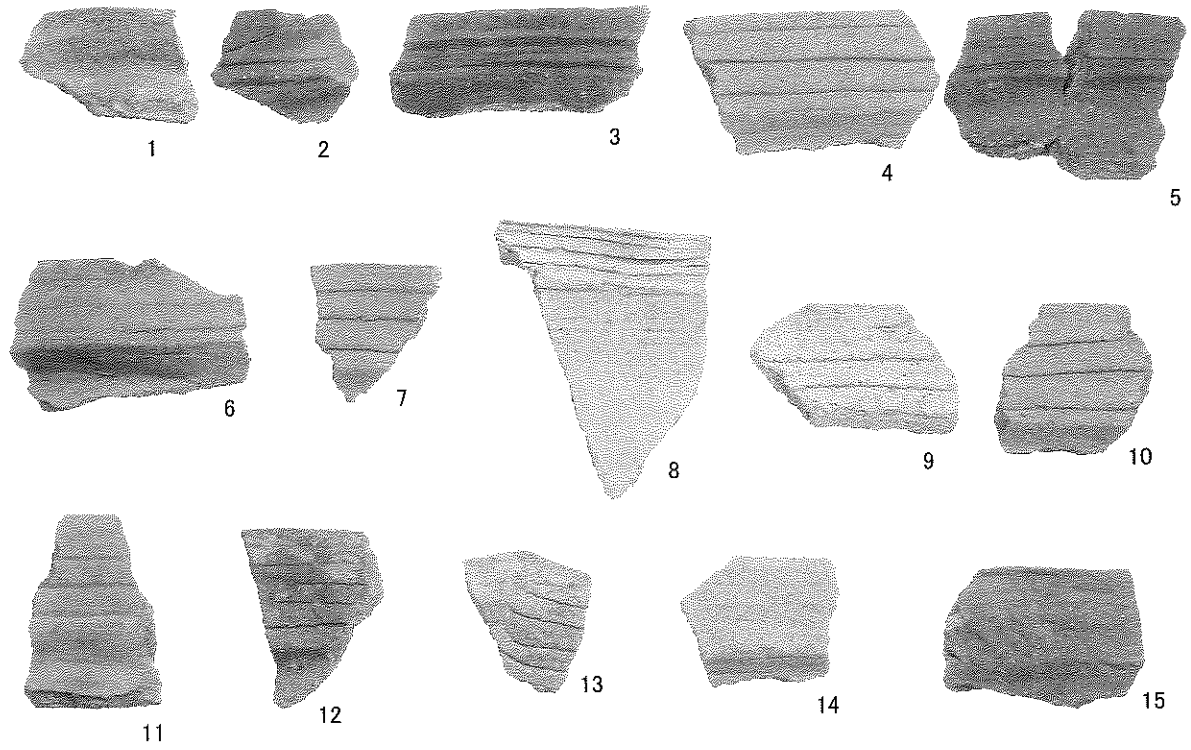
土坑 1 内出土遺物

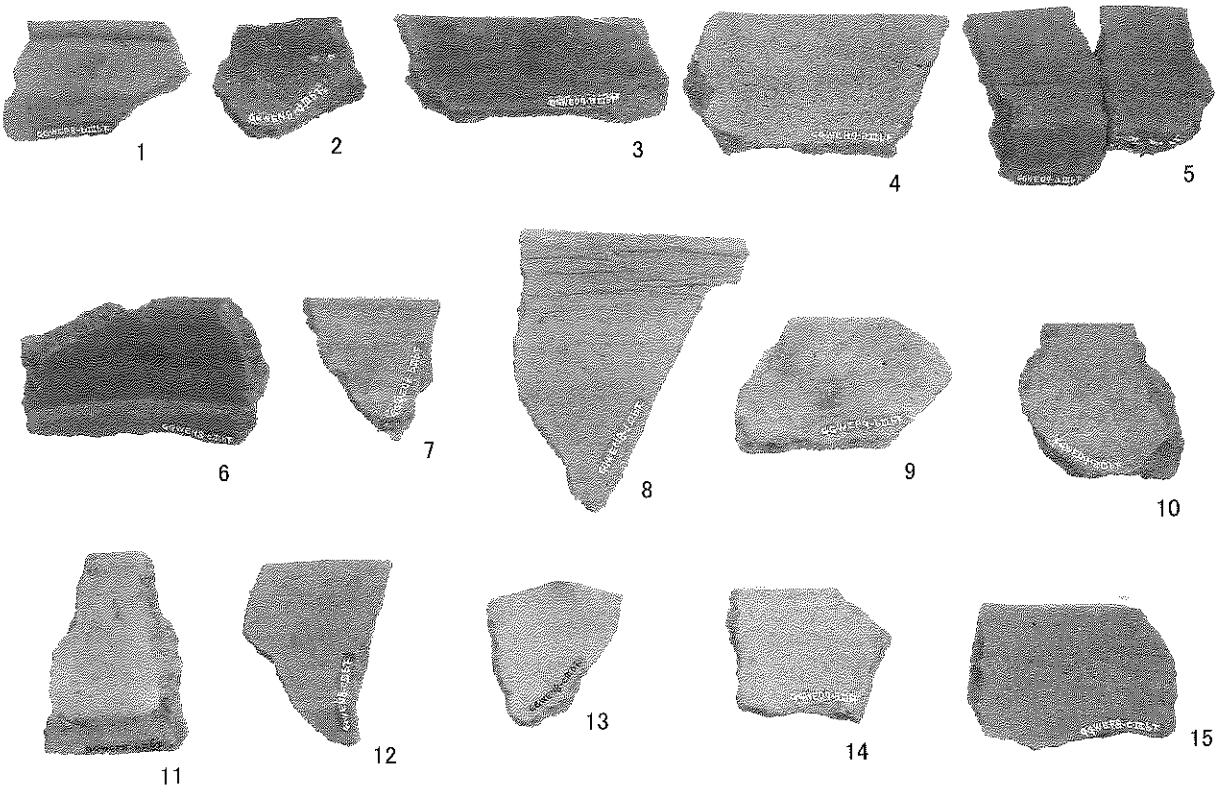
土坑 2 内出土遺物



埋甕 1 出土遺物

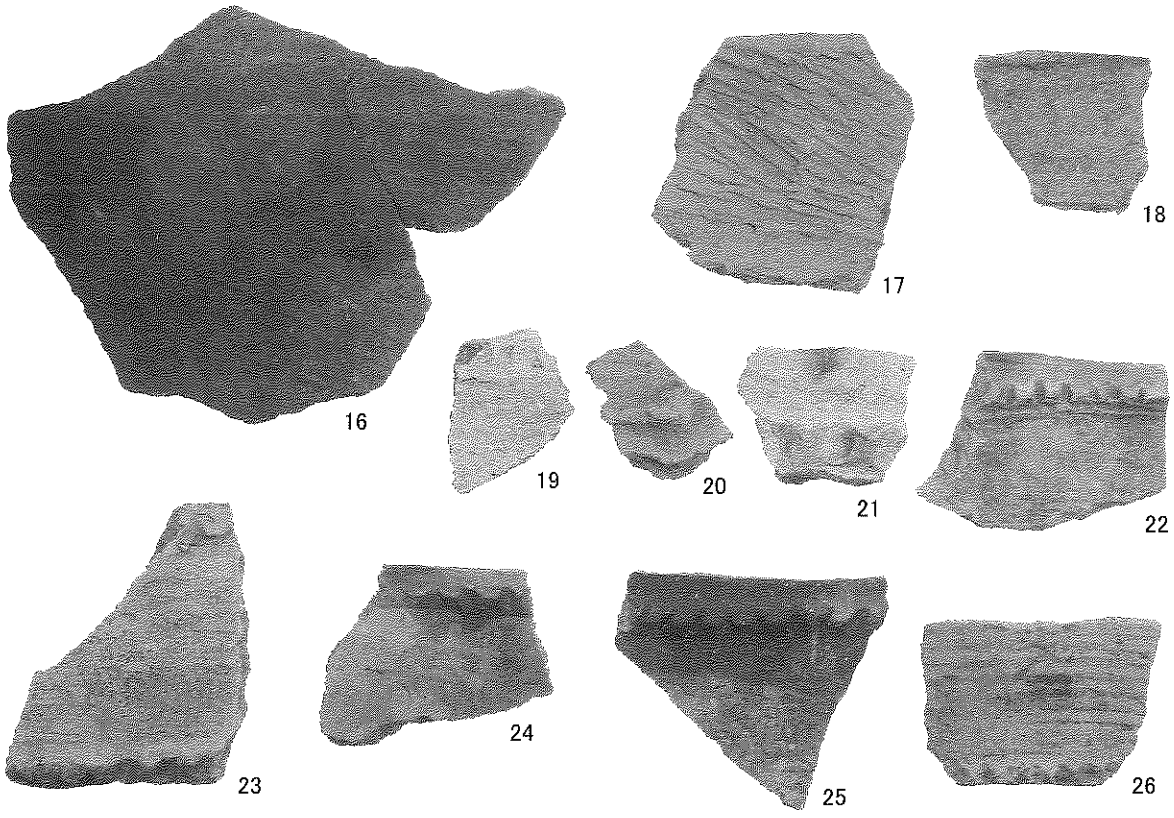
埋甕 2 出土遺物

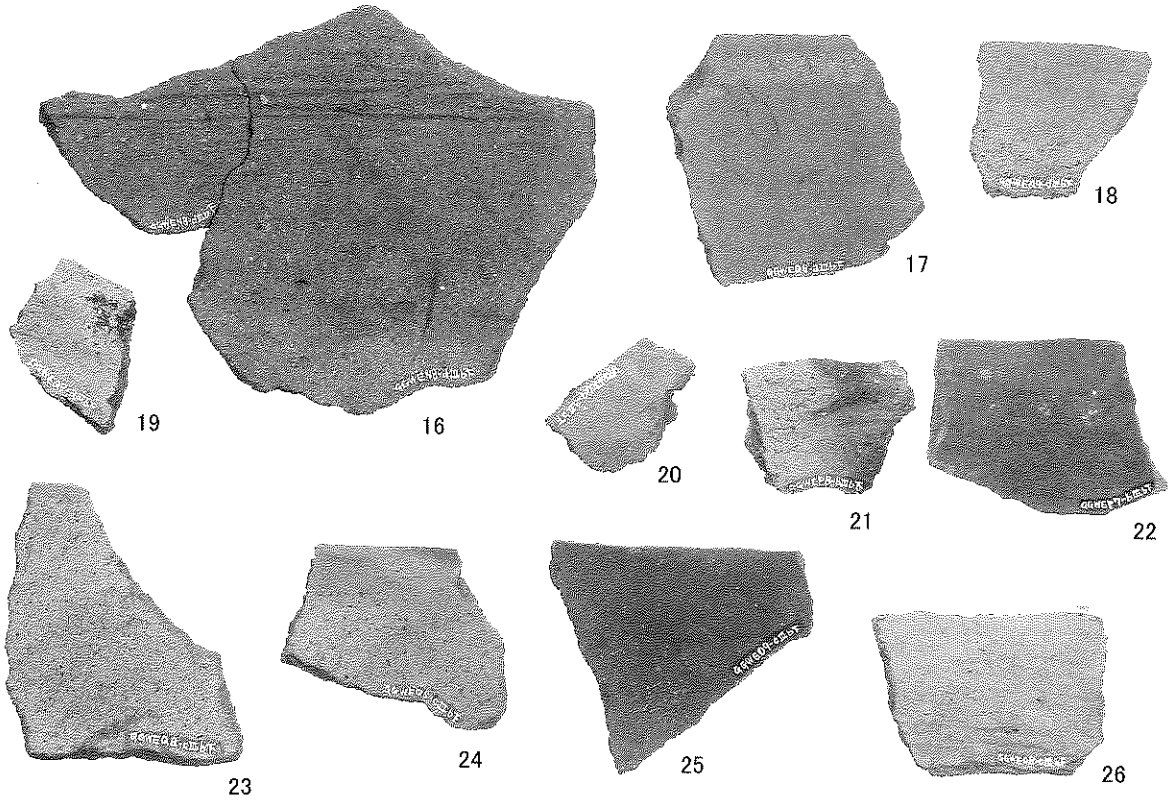




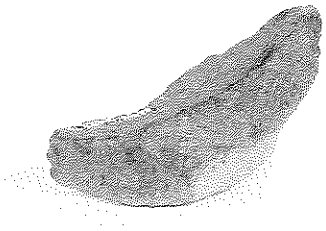
Ⅲb下層出土土器

図版12

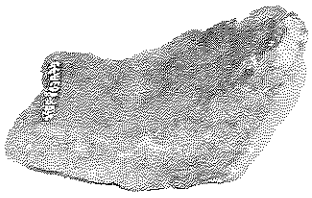




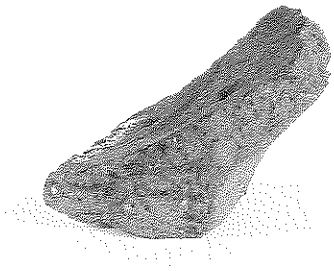
Ⅲb下層出土土器



27

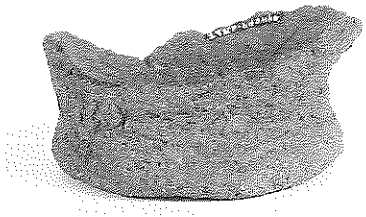


28

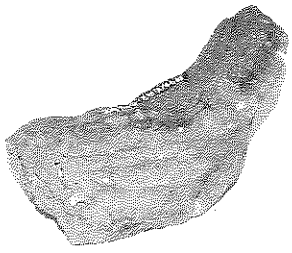


29

30

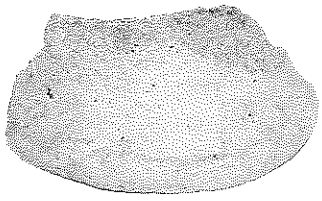


31



32

33

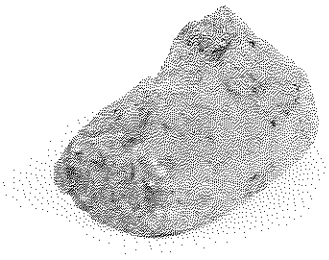


34

35

36

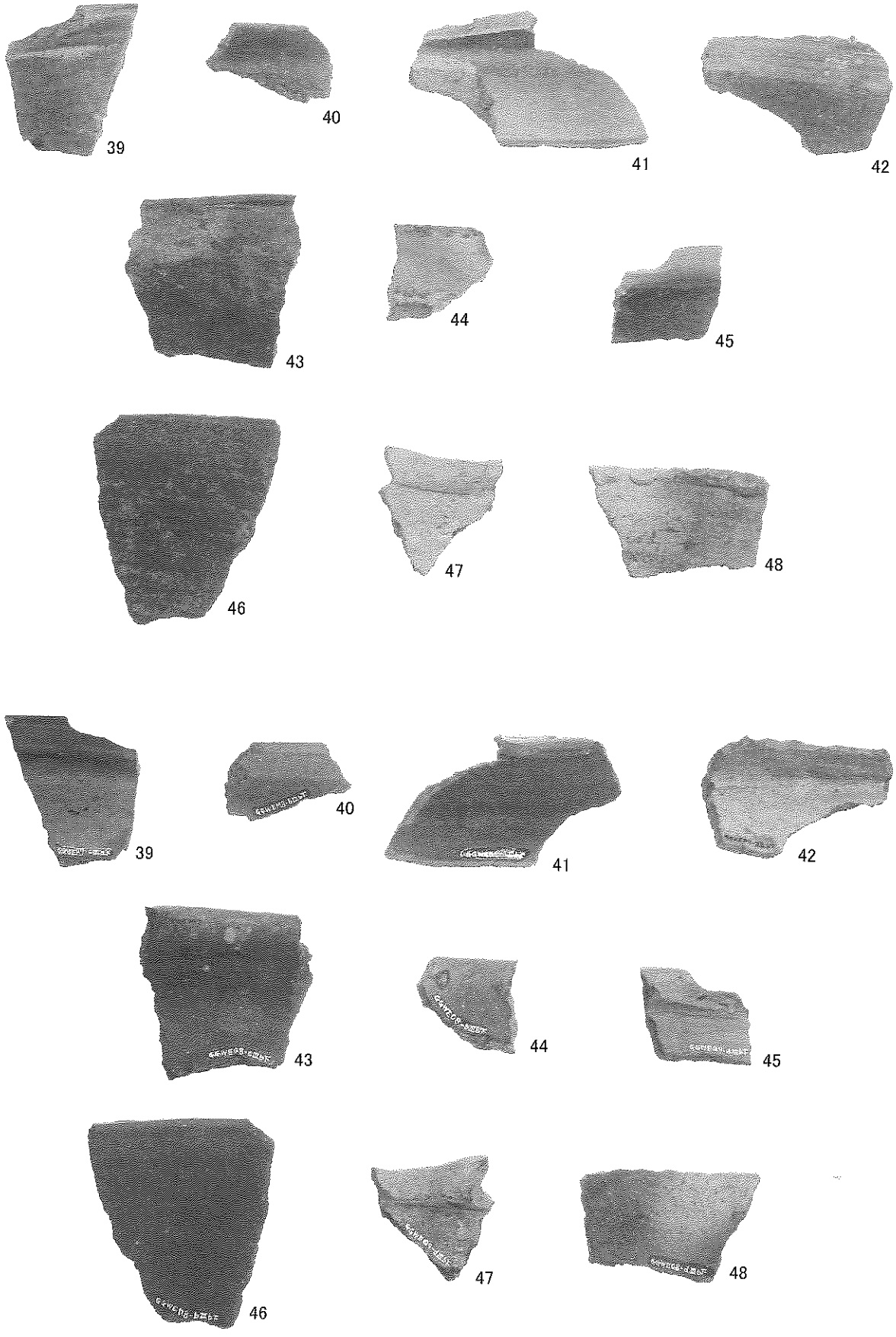
37



38

Ⅲb下層出土土器

図版14



Ⅲb下層出土土器

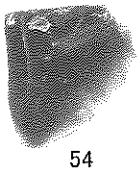
49

50

51

52

53


54

55

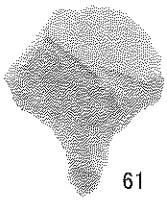
56

57

58

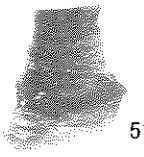
59

60


61

49

50


51

52

53

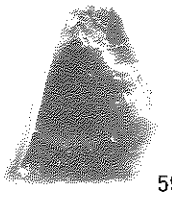
54

55

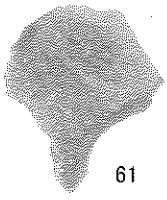
56

57

58

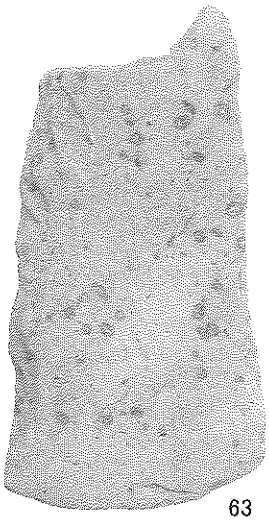

59

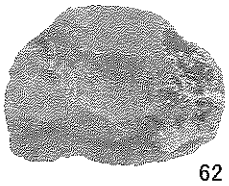
60

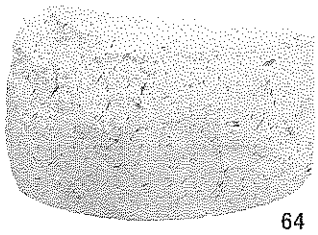

61

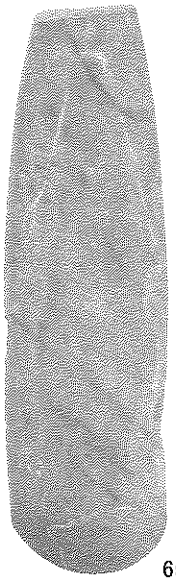
Ⅲb下層出土石器

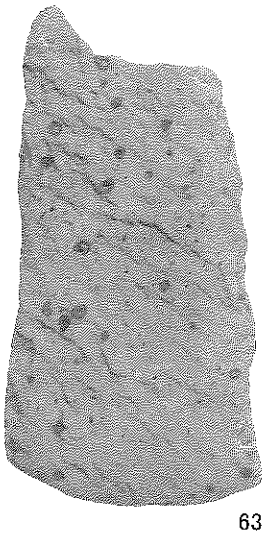
図版16

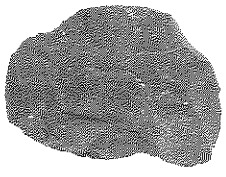

63

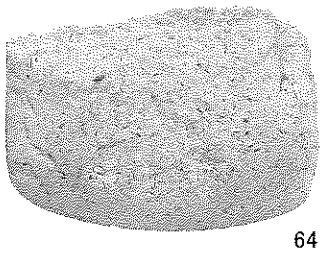

62

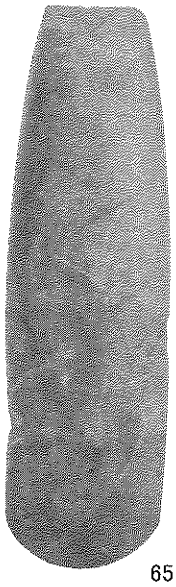

64


65


63


62

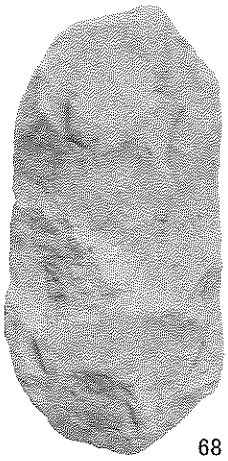

64


65

Ⅲb下層出土石器

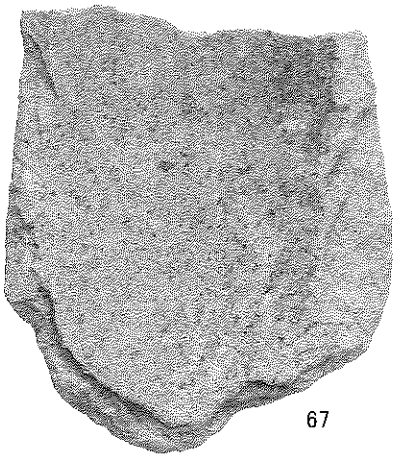
66

67

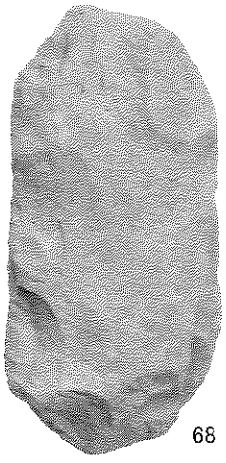


68

66



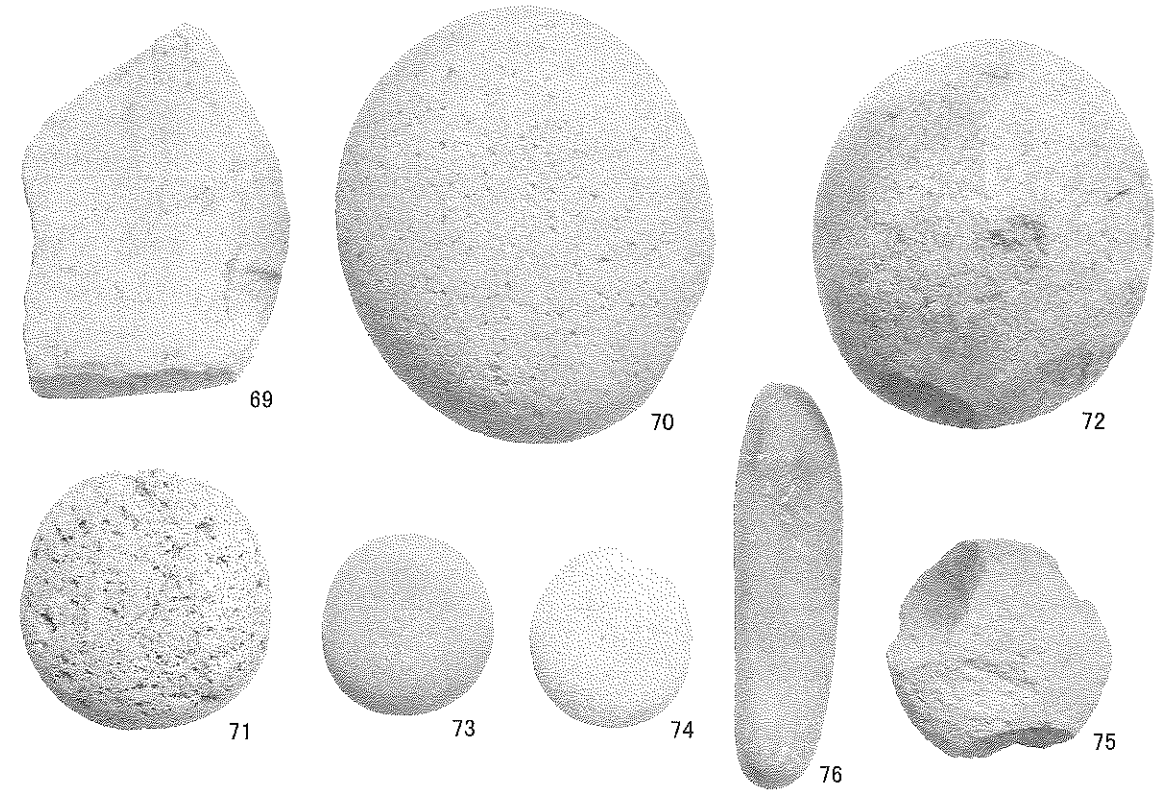
67

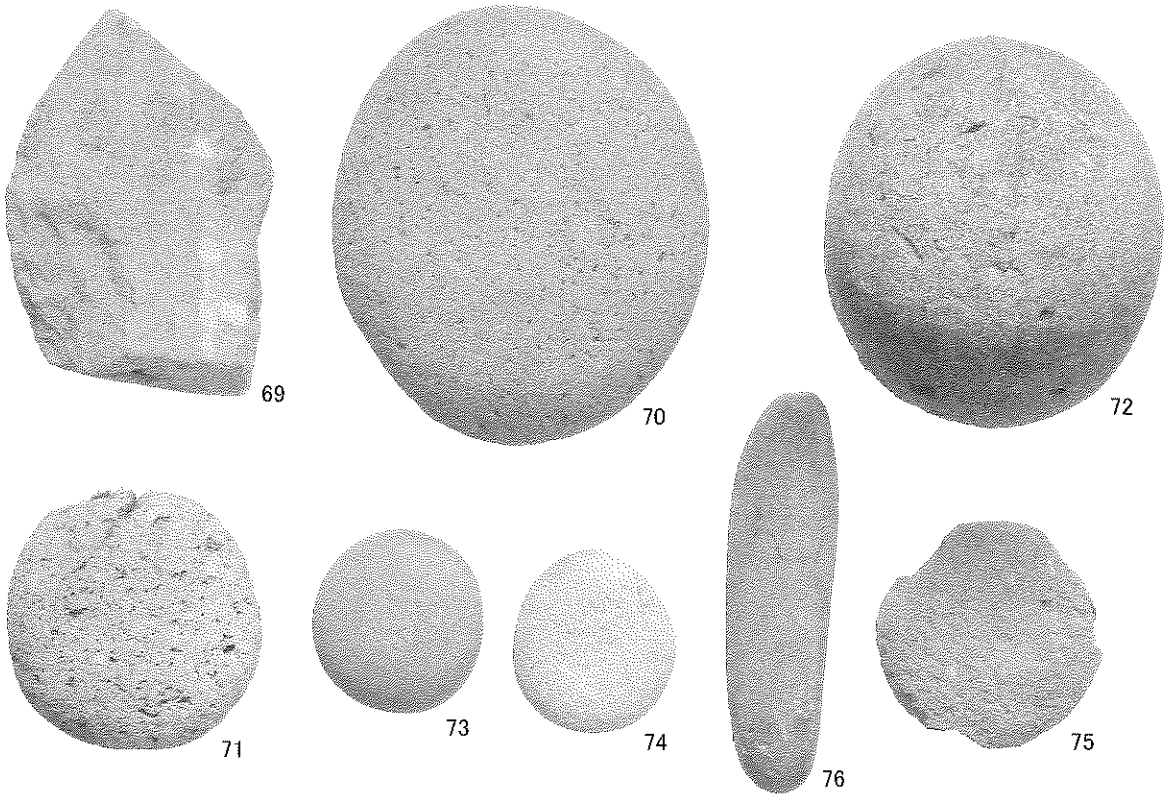


68

Ⅲb下層出土石器

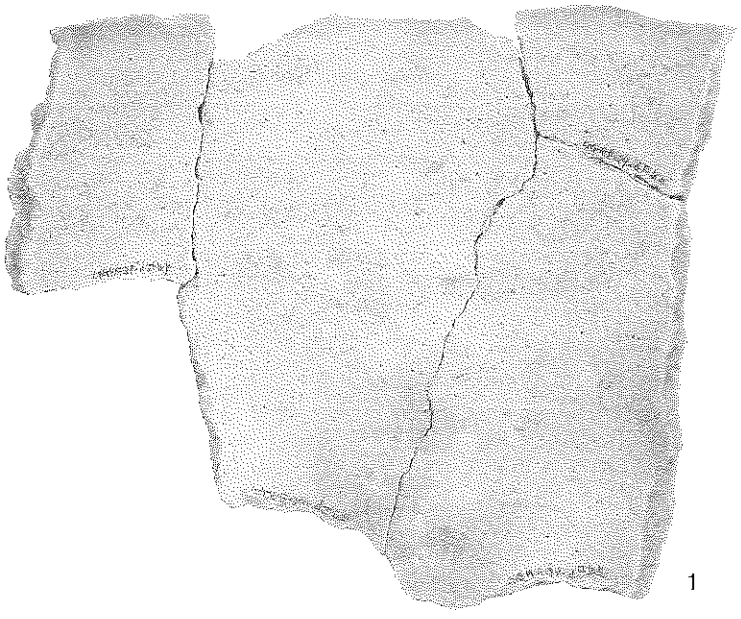
図版18





Ⅲb下層出土石器

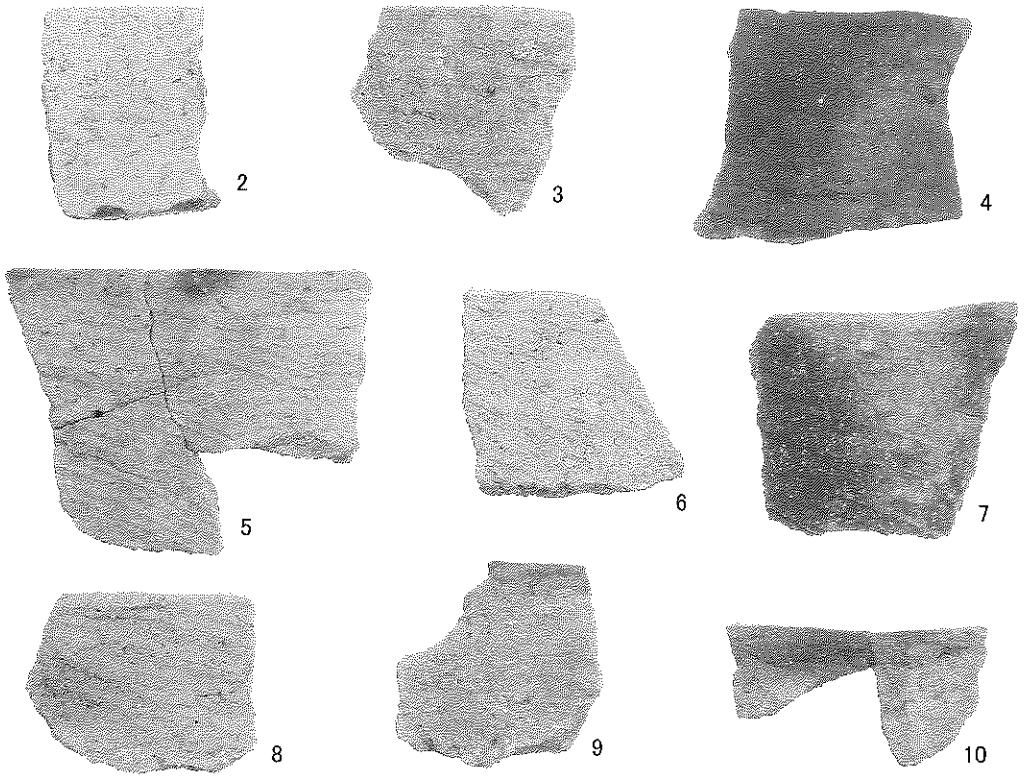
1

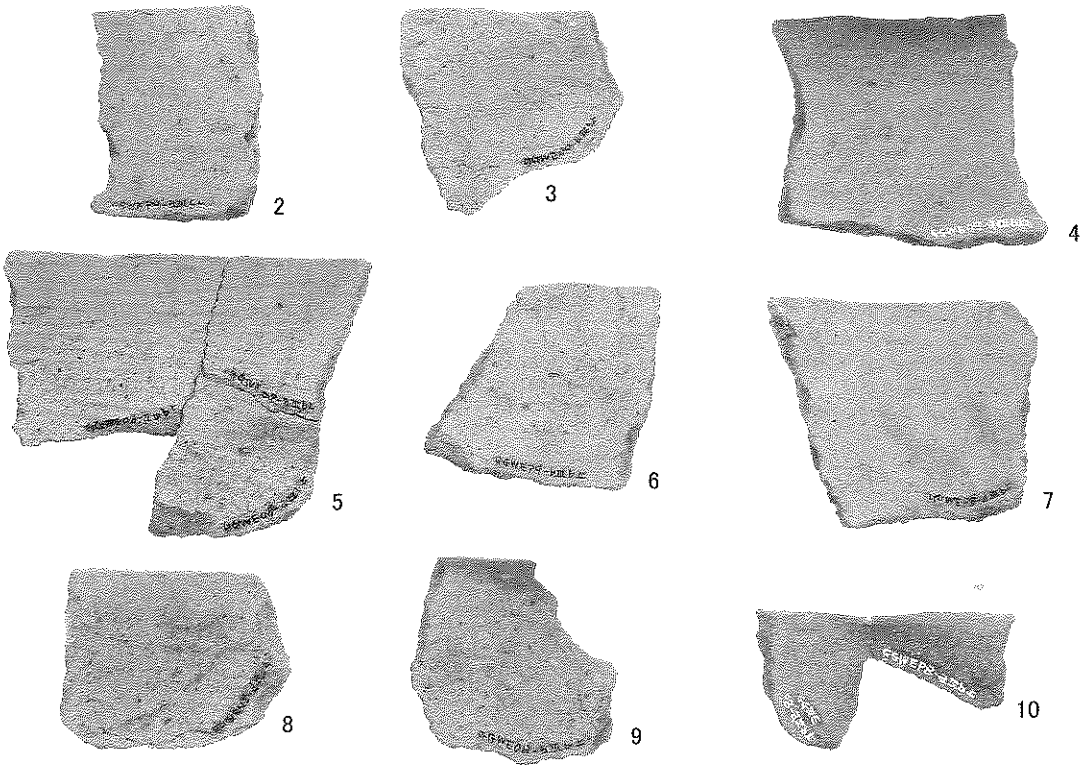


1

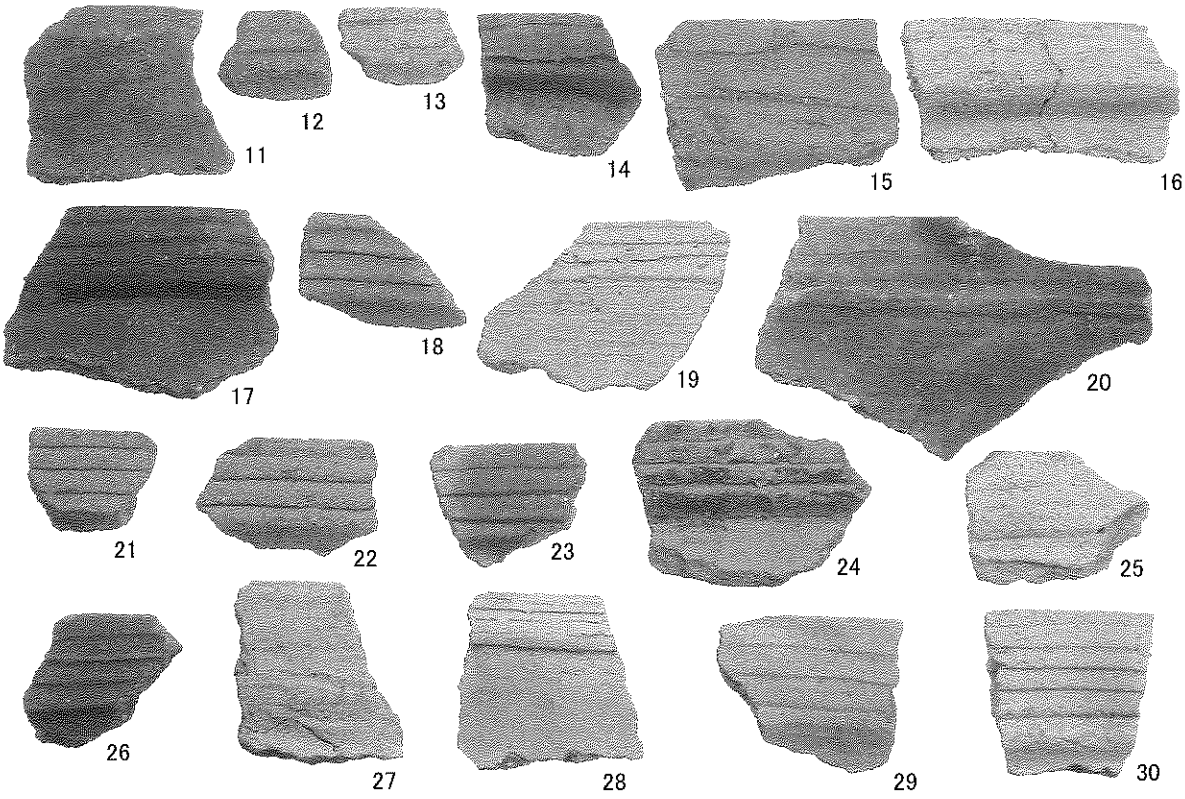
Ⅲb上層出土土器

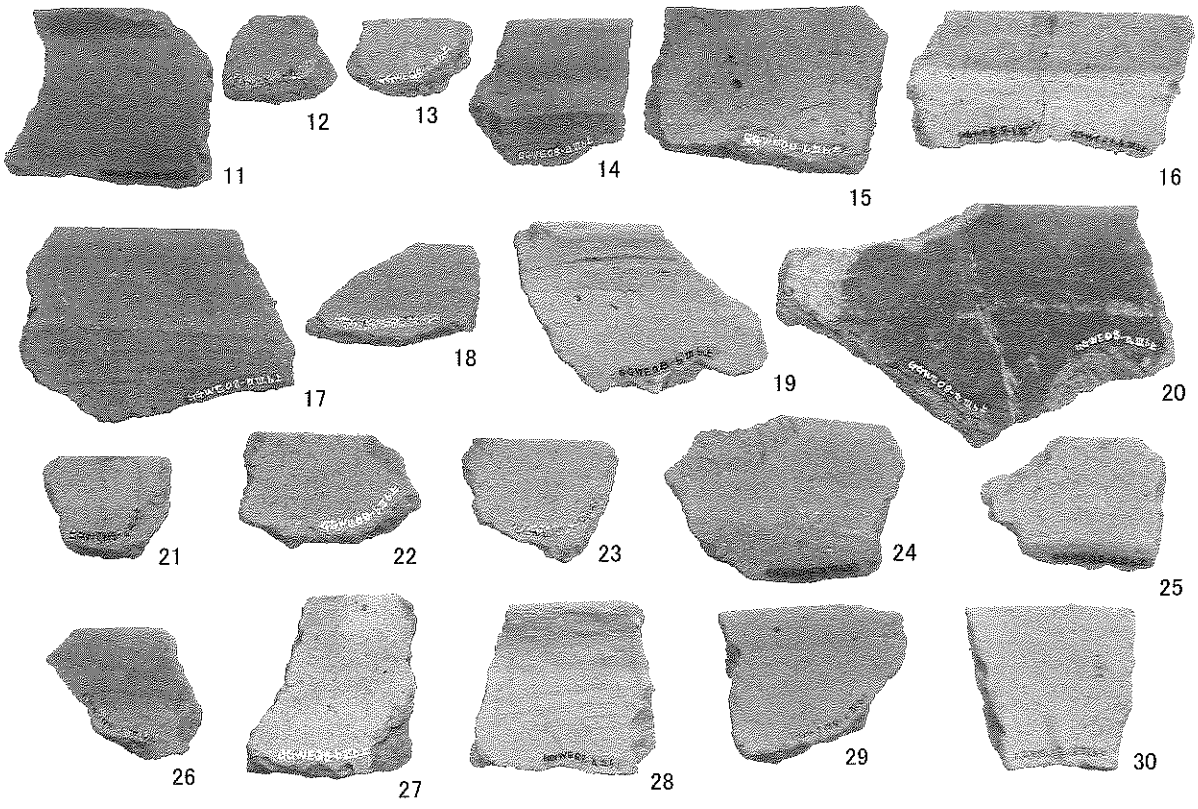
図版20





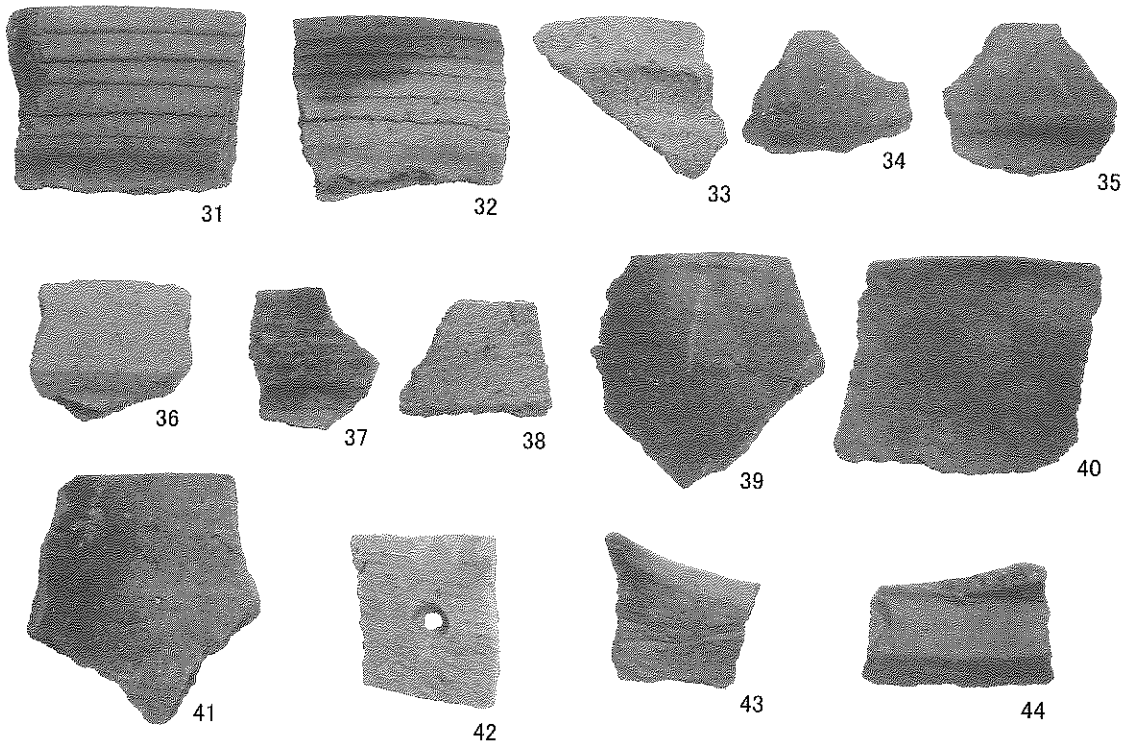
Ⅲb上層出土土器

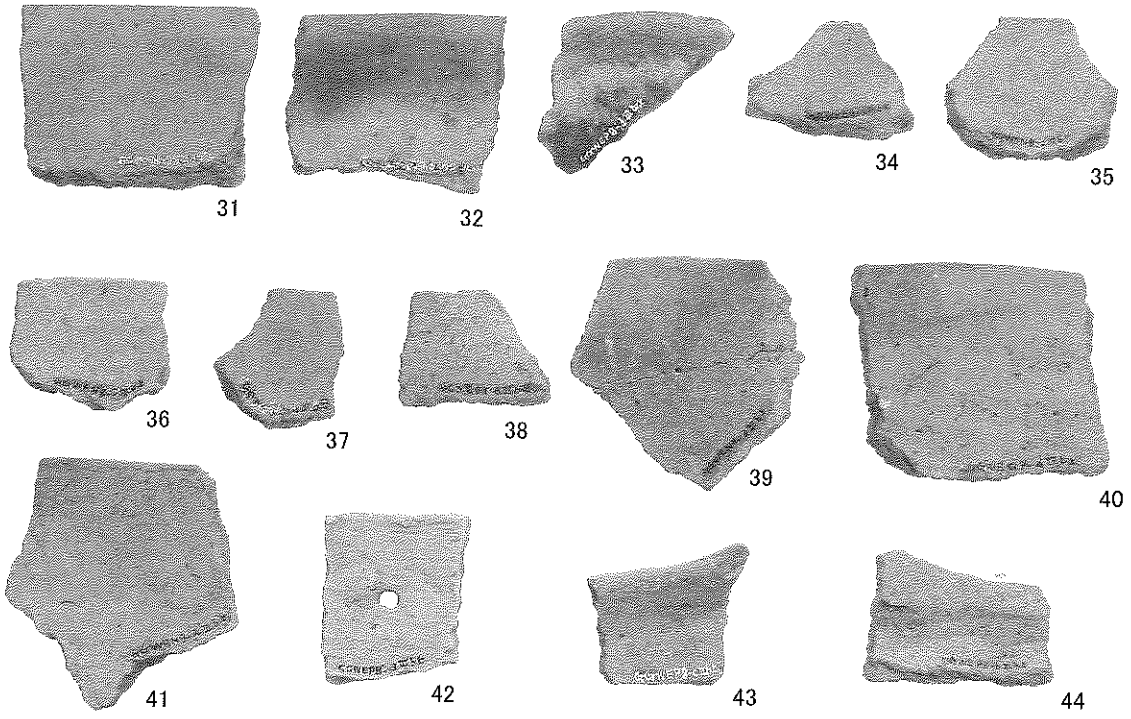

11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30


11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30

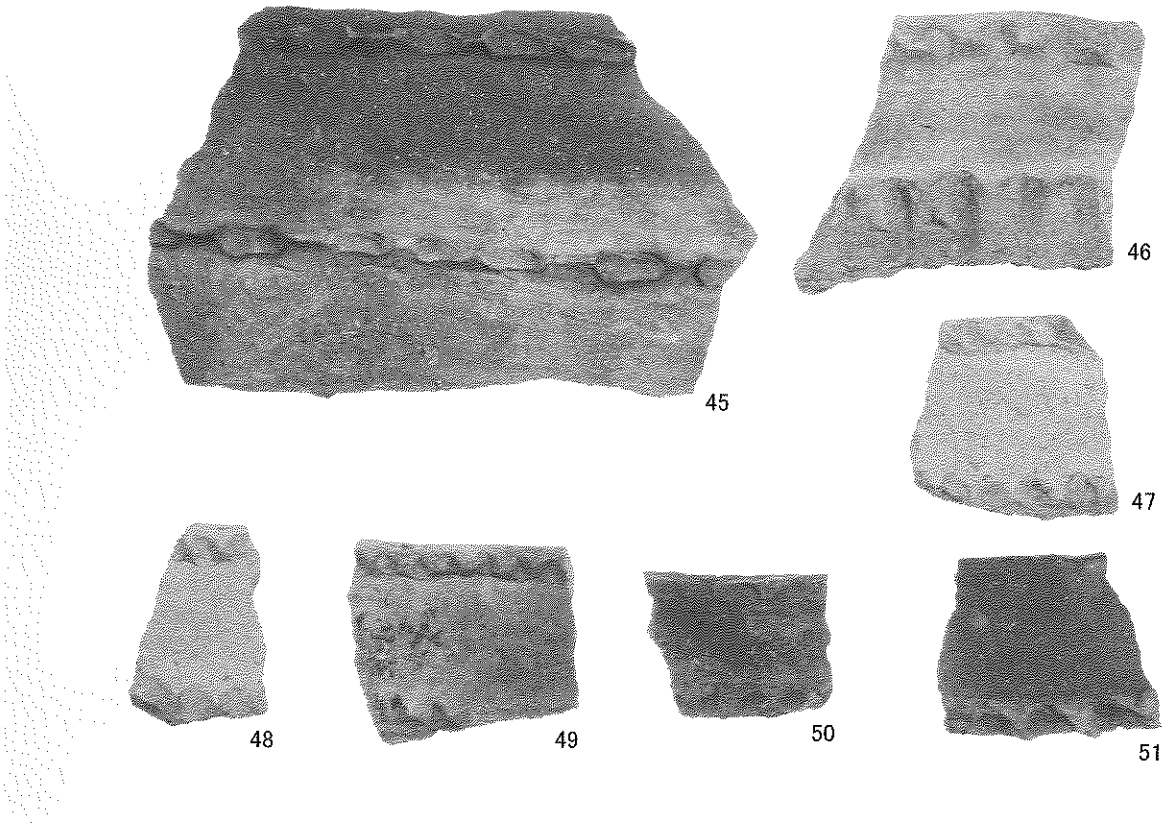
Ⅲb上層出土土器

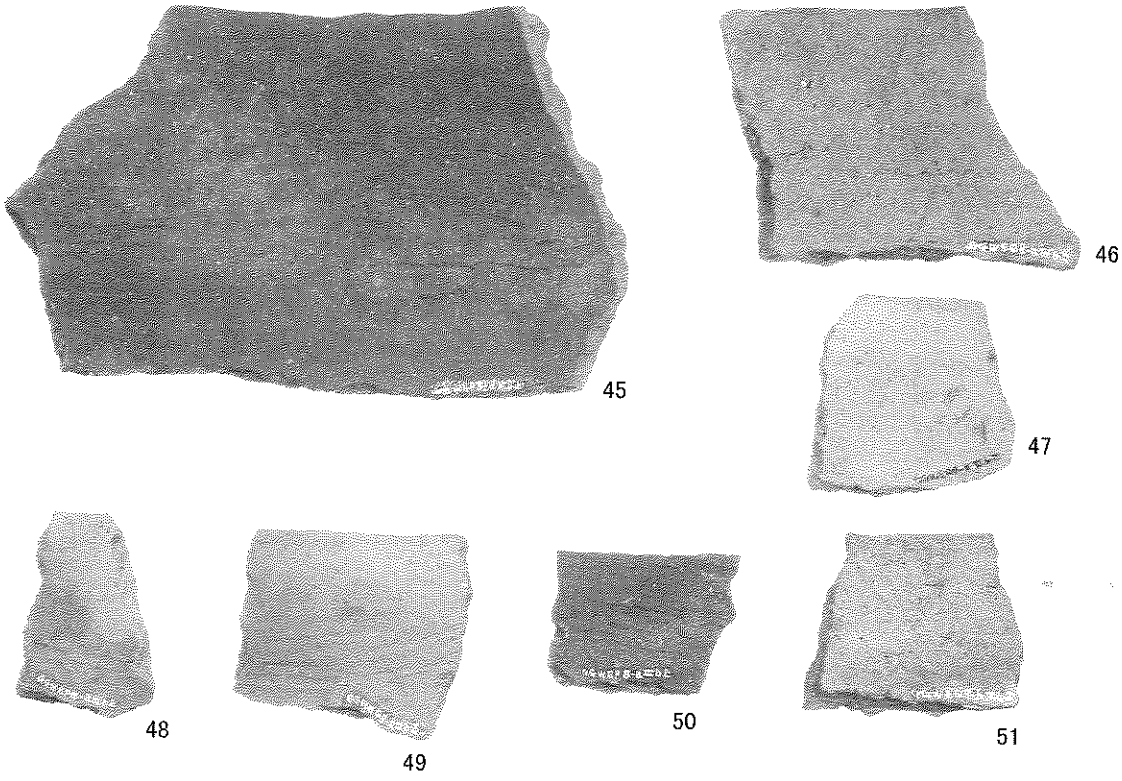
図版22





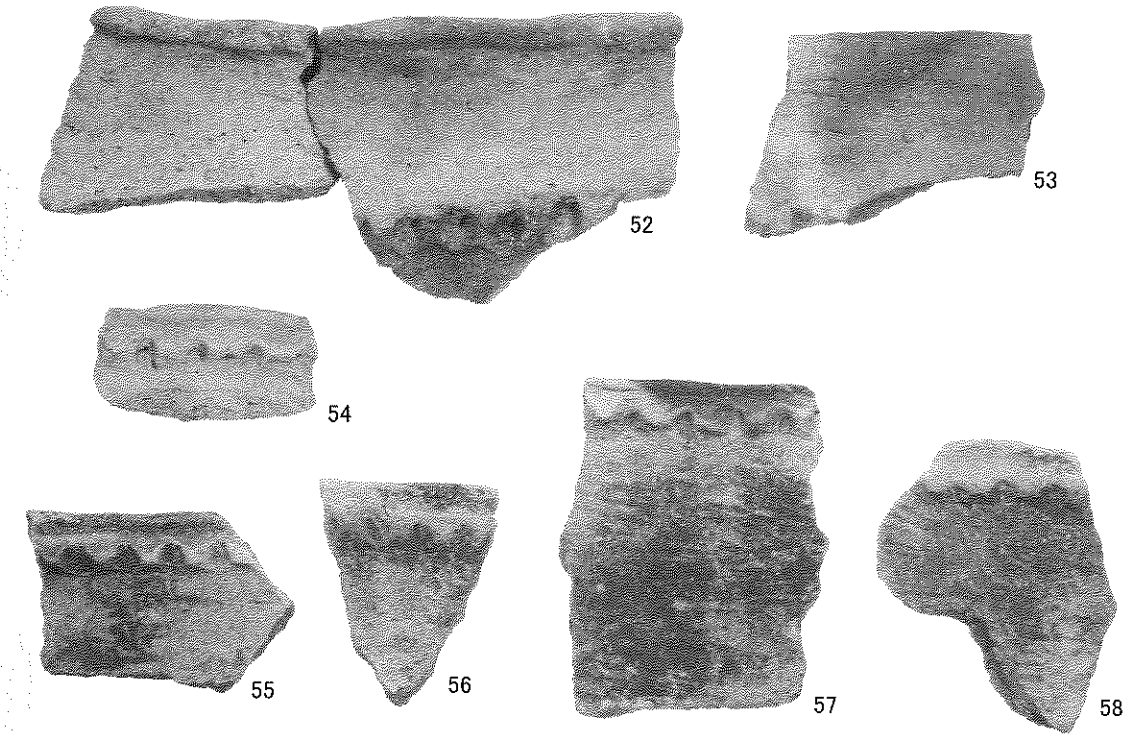
Ⅲb上層出土土器

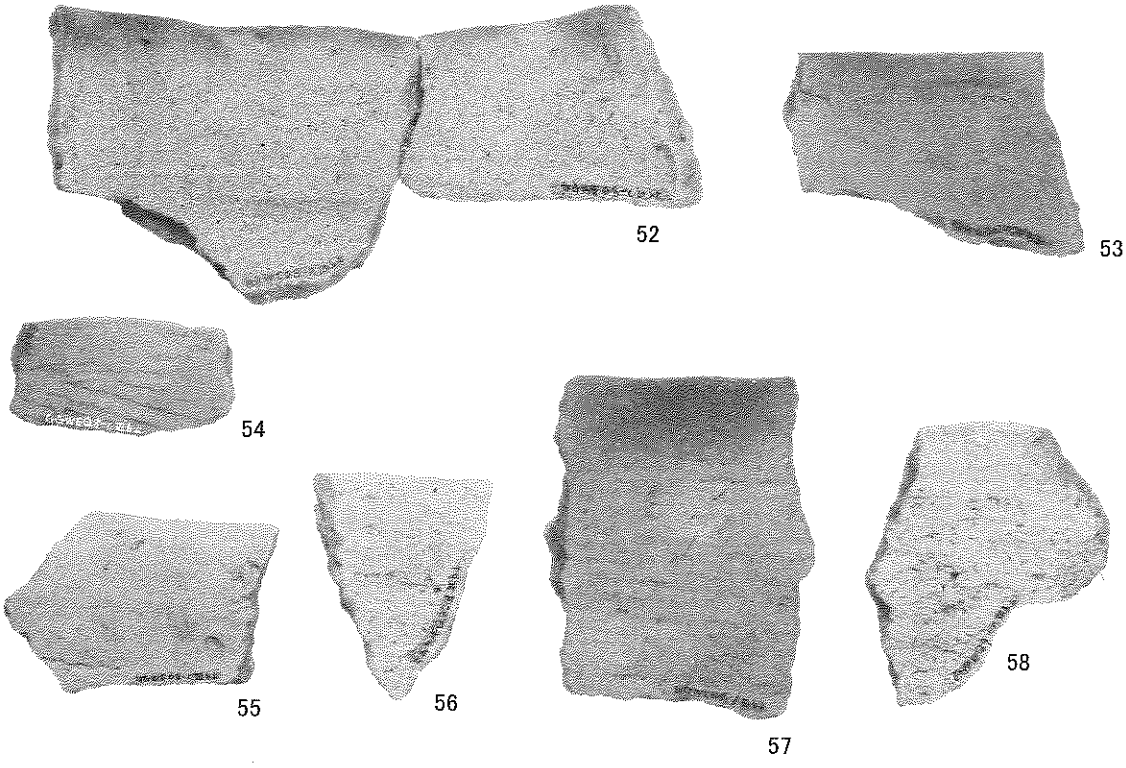




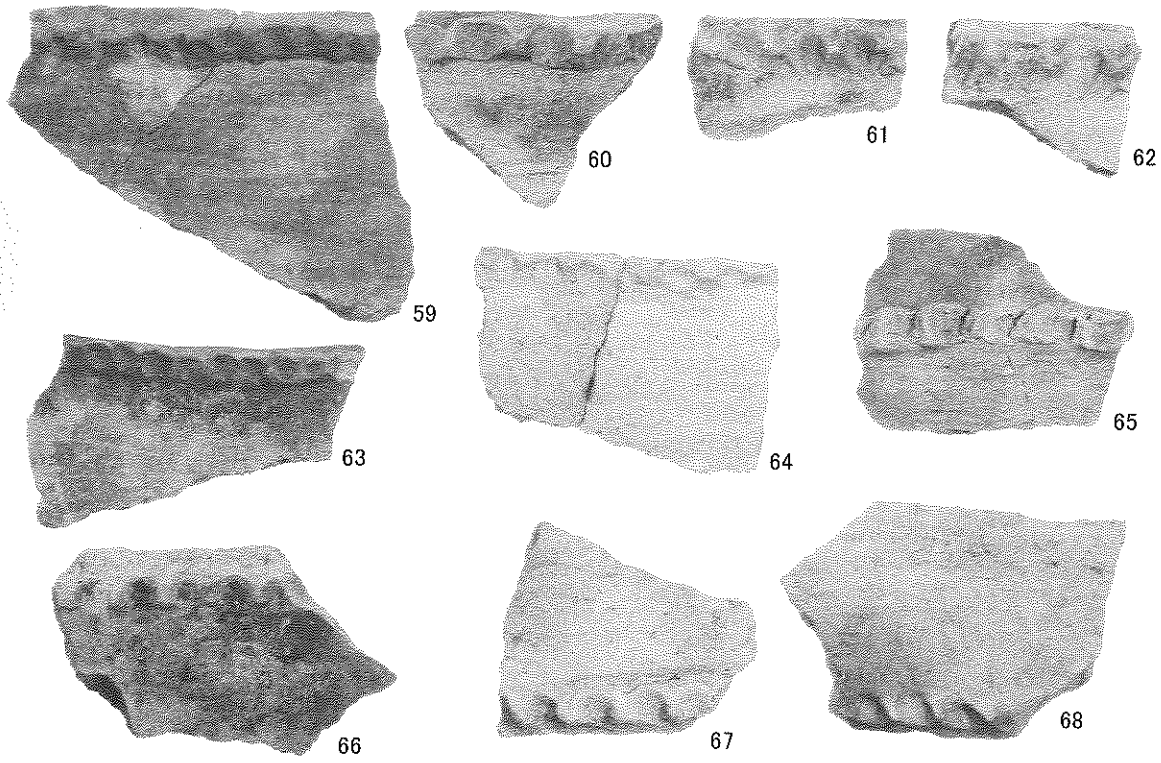
Ⅲb上層出土土器

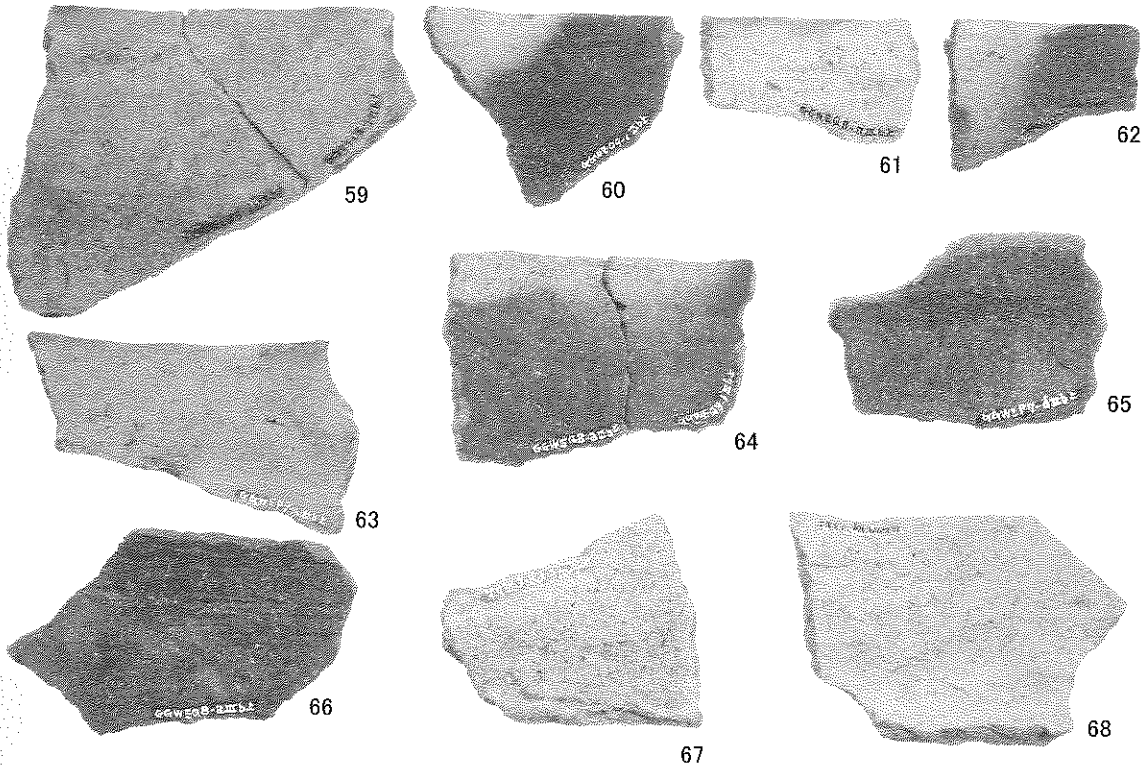
図版24





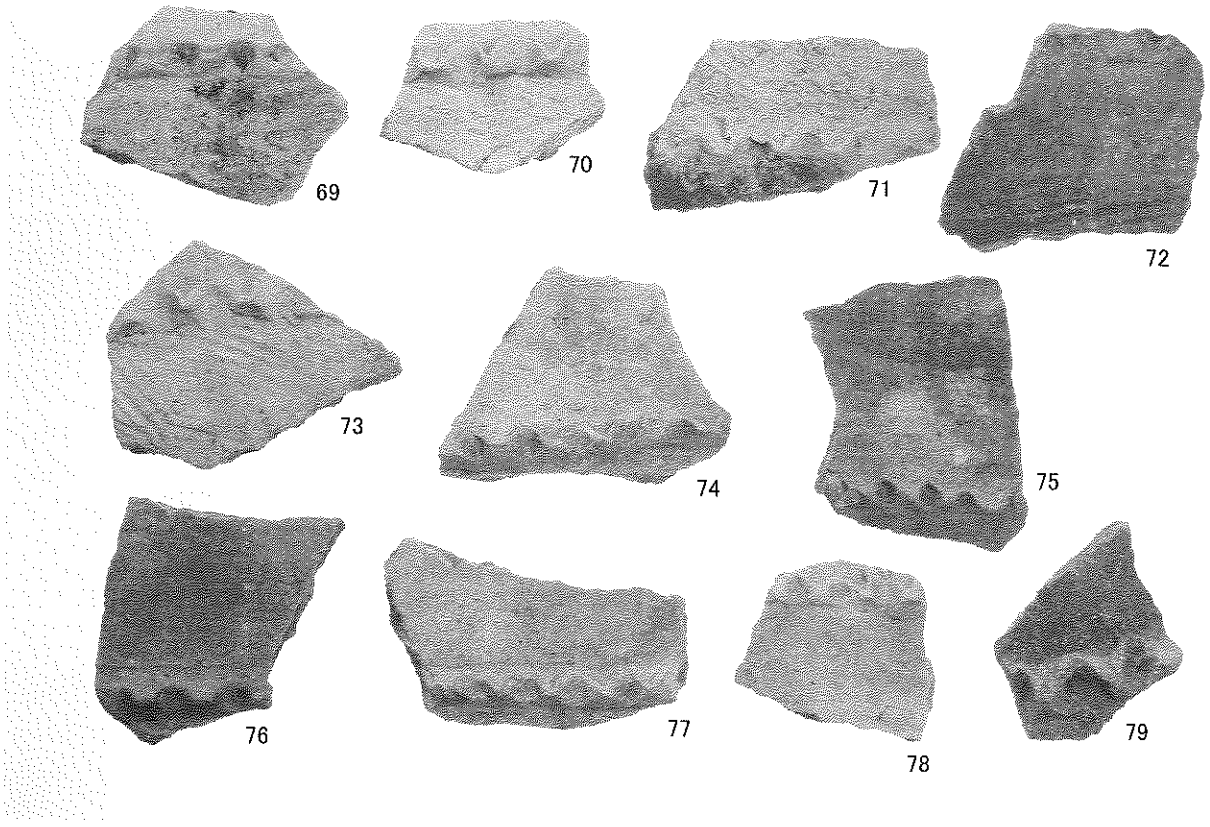
Ⅲb上層出土土器

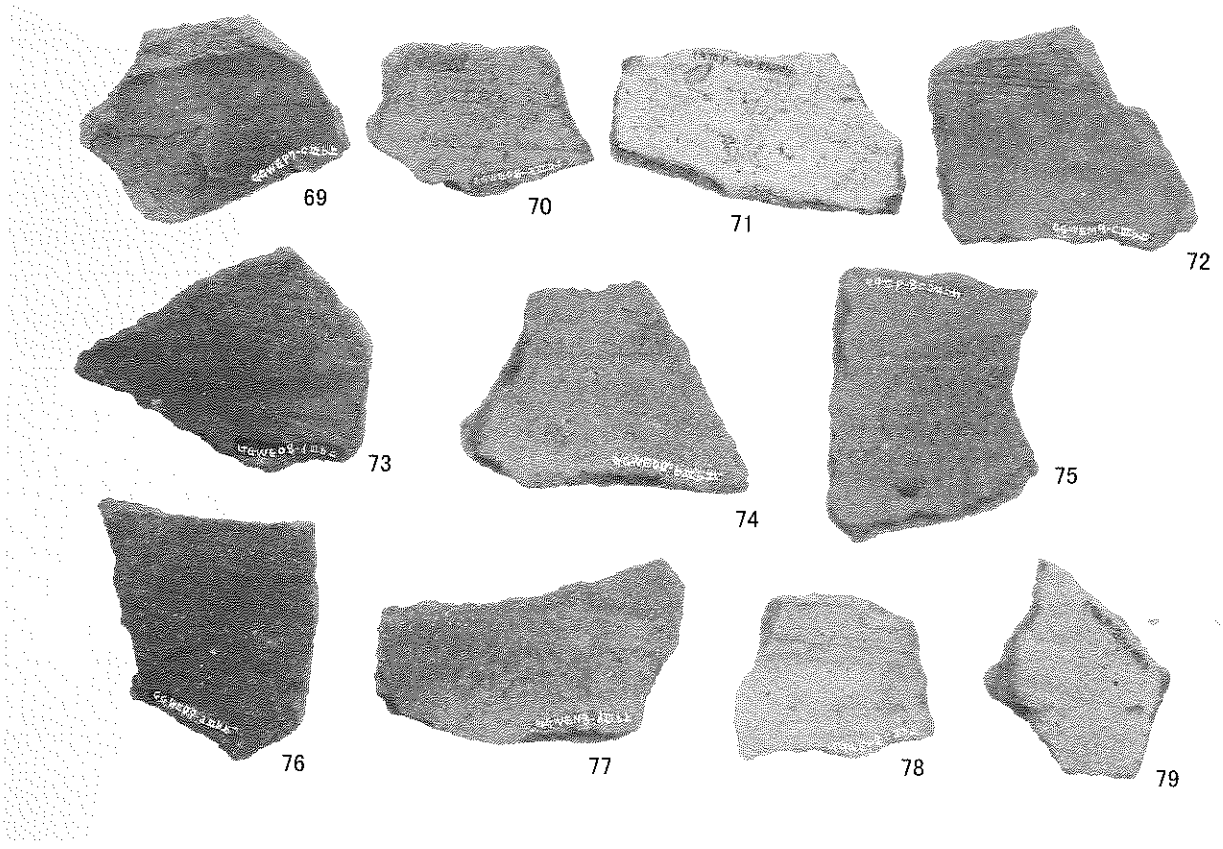




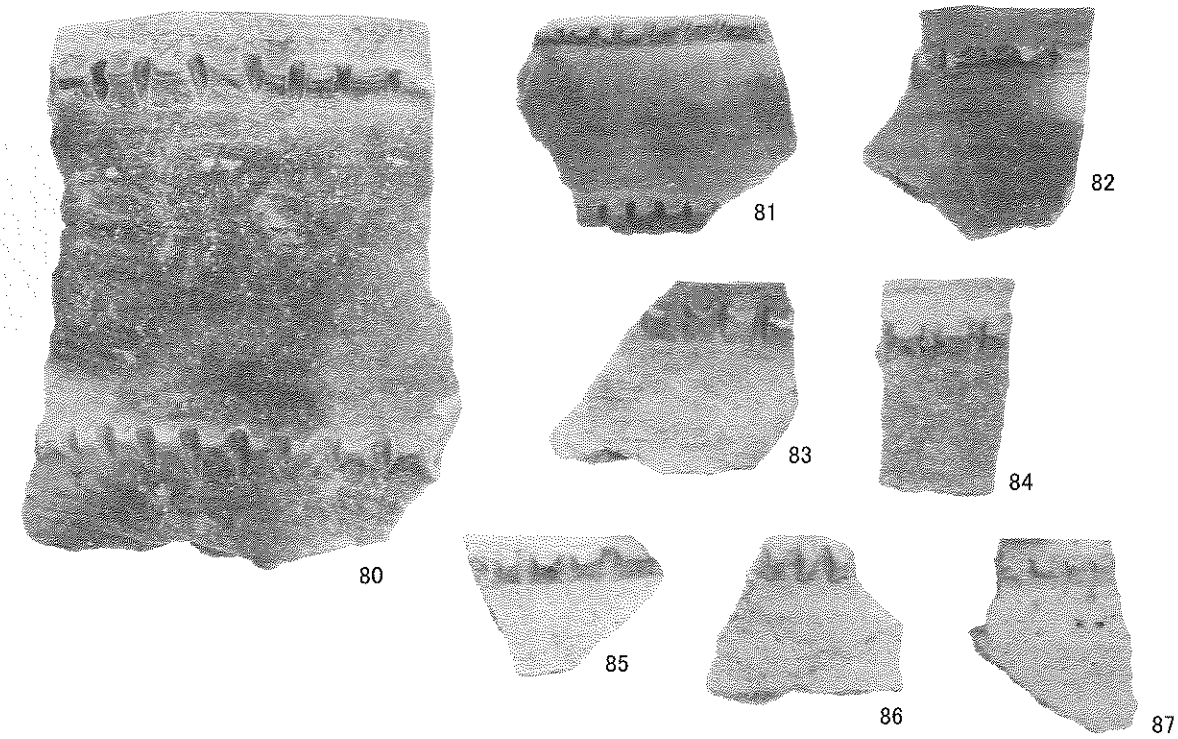
Ⅲb上層出土土器

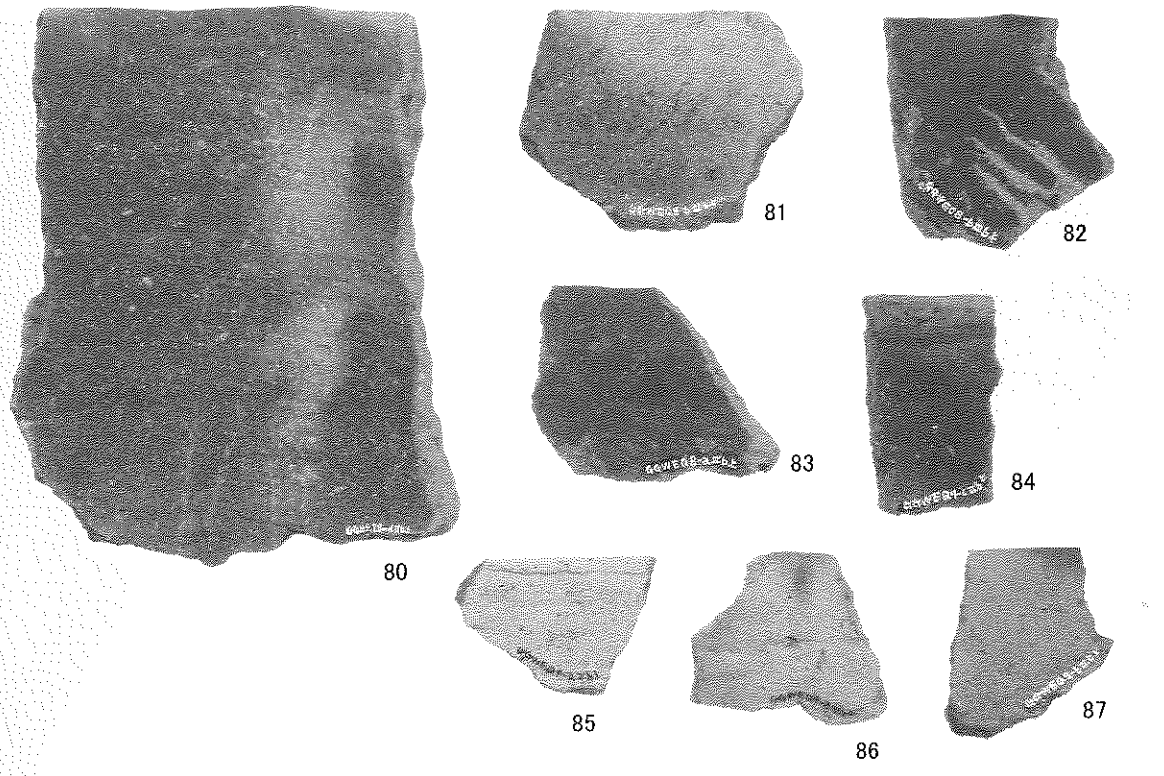
図版26



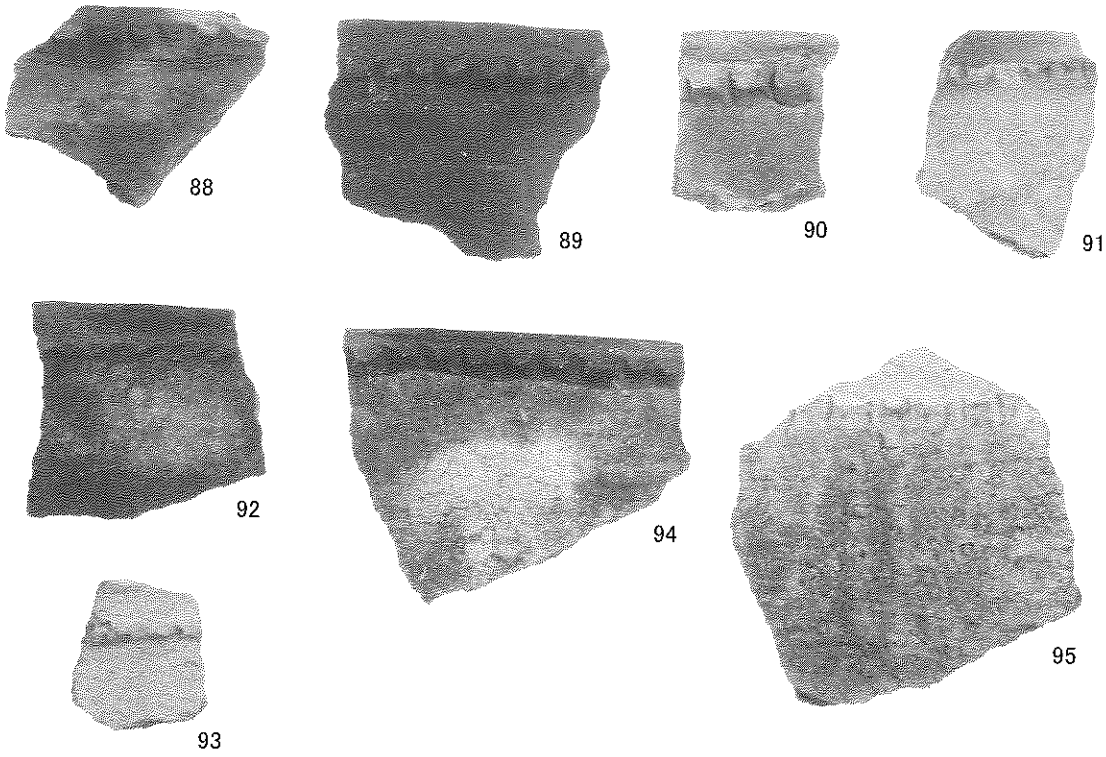


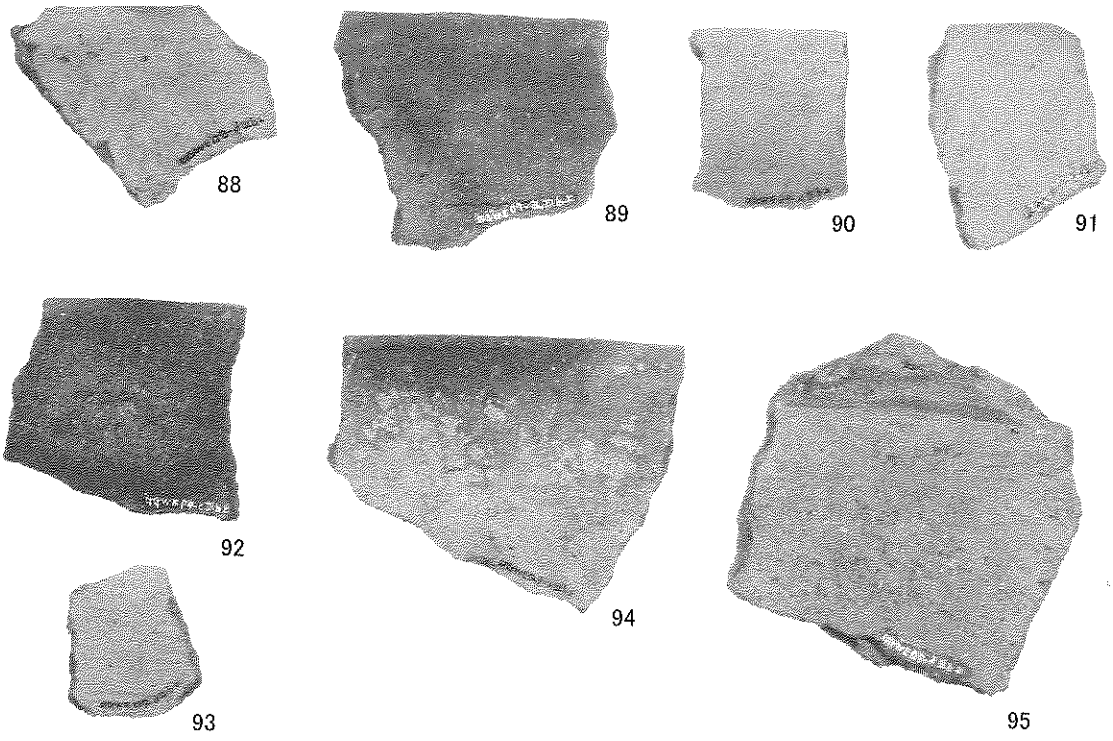
Ⅲb上層出土土器



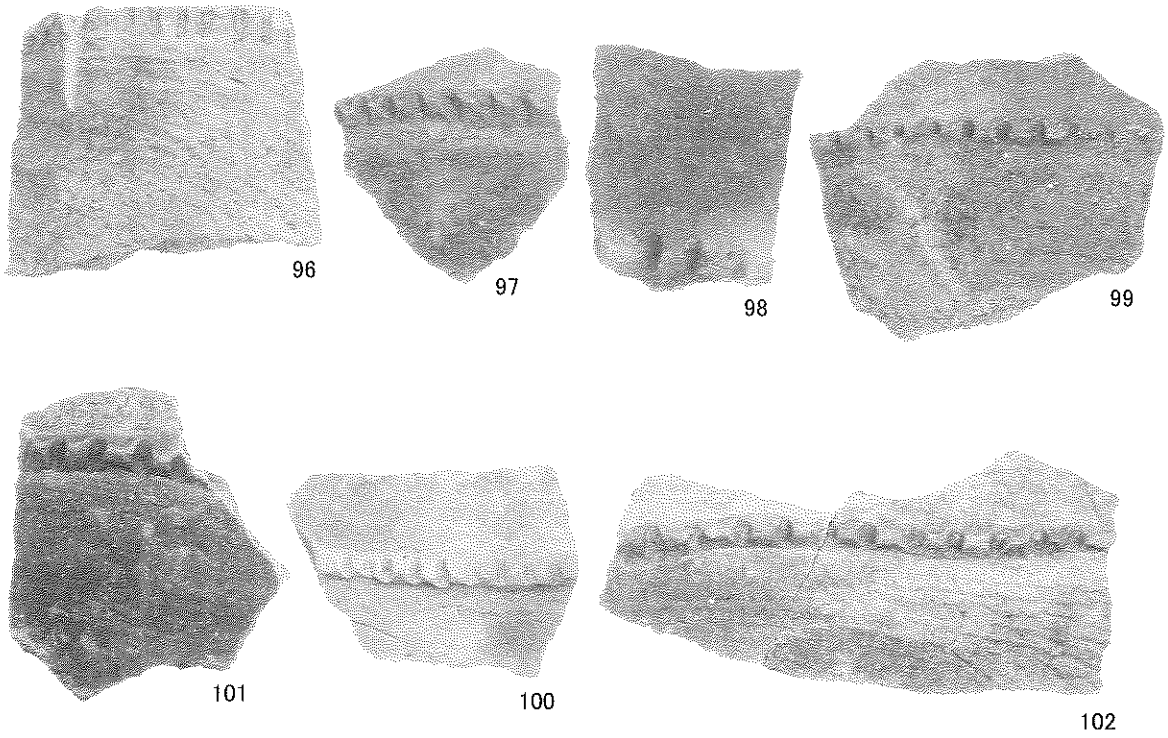


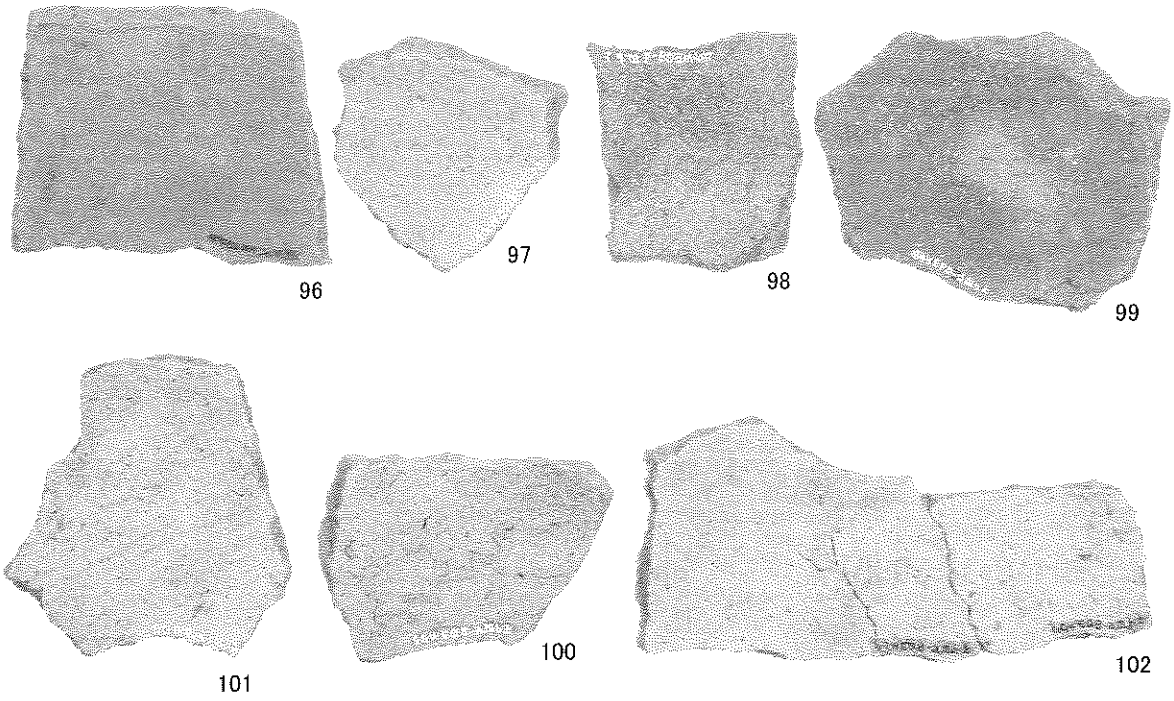
Ⅲb上層出土土器





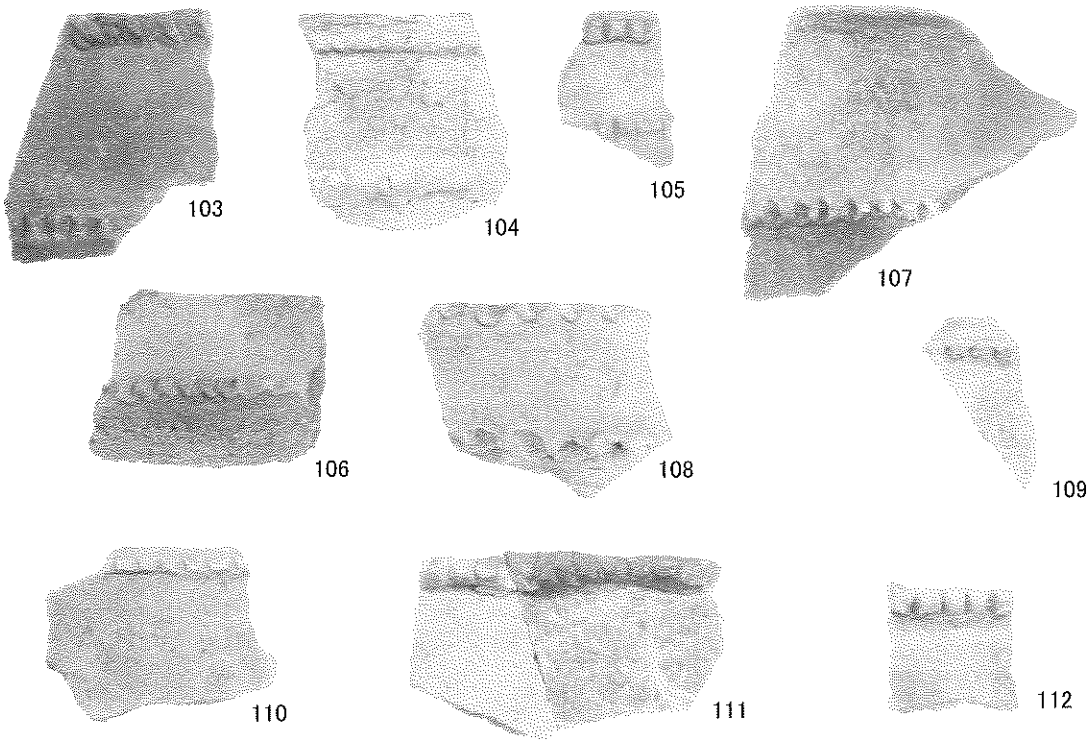
Ⅲb上層出土土器

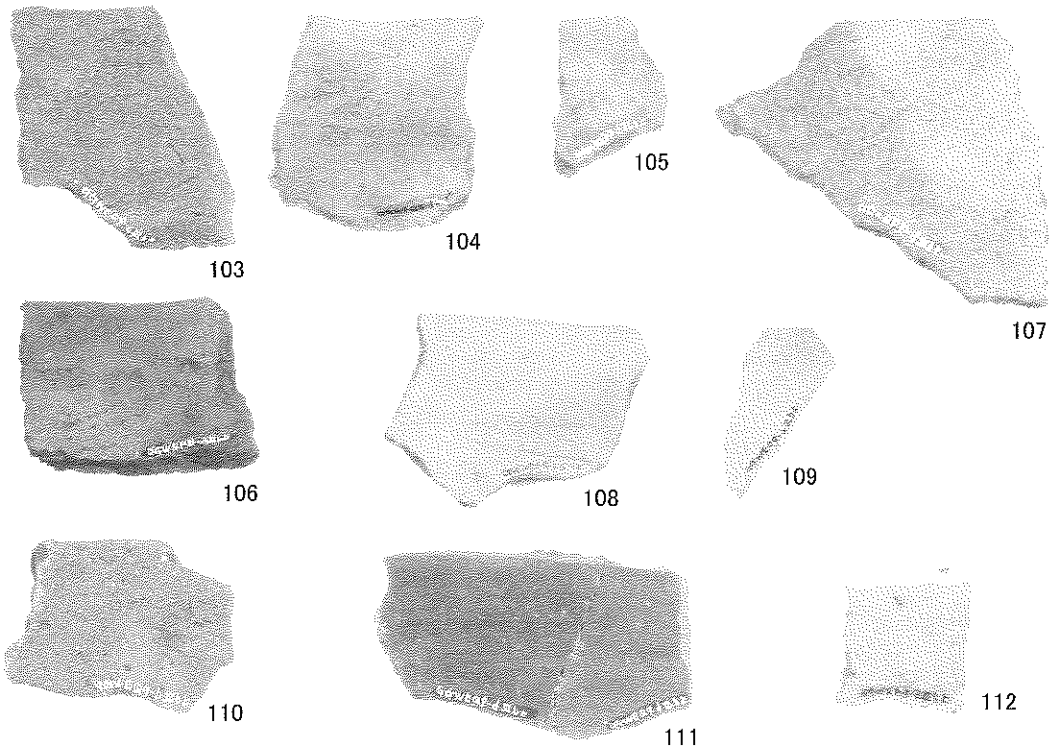




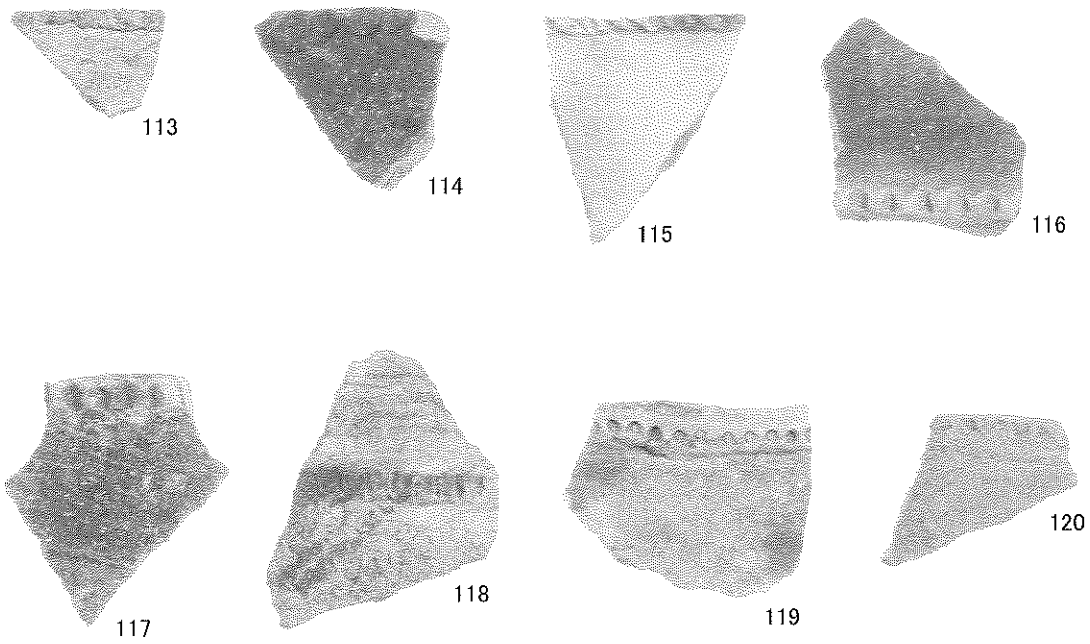
Ⅲb上層出土土器

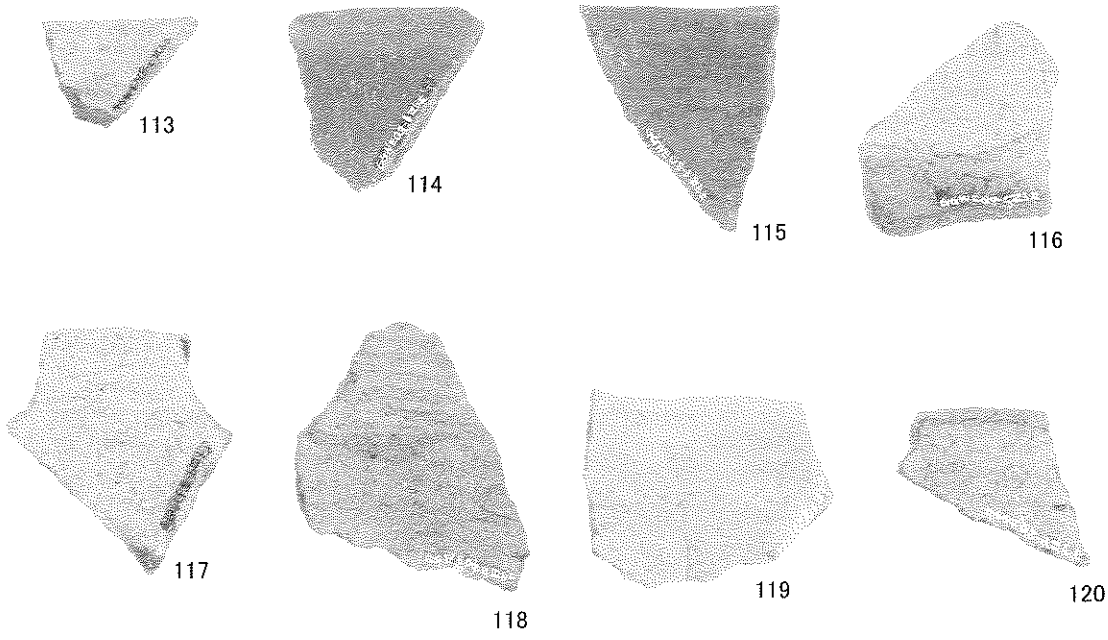
図版30





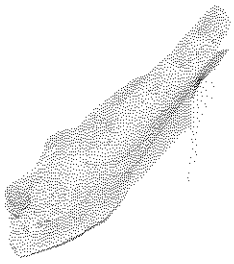
Ⅲb上層出土土器



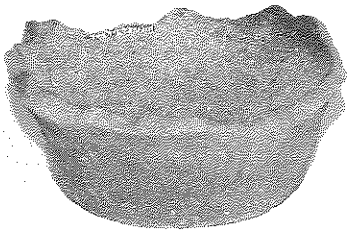


Ⅲb上層出土土器

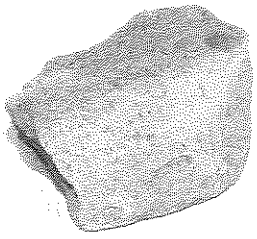
図版32



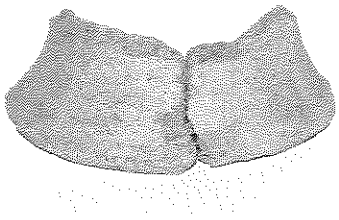
121



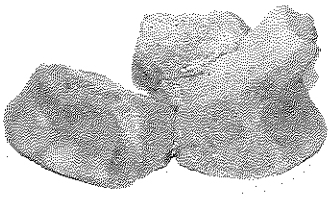
122



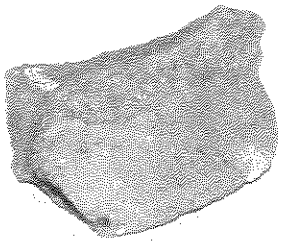
123



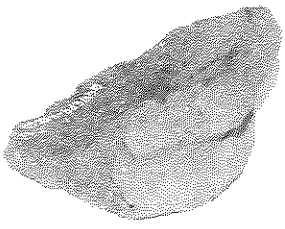
124



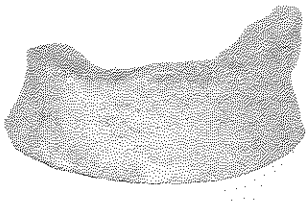
125



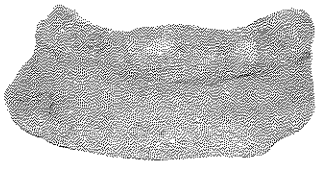
126



127



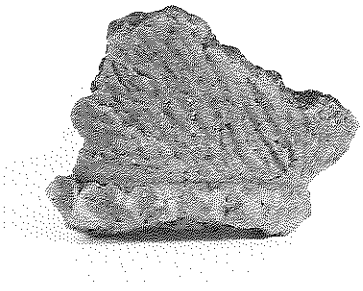
128



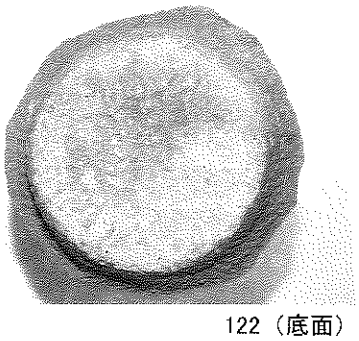
129

130

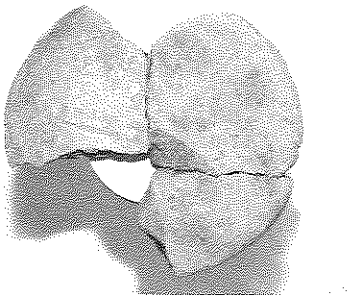
131



132

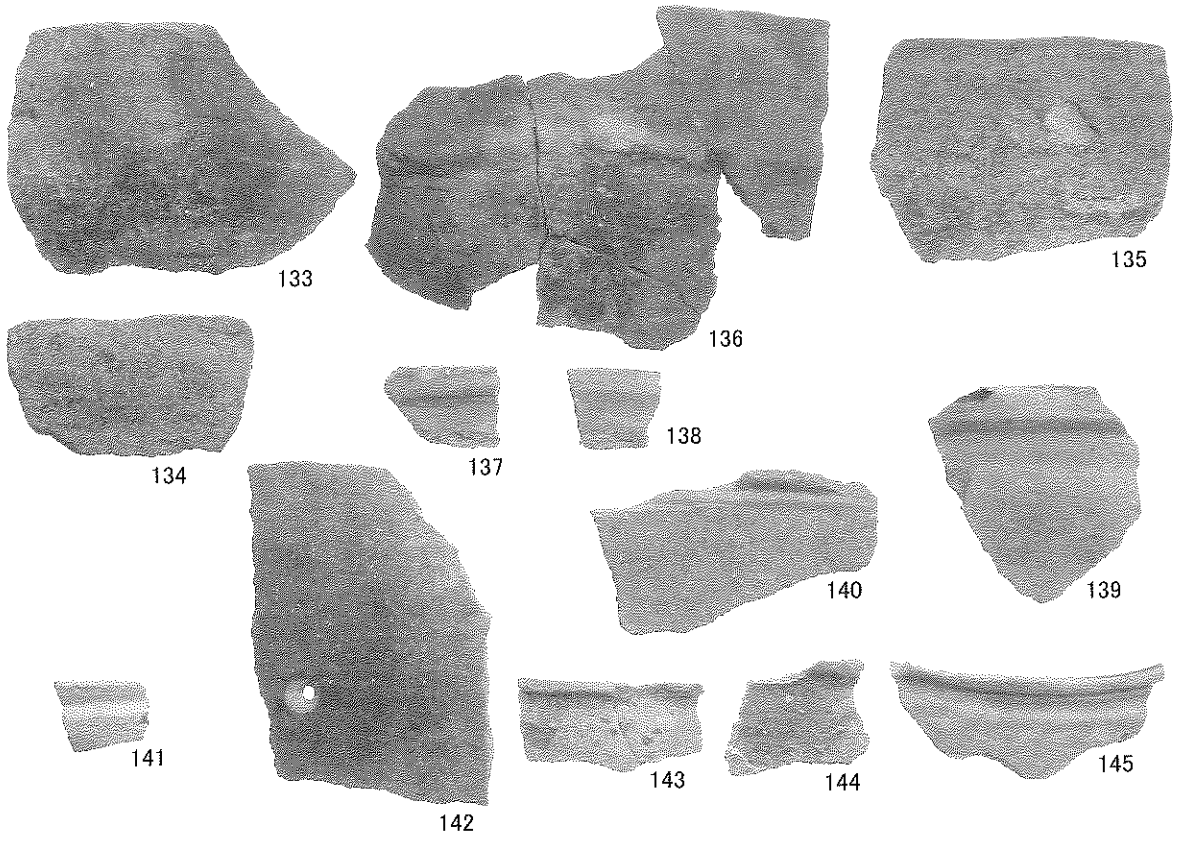


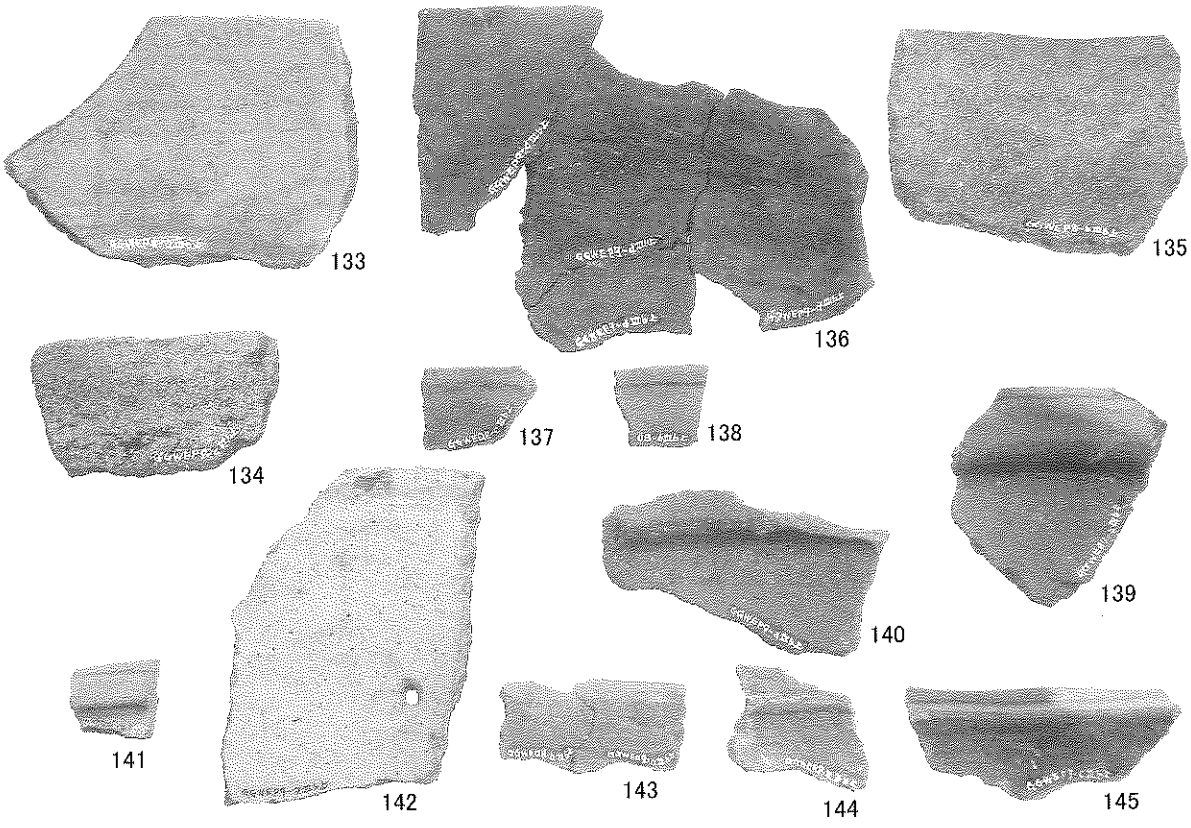
122（底面）



125（底面）

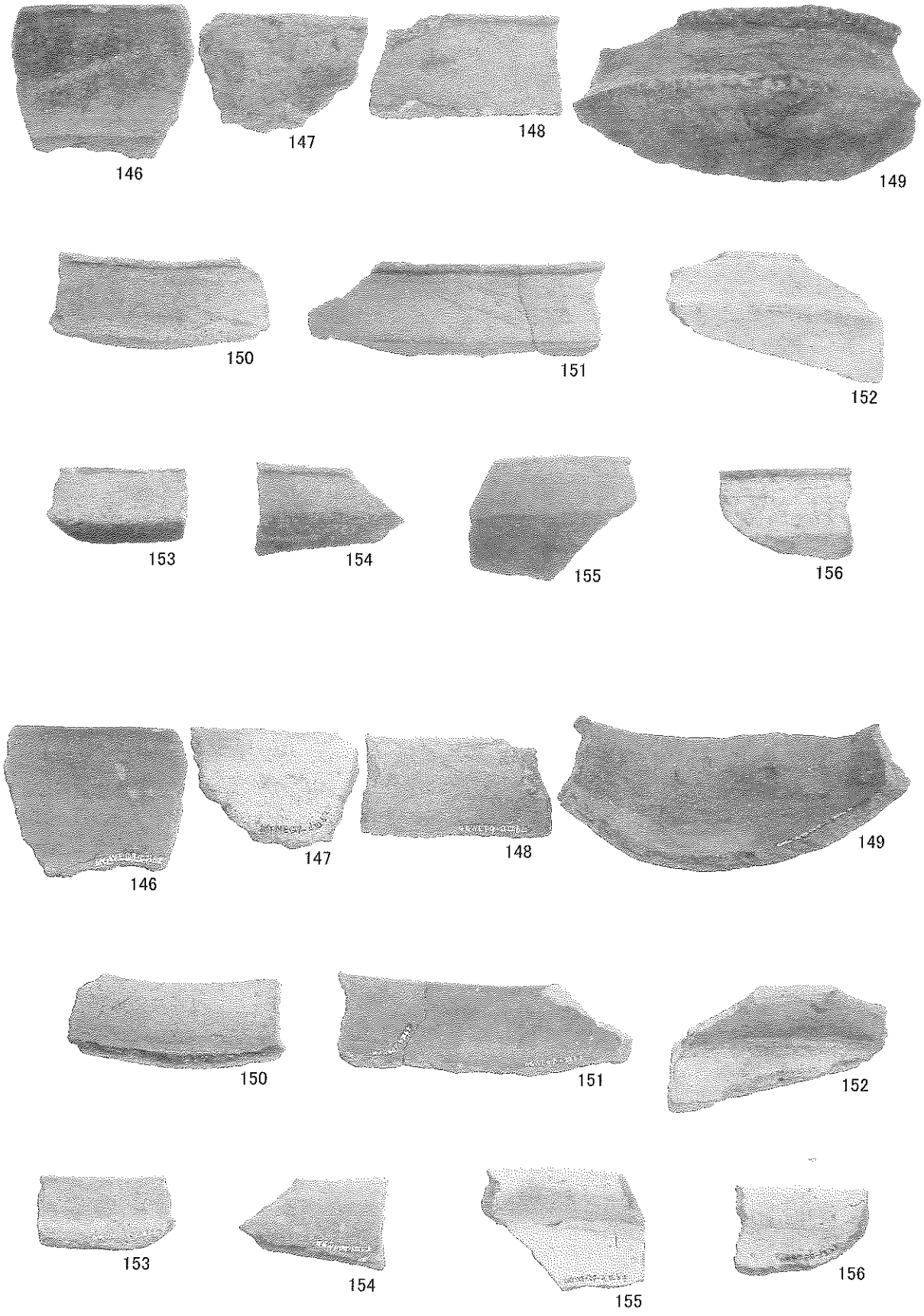
Ⅲb上層出土土器


133
136
135
134
137
138
140
139
141
142
143
144
145

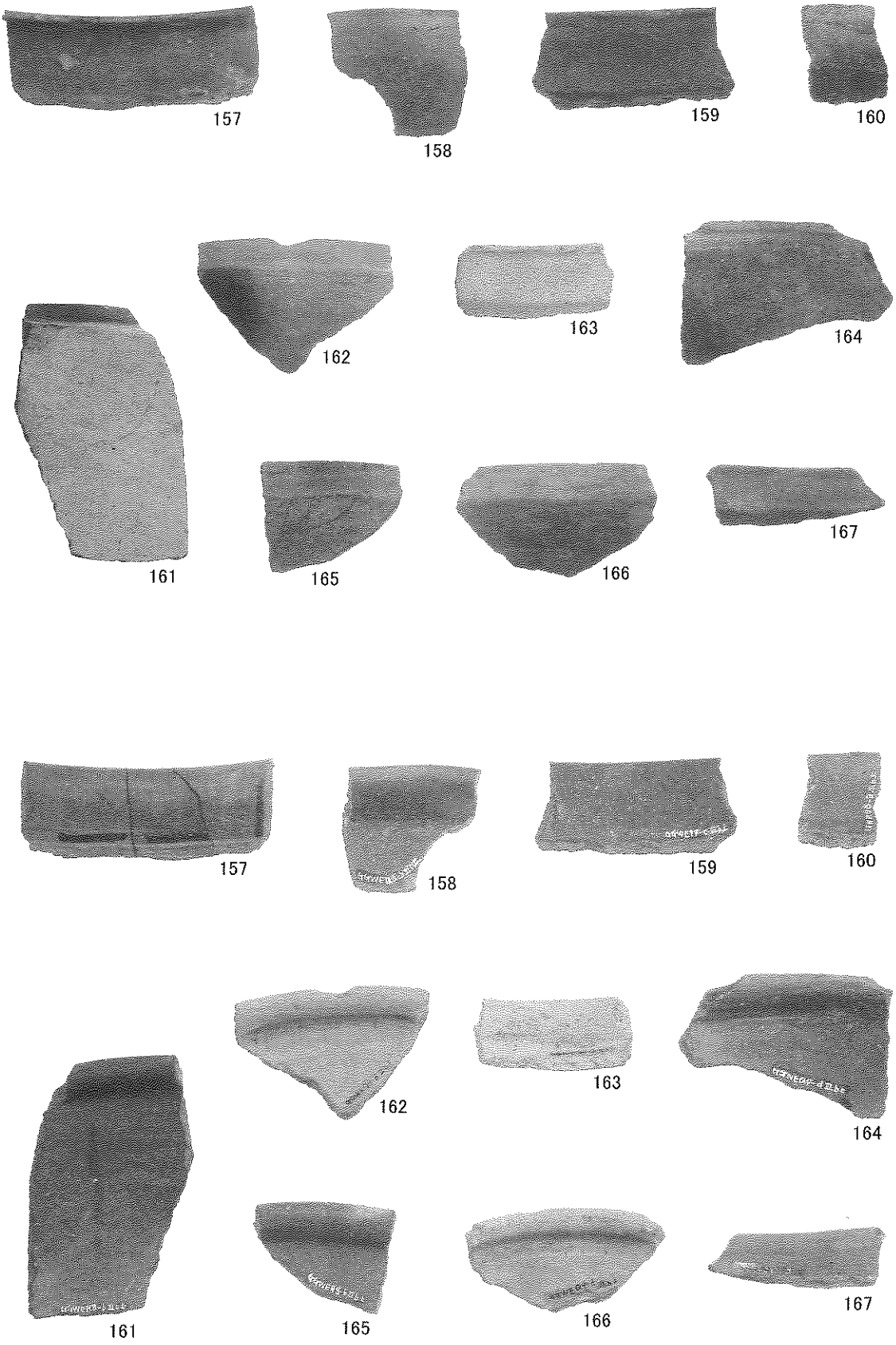

133
136
135
134
137
138
139
140
141
142
143
144
145

Ⅲ b 上層出土土器

図版34

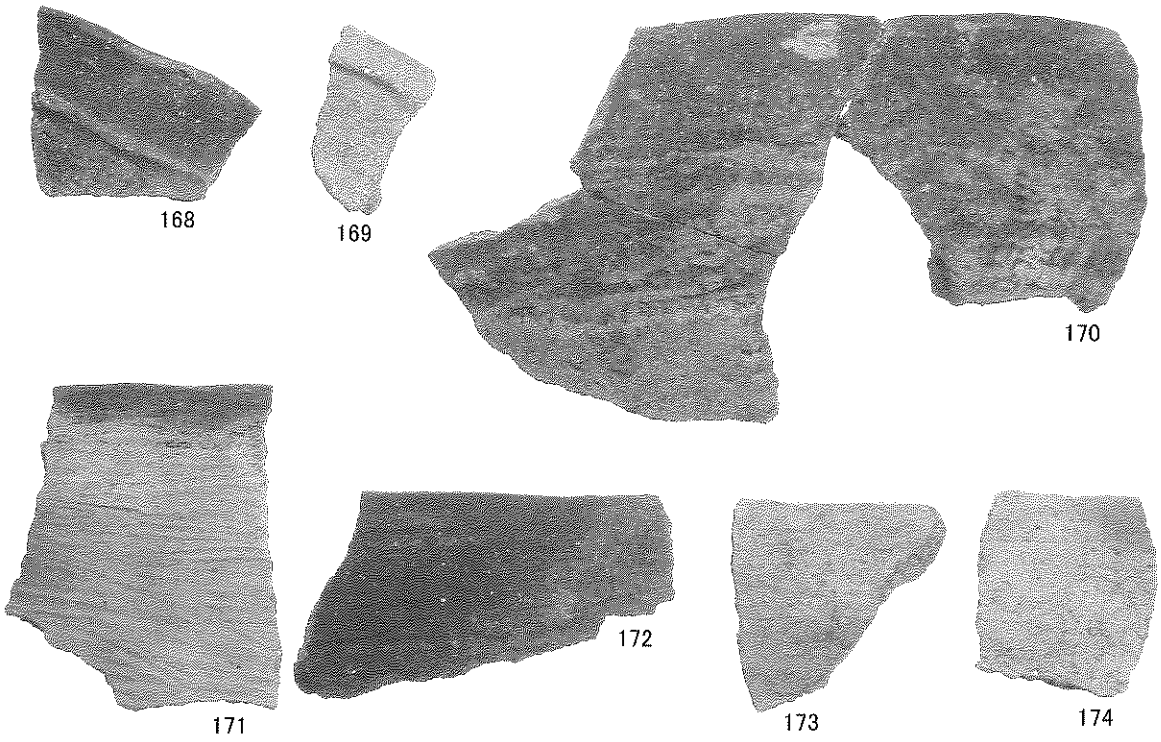


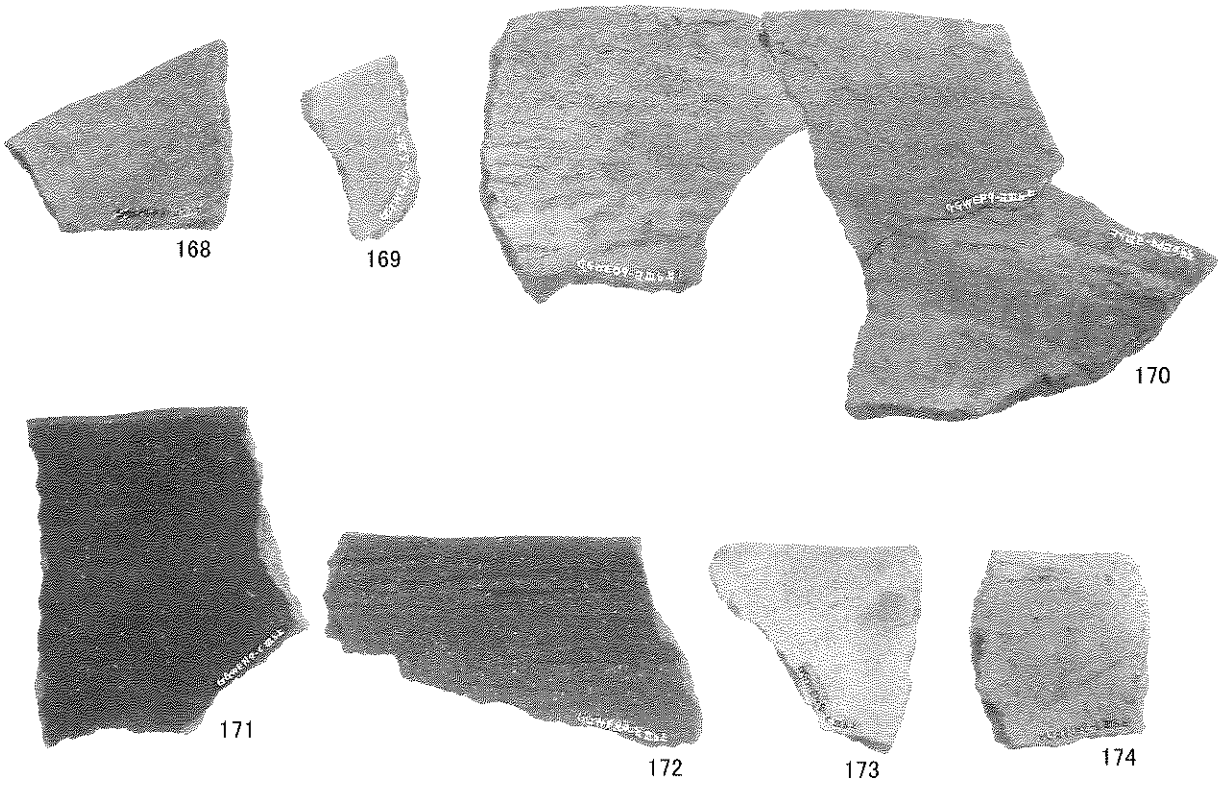
Ⅲｂ上層出土土器


157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167

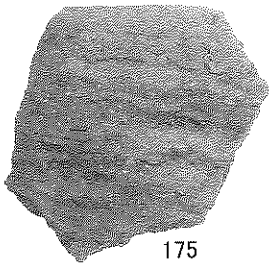
Ⅲｂ上層出土土器

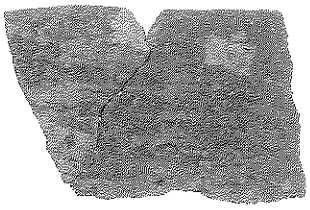
図版36



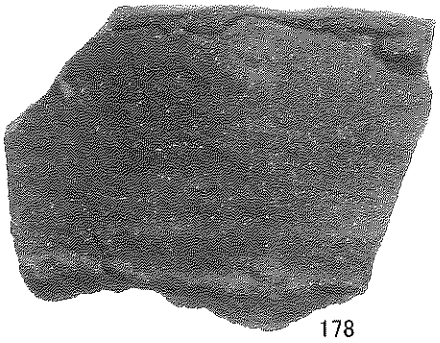


Ⅲｂ上層出土土器

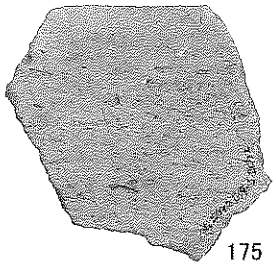

175

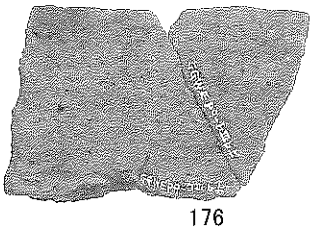

176

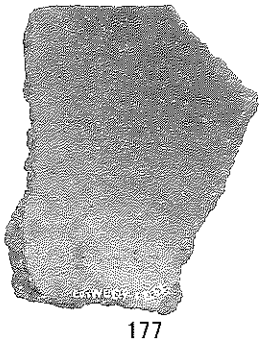
177

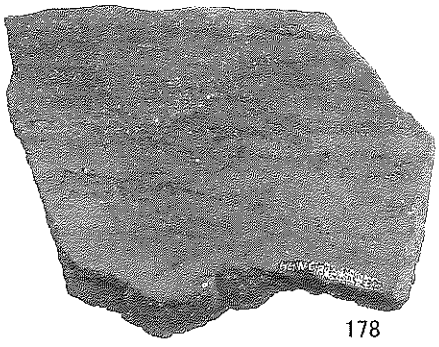

178

179


175


176

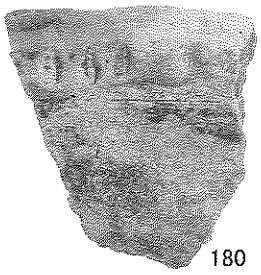

177


178

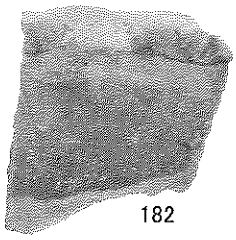
179

Ⅲ b 上層出土土器

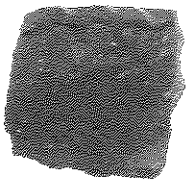
図版38


180

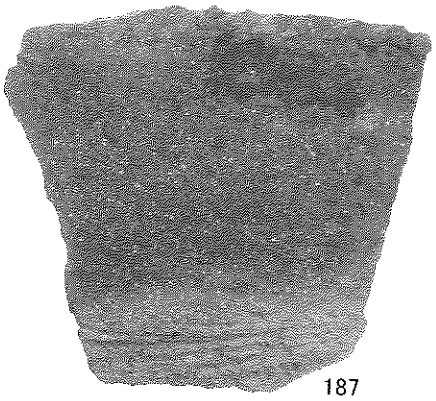
181


182

183

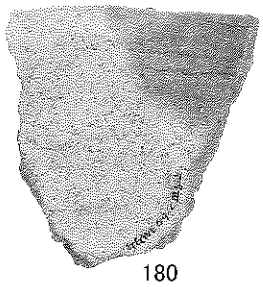

184

185

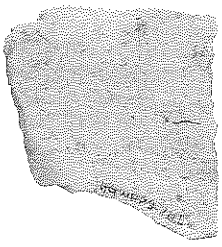

187

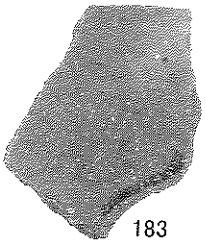
186

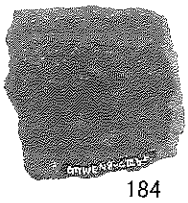
188

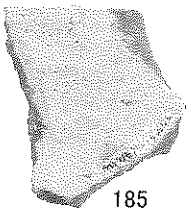

180

181

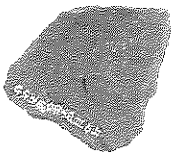

182


183


184

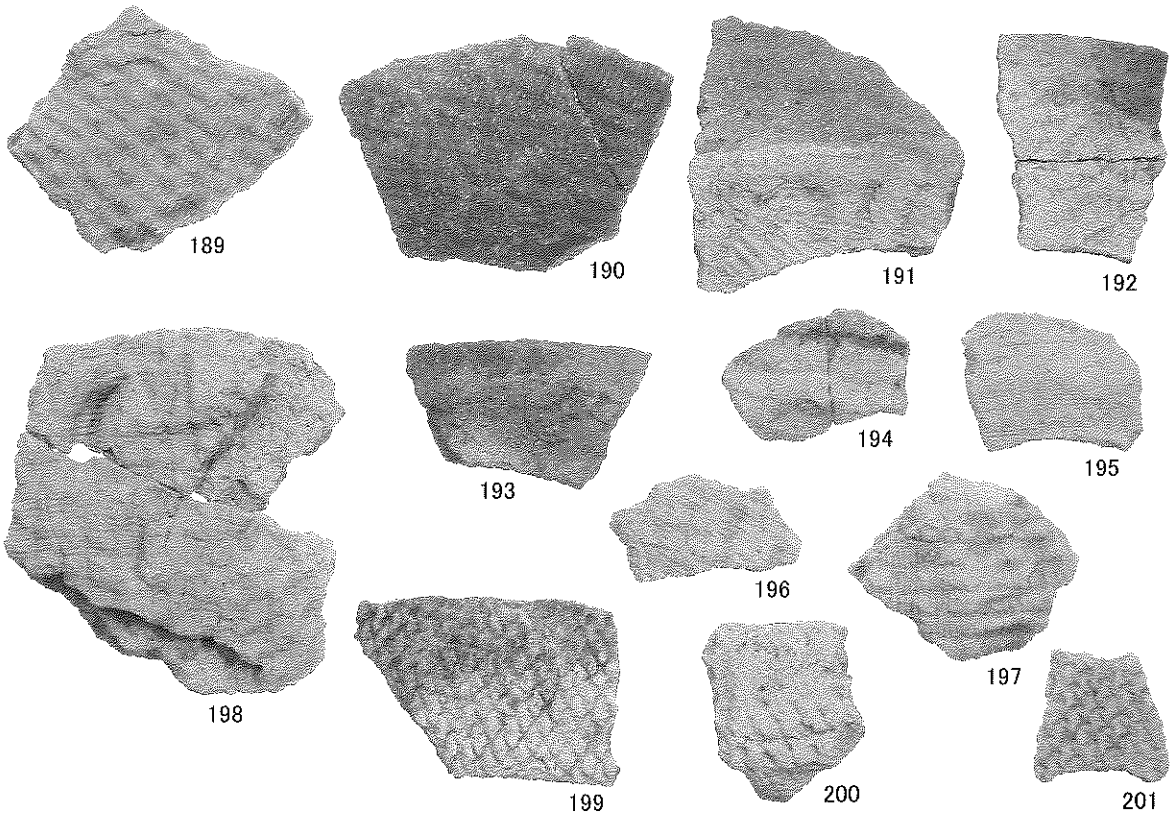

185

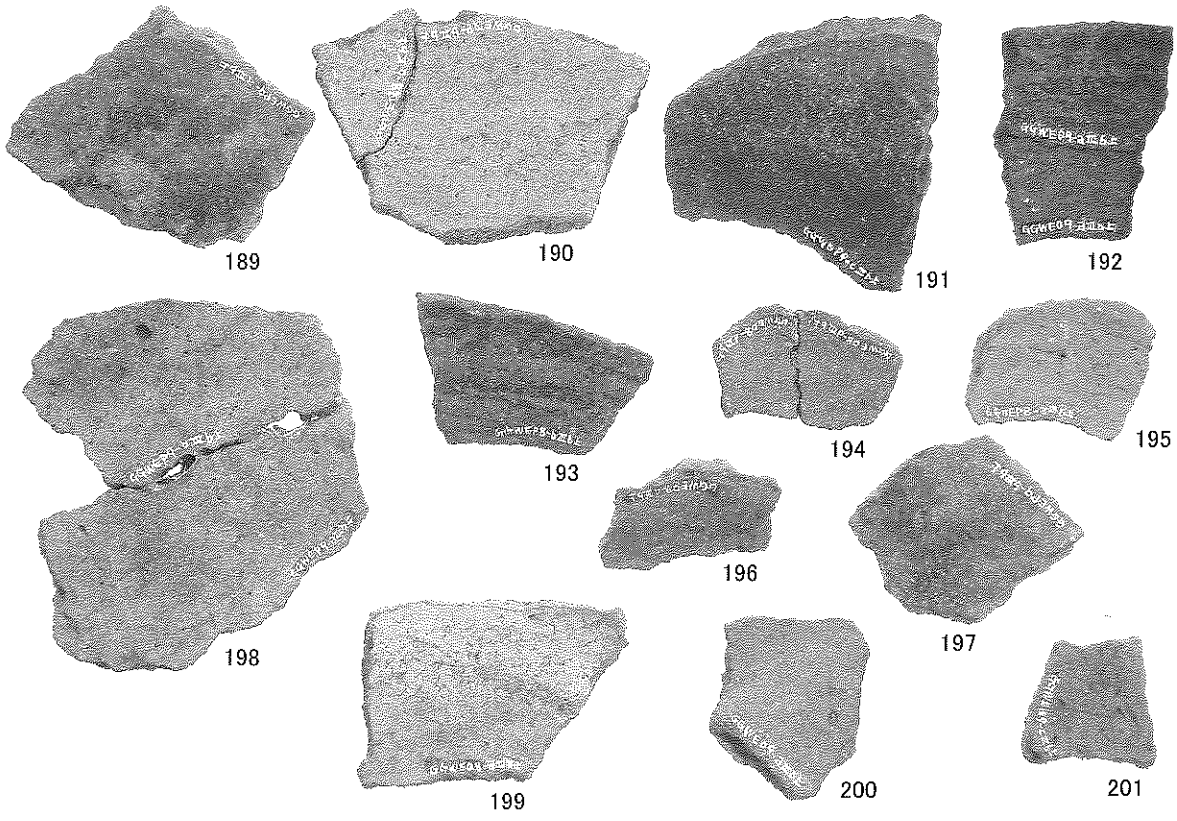
187


186

188

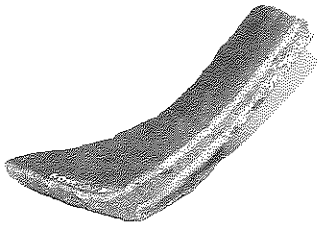
Ⅲｂ上層出土土器


189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201

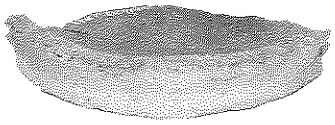

189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201

Ⅲｂ上層出土土器

図版40

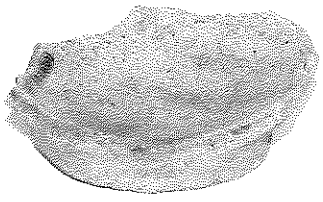


202



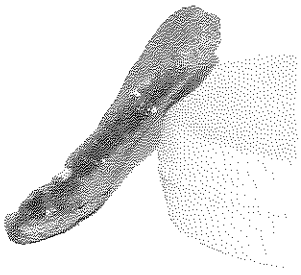
203

204

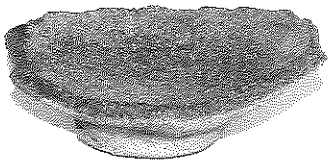


205

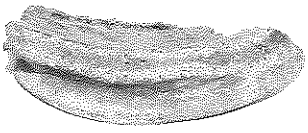
206



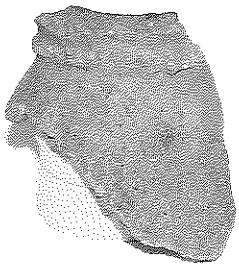
207



208

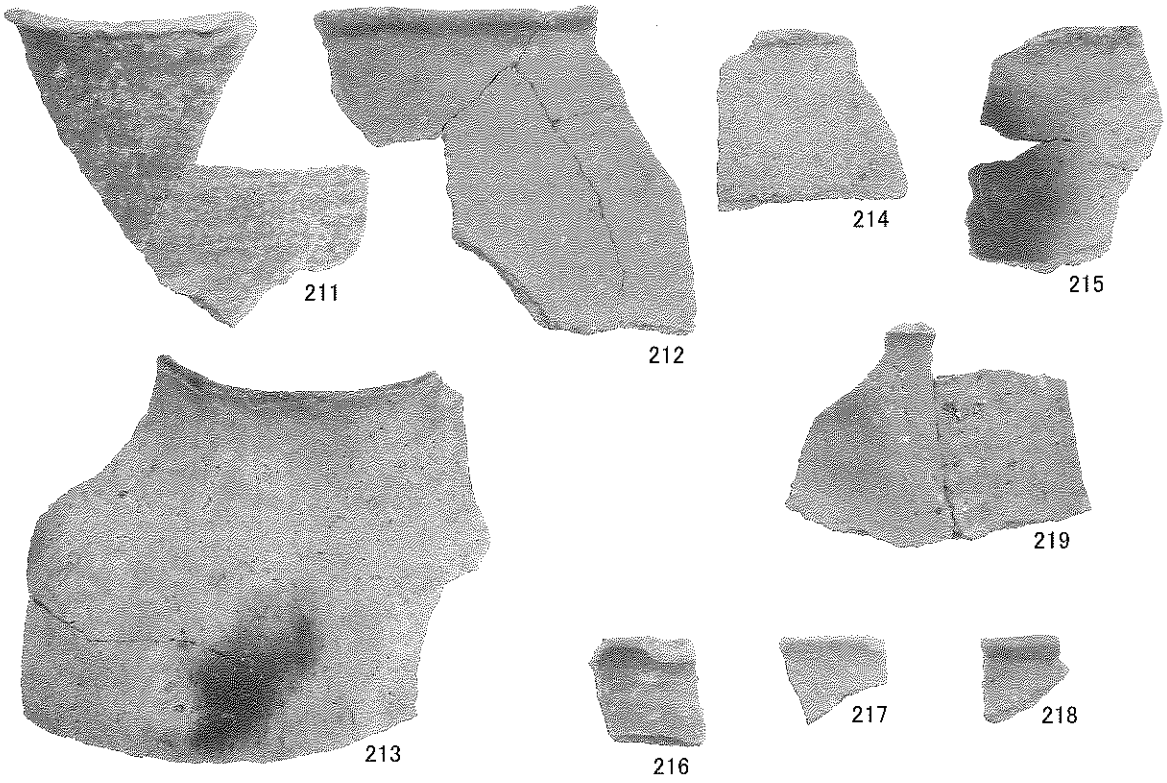


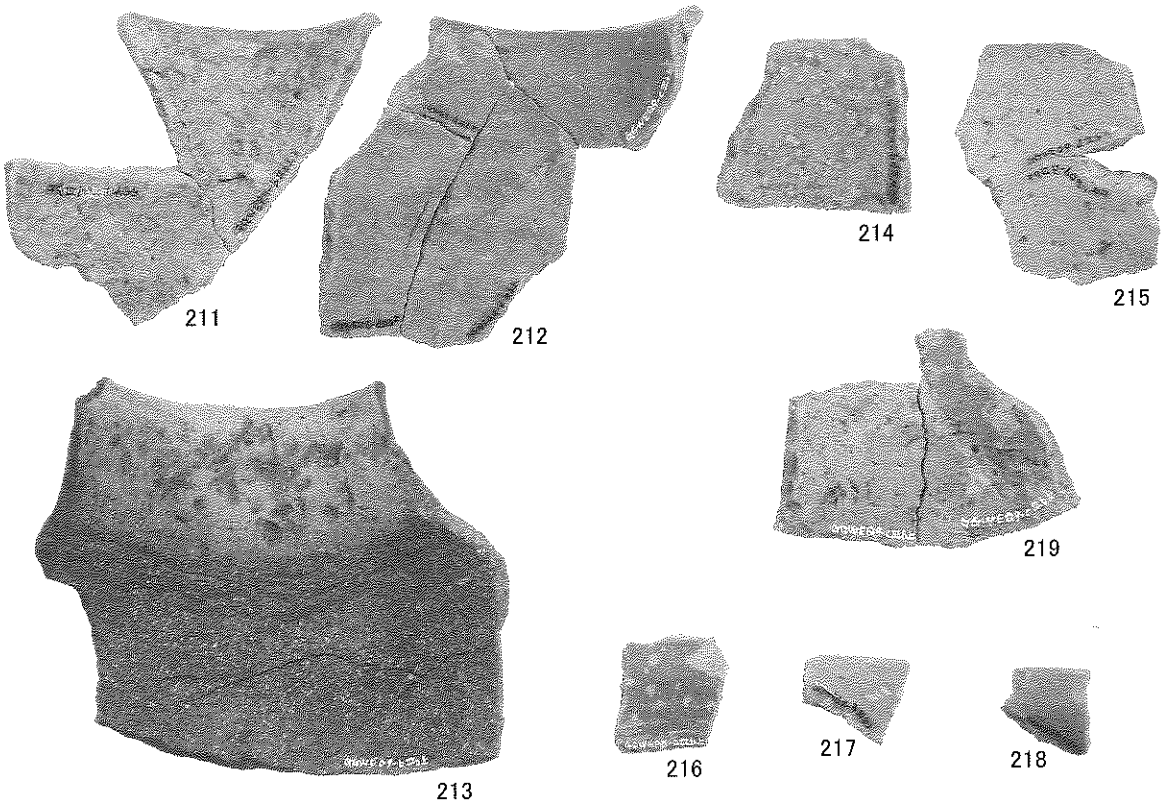
209



210

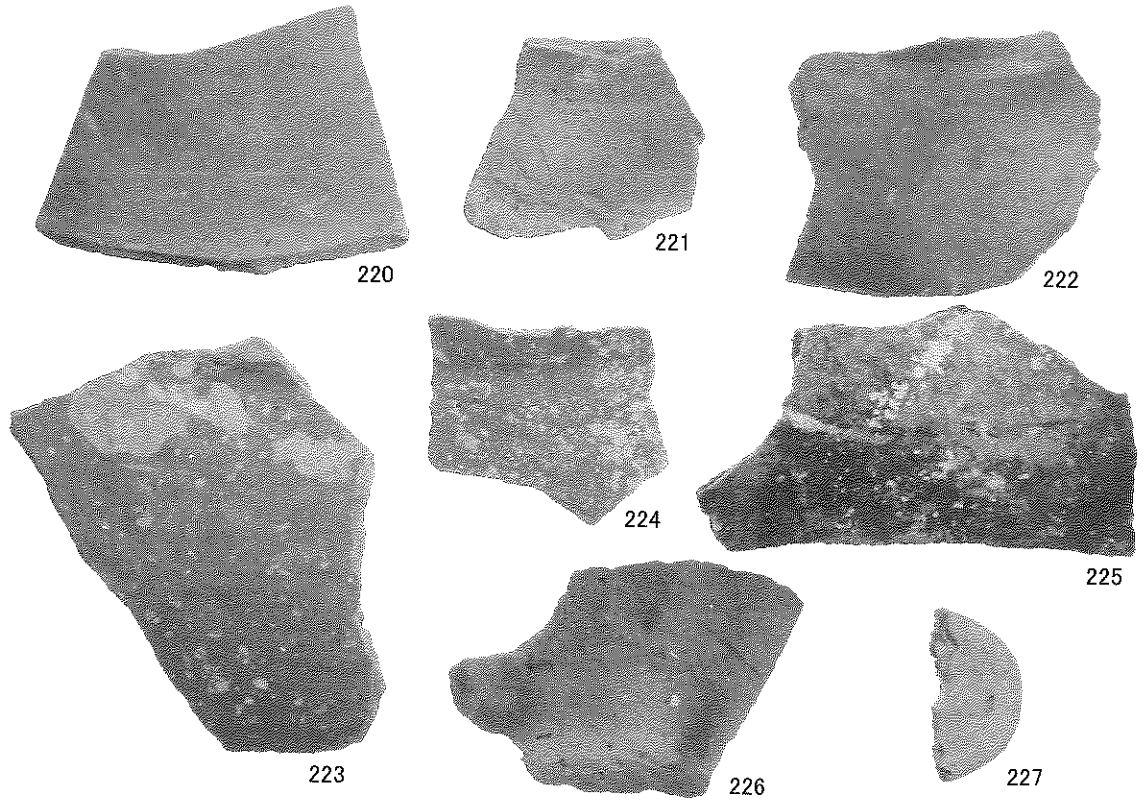
Ⅲｂ上層出土土器

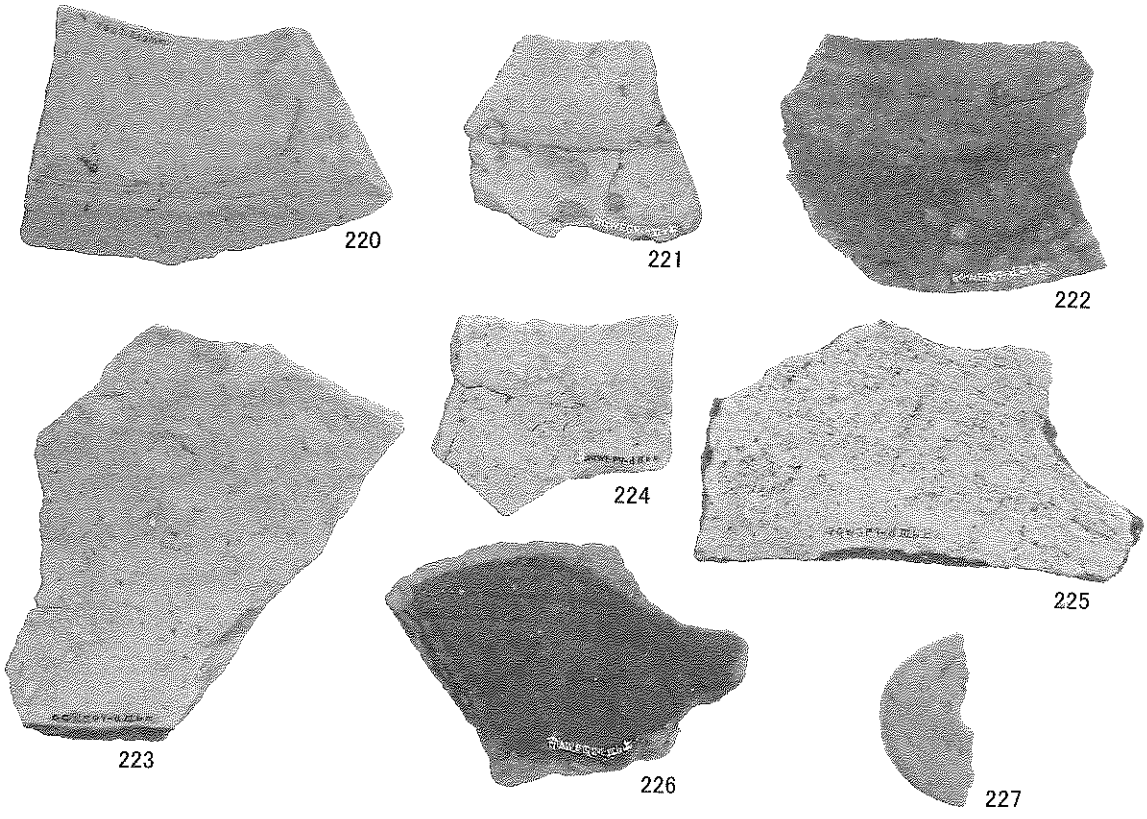

211
212
214
215
213
219
216
217
218


211
212
214
215
213
219
216
217
218

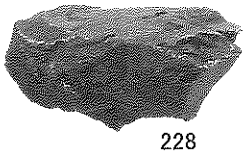
Ⅲ b 上層出土土器

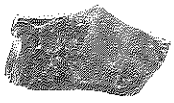
図版42

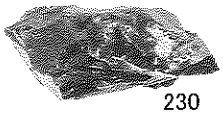


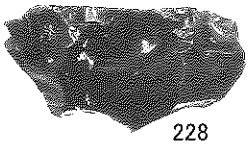


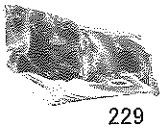
Ⅲｂ上層出土土器・土製品

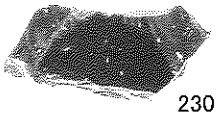

228


229


230

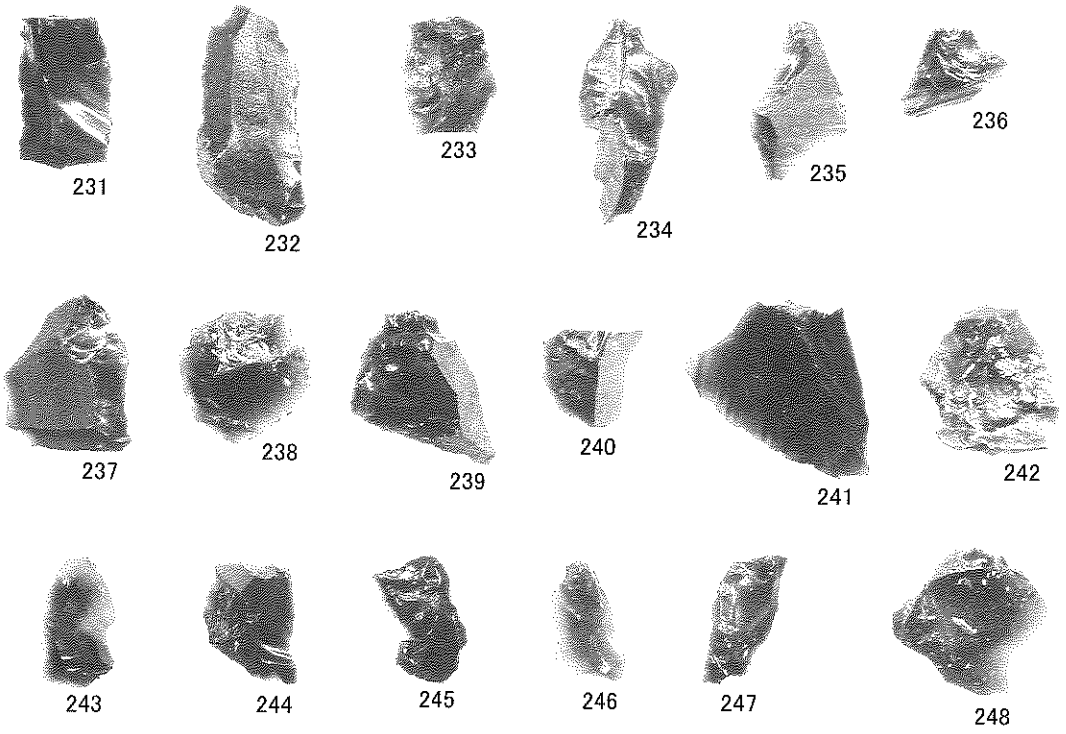

228

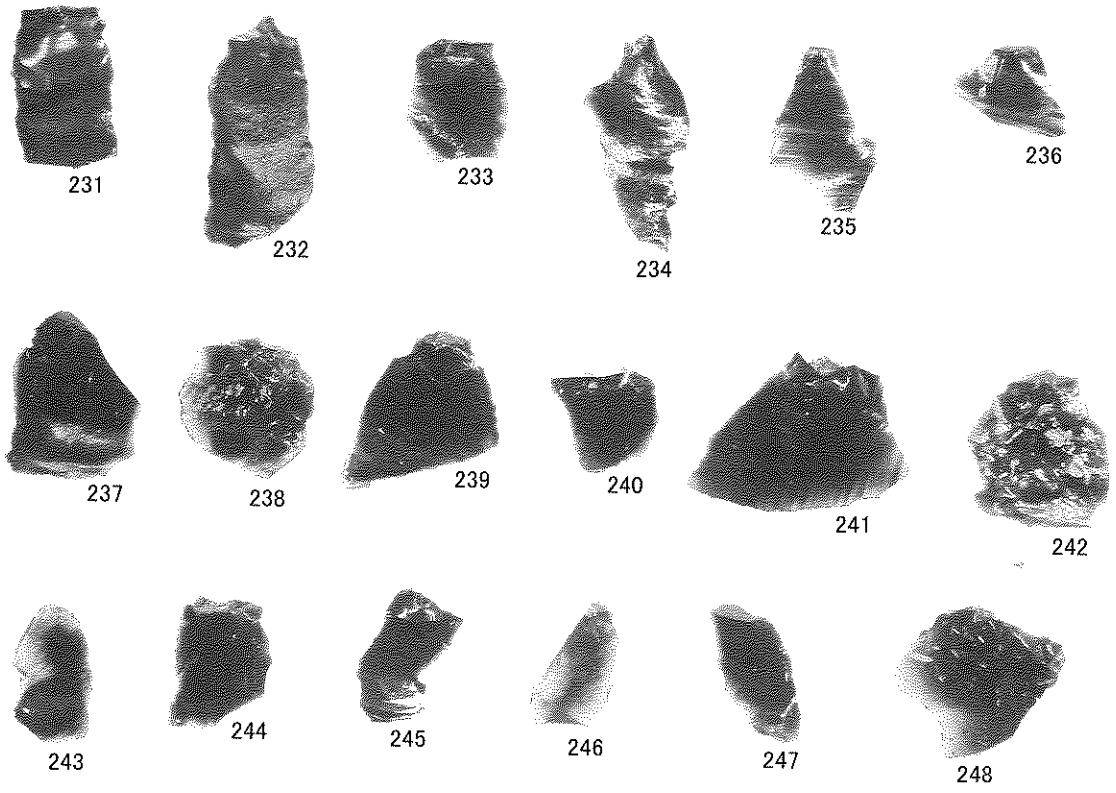

229


230

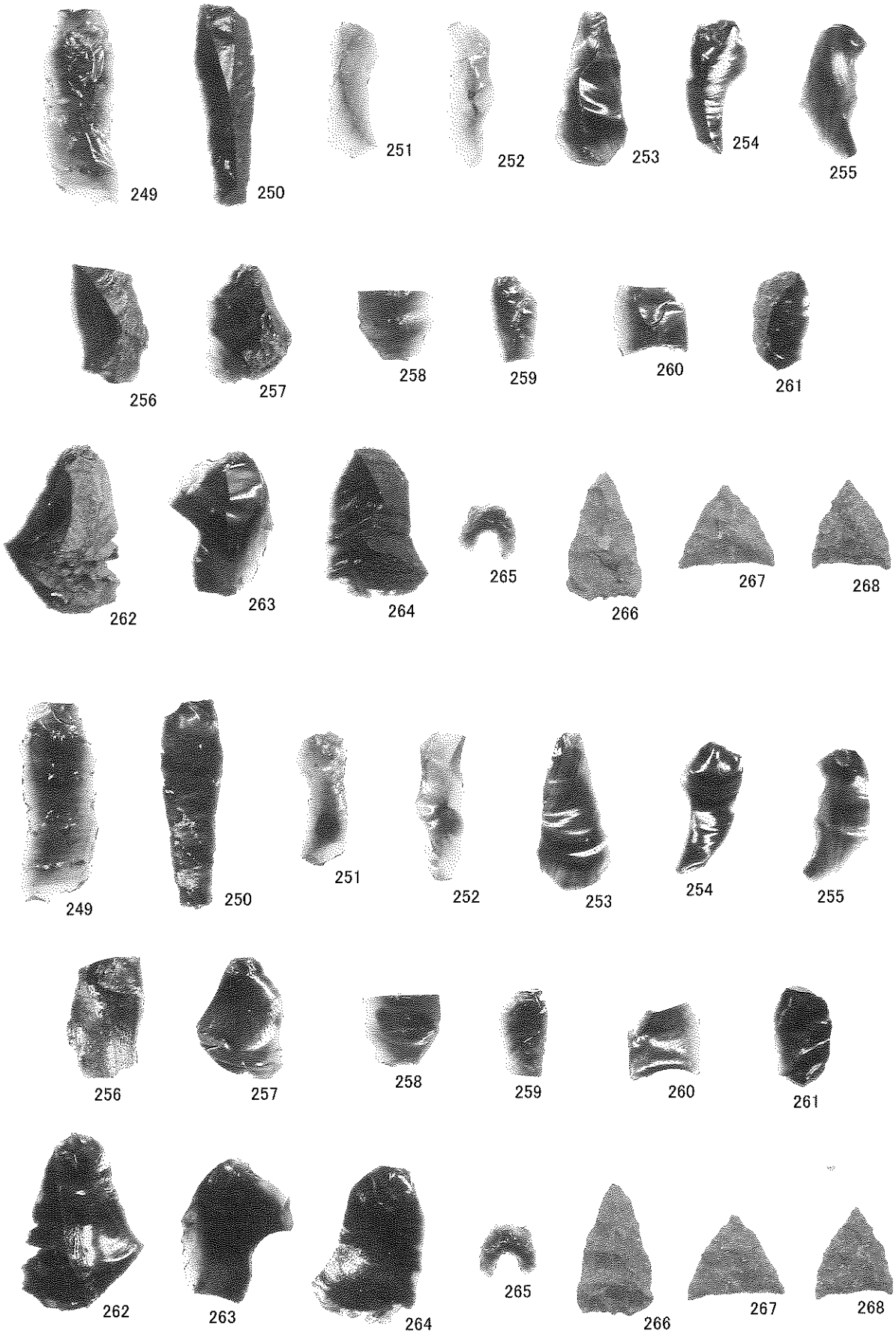
Ⅲｂ上層出土石器

図版44



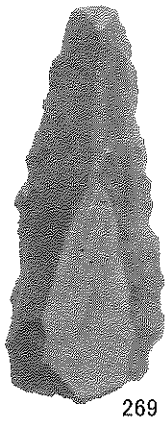


Ⅲ b 上層出土石器

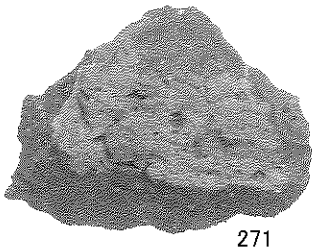

249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268

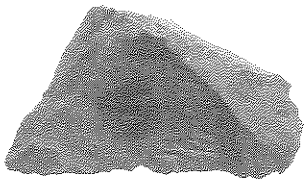
Ⅲ b 上層出土石器

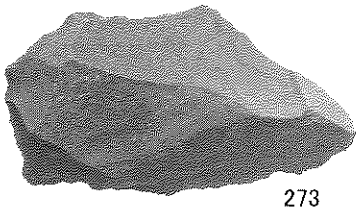
図版46

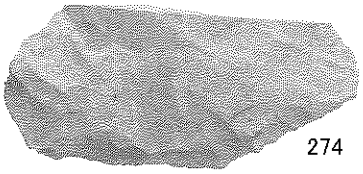

269

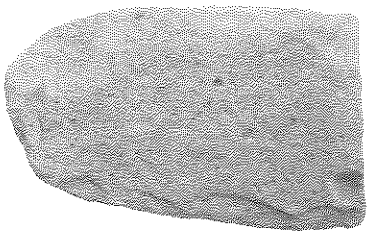
270

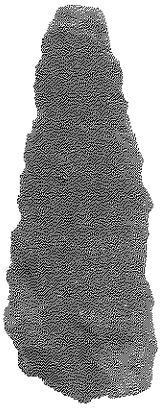

271

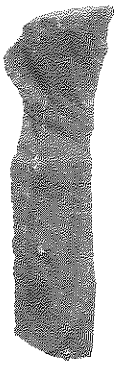

272

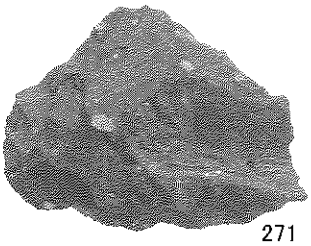

273

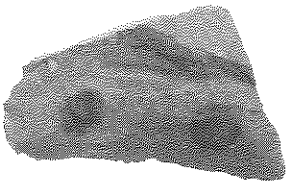

274

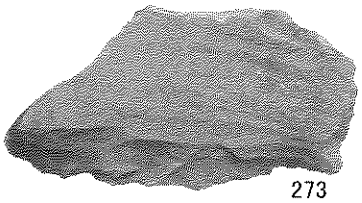

275

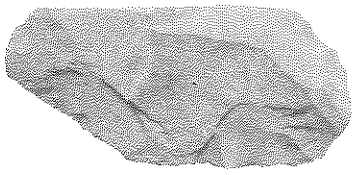

269

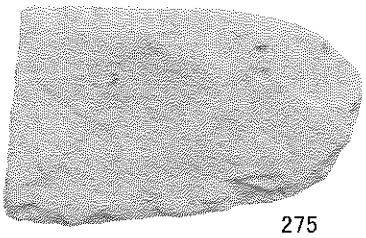

270


271

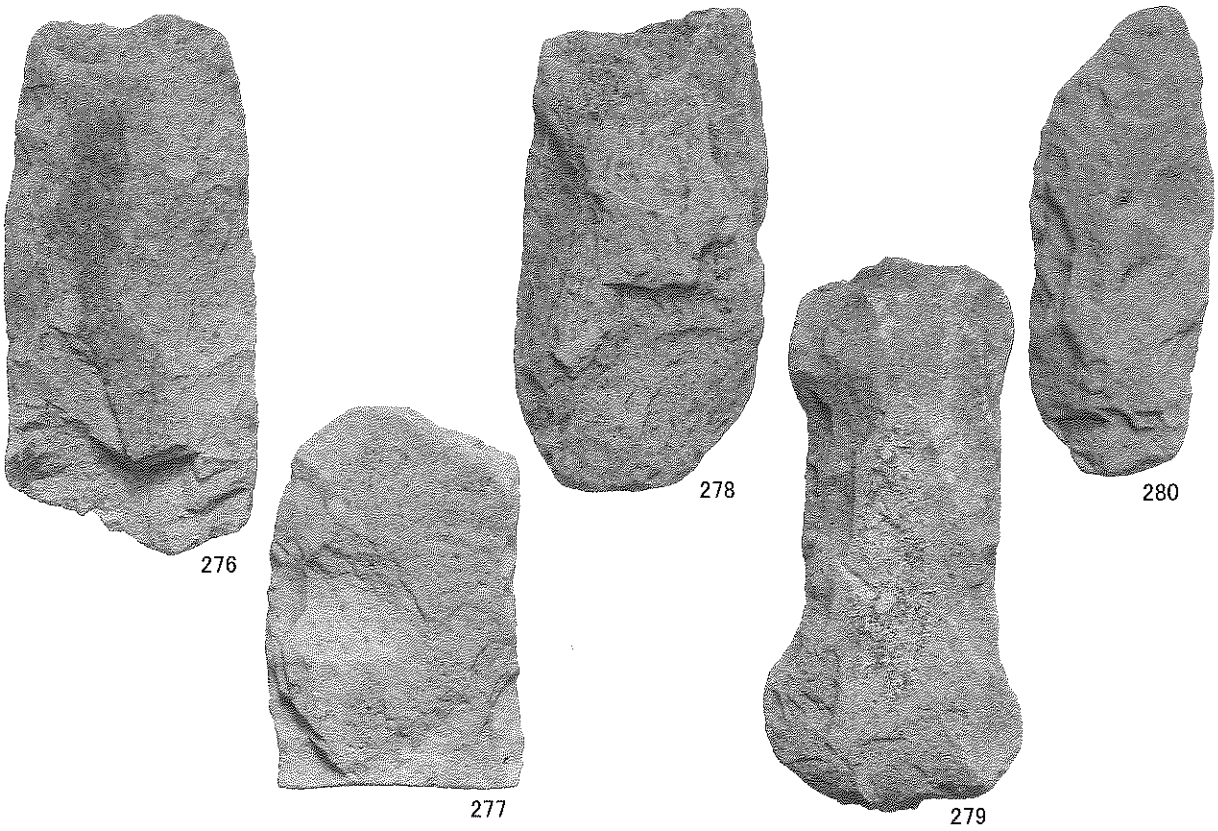

272

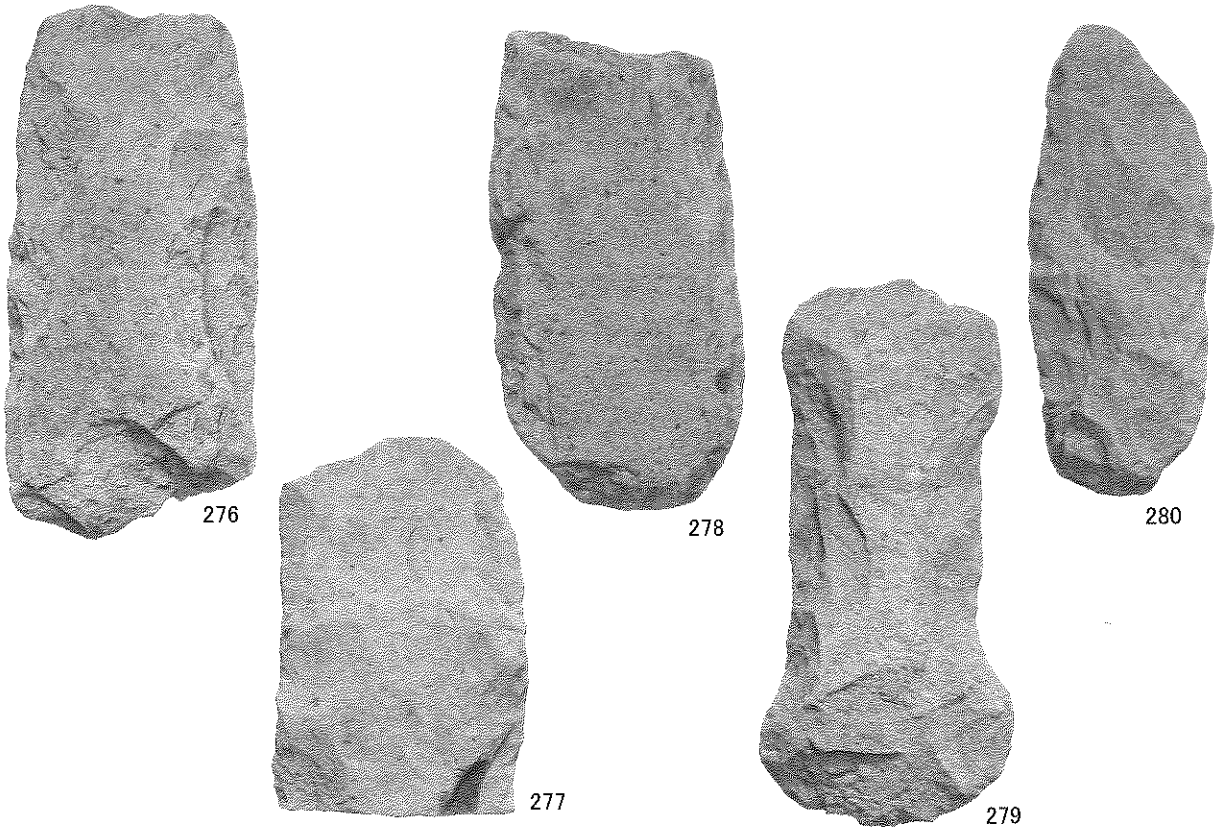

273


274


275

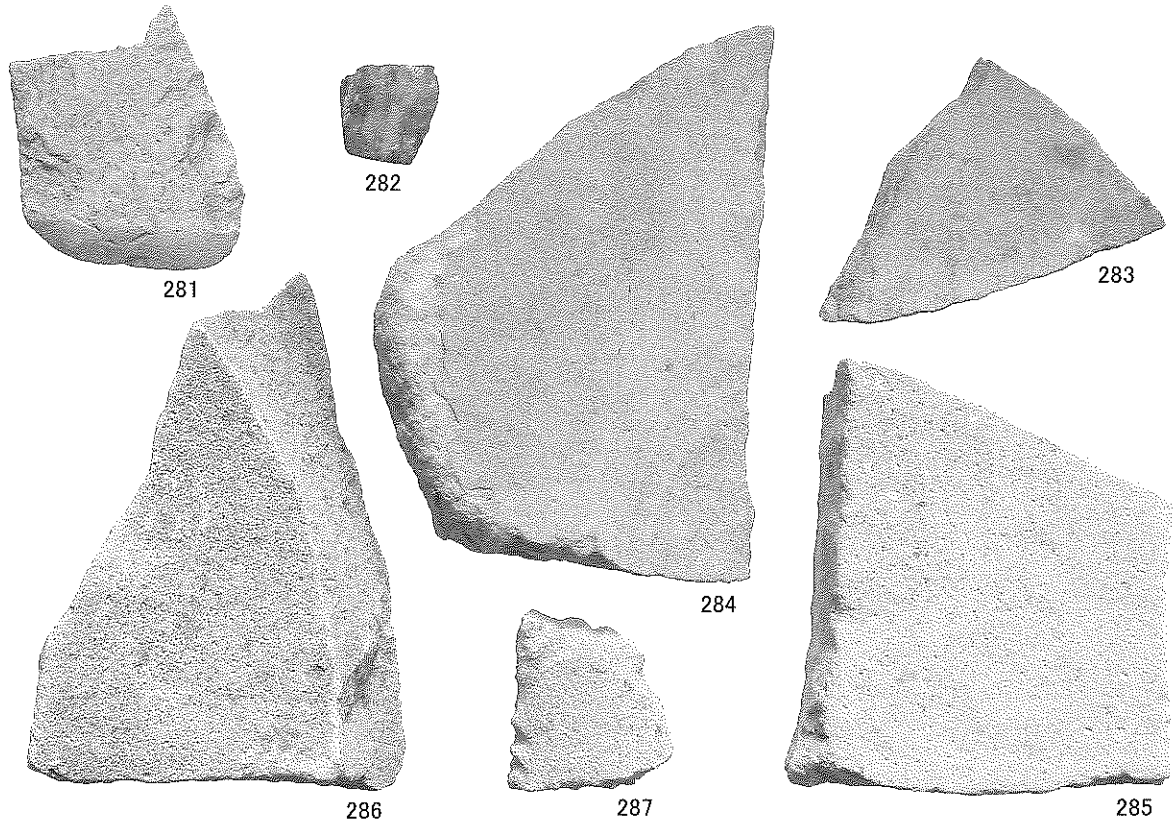
Ⅲ b 上層出土石器

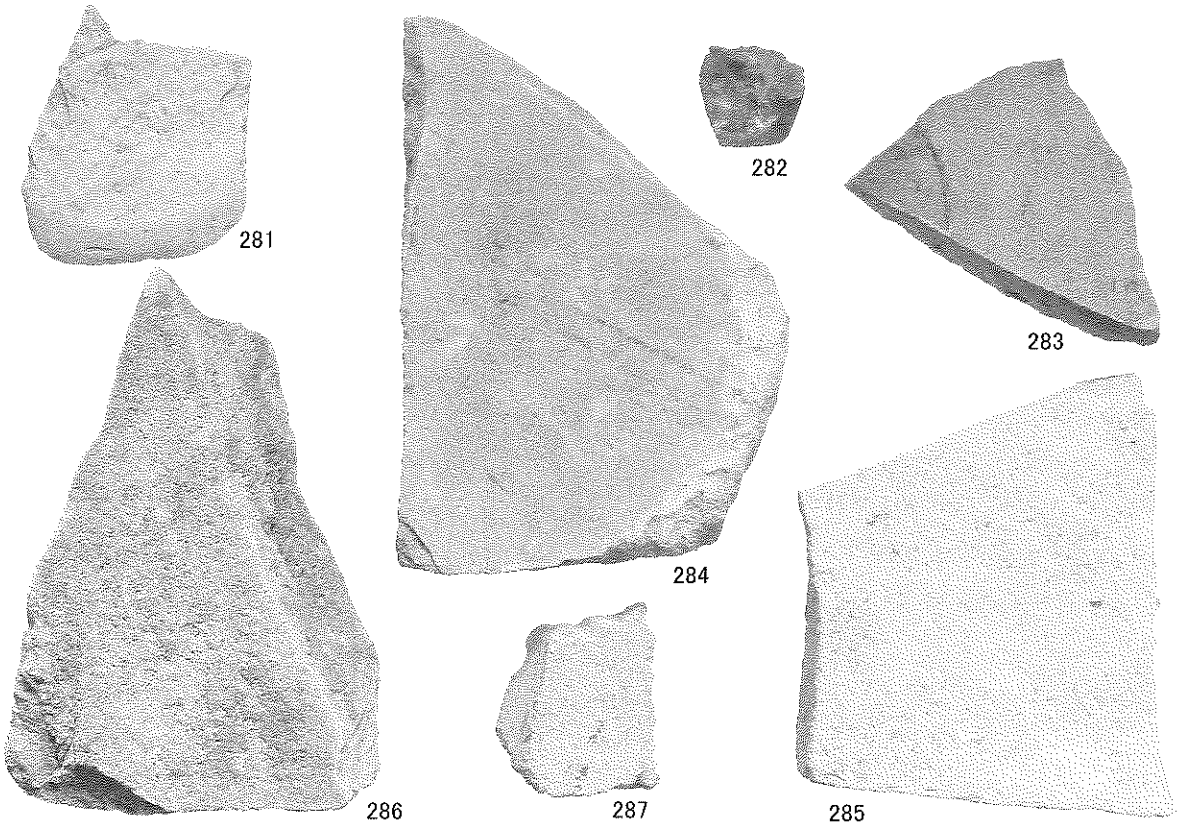




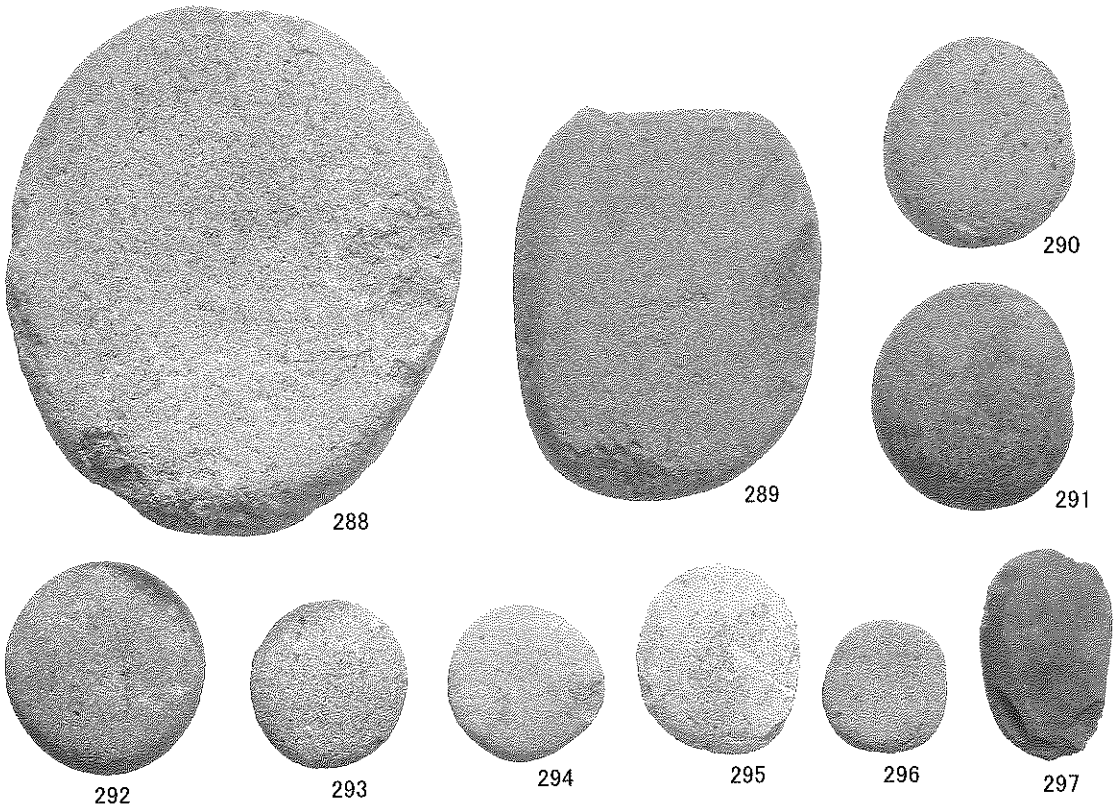
Ⅲ b 上層出土石器

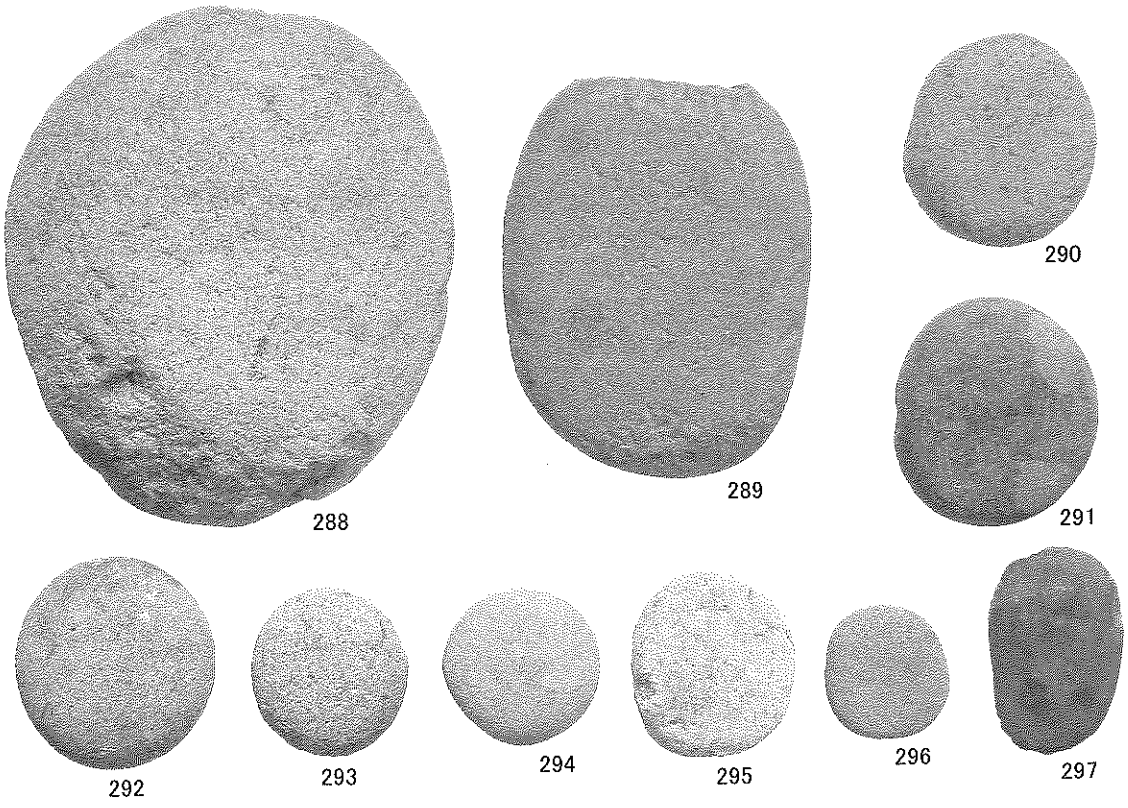
図版48





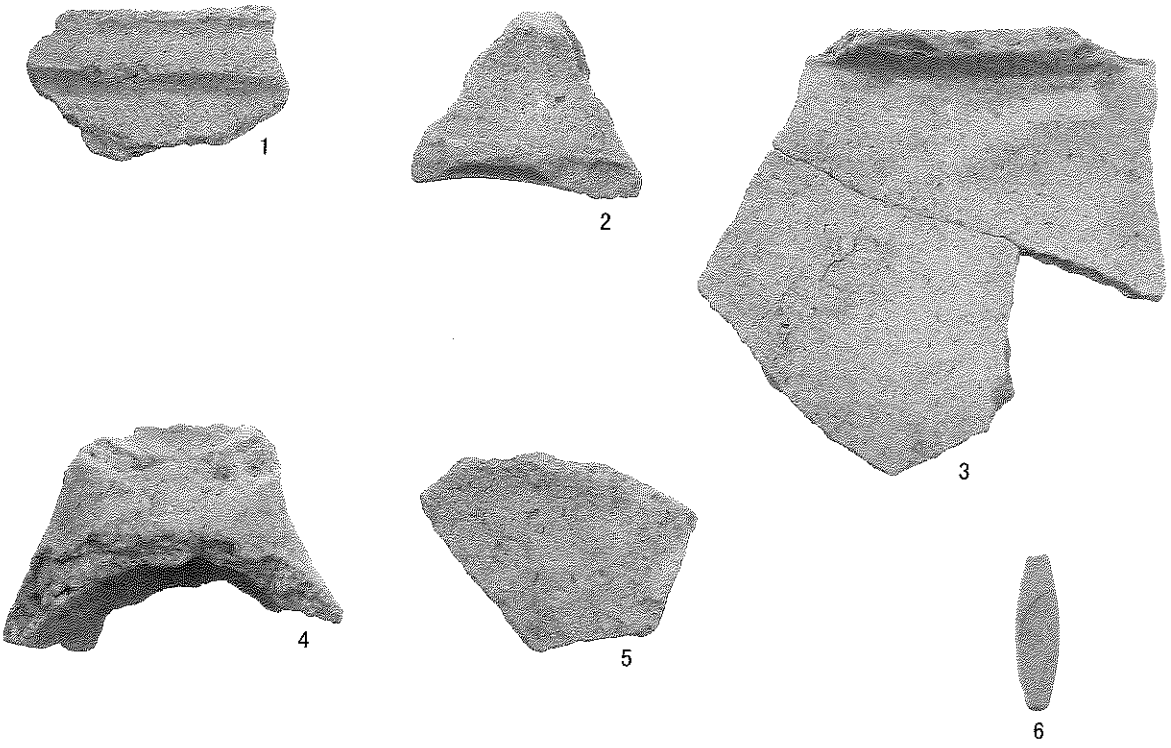
Ⅲ b 上層出土石器

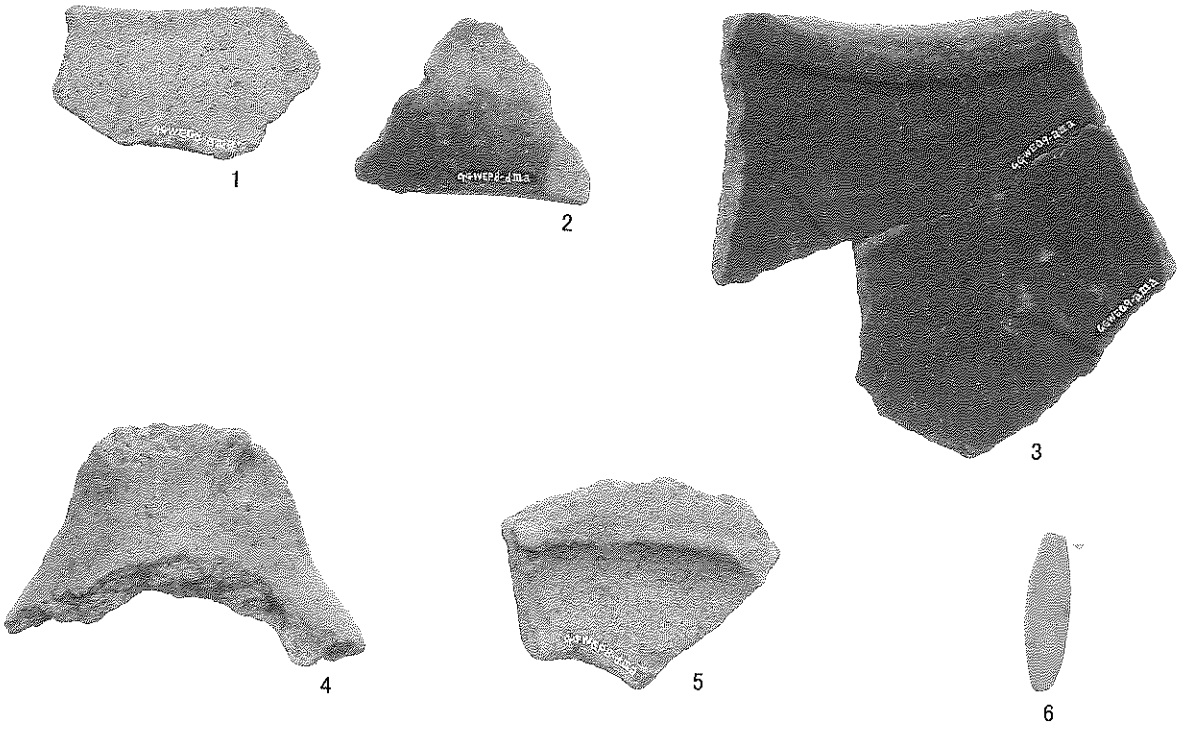

288
289
290
291
292
293
294
295
296
297


288
289
290
291
292
293
294
295
296
297

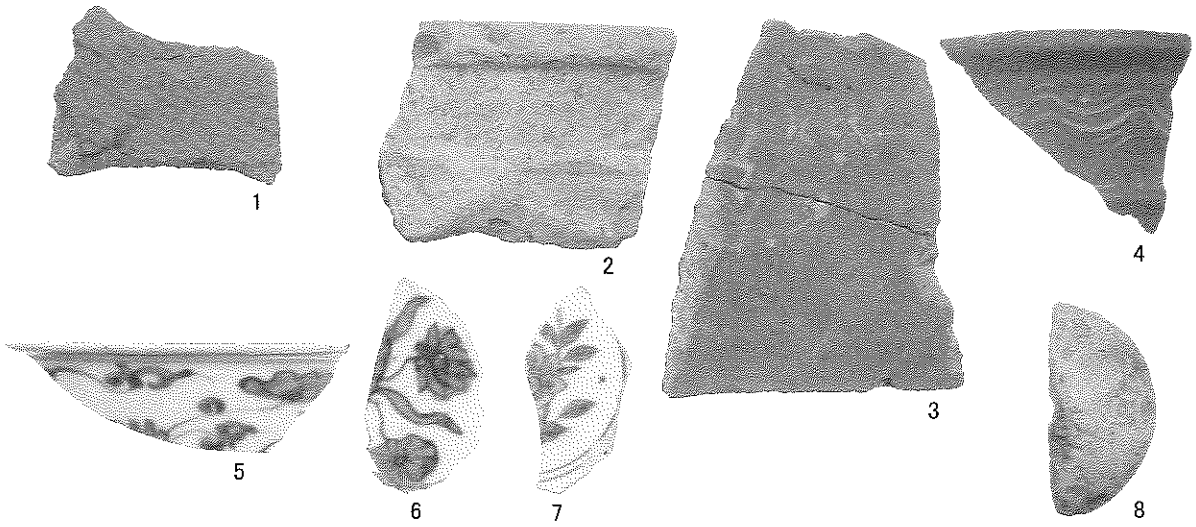
Ⅲｂ上層出土石器

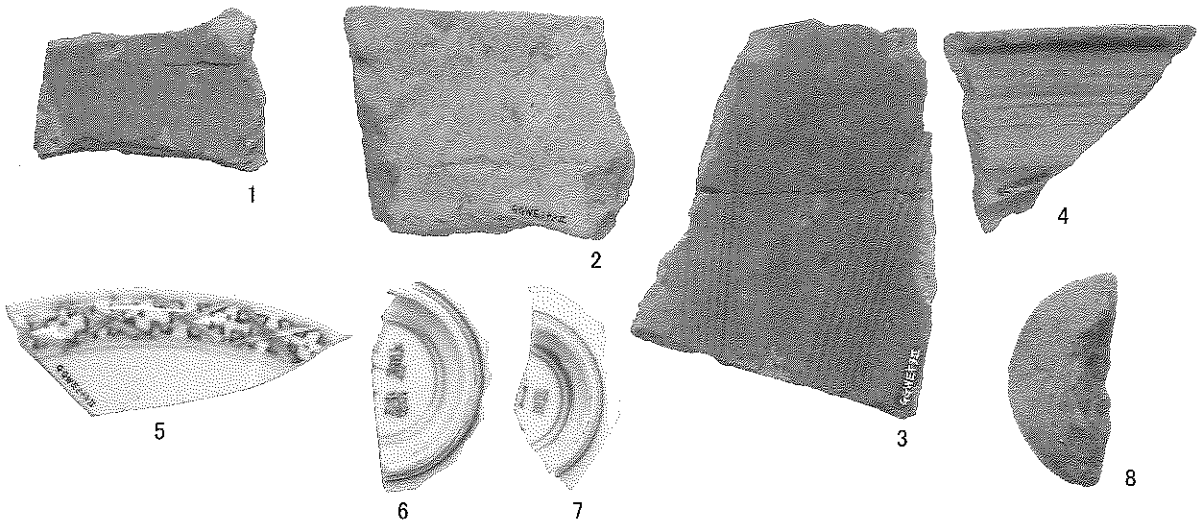
図版50

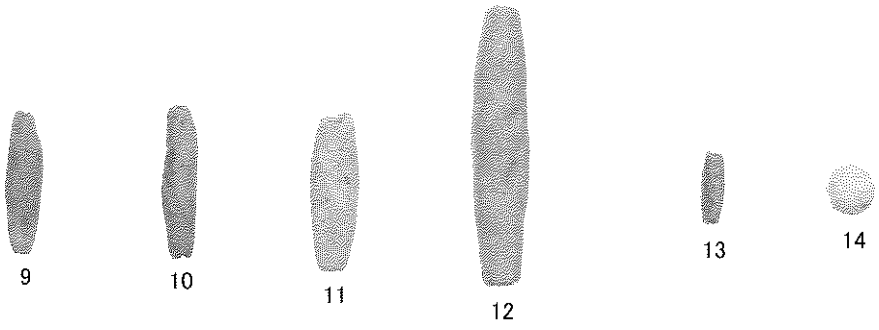




Ⅲ a 層出土遺物



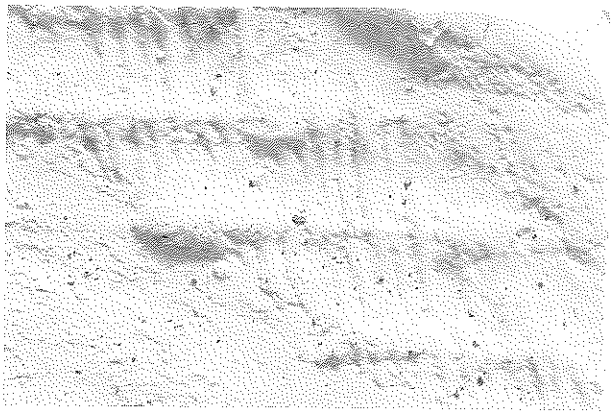




Ⅱ層他出土遺物

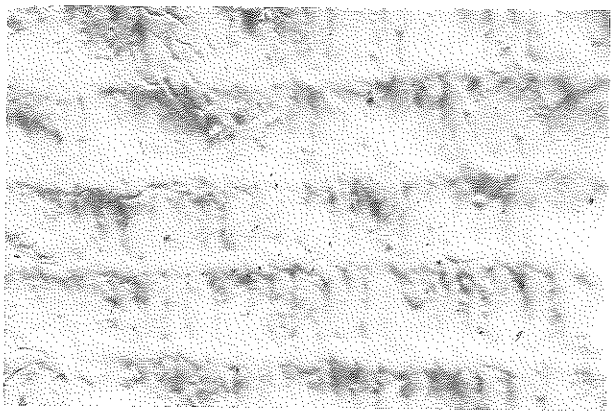
図版52

土坑2



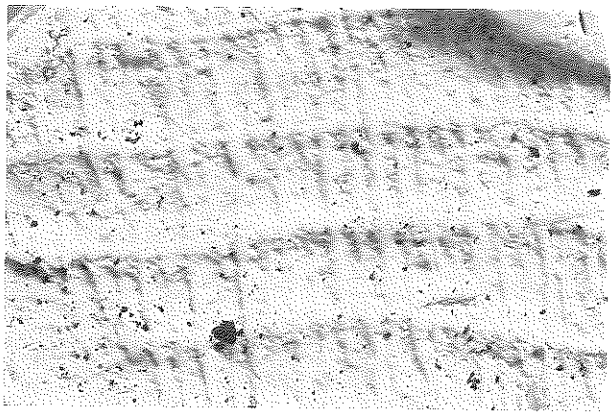
土坑2（モデリング陽像）

189



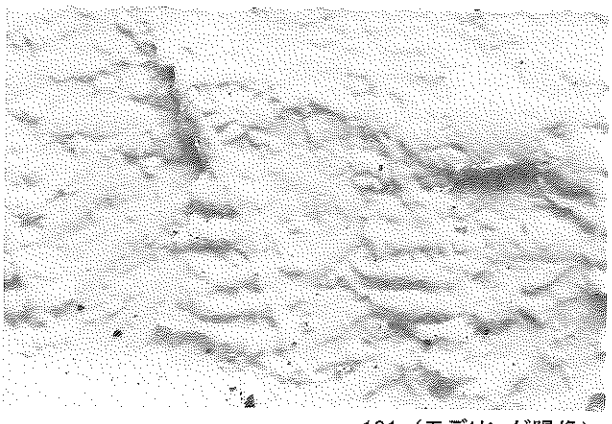
189（モデリング陽像）

190



190（モデリング陽像）

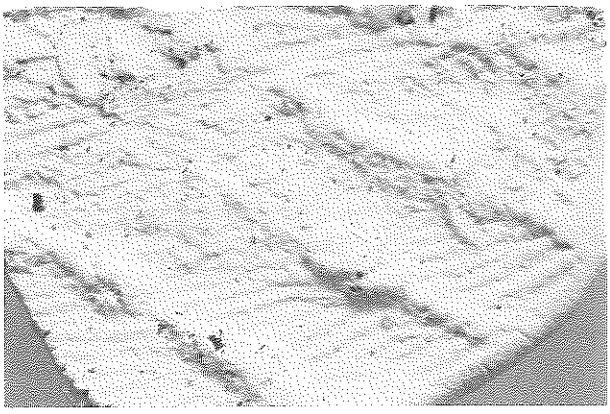
191



191（モデリング陽像）

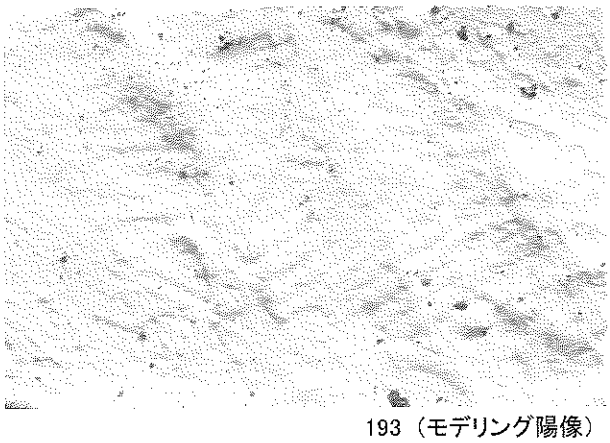
組織痕土器拡大①

192



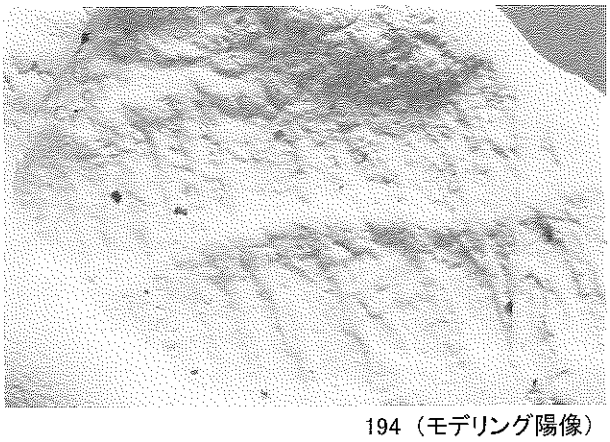
192（モデリング陽像）

193



193（モデリング陽像）

194



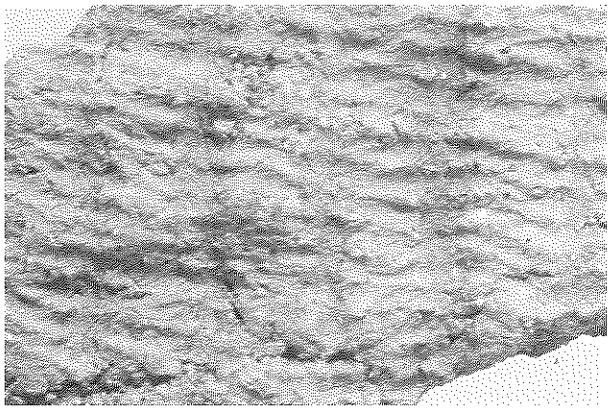
194（モデリング陽像）

195

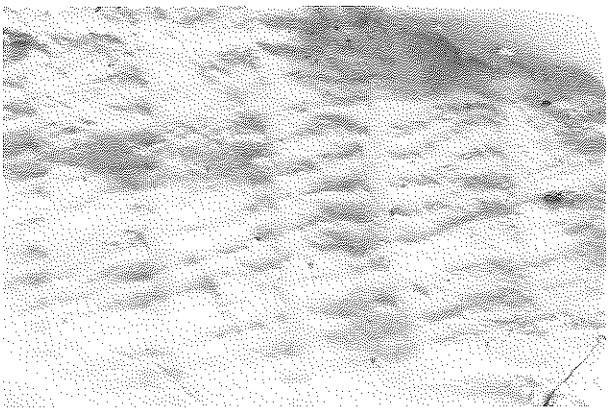
195（モデリング陽像）

組織痕土器拡大②

図版54

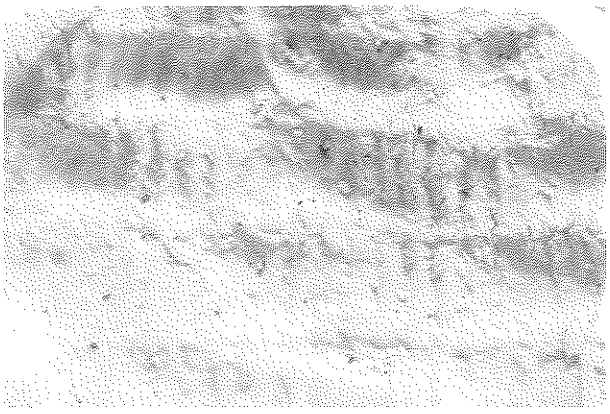


196



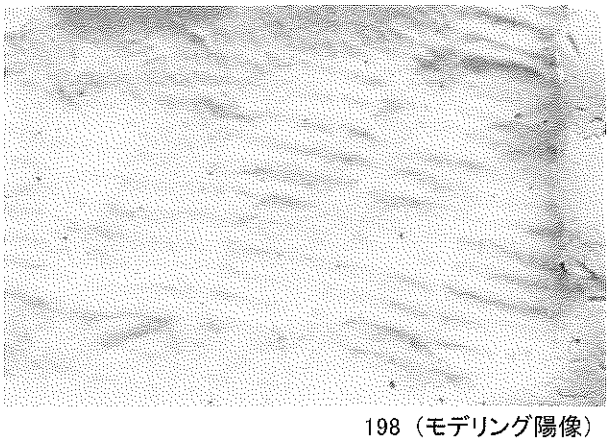
196（モデリング陽像）

197

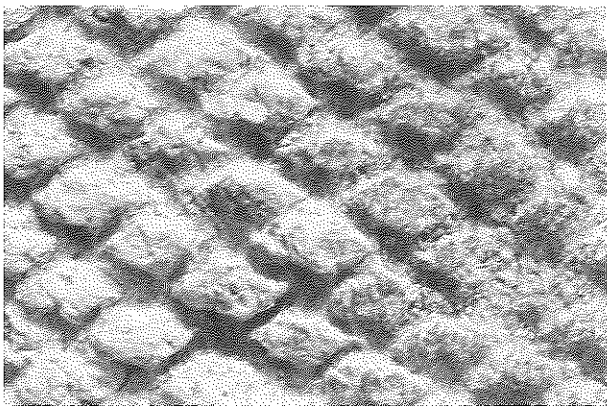


197（モデリング陽像）

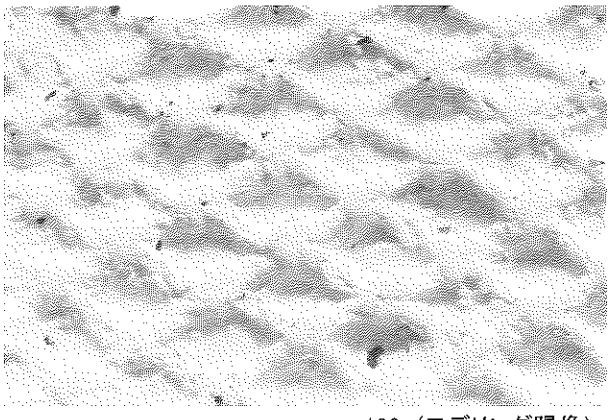
198



198（モデリング陽像）



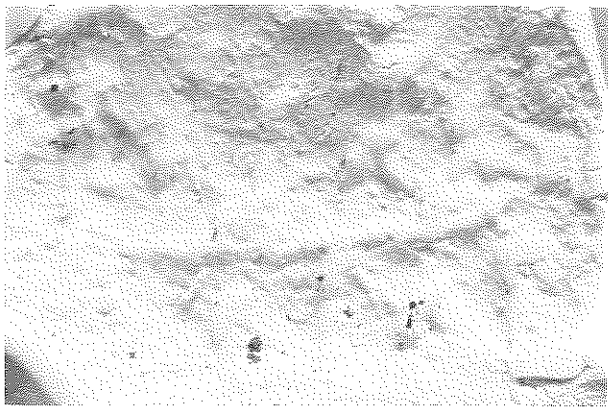
199



199（モデリング陽像）

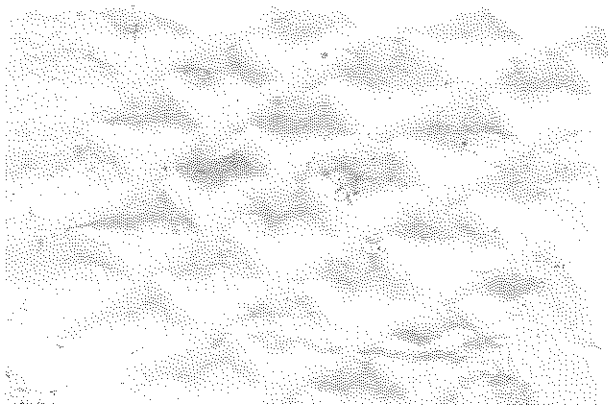
組織痕土器拡大③

200



200（モデリング陽像）

201



201（モデリング陽像）

組織痕土器拡大④

附　　編

レプリカ法による長崎県権現脇遺跡出土土器圧痕の種子類の同定 II

小畑　弘己・仙波　靖子

1．遺跡の調査と概要

遺 跡 名：権現脇遺跡（第３次調査）

所 在 地：長崎県南島原市深江町大野木場

調査期間：平成18年４月25日～平成18年６月30日

担 当 者：本多　和典

時　　期：縄文時代後期末～弥生時代前期

立　　地：雲仙普賢岳東麓に展開する扇状地の北端部、標高220～235m

2．対象資料とレプリカ法の手順

植物圧痕検索の対象とした資料は、本遺跡から出土した縄文時代後期末の御領式から弥生時代前期初頭の原山式の土器群である。

レプリカ法は以下の手順で行った。

① 肉眼・実体顕微鏡による土器観察、その中から植物圧痕と思われるものを抽出

② 圧痕内の洗浄後、土器全体写真・実体顕微鏡による圧痕部の拡大写真撮影

③ 離型剤（アセトン＋パラロイドB-75）を圧痕部に塗布後、ＧＥ東芝シリコーンＳＥ350＋硬化剤ＣＥ621を圧痕部に充填

④ ③のシリコーンに増粘剤を混ぜたものを走査電子顕微鏡のマウントに塗り、圧痕部のシリコーンに接合後、乾燥

⑤ 固まった後、取り外してアセトンで圧痕部の離型剤を洗浄

⑥ 走査電子顕微鏡によるレプリカの観察・写真撮影・同定

今回、観察した土器94点中、レプリカを製作したものは16点、その中で植物の可能性があるものは10点、同定可能なものは３点であった。種名が不明なものでも植物種子の可能性があるものはすべて提示しており、大方のご教示を請うものである。

3．確認された種子類（第１表）

1．カジノキ（第１図－①～④）

土器片は深鉢形土器の口縁部である。内・外面ともナデで調整されている。口縁部付近に横位の二条の沈線が施したタガ状口縁である。断面の形態をみると、板状のものを押し当てて引いている。沈線の施文は雑である。器壁は非常に厚い。胎土が緻密で焼成は良である。肥後地方の天城式～古閑式に相当する時期の土器と思われる。圧痕は内面にみられる。

圧痕はクワ科カジノキの種子と思われる。レプリカは球形をしており、表面には細かい網目状の組織が観察される。着点は第３図－④の下部と思われるが、その部分が一部欠損している。また左側には種子本来のものと思われる裂開部がみられる。レプリカの大きさは長さ2.0㎜、幅2.0㎜である。

第１表　権現脇遺跡出土圧痕種子類

図面番号	出土地点	出土層位	土器型式（時期）	圧痕種子	報告書図版番号
1	Ｅ区　Ｏ８－ｂ	Ⅲｂ上層	肥後地方の天城式～古閑式	カジノキ	第27図15
2	Ｅ区　Ｐ８－ｂ	Ⅲｂ上層	肥後地方の古閑式	不明種子	—
3	—	Ⅱ層	肥後地方の古閑式	イ　ネ	—
4	Ｅ区　Ｐ９－ｂ	Ⅲｂ上層	黒川（礫石原）式～突帯文前半	不　明	第33図198
5	Ｅ区　Ｑ８－ｂ	Ⅲｂ下層	縄文時代後期末～突帯文期	イ　ネ	—
6	—	Ⅱ層	縄文時代後期～突帯文期	不明種子	—
7	—	Ⅱ層	黒川（礫石原）式～山ノ寺式	不明種子	—
8	Ｅ区　Ｑ９－ｂ	Ⅲｂ上層	黒川（礫石原）式～突帯文期	不　明	第27図40
9	—	Ⅱ層	黒川（礫石原）式～突帯文期	不　明	—
10	Ｅ区　Ｒ８－ｂ	Ⅲｂ上層	黒川（礫石原）式～突帯文期	不　明	—

２．不明種子（第２図－①～④）

土器片は浅鉢形土器の胴部である。内・外面は横位方向のミガキで丁寧に調整されており、精製土器である。内面上端には屈曲部の接合痕が認められる。薄手の土器である。縄文後期末の古閑式相当の土器と思われる。圧痕は内面にみられる。

圧痕の種類は、第５図－④のレプリカの左側に着点がみられるため、種子であると判断した。ほぼ完形である。上面形は紡錘形をしている。表面には大きな網目状の組織がみられる。レプリカは長さ3.0㎜、幅1.8㎜である。今回は種の特定ができなかったが、今後の観察によっては同定可能な資料と思われる。

３．イ　ネ（第３図－①～⑥）

土器片は浅鉢形土器の胴部である。内・外面ともミガキによって丁寧に調整されている。№２の土器と同様に、胴部内面上端には屈曲部の貼り付け痕がみられる。薄手の土器である。縄文時代後期末の古閑式に相当する土器と思われる。圧痕は内面にみられる。

圧痕は穎果の状態のイネである。圧痕の残存状態は非常に良好であり、イネの穎の特徴である顆粒状の突起が肉眼でも明瞭に観察される。先端は一部欠損している。レプリカは残存長4.3㎜、幅2.8㎜である。

４．不　明（第４図－①・②）

破片は平らであり、器形は深鉢形と思われる。外面には、タタミ状の組織痕がみられる。２枚の粘土板を張り合わせて作られている。縄文晩期の黒川（礫石原）式～突帯文土器前半期のものと思われる。圧痕は内面にみられる。

レプリカは、一方の先端が欠損しているが、本来はおそらく上面形が楕円形を呈していたと思われる。上面の中央は、楕円状の窪みがあり、その中は、長軸方向に一条、それに直交する数条の凸線があることから、昆虫の腹部である可能性も考えられる。レプリカの大きさは残存長3.8㎜、幅2.7㎜、厚さ1.2㎜である。

5．イ　ネ（第５図－①～④）

圧痕が検出されたのは黒色磨研の浅鉢形土器の胴部片である。土器表面には内・外面とも縦方向のミガキがみられる。器厚は７㎜程度であり、胎土は非常に緻密である。縄文時代後期末～突帯文期に属する資料と思われる。圧痕は内面にみられる。

圧痕の残存状態はあまり良好ではないが、ほぼ完形である。穎が取り除かれた脱穀後の状態である。胚部は確認できない。高倍率でも観察を行ったが、表面組織はみられなかった。レプリカは長さ4.5㎜、幅2.2㎜、厚さ1.7㎜である。

6．不明種子（第６図－①～④）

土器片は深鉢形土器の胴部である。内・外面ともナデによって調整されている。器壁はやや厚い。縄文時代後期～突帯文期の土器と思われる。圧痕は内面にみられる。

レプリカは楕円形を呈している。第10図－④の左先端部に着点がみられ、種子と判断した。また、土器の胎土がやや粗いため明瞭ではないが、一部に縦方向の筋状の組織がみられる。種は特定できていない。レプリカは長さ4.3㎜、1.6㎜である。

7．不明種子（第７図－①～④）

土器片は浅鉢形土器の胴部である。内外面とも粗いナデによって調整されている。器壁はやや厚い。胴部のみで時期の特定が困難であるが、縄文時代晩期の黒川（礫石原）式～山ノ寺式土器と思われる。圧痕は内面にみられる。

レプリカは球形をしている。土器の胎土がやや粗く、圧痕の状態はあまり良好でない。第８図－④の右下の部分が着点と思われ、種子と判断した。しかし表面組織などは観察できず、種の特定はできなかった。レプリカは長さ1.2㎜、幅1.6㎜である。

8．不　明（第８図－①～④）

土器片は深鉢形土器の口縁部である。口唇部は平坦面を形成する。内・外面はヘラのようなものによるナデで調整されている。器壁は約９㎜とやや厚い。胎土は緻密で、焼成も良好である。黒川（礫石原）式～突帯文期の土器と思われる。圧痕は口縁付近の内面にみられる。

レプリカでは着点が明瞭に確認されないため、不明圧痕とした。平面形、側面形ともに長楕円形を呈している。第２図－④では、レプリカの左側に窪みがみられる。本来のものか変形によるものか不明である。レプリカは長さ2.6㎜、幅1.4㎜である。

9．不　明（第９図－①～④）

土器片は深鉢形土器の胴部である。外面は貝殻腹縁、内面はナデによる調整がされている。胎土は緻密で、焼成も非常に良好であり、黒川（礫石原）式～突帯文期の土器と思われる。圧痕は外面にみられる。

レプリカは紡錘形を呈している。種子である可能性も考えられるが、着点が明瞭に観察されなかったため、今回は不明圧痕とした。表面組織はみられない。レプリカは長さ2.1㎜、幅1.5㎜である。

10．不　明（第10図－①～④）

土器片は深鉢の頸部付近と思われる。内・外面は粗いナデによって調整されている粗製土器である。縄文時代晩期黒川（礫石原）式～突帯文期の土器と思われる。圧痕は内面にみられる。

圧痕のレプリカは楕円形を呈している。一方の先端は破損している。残存状態があまり良好でないため判断が難しいが、第６図－④の左先端部は着点とも思われ、植物の可能性も考えられる。左半部の中央には長軸方向の溝がみられる。この浅い溝のある形態はゴマキにも似るが、確定できない。レプリカは長さ3.3㎜、幅2.5㎜である。

４．まとめ

今回、調査担当者によって発見されていた、肉眼でイネと判断できる資料（№３）の他に、９点の資料に対してレプリカ法を用いて分析を行った。その結果、イネ１例、カジノキ１例、種の特定まではできなかったが植物種子３例を明らかにすることができた。

権現脇遺跡ではこれまでに縄文時代晩期の黒川（礫石原）式土器からイネが１例、晩期末～弥生時代早期の刻目突帯文土器からイネが１例、土器圧痕として発見されている（小畑・仙波2006）。これまで島原半島の縄文時代晩期の遺跡においてレプリカ法で確実にイネと判断されたものはこの２例のみであった。今回の調査により、それより時期的に若干遡る古閑式土器（№３）からイネ圧痕が検出されたことは大きな成果であるといえよう[1]。

また前回の調査では、黒川新式土器から貯穀害虫であるコクゾウムシの圧痕を検出している。コクゾウムシはイネなどの穀物との結びつきが強いことが予想され、縄文時代中期末に遡るイネ資料とともにこの時期のイネ伝来の証拠として引用されてきた（山崎 2005a・2005b）[2]。しかし、コクゾウムシの生態は不明な点が多く、その証拠として疑問が提示されている（安藤 2006）。筆者らは同様の視点から氏による指摘以前からコクゾウムシの生態実験を実施してきたが、その結果によると、コクゾウムシはドングリや脱穀（無頴）キビなども食するが、繁殖可能な植物はイネ・オオムギ・コムギといった大型穀物のみであり、イネの場合は脱穀されたもの（無頴）に限られていた（OBATA & SENBA 2006，小畑・仙波2007）。このことから、コクゾウムシの存在は、在来の堅果類などの縄文時代の伝統的な澱粉質食物や大陸において古くから栽培されてきたアワ・キビなどの小型雑穀よりも、イネに代表される大型穀物との結びつきが強いことが判明した。コクゾウムシの圧痕は、島原半島内では大野原遺跡（太郎迫～三万田式）（仙波2006）を最古例として肥賀太郎遺跡（黒川式中段階）（山崎・片多2006）などでも検出されており、本地域においては後期後半から晩期にかけてコクゾウムシが存在していたことは確実である。この時期は確実な穀物資料に欠けるため、今後さらに調査が必要であるが、少なくともコクゾウムシの存在から大型穀物が存在した可能性はきわめて高いと言えよう。

今後は、権現脇遺跡のように確実な植物関連資料の類例を蓄積し、それらを含めた遺跡の全体像を把握することによって、この時期の栽培もしくは農耕の実態を明らかにしていくことができるであろう。また、今回も筆者らの経験の未熟さから同定できなかった資料も多いが、植物である可能性を持つ資料については今後さらに観察・検証を重ねていきたいと考えている。

本調査は、調査担当者である本多和典氏によってあらかじめ選定されてあった種子圧痕候補の土器を小畑・仙波両名で観察し、そこから有望な資料を抽出して写真撮影およびレプリカを共同で製作した。走査電顕写真は仙波が撮影し、同定については両名で検討した。図版はすべて仙波が製作し、本文については仙波が起稿したものに、両者で協議を行いながら小畑が加筆・修正を行い成稿した。なお、土器実測図は本多氏の手を煩わせ、さらに圧痕土器の型式や時期について丁寧なご教示を賜った。

謝辞

今回、走査電子顕微鏡による資料の観察および写真撮影に際しては福岡市埋蔵文化財センターの機器を使用させていただいた。撮影にあたり全面的な補助およびご指導をいただいた同センターの片多正樹氏、また、今回、資料調査と発表の機会をいただいた南島原市教育委員会の本多和典氏の両氏に御礼を申し上げます。

なお、この研究には、小畑が受けている日本学術振興会平成18年度科学研究補助金基盤研究B（課題番号：16320110）の一部を使用した。

【註】

1）No.5資料もイネの圧痕をもつが、時期が判然としない。調査担当者の本多氏によれば、本遺跡の今回の調査では黒川（礫石原）式のものはごく少量しか出土していないため、表1において黒川式土器としたものについても黒川式である可能性は低いという。よって、本土器は後期末に属するものか突帯文期に属するもののいずれかであろう。後期に属するものであれば、No.3と同様古いイネの圧痕例として扱うことも可能である。

2）山崎氏は2006年7月に福岡市埋蔵文化財センターで開催された第3回九州古代種子研究会の発表の席上において、これら中期末～後期前半の資料については、「イネ」であるとの言定を避ける慎重な姿勢を示された。

【参考・引用文献】

安藤広道　2006「先史時代の植物遺体・土器圧痕の分析をめぐる覚書」『西相模考古』15，111－122頁，西相模考古学会.

小畑弘己・仙波靖子　2006「レプリカ法による長崎県権現脇遺跡出土土器圧痕の種子類の同定」『権現脇遺跡』深江町文化財調査報告書第2集，637－644頁，深江町教育委員会.

小畑弘己・仙波靖子　2007『土器圧痕資料からみた農耕受容器の栽培植物について』第8回　北アジア調査研究報告会発表資料，49－52頁，北アジア調査研究報告会実行委員会.

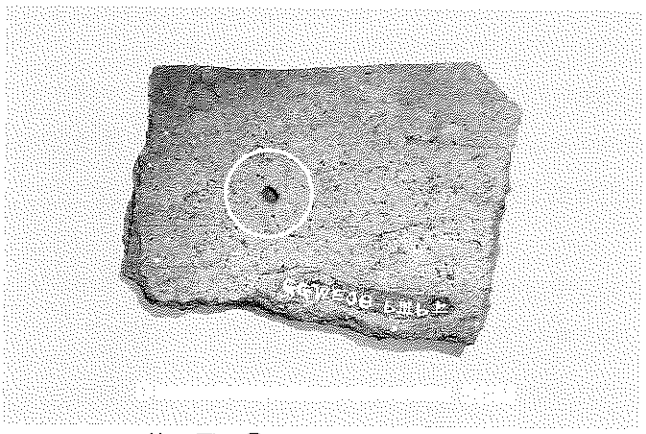
仙波靖子　2006『長崎県島原半島におけるレプリカ法の実践』，第3回九州古代種子研究会発表資料，9－19頁，九州古代種子研究会.

山崎純男　2005a「西日本縄文農耕論」『韓・日新石器時代의 農耕問題』，第6回韓・日本新石器時代共同学術大会発表資料集，33－55頁，（財）慶南文化財研究院・韓国新石器学会・九州縄文研究会.

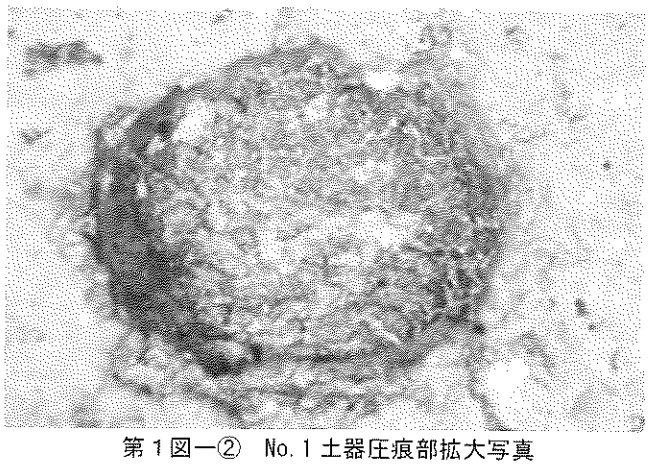
山崎純男　2005b「西日本縄文農耕論－種子圧痕と縄文農耕の概要－」『西日本縄文文化の特徴』，縄文第1回西日本文化研究会発表要旨集，59－68頁，関西縄文文化研究会・中四国縄文研究会・九州縄文研究会.

山崎純男・片多正樹　2006「長崎県肥賀太郎遺跡における土器圧痕の検討」『肥賀太郎遺跡』長崎県埋蔵文化財調査報告書第100集，95－107頁，長崎県教育委員会.

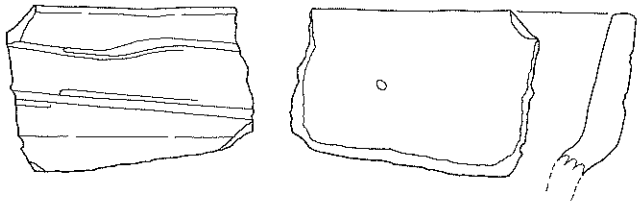
OBATA Hiroki and SENBA Yasuko 2006 Reconstruction of cultivation plant complex in the Early Agriculture in Japan by replication of impression on pottery - What did Kokuzoumushi(Maize weevil) eat? -. *People and Plants in Prehistoric and Historic Times of the Eastern Asia (Gathering and Cultivation), Vladivostok International Science Seminar Program and Papers.*



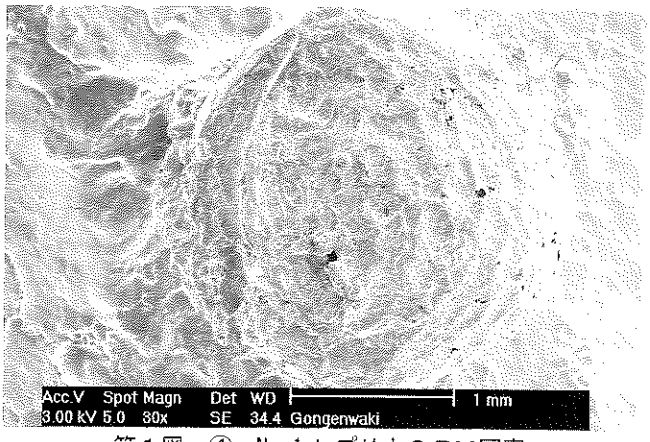
第１図―①　No. 1 土器全体写真



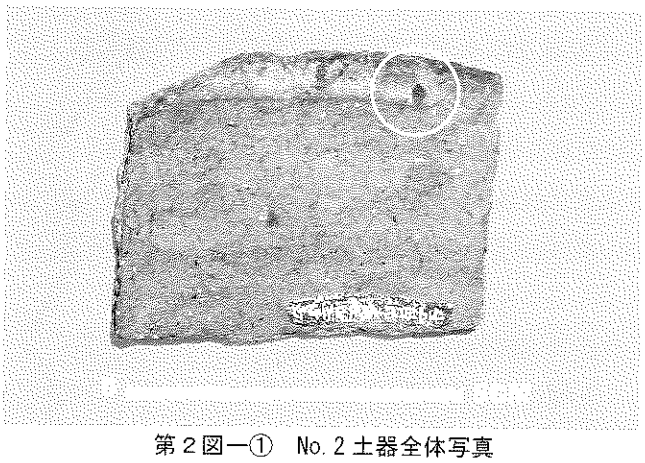
第１図―②　No. 1 土器圧痕部拡大写真



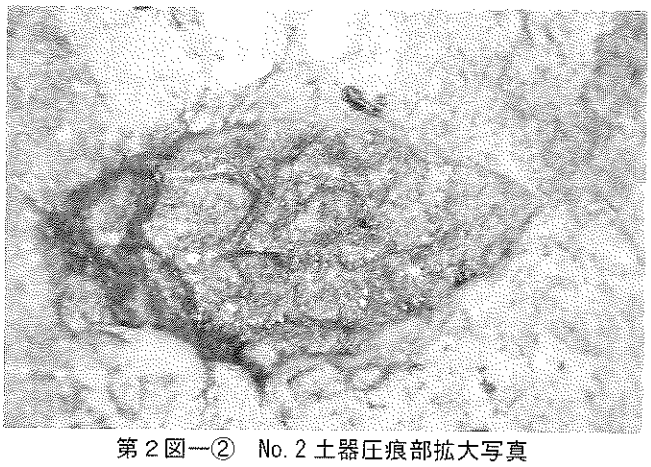
第１図―③　No. 1 土器実測図（S＝1/2）



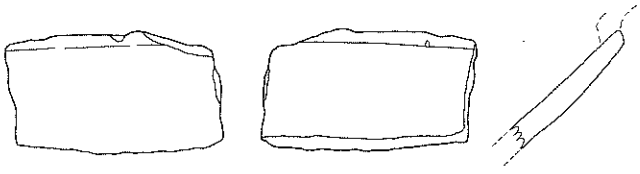
第１図―④　No. 1 レプリカＳＥＭ写真



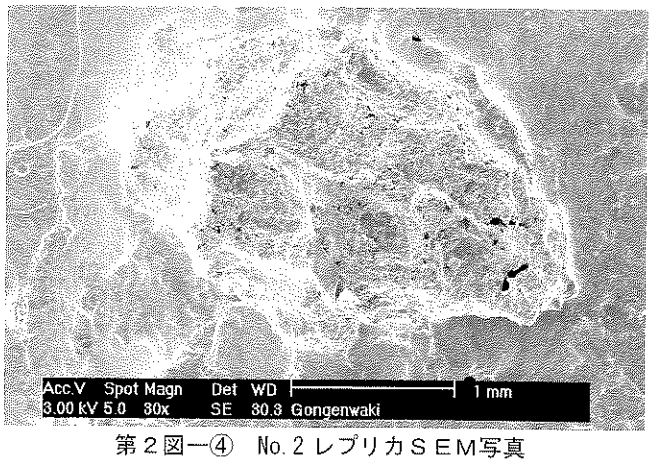
第２図―①　No. 2 土器全体写真



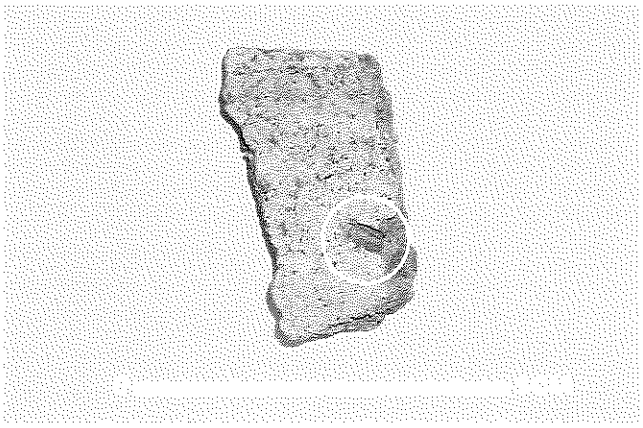
第２図―②　No. 2 土器圧痕部拡大写真



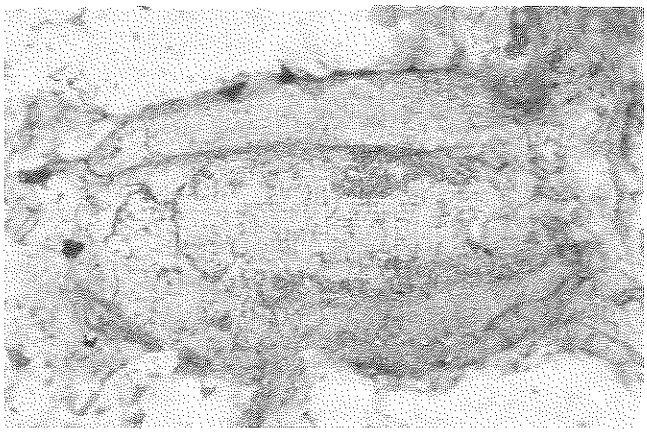
第２図―③　No. 2 土器実測図（S＝1/2）



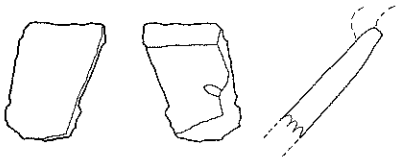
第２図―④　No. 2 レプリカＳＥＭ写真



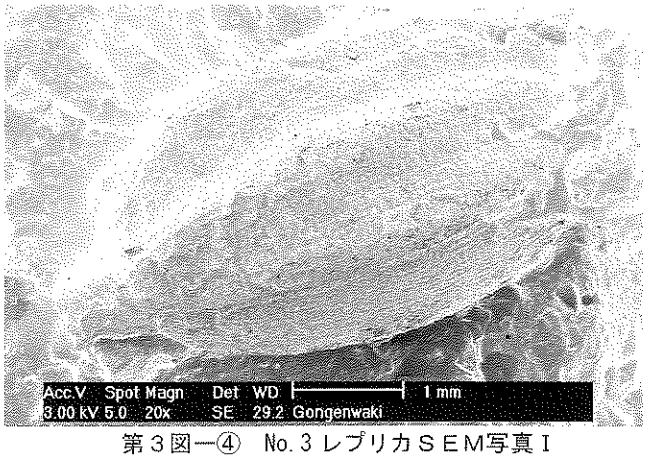
第３図―①　No. 3 土器全体写真



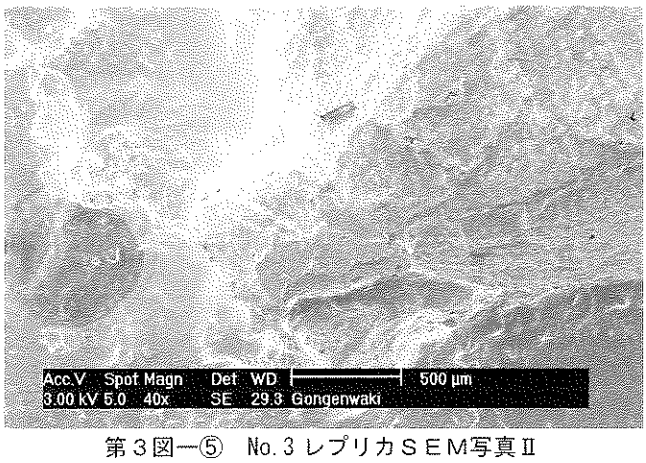
第３図―②　No. 3 土器圧痕部拡大写真



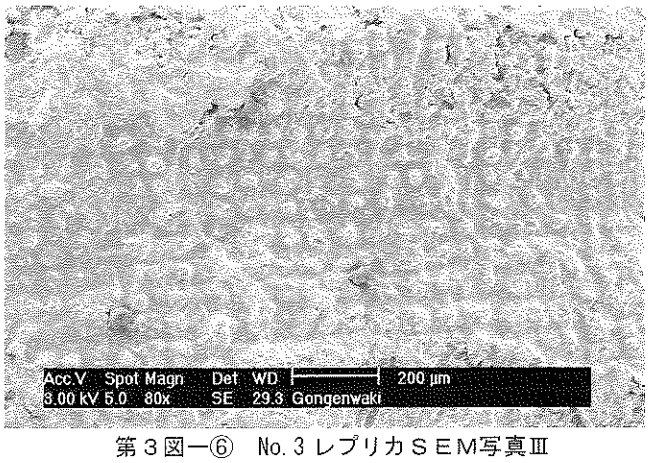
第３図―③　No. 3 土器実測図（Ｓ＝1/2）



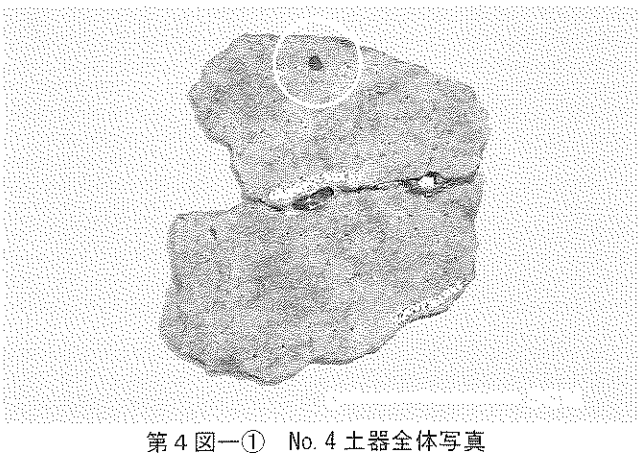
第３図―④　No. 3 レプリカＳＥＭ写真Ⅰ



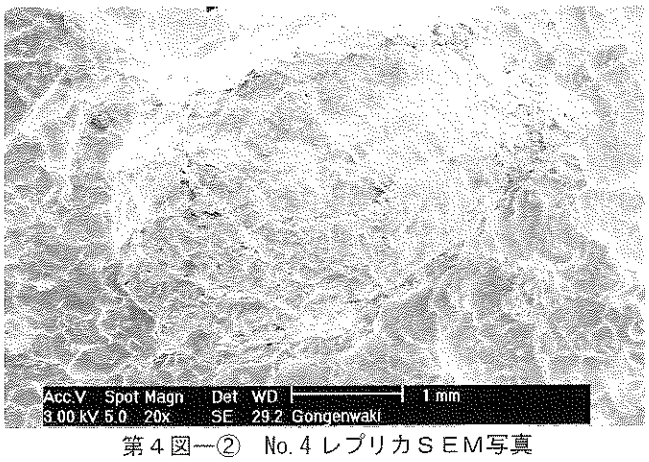
第３図―⑤　No. 3 レプリカＳＥＭ写真Ⅱ



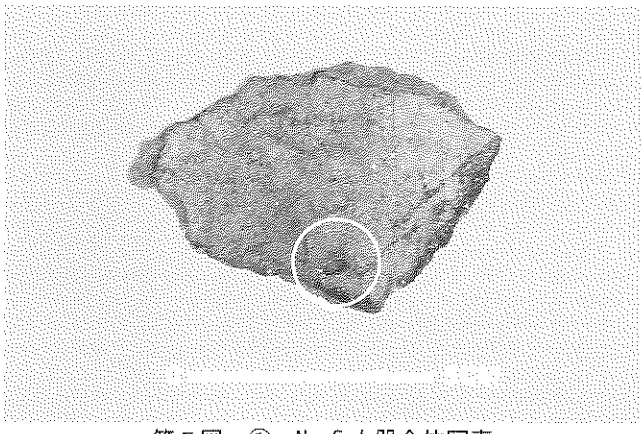
第３図―⑥　No. 3 レプリカＳＥＭ写真Ⅲ



第４図―①　No. 4 土器全体写真



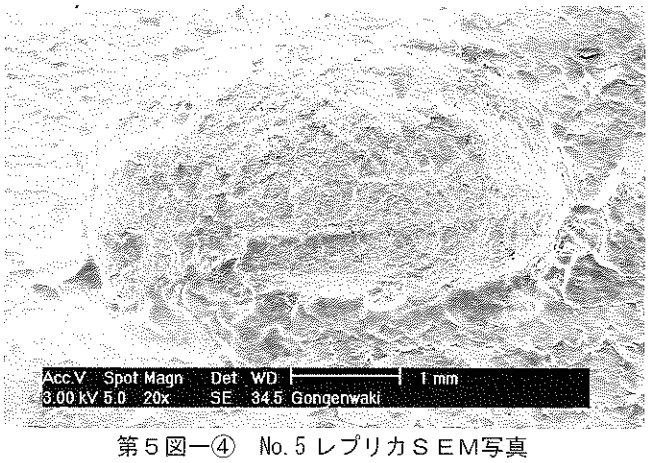
第４図―②　No. 4 レプリカＳＥＭ写真



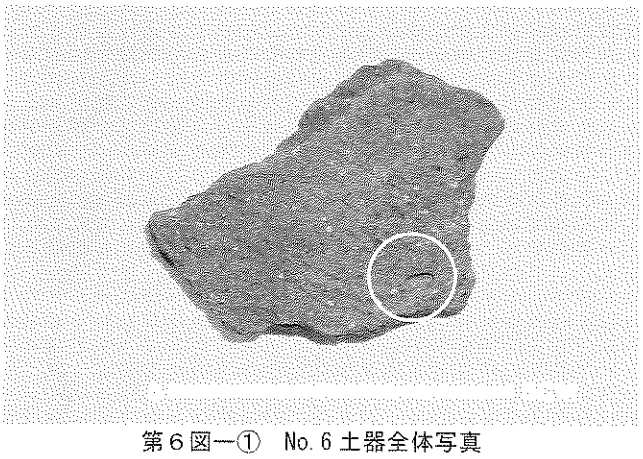
第５図―①　No. 5 土器全体写真

第５図―②　No. 5 土器圧痕部拡大写真

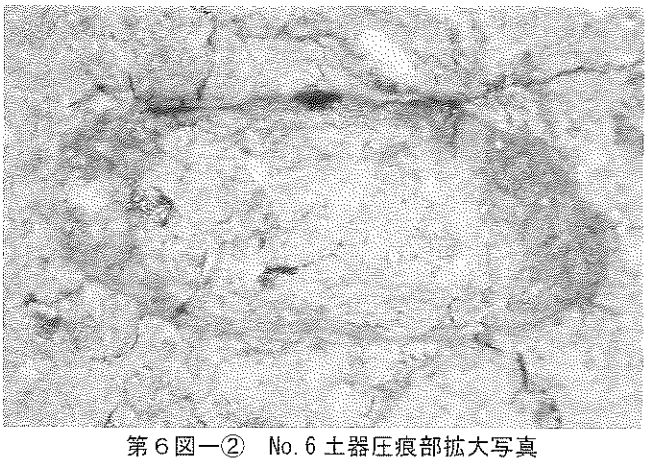
第５図―③　No. 5 土器実測図（Ｓ＝1/3）



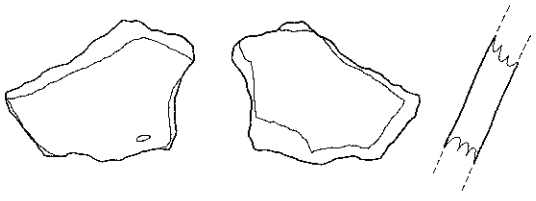
第５図―④　No. 5 レプリカＳＥＭ写真



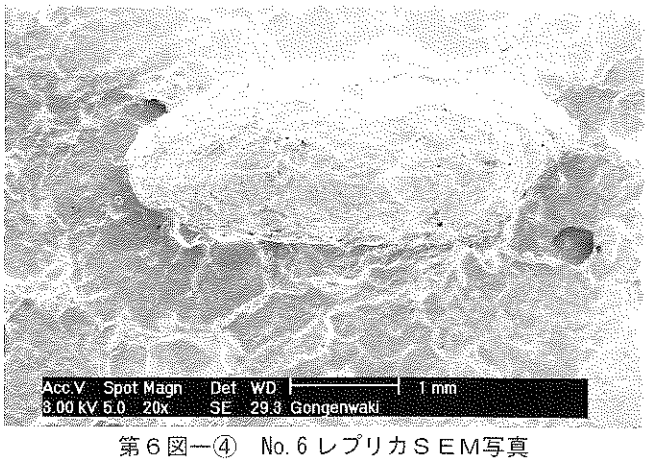
第６図―①　No. 6 土器全体写真



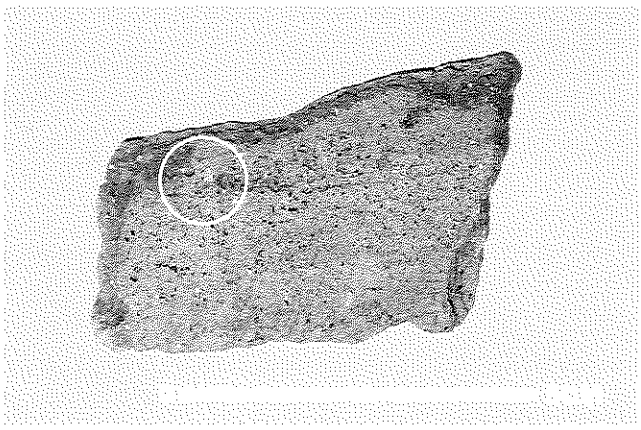
第６図―②　No. 6 土器圧痕部拡大写真



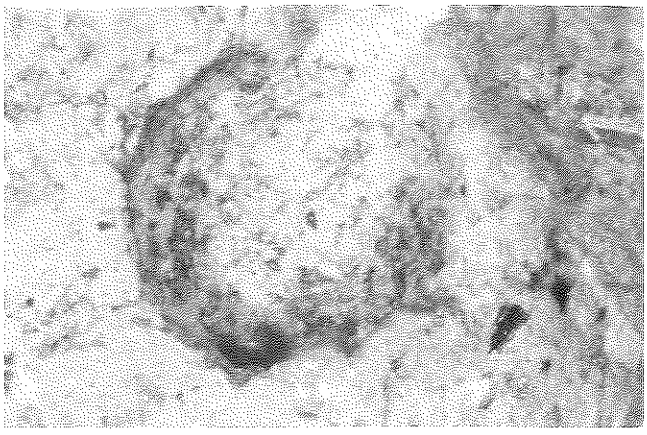
第６図―③　No. 6 土器実測図（Ｓ＝1/2）



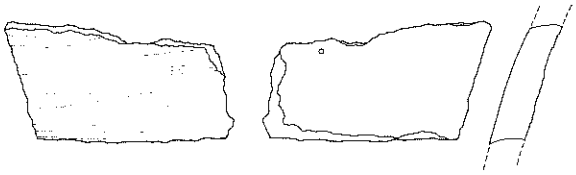
第６図―④　No. 6 レプリカＳＥＭ写真



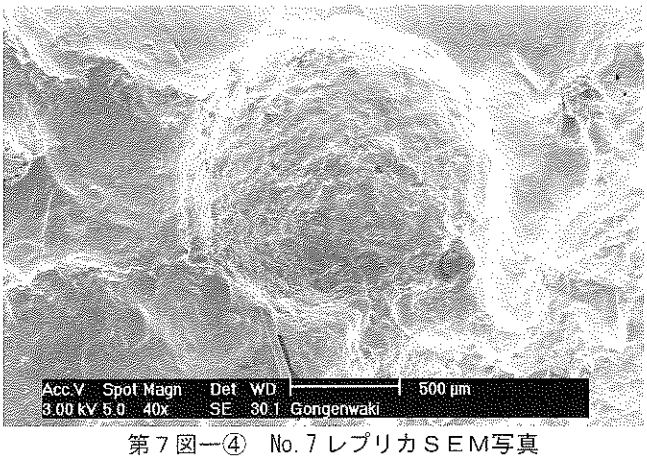
第７図―①　No. 7 土器全体写真



第７図―②　No. 7 土器圧痕部拡大写真

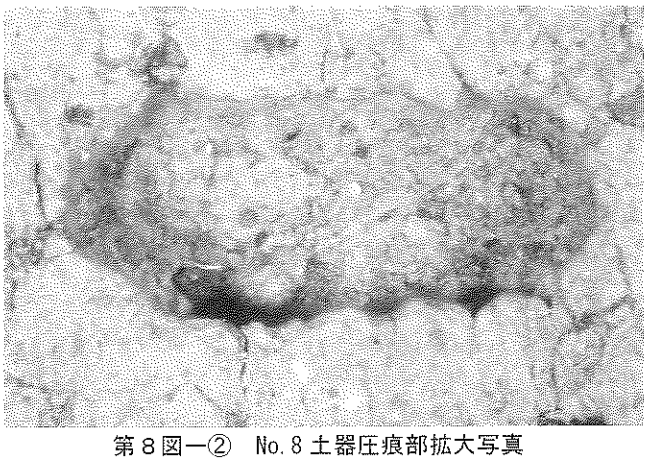


第７図―③　No. 1 土器実測図（Ｓ＝1/2）

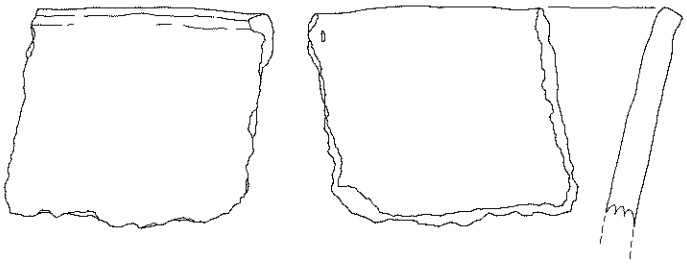


第７図―④　No. 7 レプリカＳＥＭ写真

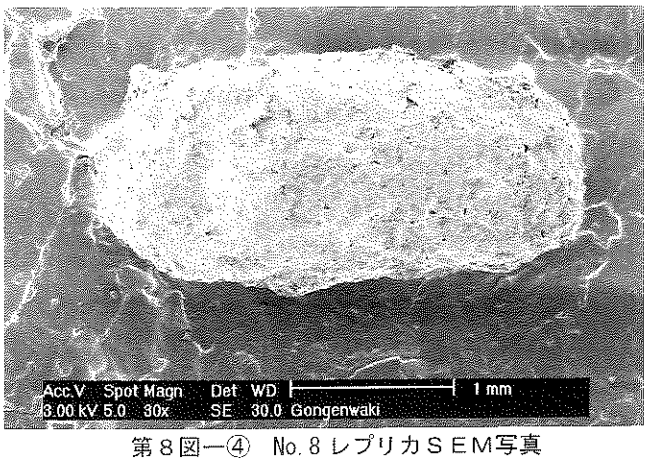
第８図―①　No. 8 土器全体写真



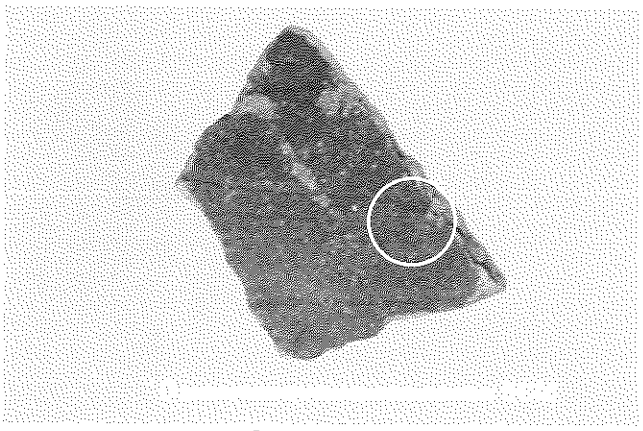
第８図―②　No. 8 土器圧痕部拡大写真



第８図―③　No. 8 土器実測図（Ｓ＝1/2）

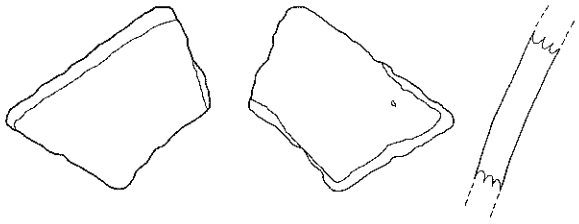


第８図―④　No. 8 レプリカＳＥＭ写真

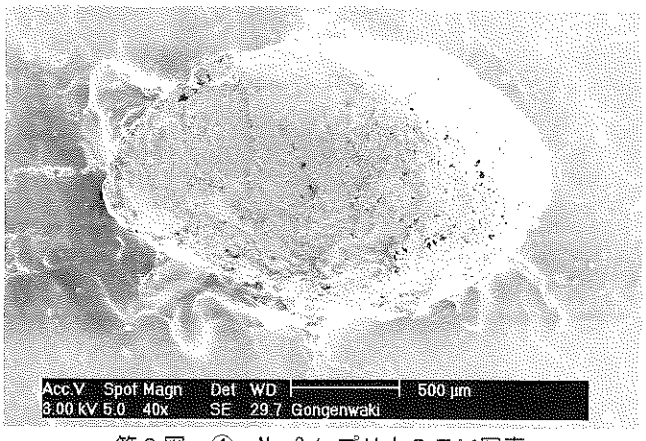


第９図―①　No. 9 土器全体写真

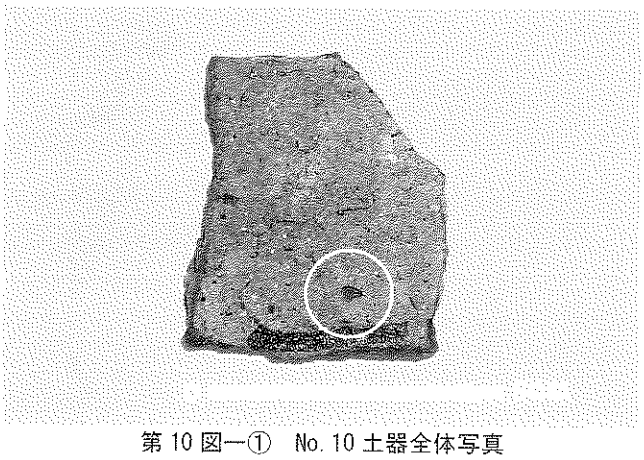
第９図―②　No. 9 土器圧痕部拡大写真



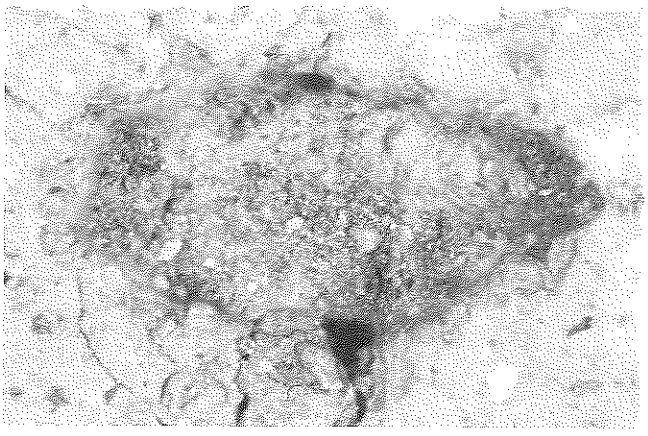
第９図―③　No. 9 土器実測図（Ｓ＝1/2）



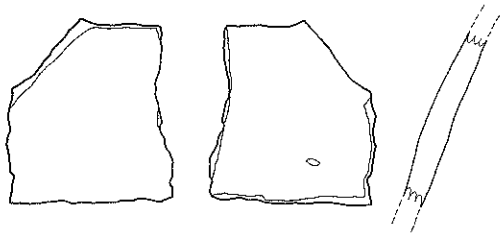
第９図―④　No. 9 レプリカＳＥＭ写真



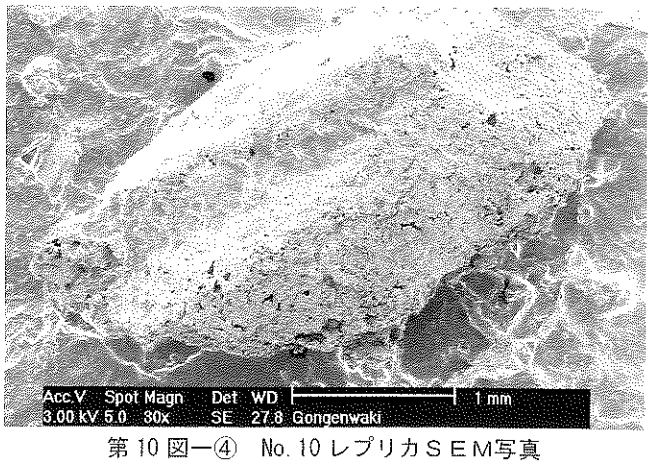
第 10 図―①　No. 10 土器全体写真



第 10 図―②　No. 10 土器圧痕部拡大写真



第 10 図―③　No. 10 土器実測図（Ｓ＝1/2）



第 10 図―④　No. 10 レプリカＳＥＭ写真

報告書抄録

ふりがな	ごんげんわきいせき
書名	権現脇遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書
シリーズ番号	第1集
編著者名	本多　和典
編集機関	南島原市教育委員会
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地　TEL 050-3381-5080
発行年月日	西暦2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ごんげんわき 権現脇遺跡	みなみしまばらし 南島原市 ふかえちょう 深江町			32° 44′ 56″	130° 19′ 93″	060425 ～ 060631	750m²	赤松谷川 1号床固 工工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
権現脇遺跡	遺物包含地	縄文時代 弥生時代	土坑 埋甕	刻目突帯文土器 土製紡錘車 打製石斧 管玉	

南島原市文化財調査報告書　第１集

権 現 脇 遺 跡

2007. 3. 30

発行　長崎県南島原市教育委員会
〒859-2412　長崎県南島原市南有馬町乙1023番地

印刷　諫 早 印 刷 株 式 会 社